野々市町中南部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書２

三納ニシヨサ遺跡（第1･2･4･6･7次調査）
三納アラミヤ遺跡（第３次調査）
藤平田ナカシンギジ遺跡（第1～3次調査）

2007

石川県野々市町教育委員会

野々市町中南部土地区画整理組合

野々市町中南部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書２

三納（さんのう）ニシヨサ遺跡（第1･2･4･6･7次調査）
三納（さんのう）アラミヤ遺跡（第３次調査）
藤平田（とへいだ）ナカシンギジ遺跡（第1～3次調査）

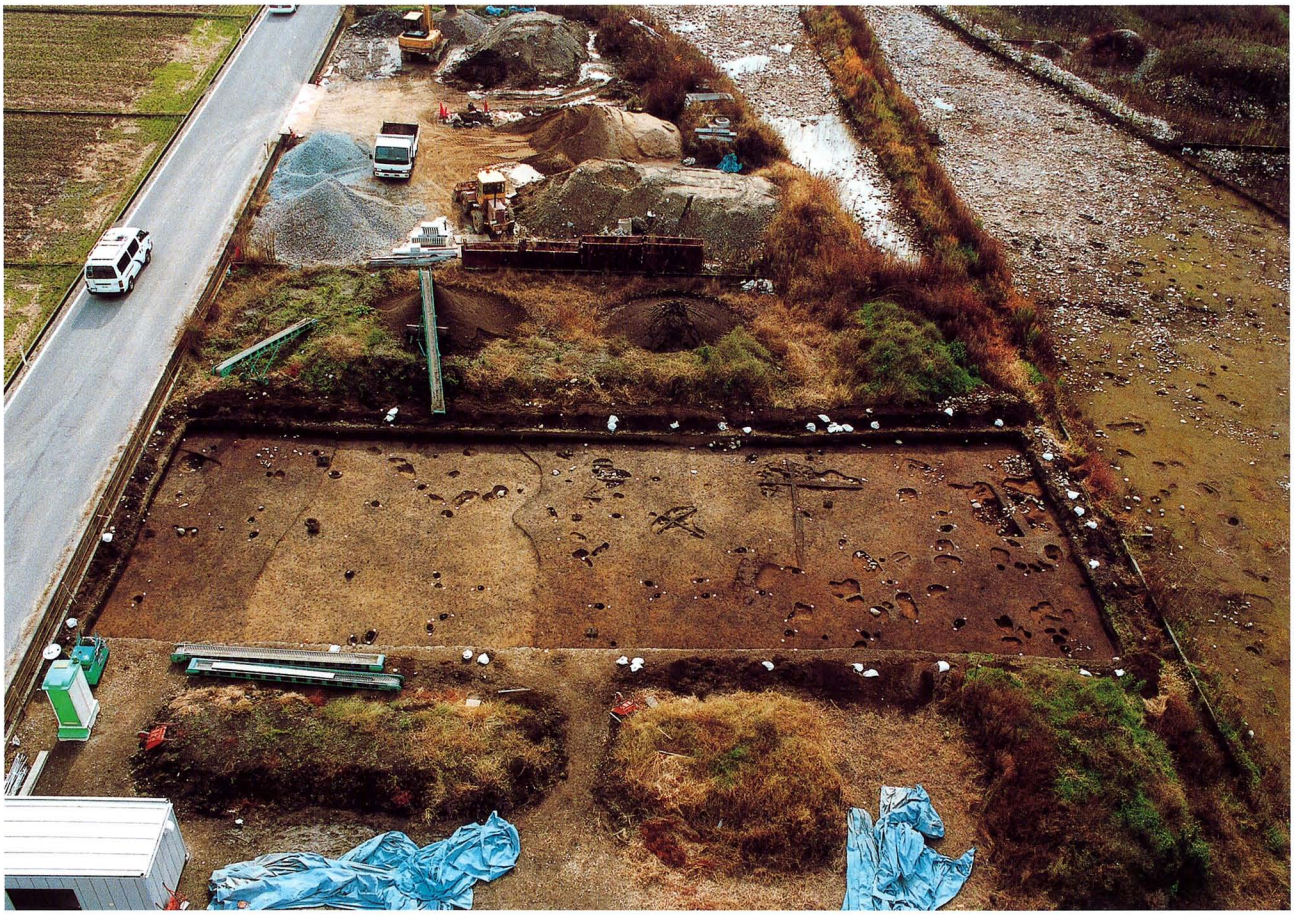
2007

石川県野々市（ののいち）町教育委員会

野々市町中南部土地区画整理組合

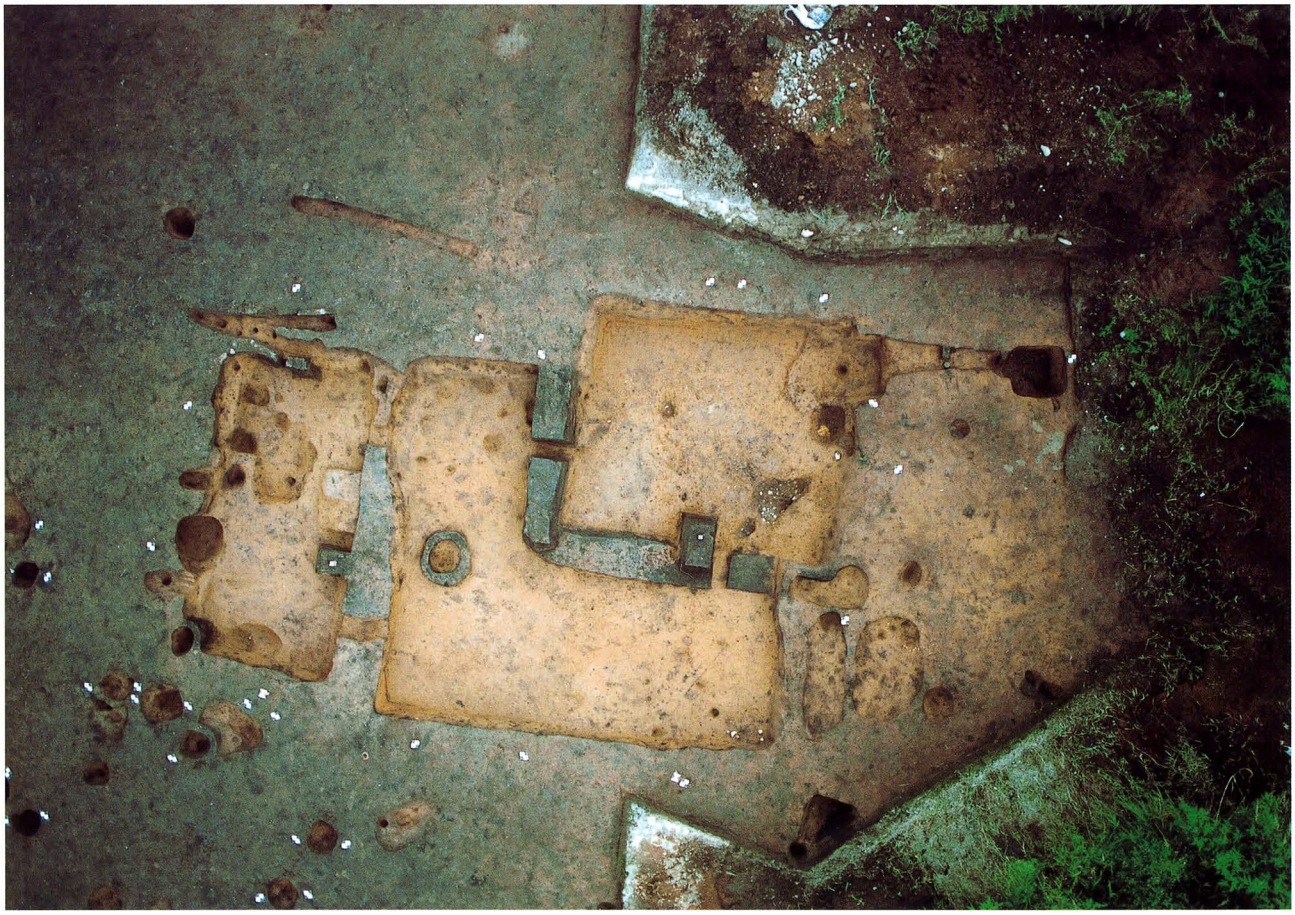
三納ニシヨサ遺跡　第１次調査区　A区（→北）

三納ニシヨサ遺跡　第１次調査区　A-１区（南から）



三納ニシヨサ遺跡　第２次調査区　Ｂ区（南から）

三納アラミヤ遺跡　第３次調査区（南から）



三納アラミヤ遺跡（第 3 次）竪穴建物SA（3）306・307　土坑SA（3）305（←北）

三納アラミヤ遺跡（第 3 次）SA（3）河川（←北）

図版 4

藤平田ナカシンギジ遺跡　第１次調査　A区（南から）

藤平田ナカシンギジ遺跡　第２次調査　D区（北から）

例　言

1　本書は、三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）・三納アラミヤ遺跡（第３次）・藤平田ナカシンギジ遺跡（第１～３次）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地は、石川県石川郡野々市町字三納・藤平田地内である。

3　調査原因は野々市町中南部土地区画整理事業に伴うものである。

4　調査にかかる費用は、野々市町中南部土地区画整理組合が負担した。

5　調査は、野々市町中南部土地区画整理組合からの依頼を受けて野々市町教育委員会が実施した。

6　現地調査は、平成12・13・14・15・16年度に実施した。遺跡名・面積・期間・担当者は下記のとおりである。

平成12年度　三納ニシヨサ遺跡（第１次）　面　積　3,100㎡
期　間　平成12年８月24日～平成12年12月27日
担当者　布尾和史　野々市町教育委員会文化課　主事
永野勝章　野々市町教育委員会文化課　主事

平成13年度　三納ニシヨサ遺跡（第２次）　面　積　500㎡
期　間　平成13年７月９日～平成13年11月16日
担当者　布尾和史

平成14年度　三納ニシヨサ遺跡（第４次）　面　積　750㎡
期　間　平成14年５月24日～平成14年６月28日
担当者　布尾和史

平成15年度　三納ニシヨサ遺跡（第６次）　面　積　900㎡
期　間　平成15年５月12日～平成15年７月２日
担当者　永野勝章
三納アラミヤ遺跡（第３次）　面　積　880㎡
期　間　平成15年６月５日～平成15年９月19日
担当者　永野勝章
藤平田ナカシンギジ遺跡（第１次）　面　積　2,350㎡
期　間　平成15年10月１日～平成15年12月25日
担当者　永野勝章

平成16年度　藤平田ナカシンギジ遺跡（第２次）　面　積　2,181㎡
期　間　平成16年５月６日～平成16年７月14日
担当者　永野勝章
藤平田ナカシンギジ遺跡（第３次）　面　積　2,274㎡
期　間　平成16年６月１日～平成16年９月22日
担当者　永野勝章
三納ニシヨサ遺跡（第７次）　面　積　147㎡
期　間　平成16年６月１日～平成16年９月22日
担当者　永野勝章

7　出土品整理は平成12年度から平成18年度に野々市町教育委員会が実施した。

8　報告書の刊行は平成18年度に野々市町教育委員会文化振興課が実施した。編集・執筆は永野勝章（野々市町教育委員会文化振興課　主事）が行った。

9　現地調査から出土品整理、報告書刊行に至るまでには地元の方々をはじめとして下記の機関、個人の協力を得た。（五十音順、敬称略）

垣内光次郎、柿田祐司、布尾和史、布尾幸恵、藤澤良祐、（財）石川県埋蔵文化財センター、野々市町中南部土地区画整理組合、野々市町都市計画課、野々市町史編纂室

10 本書についての凡例は下記のとおりである。

(1) 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠している。

(2) 水平基準は海抜高であり、T．P．（東京湾平均海面標高）による。

(3) 出土遺物番号は、遺跡ごとに本文・観察表・挿図・写真で対応する。

(4) 挿図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。

11　調査に関する記録と出土遺物は、野々市町教育委員会が一括して保管・管理している。

目　次

第１章　調査の経過 …… 1
　第１節　調査の経過 …… 1
　第２節　発掘作業の経過 …… 3
　第３節　整理作業の経過 …… 5
　第４節　調査体制 …… 5
第２章　位置と環境 …… 7
　第１節　地理的環境 …… 7
　第２節　歴史的環境 …… 7
第３章　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次調査） …… 11
　第１節　調査と報告の方法 …… 11
　第２節　基本層序 …… 12
　第３節　遺構 …… 12
　（１）古代以前の遺構　（２）中世の遺構
　第４節　遺物 …… 18
　（１）古代以前の遺物　（２）中世の遺物　（３）近世の遺物
　第５節　総括 …… 19
　第６節　図面図版　遺構・遺物実測図 …… 26
第４章　三納アラミヤ遺跡（第３次調査） …… 70
　第１節　調査と報告の方法 …… 70
　第２節　基本層序 …… 70
　第３節　遺構 …… 70
　（１）縄文時代の遺構　（２）古代の遺構　（３）近世の遺構
　第４節　遺物 …… 72
　（１）縄文時代の遺物　（２）古代の遺物　（３）中世以降の遺物
　第５節　総括 …… 73
　第６節　図面図版　遺構・遺物実測図 …… 78
第５章　藤平田ナカシンギジ遺跡（第１～３次調査） …… 108
　第１節　調査と報告の方法 …… 108
　第２節　基本層序 …… 108
　第３節　遺構 …… 108
　（１）古墳時代以前の遺構　（２）古代の遺構　（３）中世の遺構　（４）近世の遺構
　第４節　遺物 …… 111
　（１）古墳時代以前の遺物　（２）古代の遺物　（３）中世の遺物　（４）近世の遺物
　第５節　総括 …… 112
　第６節　図面図版　遺構・遺物実測図 …… 115

挿　図　目　次

第１図　年次別調査区位置図 …… 1
第２図　遺跡の位置 …… 7
第３図　野々市町の遺跡 …… 9

三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次調査）
第４図　グリッド図（１/1000） …… 26
第５図　平面図(1)（１/250） …… 27
第６図　平面図(2)（１/250） …… 28
第７図　平面図(3)（１/250） …… 29
第８図　平面図(4)（１/250） …… 30
第９図　平面図(5)（１/250） …… 31
第10図　平面図(6)（１/250） …… 32
第11図　平面図(7)（１/250） …… 33
第12図　A-１区東壁・D区東壁土層断面図（１/40） … 34
第13図　古代以前遺構全体図（１/1000） …… 35
第14図　遺構実測図SN(2)１・SN(2)48・SN(6)442・SN(2)56（１/40、１/80） …… 36
第15図　中世遺構全体図（１/1000） …… 37
第16図　遺構実測図SN(1)①・②（１/80） …… 38
第17図　遺構実測図SN(1)③・④（１/80） …… 39
第18図　遺構実測図SN(1)⑤・⑥（１/80） …… 40
第19図　遺構実測図SN(1)SK1・SK5（１/40） …… 41
第20図　遺構実測図SN(1)SK6・SK7（１/40） …… 42
第21図　遺構実測図SN(1)SK8・SK9（１/40） …… 43
第22図　遺構実測図SN(1)SK10・SK11（１/40） …… 44
第23図　遺構実測図SN(1)SK12・SK28(1)（１/40、１/80） …… 45
第24図　遺構実測図SN(1)SK12・SK28(2)（１/40） …… 46
第25図　遺構実測図SN(1)SK18・SK20・SK22（１/40） … 47
第26図　遺構実測図SN(4)５・６（１/40） …… 48
第27図　遺構実測図SN(4)13・162(1)（１/40） …… 49
第28図　遺構実測図SN(4)13・162(2)（１/40） …… 50
第29図　遺構実測図SN(1)SK３・SK13・SK14・SK19（１/40） …… 51
第30図　遺構実測図SN(1)SK26・SK27（１/40） …… 52
第31図　遺構実測図SN(4)21（１/40） …… 53
第32図　遺構実測図SN(1)SK29・SN(7)１（１/40、１/80） 54
第33図　遺構実測図SN(1)SK30・SN(4)９・SN(1)SP４・SP21・SP31～33（１/40） …… 55
第34図　遺物実測図(1)（１/３） …… 56
第35図　遺物実測図(2)（１/３） …… 57
第36図　遺物実測図(3)（１/３） …… 58
第37図　遺物実測図(4)（１/３） …… 59
第38図　遺物実測図(5)（１/３） …… 60
第39図　遺物実測図(6)（１/３） …… 61
第40図　遺物実測図(7)（１/３） …… 62
第41図　遺物実測図(8)（１/３） …… 63
第42図　遺物実測図(9)（１/３） …… 64
第43図　遺物実測図(10)（１/３） …… 65
第44図　遺物実測図(11)（１/３） …… 66
第45図　遺物実測図(12)（１/３、１/６） …… 67
第46図　遺物実測図(13)（１/３、１/６） …… 68
第47図　遺物実測図(14)（１/３） …… 69

三納アラミヤ遺跡（第３次調査）
第48図　グリッド図（１/400） …… 78
第49図　遺構分布図（１/400） …… 79
第50図　平面図(1)（１/200） …… 80
第51図　平面図(2)（１/200） …… 81
第52図　平面図(3)（１/200） …… 82
第53図　平面図(4)（１/200） …… 83
第54図　B区東壁・C区南壁土層断面図（１/40） …… 84
第55図　縄文時代遺構全体図（１/400） …… 85
第56図　古代遺構全体図（１/400） …… 86
第57図　遺構実測図SA(3)①・62・243・286・314・544・560（１/40） …… 87
第58図　遺構実測図SA(3)305・306・307(1)（１/40） … 88
第59図　遺構実測図SA(3)305・306・307(2)（１/80） … 89
第60図　遺構実測図SA(3)305・306・307(3)（１/80） … 90
第61図　遺構実測図SA(3)河川（１/200） …… 91
第62図　遺構実測図SA(3)河川（１/40） …… 92
第63図　遺構実測図SA(3)河川 …… 93
第64図　近世・近代全体図（１/400） …… 94
第65図　遺構実測図SA(3)近世溝（１/40） …… 95
第66図　遺物実測図(1)（１/３） …… 96
第67図　遺物実測図(2)（１/３） …… 97
第68図　遺物実測図(3)（１/３） …… 98
第69図　遺物実測図(4)（１/３） …… 99
第70図　遺物実測図(5)（１/３） …… 100
第71図　遺物実測図(6)（１/３） …… 101
第72図　遺物実測図(7)（１/３） …… 102
第73図　遺物実測図(8)（１/３） …… 103
第74図　遺物実測図(9)（１/３） …… 104
第75図　遺物実測図(10)（１/３） …… 105
第76図　遺物実測図(11)（１/３） …… 106
第77図　遺物実測図(12)（１/３） …… 107

藤平田ナカシンギジ遺跡（第１～３次調査）
第78図　グリッド図（１/1000） …… 115
第79図　平面図(1)（１/250） …… 116
第80図　平面図(2)（１/250） …… 117

第81図　平面図(3)(1/250) …… 118
第82図　平面図(4)(1/250) …… 119
第83図　平面図(5)(1/250) …… 120
第84図　平面図(6)(1/250) …… 121
第85図　平面図(7)(1/250) …… 122
第86図　平面図(8)(1/250) …… 123
第87図　平面図(9)(1/250) …… 124
第88図　平面図(10)(1/250) …… 125
第89図　平面図(11)(1/250) …… 126
第90図　平面図(12)(1/250) …… 127
第91図　A区南壁・D区南壁土層断面図(1/40) …… 128
第92図　古墳時代以前遺構全体図(1/1000) …… 129
第93図　遺構実測図TNS(1)148・172・335・120・168・274・439・448・541(1/40) …… 130
第94図　古代遺構全体図(1/1000) …… 131
第95図　中世遺構全体図(1/1000) …… 132
第96図　遺構実測図TNS(1)580・585・TNS(1)①(1/80) …… 133
第97図　遺構実測図TNS(1)②・③(1/80) …… 134
第98図　遺構実測図TNS(1)平行溝群・TNS(3)平行溝群(1/80) …… 135
第99図　遺構実測図TNS(2)平行溝群(1/80) …… 136
第100図　遺構実測図TNS(1)288・TNS(3)77(1/40、1/80) …… 137
第101図　遺物実測図(1)(1/3) …… 138
第102図　遺物実測図(2)(1/3) …… 139
第103図　遺物実測図(3)(1/3) …… 140

表　目　次

第1表　合併後の町村名対応表 …… 7
第2表　野々市町の遺跡 …… 8
第3表　三納ニシヨサ遺跡(第1・2・4・6・7次)遺物観察表 …… 21
第4表　三納アラミヤ遺跡(第3次)遺物観察表 …… 75
第5表　藤平田ナカシンギジ遺跡(第1～3次)遺物観察表 …… 114

図　版　目　次

三納ニシヨサ遺跡(第1・2・4・6・7次調査)
図版1　B区完掘、河川SN(2)1完掘、SN(1)③④完掘
図版2　SN(1)⑤完掘、SN(1)⑥完掘、SN(1)SK1完掘
図版3　SN(1)SK5検出、SN(1)SK5完掘、SN(1)SK6完掘
図版4　SN(1)SK7完掘、SN(1)SK8完掘、SN(1)SK11完掘
図版5　SN(1)SK18完掘、SN(1)SK26完掘、SN(1)SK12検出
図版6　SN(1)SK12検出、SN(1)SK12断面、SN(1)SK12完掘
図版7　SN(4)162石列検出、SN(4)162完掘、SN(4)5完掘
図版8　SN(4)21完掘、SN(7)1完掘、A-1区完掘
図版9　A-1区南側完掘、A-1区中央完掘、A-1区北側完掘
図版10　A-1区作業状況、D区検出、A-4区完掘
図版11　遺物写真(1)
図版12　遺物写真(2)
図版13　遺物写真(3)
図版14　遺物写真(4)
図版15　遺物写真(5)
図版16　遺物写真(6)
図版17　遺物写真(7)

三納アラミヤ遺跡(第3次調査)
図版18　SA(3)305・306・307検出、SA(3)305・306・307作業状況、SA(3)307カマド
図版19　SA(3)305・306・307完掘、SA(3)305・306・307完掘、A区検出
図版20　SA(3)①検出、SA(3)①完掘、河川SA(3)検出
図版21　河川SA(3)完掘、河川SA(3)完掘、河川SA(3)完掘
図版22　河川SA(3)上層遺物出土状況、C区西側完掘、C区中央完掘
図版23　遺物写真(1)
図版24　遺物写真(2)
図版25　遺物写真(3)
図版26　遺物写真(4)
図版27　遺物写真(5)
図版28　遺物写真(6)

藤平田ナカシンギジ遺跡(第1～3次調査)
図版29　TNS(1)148完掘、TNS(1)172遺物出土状況、TNS(1)172完掘
図版30　TNS(1)120遺物出土状況、TNS(1)580・585検出、TNS(1)580・585完掘
図版31　TNS(1)①検出、TNS(1)①完掘、TNS(1)②完掘
図版32　A区作業状況、平行溝群TNS(1)①完掘、平行溝群TNS(3)①検出、
図版33　平行溝群TNS(3)①完掘、平行溝群TNS(2)①検出、平行溝群TNS(2)①作業状況
図版34　A区完掘、D区完掘、E区完掘
図版35　遺物写真

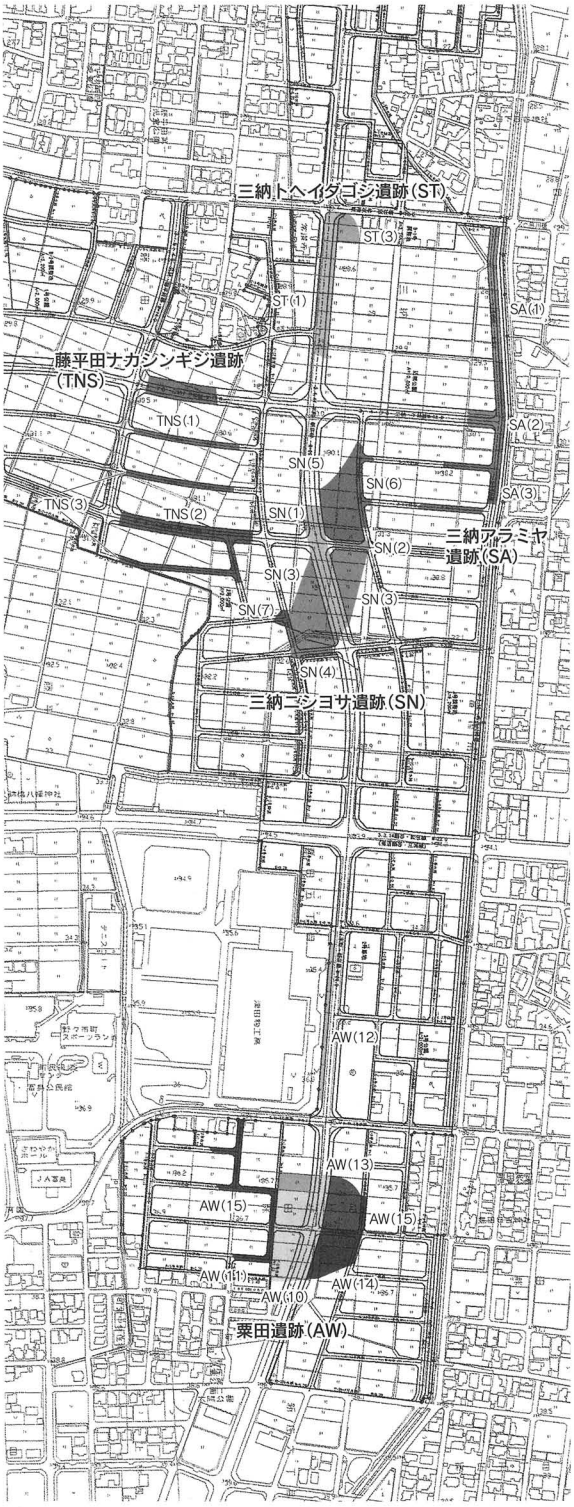
第１章　調査の経過

第１節　調査の経過

本書に収録する三納ニシヨサ遺跡第１・２・４・６・７次調査・三納アラミヤ遺跡第３次調査・藤平田ナカシンギジ遺跡第１～３次調査は野々市町中南部土地区画整理事業に伴うものである。この事業にかかる埋蔵文化財分布調査、発見された埋蔵文化財包蔵地に対する取扱い、法令手続きについては「野々市町中南部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書１　粟田遺跡（第10次調査）・三納アラミヤ遺跡（第１・２次調査）・三納トヘイダゴシ遺跡（第１・３次調査）」を参照されたい。

三納ニシヨサ遺跡第1次調査は平成12年に3,100㎡を対象として行われた。野々市町と野々市町中南部土地区画整理組合は平成12年５月２日付けで埋蔵文化財発掘調査の委託契約を取り交わしている。発掘調査承諾書は平成12年８月21日付けで野々市町中南部土地区画整理組合理事長から野々市町教育委員会教育長あてに出され、これを受け、埋蔵文化財保護法第58条の２第１項に基づき、平成12年８月23日付け教文第116号により野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会に報告した。現地調査は平成12年８月24日～同年12月27日にかけて実施、中世の集落遺跡であることが確認された。

三納ニシヨサ遺跡第２次調査は平成13年度に500㎡を対象として行われた。平成13年４月27日に発掘調査の依頼が提出され、町と組合との埋蔵文化財発掘調査委託契約は平成13年５月１日に締結された。発掘調査承諾書は平成13年７月９日付けで野々市町中南部土地区画整理組合理事長から提出された。埋蔵文化財保護法第58条の２第１項に基づく埋蔵文化財発掘調査報告は、平成13年７月９日付け教文第224号で野々市町教



第１図　年次別調査区位置図

育委員会教育長から石川県教育委員会に報告した。現地調査は平成13年７月９日～同年11月16日にかけて行われ、縄文時代の遺物散布地が確認されている。

三納ニシヨサ遺跡第４次調査は平成14年に750㎡を対象として行った。発掘調査の依頼は平成14年４月25日付けで野々市町中南部土地区画整理組合理事長から野々市町長宛に出され、同５月１日に発掘調査委託契約を締結している。発掘調査承諾書は平成14年４月25日付けで野々市町中南部土地区画整理組合理事長から提出された。これを受け、文化財保護法第58条の２第１項に基づく埋蔵文化財発掘調査報告を平成14年４月30日付け教文第45号で野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会に提出した。現地調査は平成14年５月24日～同年６月28日にかけて実施した。平成12年度同様中世の集落跡が確認されている。

三納ニシヨサ遺跡第６次調査は平成15年に900㎡を対象として行われた。発掘調査の依頼は平成15年４月28日付で野々市町中南部土地区画整理組合理事長から野々市町長宛に出され、同５月１日に発掘調査委託契約を締結した。発掘調査承諾書は平成15年５月１日付けで野々市町中南部土地区画整理組合理事長から提出された。文化財保護法第58条の２第１項に基づく埋蔵文化財発掘調査報告は平成15年５月１日付けの教文第37号により野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会に提出している。現地調査は平成15年５月12日～同年７月２日にかけて実施した。縄文・弥生時代の遺物散布地を確認している。

三納アラミヤ遺跡第３次調査は平成15年に880㎡を対象として行われた。発掘調査の依頼は平成15年４月28日付けで野々市町中南部土地区画整理組合理事長から野々市町長宛に出され、同５月１日に発掘調査委託契約を締結している。発掘調査承諾書は平成15年５月１日付けで野々市町中南部土地区画整理組合理事長から提出された。これを受け、文化財保護法第58条の２第１項に基づく埋蔵文化財発掘調査報告を平成15年５月１日付け教文第37号で野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会に提出した。現地調査は平成15年６月５日～同年９月19日にかけて実施した。平成13・14年度に引き続き縄文時代から古代の旧河川、古代の集落跡が確認されている。

藤平田ナカシンギジ遺跡第１次調査は平成15年に2,350㎡を対象として行われた。発掘調査の依頼は平成15年４月28日付で野々市町中南部土地区画整理組合理事長から野々市町教育委員会教育長宛に出され、同５月１日に発掘調査委託契約を締結した。発掘調査承諾書は平成15年５月１日付けで野々市町中南部土地区画整理組合理事長から提出された。文化財保護法第58条の２第１項に基づく埋蔵文化財発掘調査報告は平成15年５月１日付けの教文第37号により野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会に提出している。現地調査は平成15年10月１日～同年12月25日にかけて実施した。弥生時代の散布地、古代の道路、中世の集落及び耕作地などが確認された。

藤平田ナカシンギジ遺跡第２次調査は平成16年に2,181㎡を対象として行われた。発掘調査の依頼は平成16年４月30日付で野々市町中南部土地区画整理組合理事長から野々市町長宛に出され同５月６日に発掘調査委託契約を締結している。　発掘調査承諾書は平成16年５月６日付けで野々市町中南部土地区画整理組合理事長から提出された。文化財保護法第58条の２第１項に基づく埋蔵文化財発掘調査報告は平成15年５月６日付けの教文第72号により野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会に提出している。現地調査は平成16年５月６日～同年７月14日にかけて実施した。弥生時代の遺物散布地、中世の耕作地を確認している。

藤平田ナカシンギジ遺跡第３次調査は平成16年に2,274㎡を対象として行われた。発掘調査の依頼は平成16年５月25日付で野々市町中南部土地区画整理組合理事長から野々市町長宛に出された。発掘調査委託契約の締結は６月１日である。発掘調査承諾書は平成16年６月１日付けで野々市町中南部土

地区画整理組合理事長から提出され、文化財保護法第58条の２第１項に基づく埋蔵文化財発掘調査報告は平成16年６月１日付けの教文第96号により野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会に提出している。現地調査は平成16年６月１日～同年９月22日にかけて実施した。弥生時代の散布地が確認された。

三納ニシヨサ遺跡第７次調査は平成16年に147㎡を対象として行った。発掘調査の依頼は平成16年５月25日付けで野々市町中南部土地区画整理組合理事長から提出され、６月１日に発掘調査委託契約を締結している。発掘調査承諾書は平成16年６月１日付けで野々市町中南部土地区画整理組合理事長から提出された。これを受け、文化財保護法第58条の２第１項に基づく埋蔵文化財発掘調査報告を平成16年６月１日付け教文第96号で野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会に提出した。現地調査は平成16年６月１日～同年９月22日にかけて実施した。中世の遺構を確認している。

第２節　発掘作業の経過

a）平成12年度

三納ニシヨサ遺跡（第１次調査）

８月24～31日　表土除去開始（一回目）
９月13日　作業員による調査開始
10月３日　土坑群掘削開始
10月26～11月９日　表土除去開始（二回目）
11月15日　航測（一回目）
12月15日　航測（二回目）
12月17日　現地説明会実施
12月22日　現場事務所撤収

SN（1）表土除去

b）平成13年度

三納ニシヨサ遺跡（第２次調査）

７月24日　表土除去
10月31日　作業員による調査開始
11月５日　河道SN(2)1掘削
11月９日　航測
11月14日　現場事務所撤収

SN（2）遺構掘削

c）平成14年度

三納ニシヨサ遺跡（第４次調査）

５月24～28日　表土除去
６月３日　作業員による調査開始
６月11日　SN(4)21掘削
６月24日　SN(4)162掘削
６月26日　航測

d）平成15年度

三納ニシヨサ遺跡（第６次調査）

５月12・13日　表土除去
５月14日　作業員による調査開始

5月21日　J17グリッドより打製石斧2点出土
5月29日　K14グリッドより弥生土器出土
6月2日　SN(6)442より打製石斧出土
7月2日　航測

三納アラミヤ遺跡（第3次調査）
6月4～11日　表土除去
7月3日　作業員による調査開始
7月10日　SA(3)62より須恵器出土
8月5日　河道掘削開始
8月19日　SA(3)307掘削
8月22日　SA(3)305・306掘削
9月10日　航測
9月12日　現場事務所撤収

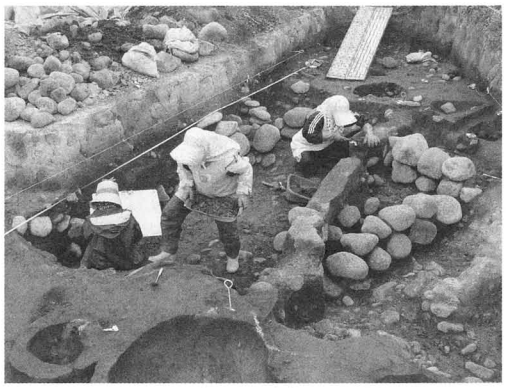
藤平田ナカシンギジ遺跡（第1次調査）
10月6～15日　表土除去（一回目）
10月14日　作業員による調査開始
11月4日　TNS(1)172より弥生土器出土
11月14日　TNS(1)335掘削
12月5日　表土除去（二回目）
11月28日　航測（一回目）
12月15日　TNS(1)掘立柱建物①掘削
12月17日　航測（二回目）
12月24日　現場事務所撤収

e）平成16年度

藤平田ナカシンギジ遺跡（第2次調査）
5月18～27日　表土除去
5月24日　作業員による調査開始
6月16日　TNS(2)平行溝群掘削
7月7日　航測
7月13日　現場事務所撤収

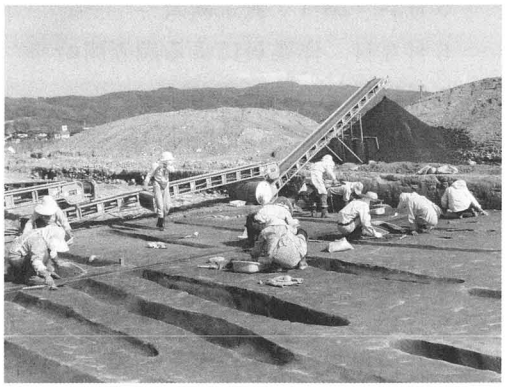
藤平田ナカシンギジ遺跡（第3次調査）
7月12～21日　表土除去
7月20日　作業員による調査開始
4月6日　TNS(3)平行溝群掘削掘削
9月16日　航測
9月24日　現場事務所撤収

三納ニシヨサ遺跡（第7次調査）
7月21日　表土除去
9月14日　作業員による調査開始
9月15日　SN(7)1掘削


竪穴状遺構SN（4）162掘削

SA（3）河川掘削

TNS（1）掘削


TNS（2）平行溝群掘削

9月16日　航測
9月24日　現場事務所撤収

第3節　整理作業の経過

整理作業は、平成12年度から平成18年度にわたって行った。

平成12年度は三納ニシヨサ遺跡（第1次）出土遺物の洗浄・記名・現地調査写真を画像データ化する作業を行った。

平成13年度は三納ニシヨサ遺跡（第1・2次）出土遺物の洗浄・記名・実測と現地調査写真の画像データ化を行った。

平成14年度は三納ニシヨサ遺跡（第1・4次）出土遺物の洗浄・記名・実測と現地調査写真の画像データ化を行った。

平成15年度は、三納ニシヨサ遺跡（第1次）出土遺物の実測と三納ニシヨサ遺跡（第6次）三納アラミヤ遺跡（第3次）出土遺物の洗浄・記名を行った。

平成16年度は、三納ニシヨサ遺跡（第6・7次）三納アラミヤ遺跡（第3次）出土遺物の実測と藤平田ナカシンギジ遺跡（第1～第3次）の洗浄・記名を行った。

平成17年度は、藤平田ナカシンギジ遺跡（第1～第3次）出土遺物の実測と、発掘調査報告書作成のための図版作成を行った。

平成18年度は、発掘調査報告書作成のための図版作成・本文執筆・遺物写真撮影を行った。

第4節　調査体制

a）平成12年度　発掘調査　三納ニシヨサ遺跡（第1次）

調査主体　野々市町教育委員会（教育長　田村昌俊）
担当課　野々市町教育委員会　文化課（課長　高本　実）
調査期間　平成12年8月24日～平成12年12月24日
対象面積　3,100㎡
調査担当　布尾和史（野々市町教育委員会文化課　主事　県教育委員会文化財課より派遣）
永野勝章（野々市町教育委員会文化課　主事）

b）平成13年度　発掘調査　三納ニシヨサ遺跡（第2次）

調査主体　野々市町教育委員会（教育長　田村昌俊）
担当課　野々市町教育委員会　文化課（課長　高本　実）
調査期間　平成年7月9日～同年11月16日
対象面積　500㎡
調査担当：布尾和史

c）平成14年度　発掘調査　三納ニシヨサ遺跡（第4次）

調査主体　野々市町教育委員会（教育長　田村昌俊）
担当課　野々市町教育委員会　文化課（課長　高本　実）
調査期間　平成14年5月24日～同年6月28日
対象面積　750㎡
調査担当　布尾和史

d）平成15年度　発掘調査　三納ニシヨサ遺跡（第6次）、三納アラミヤ遺跡（第3次）

藤平田ナカシンギジ遺跡（第１次）

調査主体　野々市町教育委員会（教育長　田村昌俊　９月30日まで）
（教育長　田中　宣　10月１日から）

担当課　野々市町教育委員会　文化課（課長　中川保夫）

調査期間　平成15年５月12日～同年７月２日、平成15年６月５日～同年９月19日、平成15年10月１日～同年12月25日

対象面積　900㎡、880㎡、2,350㎡

調査担当　永野勝章

e）平成16年度　発掘調査　三納ニシヨザ遺跡（第７次）、藤平田ナカシンギジ遺跡（第２次）、藤平田ナカシンギジ遺跡（第３次）

調査主体　野々市町教育委員会（教育長　田中　宣）

担当課　野々市町教育委員会　文化課（課長　中川保夫）

調査期間　平成16年５月６日～同年７月14日、平成16年６月１日～同年９月22日、平成16年６月１日～同年９月22日

対象面積　2,181㎡、2,274㎡、147㎡

調査担当　永野勝章

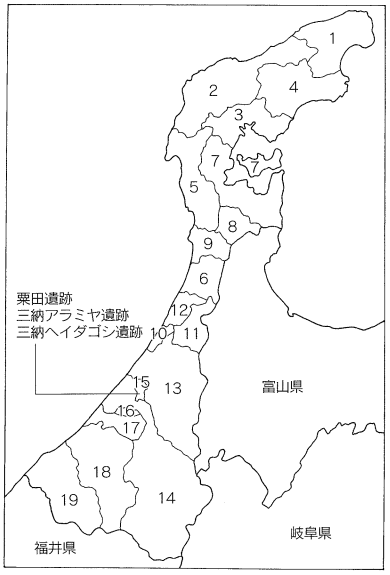
f）平成12～18年度　整理・報告書作成作業

担　当　布尾和史（平成15年３月31日まで）
永野勝章
大杉幸江・竹田倫子・野村祥子・長谷川啓子・増山明美
（野々市町教育委員会　臨時職員）
布尾幸恵
（平成16年４月１日から平成18年３月31日まで　野々市町教育委員会　臨時職員）

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

野々市町は、石川県のほぼ中央に位置する。本書で取り上げる粟田遺跡・三納アラミヤ遺跡・三納トヘイダゴシ遺跡は、野々市町の南部にあたる粟田地区、三納地区に所在する。これらは手取扇状地扇央部に立地し、現況は宅地・商業地と水田が広がる平坦な地形であるが、これは近代初頭に行なわれた耕地整理と近現代の土地開発によるもので、それ以前は手取川とその支流によって形成された細長い島状の微高地が点在し、その微高地上に集落が展開してきた。このことは各時代における遺跡の立地からも確認できる。



第２図　遺跡の位置

旧市町村名		合併後の名称	No.
珠洲市		－	1
輪島市		輪島市	2
鳳至郡	門前町		
	穴水町	鳳珠郡穴水町	3
	能都町	鳳珠郡能登町	4
	柳田村		
珠洲郡	内浦町		
羽咋郡	富来町	志賀町	5
	志賀町		
	志雄町	宝達志水町	6
	押水町		
七尾市		七尾市	7
鹿島郡	能登島町		
	中島町		
	田鶴浜町		
	鳥屋町	中能登町	8
	鹿西町		
	鹿島町		
羽咋市		－	9
河北郡	内灘町	－	10
	津幡町	－	11
	高松町	かほく市	12
	七塚町		
	宇ノ気町		
金沢市		－	13
松任市		白山市	14
石川郡	鶴来町		
	河内村		
	鳥越村		
	吉野谷村		
	尾口村		
	白峰村		
	美川町		
	野々市町	－	15
能美郡	川北町	－	16
	寺井町	能美市	17
	辰口町		
	根上町		
小松市		－	18
加賀市		加賀市	19
江沼郡	山中町		

第１表　合併後の町村名対応表

第２節　歴史的環境

粟田遺跡・三納アラミヤ遺跡・三納トヘイダゴシ遺跡は、縄文時代から近世にかけての遺跡群である。周辺は近年、土地区画整理事業等に係る発掘例が増え、諸々の成果が挙がっている。　手取扇状地を形成した手取川は、当初、東接する富樫山地寄りであった流路が徐々に西南方向へ遷移したことが知られる。その動きは時代・時期ごとの遺跡分布の検討からも確認されており、流路の移動後に、人間の活動適地となるまでの時を経た後、人々の生活の舞台となった。そして残された「人間の活動痕跡」＝遺跡は、発掘調査が行われることでわれわれの知るところとなる。　野々市町域における最も古い人間活動の痕跡は、縄文時代後期前葉後半にあたる気屋２式の土器が出土した押野大塚遺跡で確認される。後期中葉前半以降になると、扇状地扇端部の湧水地帯では御経塚遺跡や金沢市チカモリ遺跡、米泉遺跡などの集落遺跡が形成される。一方、扇央部付近では、少量の土器や打製石斧の出土する富樫館跡ノダ地区・清金アガトウ遺跡・上林新庄遺跡などとともに、多量の打製石斧が出土して円礫を母岩とする石斧製作関連資料の確認された粟田遺跡など、明確な居住施設を伴わない、短期的な土地利用の痕跡が確認されている。野々市町中南部地区の各遺跡からも、後期から晩期の土器片や、それに伴うと見られる打製石斧が数点ずつ出土する例が多く見られた。こうした

扇端部の湧水地帯における集落と、その周辺部での短期的な活動痕跡という遺跡群の立地と性格の結びつきは、縄文時代晩期下野式頃まで継続する。　縄文時代晩期末の長竹式期から弥生時代中期前葉は当地域で遺跡数が減少する時期にあたる。晩期の大集落遺跡であった御経塚遺跡も長竹式期にいたると遺構・遺物の量は減少する傾向をみせ、この時期を最後に集落は一旦廃絶されるようである。一方で扇央部付近では遺物量が豊富な白山市乾遺跡が存在するが、継続期間は短く、ほぼ長竹式期の内に廃絶してしまう。　弥生時代前期と中期の柴山出村式期は、野々市町域を含む手取扇状地では、押野大塚遺跡や御経塚シンデン遺跡・御経塚遺跡ツカダ地区・粟田遺跡・上林遺跡など、土器片が少量散布する遺跡が知られるのみとなり、その一方で沖積地の小河川沿いでは白山市八田中遺跡や金沢市矢木ジワリ遺跡など土坑群や定量の遺物が出土する遺跡が見られるようになり、以後の初期農耕社会における遺跡立地の先駆けをなす。　手取扇状地から沖積地にかけては、島状微高地の間の低地部を流れる河川や埋没河川が網の目状に存在する。そうした河川に沿って遺跡群が分布するようになるのが弥生時代中期後半以降であり、当初は沖積地、後期後半にいたると扇状地でも遺跡が分布するようになる。こうした遺跡群の動きは、沖積地や河川沿いの低湿な場所における、初期水稲耕作の開始と展開を反映したものと考えられる。　野々市町域では、中期後半の集落としては押野タチナカ遺跡が知られるのみである。後期に入ると遺跡数は増加の傾向を見せ、高橋川・伏見川流域で、押野ウマワタリ遺跡・押野タチナカ遺跡・横川・本町遺跡・高橋セボネ遺跡・扇が丘ゴショ遺跡、十人川・安原川流域では、御経塚遺跡ツカダ地区・御経塚遺跡デト地区・御経塚オッソ遺跡・二日市イシバチ遺跡・長池ニシタンボ遺跡などが、小河川流域を単位とする遺跡群を形成する。　弥生時代終末期・古墳時代初頭を経て古墳時代前期に入ると、遺跡数は減少する傾向を見せる。手取扇状地周辺では、扇端部付近の標高８メートル付近のラインにほぼ沿うように遺跡が並ぶ傾向にある。御経塚シンデン遺跡は弥生時代後期から古墳時代初頭の集落と古墳時代前期の墓域が検出される遺跡であり、扇端部では該期の中心的な遺跡である。また同時期の集落として扇央部では小規模ながら竪穴建物が検出され

No.	遺跡名	時　期	No.	遺跡名	時　期
1	粟田遺跡	縄文・古代・中世・近世	29	堀内館跡	縄文・中世・近世
2	三納アラミヤ遺跡	縄文・古代・中世・近世・近代	30	田中ノダ遺跡	弥生・古墳
3	三納トヘイダゴシ遺跡	縄文・中世・近世	31	菅原キツネヤブ遺跡	中世・近世
4	藤平田ナカシンギジ遺跡	中世	32	富樫館跡	縄文・中世・近世
5	三納ニシヨサ遺跡	中世	33	扇が丘ヤグラダ遺跡	古代・中世
6	下新庄アラチ遺跡	古代	34	扇が丘ハワイゴク遺跡	縄文・弥生・古代・中世
7	下新庄タナカダ遺跡	古代	35	扇が丘ゴショ遺跡	弥生・古代・中世
8	上林古墳	古墳	36	高橋ウバガタ遺跡	弥生
9	上林新庄遺跡	古代・中世	37	山川館跡	縄文・中世
10	上新庄ニシウラ遺跡	弥生・古墳・古代	38	高橋セボネ遺跡	弥生・古代
11	上林テラダ遺跡	古代	39	横川本町遺跡	弥生・中世
12	上林遺跡	弥生・古代	40	押野ウマワタリ遺跡	弥生・中世
13	安養寺遺跡	弥生・古代	41	押野タチナカ遺跡・押野館跡	縄文・弥生・中世
14	清金アガトウ遺跡	縄文・古代・中世	42	押野大塚遺跡	縄文・弥生
15	末松A遺跡	縄文・古代・中世	43	上宮寺跡	中世
16	末松信濃館跡	古代・中世	44	野代遺跡	縄文
17	末松B遺跡	古代	45	三日市ヒガシタンボ遺跡	弥生・古墳・古代・中世
18	末松福正寺遺跡・福正寺跡	古代	46	三日市A遺跡	縄文・弥生・古代・中世・近世
19	末松ダイカン遺跡	古代	47	二日市イシバチ遺跡	縄文・弥生・中世・近世
20	末松廃寺跡	弥生・古代・中世・近世	48	郷クボタ遺跡	古代・中世
21	古元堂館跡	不詳	49	徳用クヤダ遺跡	古代・中世
22	末松C遺跡	古代	50	長池キタノハシ遺跡	弥生・中世・近世
23	末松古墳	古墳	51	長池ニシタンボ遺跡	縄文・弥生・古墳・中世・近世
24	末松しりわん遺跡	古代・近世	52	御経塚オッソ遺跡	弥生・中世
25	法福寺跡	不詳	53	御経塚遺跡	縄文･弥生･古墳･古代･中世･近世
26	末松砦跡	不詳	54	御経塚経塚	中近世
27	大館館跡	古代・中世	55	御経塚シンデン遺跡・古墳群	弥生・古墳・中世・近世
28	三林館跡	中世			

第２表　野々市町の遺跡

第３図　野々市町の遺跡　(1/30,000)

た上新庄ニシウラ遺跡が知られている。後に、御経塚シンデン遺跡では古墳時代前期の前方後方墳・方墳からなる古墳群の墳丘を破壊して、古墳時代後期の集落が形成されている。一方、扇央部では上林古墳や白山市田地古墳など横穴式石室を伴う後期古墳が点在することが知られているが、築造主体となる集落が確認されておらず、野々市町南部における古墳時代集落の様相は明らかではない。　古代は、粟田遺跡・清金アガトウ遺跡など扇状地扇央部の集落の多くが開始され、扇央部の開発が進んだ時期である。なかでも扇状地開発のモニュメントとも言われる末松廃寺は、法起寺式伽藍配置で7世紀後半に創建、8世紀初頭まで存続したとされる。周辺では末松福正寺遺跡・末松ダイカン遺跡など7世紀前半代の集落跡も確認されているが、遺跡数が増えるのは7世紀後半からであり、8世紀になると粟田遺跡の南に位置する上林・新庄遺跡群で集落が拡大する。三納アラミヤ遺跡はこの時期に相当する。この上林・新庄遺跡群は北と南でその様相を異にし、南は製鉄にかかわる竪穴住居と掘立柱建物から成る手工業生産地区、北は溝に区画された計画的な建物配置やその後9世紀後半にかけて機能する大型建物を有し周辺を掌握する領主層が存在した地区であったことが窺える。　中世は、野々市町東部には扇が丘ハワイゴク遺跡・扇が丘ゴショ遺跡など居館クラスの遺跡が検出されており、有力武士の居宅と考えられている。野々市町住吉町と扇が丘地内には加賀の守護であった富樫氏の屋敷と考えられる富樫館跡が存在する。館の性格を明示できるような成果は上がっていないが、守護城下町の構造に関連づけられる都市構造の一端が判明しつつある。野々市町南部では１３世紀から三納ニシヨサ遺跡・三納トヘイダゴシ遺跡などの集落跡が確認されている。これらは輸入磁器を一定量所持し、溝によって区画された土地に小規模な掘立柱建物を配置するもので、その実態は自作農的な小領主と考えられる。これらの集落は１４世紀頃には廃絶し周辺の様相は近世まで明らかでない。中世後半の集落は三日市A遺跡・長池キタノハシ遺跡など、野々市町北部に展開することが近年の調査で確認されている。　近世には粟田・三納地区は集落・水田となる。特に粟田地区については、『石川郡誌』に、「鎮守神社の西側にあった村を、粟田川の氾濫のため村全部を粟田新保に移した」という伝承が書き留められている。　近代は、大正時代に耕地整理が終了、水田となっている。三納アラミヤ遺跡では水門跡が確認され、調査区に隣接する現在の水門に繋がる変遷を知ることができる。

参考文献

野々市町史編纂専門委員会　２００３　『野々市町史資料編１』　石川県野々市町

布尾和史・安　英樹　２００５　「縄文晩期から弥生中期の遺跡群の変遷」『第４回考古学研究会東海例会』

安　英樹・布尾和史　２００５　「手取扇状地の遺跡動態」『中部弥生時代研究会　第１０回例会発表要旨』

第３章　三納ニシヨサ遺跡（第1･2･4･6･7次調査）

第１節 調査と報告の方法

三納ニシヨサ遺跡は野々市町中南部土地区画整理事業に先立って、平成10年10月22日～11月6日にかけて実施された分布調査によって発見された遺跡である。

分布調査は事業区域内に平面１×１ｍの試掘坑を225箇所設定し、地山面が確認される深度まで掘削、平面および土層断面の観察を行った。その結果通称“ニシヨサ”と呼ばれる農地一帯から遺構や中世遺物が検出されたため、約14,500㎡を新規の埋蔵文化財包蔵地と確認し、三納ニシヨサ遺跡と命名された。

区画整理事業に伴う発掘調査は平成12年度から平成16年度までに7次にわたって実施された。本書では都市計画道路及び街路部分を対象として実施した第1・２・４・６・７次調査について報告を行う。

発掘調査では、各年次調査区に公共座標に基づく10×10ｍのグリッドを設定し、南西隅の杭番号でその区画を呼称した。遺構の掘削は、基本的に遺構を半裁して断面の観察を行って土色や堆積状況を観察し、必要に応じて写真や図面による記録保存を行った。

報告にあたっては、調査区が各年次や、用水などによっていくつかに分かれることから第４図のように便宜上A～E区と呼称しグリッド番号と併せて記載した。個々の遺構の名称は各遺構番号の前に三納ニシヨサ遺跡を示すSNと(1)、(2)といった調査年次を組み合わせ、それぞれ三納ニシヨサ遺跡（第1次）：SN(1)、（第2次）：SN(2)、（第4次）：SN(4)、（第6次）：SN(6)、（第7次）：SN(7)とする。第1次調査についてはSK（竪穴状遺構・土坑）SP（ピット）といった遺構の種類ごと番号を付し、その他の調査年次については時代・種類・グリッドに関係なく遺跡・調査年次ごとに１から通しで調査番号を付けている。

遺構の説明は本文・図面図版・写真図版を用いる。遺構の種類にはピット・建物跡・溝・土坑・旧河川・流路などがあり、これらについて位置・分類・規模・形状・覆土の堆積状況・出土遺物・重複とその前後関係などを記述した。

遺物の総数は、パンケースで、第1次調査12箱、第2次調査1箱、第4次調査2箱、第6次調査1箱、第7次調査１箱である。この中から遺構出土のものを中心に、残りの良いものや出土例の少ないものを選択して図化した。

遺物図版作成にあたっては個々の遺物を時代・器種・種別（または法量）毎にレイアウトしており、遺構出土の遺物については各遺構図版にも１／６で添付した。遺物図版の縮尺は原則１／３とし、石製品など大型のものは１／６で掲載した。

遺物の記述は、本文・観察表・図面図版・写真図版でおこなった。遺物の報告番号は遺跡単位に１から付与し、本文・観察表・図面図版・写真図版で共通する。

観察表は遺物の種類によって観察項目は異なるが、煩雑を避けるため表は統一の形式を取り、そのつど、外面色調：外、内面色調：内、釉色もしくは釉の種類：釉、と付して区別した。

縄文土器の型式名は『野々市町史　資料編』〔吉田2003〕で使用しているものを用いた。

古代における土器の器種名は、須恵器・土師器とともに、基本的には北陸古代土器研究会で使用するものに準じている。なお、煮炊具に関しては従来使用されてきた「甕」は使用せず、煮炊き機能の

イメージから「釜」を使用し、小型を小釜、大型の長胴を釜とした［小松市教委2002］。土器編年・年代観は田嶋明人氏の1988年と1997年発表の文献をもとにしている［田嶋1988、1997］。

中世の土器・陶磁器は、名称・時期ともに土師器が藤田邦雄［藤田1997］、珠洲焼が吉岡康暢［吉岡1994］、瀬戸美濃が藤澤良祐［藤澤1991］、輸入青磁は上田秀夫［上田1982］、青花は小野正敏［小野1982］に準じた。

近世陶磁器は大半が肥前陶磁器で、［九州近世陶磁学会2000、2001］に準じている。

参考文献

石川考古学研究会・北陸古代土器研究会1988『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』

上田秀夫1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』2　日本貿易陶磁研究会

小野正敏1982「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』2　日本貿易陶磁研究会

九州近世陶磁学会2000『九州陶磁の編年』

小松市教育委員会2002『二ツ梨一貫山窯跡』

田嶋明人1988「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題（報告編）』石考研・北陸古代土器研究会

野々市町史編纂専門委員会2003『野々市町史　資料編１』　野々市町

藤澤良祐1991「瀬戸古窯址群Ⅱ－古瀬戸後期様式の編年」『瀬戸市歴史民俗資料館　研究紀要Ⅹ』瀬戸市歴史民俗資料館

藤田邦雄1997「第２節　中世加賀国の土師器様相」『中・近世の北陸』北陸中世土器研究会　桂書房

吉岡康暢1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館

第２節 基本層序(第12図)

三納ニシヨサ遺跡の土層は遺跡の中心部と考えられるA-1区東側では、基本的に上層から耕土・床土・灰色粘質土・褐灰色～暗褐灰色粘質土となっている。このうち灰色粘質土は近世、褐灰色～暗褐灰色粘質土は中世の覆土で、暗褐灰色粘質土は大小の礫を含んでいる。また、遺跡の縁辺部と考えられるD区の東側では上層から耕土・床土・灰黄色粘質土・灰色粘質土・暗褐色粘質土となっている。暗褐色粘質土は古代以前である。

第３節 遺構

(1)古代以前の遺構(第13図)

a)土坑

SN(2)48(第14図)

B区K12グリッドに位置し、河跡SN(2)1の下部に所在する。平面形は略長楕円形で、径176×83cm、覆土は褐色を主とする。時期は縄文時代晩期である。出土遺物は縄文土器(1)が1点である。

b)ピット

SN(6)442(第14図)

D区と21グリッドに位置する。平面形は略円形で、径62×41cm、覆土は暗褐灰色土である。時期は縄文時代晩期と思われる。出土遺物は打製石斧(24)である。

SN(2)56(第14図)

B区L12グリッドに位置する。平面形は略円形で、径44×33cm、覆土は暗褐灰色土である。時期は

古代である。出土遺物は須恵器甕(27)である。

c)旧河川

SN(2)1(第14図)

B区K11・K12グリッドに位置する。検出された長さ約12m、幅約8～10mの南北に流れる河川である。深さは約10cmと浅い。覆土は淡暗灰色土である。時期は縄文時代晩期である。出土遺物は縄文土器(2～5・7・8)である。

(2)中世の遺構(第15図)

a)掘立柱建物

当遺跡では掘立柱建物を6棟検出している。このうちSN(1)①～⑤はA-1区で検出されており、多数の竪穴状遺構・土坑と共に本遺跡の中心をなすものであろう。ただしA-1区は地山に大量の大小礫を含んで地表の凹凸が激しく、特に深度の浅い柱穴・ピットのような小型遺構の認定は容易ではなかったため、柱穴の一部を確認できなかったところもある。また掘立柱建物を見落としていることもあるものと思われる。

1号掘立柱建物SN(1)①(第16図)

A-1区G3・H3グリッドに位置する側柱建物である。南西側が調査区外へ伸びているが、建物の規模は3×1間と思われる。平面形は若干歪む。軸はN－15°－Eである。東西の長さは8.4m、柱間距離はばらつきがあるが、北側東西柱列で2.4・2.6・3.2mを測る。南北は長さ6.2m、柱間距離は東側南北柱列で1.8m・2.6m・1.6mである。西側南北柱列の一部柱穴は確認できなかった。柱穴は円形ないし楕円形で径42～118cm、深さは20～62ｃｍ、覆土は暗褐灰色土を主とする。遺物の出土はなかったが、覆土の土色から中世の遺構と考えられる。

2号掘立柱建物SN(1)②(第16図)

A-1区G3・H3グリッドに位置する2×1間の側柱建物である。1号掘立柱建物SN(1)①の内側に所在しており立替と思われる。平面形は若干歪む。軸はN－9°－Wである。東西の長さは4.9m、柱間距離は北側東西柱列で2.4・2.5mを測る。南北は長さ4m、柱間距離は東側南北柱列で1.2・2.4mである。南西隅の柱穴は確認できなかった。柱穴は円形ないし楕円形で径32～56cm、深さは16～36cm、覆土は暗褐灰色土を主とする。遺物の出土はなかったが、覆土の土色から中世の遺構と考えられる。

3号掘立柱建物SN(1)③(第17図、図版1)

A-1区H6グリッドに位置する3×1間の側柱建物である。軸はN－20°－Eである。南北の長さは8.0m、柱間距離は東側南北柱列で2.2・2.6・3.2mを測る。東西は長さ4mである。柱穴は円形ないし楕円形で径84～120cm、深さは32～56cm、覆土は暗褐灰色土を主とする。遺物の出土はなかったが、覆土の土色から中世の遺構と考えられる。

4号掘立柱建物SN(1)④(第17図、図版1)

A-1区H6グリッドに位置する4×1間の側柱建物である。3号掘立柱建物SN(1)③と一部重複しており立替と思われる。軸はN－20°－Eである。南北の長さは7.8m、柱間距離は西側南北柱列で1.8・2.2・1.5・2.2mを測る。東西は長さ3.4mである。柱穴は円形ないし楕円形で径40～120cm、深さは24～52cm、覆土は暗褐灰色土を主とする。遺物の出土はなかったが、覆土の土色から中世の遺構と考えられる。

5号掘立柱建物SN(1)⑤(第18図、図版2)

A-1区I5グリッドに位置する。今次調査では北東側が調査区外であるが、平成13年に行われた隣接

地の調査により東西3×南北2間であることが判明している。側柱建物と考えるが、建物内に土坑などが所在し柱穴の有無は確認できなかったが、総柱建物であった可能性もある。本稿では今次調査検出分についてのみ記すこととする。軸はN－21°－Eである。東西の長さは6.0m、柱間距離は南側東西柱列でP1・P2間で1.7mを測る。それより東はSN(1)SK8のため柱穴は確認できなった。南北は長さ4.2m、柱間距離は西側南北柱列で2.1m・2.1mである。柱穴は円形ないし楕円形で径46～83cm、深さは16～38ｃｍ、覆土は暗褐灰色土を主とする。遺物の出土はなかったが、覆土の土色から中世の遺構と考えられる。

6号掘立柱建物SN(1)⑥(第18図、図版2)

A-3区E13・E14グリッドに位置する総柱建物である。北側が調査区外に伸びており、規模は東西4×南北2間以上になる。東西の長さは9.2mで、柱間距離は南側東西柱列で2.4m・2.2m・2.3m・2.4mである。南北の長さは4.6mで、柱間距離は東側南北柱列で2.4m・2.2mを測る。柱穴は円形ないし楕円形で径42～52cm、深さは20～42cmを測る。覆土は暗褐灰色土を主とする。遺物の出土はなかったが、覆土の土色から中世の遺構と考えられる。

b)竪穴状遺構

本報告では概ね規模が径300cm以上で略方形のものを竪穴状遺構とする。竪穴状遺構は三納ニシヨサ遺跡の中心部と考えられる南東部のA-1区に集中している。この地区は地山が礫土で、これらの遺構はいずれも礫土を掘り込んで作られている。

SN(1)SK1(第19図、図版2)

A-1区G3グリッドに位置する。南側は用水に切られており、確認できた規模は330×250cm、深度は約50cmで、平面形は略隅丸方形を呈する。壁の立ち上がりは明瞭で、底面は平坦である。覆土は灰褐色粘質土を主とし、大小の礫を多く含む。出土遺物は中世土師器皿(50・94・157・161)である。

SN(1)SK5(第19図、図版3)

A-1区I3グリッドに位置する。平面形は略隅丸方形で、径440×340cm、深度約30～40cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、底面は平坦である。西側はテラス状に一段高くなっている。覆土は明灰色粘質土が主で、大小の礫を含む。出土遺物は珠洲片口鉢(168)のほか珠洲甕と中世土師器皿の小片がある。

SN(1)SK6(第20図、図版3)

A-1区H4グリッドに位置する。平面形は略隅丸方形で、径320×280cm、深度約30cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、底面は平坦である。南東隅はテラス状に一段高くなっている。覆土は暗灰色粘質土が主で、大小の礫を含む。珠洲片口鉢(186)や珠洲甕・中世土師器皿の小片が出土している。

SN(1)SK7(第20図、図版4)

A-1区H3グリッドに位置する。平面形はやや歪な隅丸方形で、径450×390cm、深度約50cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、底面は平坦である。北東隅にテラスがあるほか、西側にもテラスが張り出している。覆土は暗灰色粘質土が主で、大小の礫を含む。中世土師器皿(34・95)、珠洲片口鉢(178・181)、瀬戸花瓶(238)のほか、越前甕、珠洲壺、行火の小片が出土している。

SN(1)SK8(第21図、図版4)

A-1区I4グリッドに位置する。平面形は方形で、径270×250cm、深度約30cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、底面は平坦である。覆土は暗灰色粘質土及び暗褐色粘質土で、大小の礫を含む。中世土師器皿(78)、珠洲片口鉢(169)、青磁碗(247)が出土している。

SN(1)SK9(第21図)

A1区H4グリッドに位置する。平面形は東西に長い隅丸方形で、径410×220cm、深度約20cmである。壁の立ち上がりは明瞭で、底面は平坦である。SN(1)SK27と切り合っているが前後関係は分からなかった。覆土は暗灰色粘質土で、大小の礫を含む。珠洲片口鉢(192)、天目碗(218)、白磁皿(255)や中世土師器皿、炉石が出土している。

SN(1)SK10(第22図)

A1区I5グリッドに位置する。平面形は不整形で、径290×200cm、深度約20cmである。壁の立ち上がりは緩やかで、底面は平坦である。南側のピットは5号掘立柱建物SN(1)⑤の柱穴である。覆土は暗灰色粘質土を主とし、大小の礫を含む。砥石(275)が1点出土している。

SN(1)SK11(第22図、図版4)

A1区H4グリッドに位置する。平面形は隅丸の略正方形で、径360×360cm、深度約50cmである。壁の立ち上がりは明瞭で、底面は平坦である。東側から南側にかけてL字状にテラスがある。覆土は上層が暗灰色粘質土、中層が暗褐色粘質土、下層が灰色粘土である。中・下層には大小の礫が多く含まれている。出土遺物は中世土師器皿(64・113・123・124・133)、珠洲片口鉢(179・180)、瀬戸平碗(211)、瀬戸天目碗(220)、瀬戸花瓶(241)、青磁碗・鉢(242・243・252)、中国製天目碗(256)である。

SN(1)SK12(第23・24図、図版5・6)

A1区G4グリッドに位置する。北からSN(1)SK12－a・SN(1)SK12－b・SN(1)SK12－c・SN(1)SK12－dと4つの遺構が複合している。遺構検出段階では各遺構範囲の確認が容易ではなかったため、十字の帯を残して一括して掘削し、土層断面によって範囲及び新旧を判断した。SN(1)SK12－aは竪穴状遺構で、切り合いからSN(1)SK12－bより古い。規模は確認できた範囲で径460×230cm、深度は約60cmである。平面形は隅丸方形で北東にテラスがあり、北壁に石列を持つ。また西壁から約50cm東にも南北の石列が並んでいる。覆土は上層が小礫を含む暗灰褐色粘質土と黒褐色粘質土、下層が暗褐色粘質土で大小の礫を含む。SN(1)SK12－bは径420×230cm、深度約50cmの竪穴状遺構である。平面形は略方形である。北壁と西壁にはそれぞれ石列があり、また西壁から90cm東にも南北の石列がある。覆土は暗灰褐色粘質土で大小の礫を含む。SN(1)SK12－cは不整な長方形をした土坑である。径580×180cm、深度は40～50cmを測る。覆土はSN(1)SK12－bと同じく暗灰褐色粘質土で大小の礫を含む。SN(1)SK12－dは北側がSN(1)SK12－bとSN(1)SK12－cに切られており、また西側も用水に切られているため全体の規模は不明だが、径は400×360cm以上となる。不整形で西側は一段低くなる。覆土は上層が小礫を含む灰褐色粘質土、下層が暗褐色粘砂質土である。出土遺物は中世土師器皿(43・76・78・110・114・146・149)、珠洲片口鉢(185)、瀬戸平碗(205・206)、瀬戸小天目(215)、瀬戸天目茶碗(219・221)、瀬戸瓶子(240)、青磁花瓶(254)、砥石(271)、炉石(283)、行火(286)である。

SN(1)SK18(第25図、図版5)

A-1区H5グリッドに位置する。平面形は不整形な方形で、径500×300cm、深度約30～60cmである。壁の立ち上がりは明瞭で、底面は平坦だが中央部分は傾斜している。北側から西側にかけてと東側の一部に石列が並ぶ。覆土は上層が暗灰色粘質土、中央下層は灰色粘土に大礫が多く含まれる。出土遺物は中世土師器皿(86・131)、珠洲片口鉢(195)のほか大礫と共に埋められた炉石数点ある。

SN(4)5(第26図、図版7)

C-2区C1グリッドに位置する。北側は用水に切られているため全体の規模は不明だが、径410×110cm以上、深度約40cmである。平面形は隅丸方形を呈するものと思われる。底面は若干の段差は

あるが略平坦である。覆土は暗褐色土・黒褐色土を主とする。中世土師器皿(38)、珠洲片口鉢(193)を出土している。

SN(4)6(第26図)

C-2区C0グリッドに位置する。北側は用水に切られているため全体の規模は不明だが、径220×210cm以上、深度は約10cmである。平面形は不整形な方形を呈するものと思われる。底面は平坦である。南東にテラスが付属する。覆土は暗褐色土を主とし、東側には大小の礫を含む。中世土師器皿(38)、珠洲片口鉢(193)を出土している。

SN(4)13(第27・28図)

C-2区B0グリッドに位置する。西側は用水に切られている。径220×180cm以上、深度は約40cmである。平面形は方形ないし長方形を呈するものと思われる。底面は平坦である。覆土は暗褐色土を主とする。珠洲片口鉢(198・204)、近世陶器甕(267)、行火(277・286)、釘(293)が出土している。

SN(4)162(第27・28図、図版7)

C-2区B0グリッドに位置する。南側は調査区外に伸びている。径420×300cm以上、深度は約50cmである。平面不整形な方形を呈するものと思われる。底面は平坦であり東側にテラスをもつ西壁際及び北側に二段の石列がある。覆土は暗褐色土を主とする。中世土師器皿(42・136)、珠洲片口鉢(183・184・197)、砥石(273・276・279)、鉄製品(295・297・299・300)が出土している。

c)土坑

SN(1)SK3(第29図)

A-1区H3グリッドに位置する。平面形は略正方形で径150×150cm、深度は約40cmを測る。覆土は明灰色土と黒褐色土を主とする。瀬戸皿類(226)が出土している。

SN(1)SK13(第29図)

A-1区G5グリッドに位置する。西側が用水に切られているため規模は不明だが、遺存径240×140cm、平面形は略方形を呈するものと思われる。深度は約30cmを測る。暗褐色土である。中世土師器皿(37・56・116)が出土している。

SN(1)SK14(第29図)

A-1区H6グリッドに位置する。平面形は略円形で径130×110cm、深度は約40cmを測る。覆土は暗灰色土と暗褐色土を主とする。中世土師器皿(75・120)、珠洲片口鉢(187)、瀬戸卸目付大皿(223)が出土している。

SN(1)SK19(第29図)

A-1区H7グリッドに位置する。平面形は略長方形で径347×162cm、深度32cmを測る。覆土は暗灰色土である。出土遺物はない。

SN(1)SK20(第25図)

A-1区G6グリッドに位置する。ピットと土坑が複合しているもので、平面形は歪な方形を呈し径170×160cm、深度は26cmを測る。覆土は暗灰色土と暗褐色土を主とする。出土遺物はない。

SN(1)SK22(第25図)

A-2区F5グリッドに位置する。平面形は長方形で径184×132cm、深度は22cmを測る。覆土は暗灰色土・暗褐色土・黒褐色土である。出土遺物は中世土師器皿(53)、珠洲片口鉢(201)である。

SN(1)SK26(第30図、図版6)

A-1区H8グリッドに位置する。平面形は不整形で径317×257cm、深度22cmを測る。覆土は暗灰色土である。出土遺物はない。

SN(1)SK27(第30図)

A-2区G9グリッドに位置する。平面形は不整形で径590×328cm、深度24cmを測る。覆土は暗灰色土である。中世土師器皿(105)を出土している。

SN(4)21(第31図)

C-2区C0グリッドに位置する。平面形は不整形で径507×229cm、深度52cmを測る。覆土は暗褐色土・黒褐色土・褐灰色土を主とする珠洲片口鉢(167)、珠洲壺(196)、珠洲甕(200)、瀬戸平碗(210)、瀬戸天目茶碗(212)、中国青磁皿(248)、砥石(269・270)、炉石(278)、鉄製品(287・288・289・290・291・292・296)を出土している。

SN(1)SK28(第23・24図)

A-1区H4グリッドに位置する。南側はSN(1)SK12に切られているため全体の規模は不明だが、平面形は略方形を呈し、遺存径120×160cm、深度34cmを測る。覆土は明褐色色土である。出土遺物は中世土師器皿(54・61・79・98・151)、瀬戸縁釉小皿(230)、瀬戸卸皿(232)である。

SN(1)SK29(第32図)

A-1区I5グリッドに位置する。東側は調査区外に伸びている。平面形は不整形で遺存径351×252cm、深度21cmを測る。覆土は暗灰色土である。出土遺物は中世土師器皿(32・60・90・107・162)、珠洲片口鉢(170・175)である。

SN(1)7(第32図)

E区B4グリッドに位置する。東側は調査区外に伸びている。平面形は不整形で遺存径351×252cm、深度21cmを測る。覆土は暗下褐色土を主とする。出土遺物は中世土師器皿(33・93・99)である。

SN(1)SKG4(第33図)

A-1区C0グリッドに位置する。平面形は不整形で径244×102cm、深度34～50cmを測る。覆土は上層が暗灰色土、下層が暗褐色土である。中世土師器皿(51・59・100・125)を出土している。

SN(4)9(第33図)

C-2区C0グリッドに位置する。平面形は不整な方形で径180×97cm、深度16～34cmを測る。覆土は暗褐色土を主とする。出土遺物は珠洲片口鉢(171)、珠洲甕(199)である。

d)ピット

SN(1)SP4(第33図)

A-1区G4グリッドに位置する。平面形は略円形で径36×32cm、深度20cmを測る。中世土師器皿(66)が出土している。

SN(1)SP21(第33図)

A-2区G5グリッドに位置する。平面形は略円形で径28×25cm、深度10cmを測る。中世土師器皿(146)が出土している。

SN(1)SP31(第33図)

A-1区H4グリッドに位置する。平面形は不整な方形で径102×97cm、深度22cmを測る。中世土師器皿(111・139)、珠洲片口鉢(188)が出土している。

SN(1)SP32(第33図)

A-1区H4グリッドに位置する。平面形は不整形で径131×78cm、深度15cmを測る。中世土師器皿(45・58)が出土している。

SN(1)SP33(第33図)

A-1区H4グリッドに位置する。平面形は不整な円形で径135×90cm、深度42cmを測る。小片のため

図示はしていないが中世土師器皿が出土している。

第4節 遺物

遺物の記述には、本文・観察表・図面図版・写真図版を用いる。当調査区からは縄文～近世までの遺物が出土している。

(1)古代以前の遺物(第34～36図、図版11・12)

土　器(1～12)　1～8は縄文土器である。1・2は深鉢、3は浅鉢で中屋式か。4は下野式の浅鉢である。9～12は弥生土器で中期の甕である。

石　器(13～26)　13～24は打製石斧である。完形は13～20の8点で19・20は分銅形、そのほかは撥形である。石質は凝灰岩や砂岩が多い。21～24は欠損している。遺構から出土したのはSN(6)442から出土した24の1点のみであり、あとは包含層から出土した。25・26は石皿である。

須恵器(27・28)　須恵器甕を2点図化した。27は口縁部、28は体部片である。いずれも小片であり時期の特定はできない。

(2)中世の遺物(第37～44図、図版12～16)

土　器(29～166)　中世土師器の皿は口縁部の残るものを中心に138点を図化した。A・Eタイプがほとんどで口径が6～8cm台のものが多数を占めるが、9～12cm台の中・大型のものも定量出土している。底部の形態は全体的に平底が多い。また33・34・41・43・50・54・55・76・78・92・112・133・138・140・145・166の16点には口縁部周縁に油煙痕が残る。時期は藤田Ⅳ期が中心である。

陶磁器(167～257)　陶磁器は珠洲片口鉢(167～195・201)、壺(196)、甕(197～200)、越前甕(202～204)、瀬戸美濃平碗 (205・206・208～211)、天目茶碗・小天目(212～222)、卸目付大皿(223)、縁釉小皿(224～231・234～236)、折縁中皿(226)、卸皿(232・233・237)、瀬戸花瓶・瓶子(238～241)、輸入品の青磁碗(242～247・252・253)、皿(248～250)、鉢(251)、白磁皿(255)、天目茶碗(256・257)を図化した。

珠洲片口鉢は、口縁端部の形状が内傾する三角頭が多く、吉岡Ⅳ～Ⅴ期が主体となる。175は口縁内端面に波状文帯がある。186・187・194は底部外面に静止糸切痕が残る。185・187・188・189は使用による磨耗が激しく卸目はかなり不明瞭となっている。196はSN(4)21から出土した。底部外面は静止糸切痕が残る。また全体に炭化物が付着している。珠洲甕は吉岡Ⅳ期に相当する。

越前甕は出光Ⅲ期である。202・203は同一個体である。

瀬戸美濃は平碗・天目茶碗・縁釉小皿が比較的多く出土している。時期は一部に藤澤中Ⅰ期や大窯期のものも見られるが、多くはⅢ～Ⅳ古期である。縁釉小皿のうち底部の残る234・236はいずれも回転糸切痕が見える。215はほぼ完形でSK12－d表面からの出土である。220・240は漆接ぎの痕が残る。223は体部外面に下方から底部にかけてヘラ削り調整が行われている。底部には一部糸切痕が残り、底部内面周辺はハケ塗り痕が残る。237は鉄釉の卸皿である。

輸入磁器は青磁・白磁・天目の3種類である。青磁は碗を8点、皿を3点、鉢、瓶をそれぞれ1点図化した。碗は口縁の残るものは全て外反するD類である。248は漆接ぎの補修痕が残り、底部を中心に厚く施釉される。252にも漆接ぎの補修痕がある。白磁は252の1点で口縁の内弯する皿である。SN(1)SK9から出土した。天目は256・257の2点で天目茶碗である。256はSN(1)SK11から出土した。257は包含層からの出土である。

(3)近世の遺物(第44図、図版16)

陶磁器(258～268)　磁器は碗(259・261～264)と瓶類(265)が出土した。陶器では碗(258・260)、蓋(266)と甕(267)が出土した。258・260は淘胎染付で、17世紀後半～18世紀である。265の時期は19～20世紀である。産地は磁器・陶器ともに肥前が多い。ほとんどが包含層からの出土で、明確な遺構からの出土はない。

(4)その他の遺物(第44～47図、図版16・17)

土製品(268・282)　土製品では火鉢(268)と土錘(282)が各1点出土した。包含層からの出土である。

石製品(269～281・283～286)　砥石(269～276)、行火(277・285・286)、炉石(278～281・283・284)が出土した。砥石は274・275が鳴滝産の仕上げ砥石である。274は四面とも使用された痕があり、特に両側面の使用痕が著しい。275は表裏の二面に使用痕がある。その他の砥石は中砥石である。行火はすべて軽石凝灰岩で被熱のため赤化している。285・286は垣内光次郎氏の分類の行火Ⅰ種である。[垣内1990] 炉石はいずれも煤や赤化しており、被熱のため脆くなっている。

鉄製品(287～300)　鉄製品は14点出土している。出土地点はすべてI-2区である。293・294は釘である。断面は方形を呈する。287～289・291・292・296・297・299・300は刀子である。断面はいずれも略三角形を呈している。

第5節　総括

縄文・弥生時代

当該時期の遺構としては、縄文時代晩期～弥生時代初頭の土器の出土した土坑SN(2)48・ピットSN(6)442が検出されたのみである。遺物の出土はなかったものの覆土の観察から当該時期の遺構と想定しうるものもあったが、その数は極めて少なく、人々の定住の跡を確認することはできなかった。ただし包含層及び地山直上からも若干の土器片や打製石斧が確認できた。本遺跡から500m南に所在する粟田遺跡から当該時期の打製石斧の素材採取地が検出されていることから当遺跡との関連が注目される。

古代

本遺跡の周辺には野々市町南部遺跡群や末松遺跡群といった大規模な古代集落遺跡が所在し、また今回の区画整理事業地内でも古代の遺跡として粟田遺跡や後述する三納アラミヤ遺跡・藤平田ナカシンギジ遺跡が確認されている。しかし本遺跡では当該時期の遺構はピットSN(2)56のみであり、遺物の出土も極めて少なく、集落跡は確認されなかった。

中世

中世は本遺跡の主体となる時期である。遺構の集中する南部エリアと遺構の希薄な北部エリアの2つに分けることができる。

南部エリアはA-1・A-2・C-1・C-2・E区からなる。このエリアはA-1区を中心に手取川によって運ばれてきた大小多くの礫によって地山面が覆われており、扇状地特有の形状をしている。このように居住には適さない思われる場所から多数の掘立柱建物・竪穴状遺構・土坑・ピットなどが検出されているのが本遺跡の大きな特徴である。その中でもA-1区からは遺跡全体で確認できた6棟の掘立柱建物のうちSN(1)①～⑤の5棟までが所在しており、その掘立柱建物と竪穴状遺構・土坑がセットで検出い

ることから居住エリアの中心と考えられる。本遺跡からは扇状地扇央部という地表からの地下水位が深いところに位置するためか、井戸状の遺構は検出されていない。更に野々市町の中世集落遺跡として知られる長池キタノハシ遺跡や扇が丘ハワイゴク遺跡で見られるような土地を区画する溝状の遺構も検出されなかった。

竪穴状遺構は全て南部エリアから検出されている。このうちA-1区に所在するSN(1)SK12・SN(1)SK18やC-2区のSN(4)162には石積の跡が見られる。このうちSN(1)SK18は掘り方の縁に石が並べられているのに対して、SN(1)SK12・SN(4)162では遺構内に2～3段に積まれており、長池キタノハシ遺跡で検出されたものと類似する。

北部エリアはA-3・A-4・B・D区からなる。このエリアは南部エリアとは様相が大きく変わり、地山は礫がほとんど混じらない土になるものの中世と確認できる遺構や遺物はほとんど確認していない。僅かにA-3区では掘立柱建物SN(1)⑥が検出されているが、A-1-2区とA-3区の間には南南西から北北東にかけて鞍部があり、SN(1)⑥とA-1区所在の各遺構との関係は不明である。

このように遺跡全体でみると、集落は礫土に覆われた南部エリアに展開し、地山土の良好な北部エリアには掘立柱建物や竪穴状遺構・土坑が見当たらず、遺構自体もまばらなことから耕作地として利用されたものと考えられる。さらに本遺跡の北西に隣接する藤平田ナカシンギジ遺跡の調査では目立った集落跡が確認されず、耕作地と考えられる平行溝群が検出されていることから、本遺跡の集落は南側一帯にとどまらず、藤平田ナカシンギジ遺跡をも含む広い範囲を耕作地としていたと考えられる。

遺跡の年代については、概ね14～15世紀を主体とするものと考える。既述のように地山表面が礫土で覆われているために遺構の検出確認が容易ではなく、また凹凸が多いため掘立柱建物の柱穴に見落としや遺構間の切合いが判断できなかったもの多かったため、遺跡内の各遺構の変遷を明らかにはできなかった。

参考文献

石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター　2005　『末松遺跡』

石川県立埋蔵文化財センター　1984　『普正寺遺跡』

垣内光次郎　1990　中世北陸の暖房文化　『石川考古学研究会々誌』33　石川考古学研究会

金沢市(金沢市埋蔵文化財センター)　2004　『堅田B遺跡Ⅱ』

野々市町教育委員会　1998　『長池・二日市・御経塚遺跡群』

野々市町教育委員会　2000　『長池キタノハシ遺跡』

野々市町教育委員会　2003　『扇が丘ハワイゴク遺跡』

野々市町教育委員会　2003　『富樫館跡Ⅲ』

野々市町教育委員会　2006　『粟田遺跡(第10次)・三納アラミヤ遺跡(第1・2次)・三納トヘイダゴシ遺跡(第1・3次)

野々市町史専門委員会　2003　『野々市町史　資料編１』　石川県野々市町

北陸中世土器研究会　1997　『中・近世の北陸』　桂書房

北陸中世考古学研究会　1999　『中世北陸の石文化Ⅰ』

第3表　三納ニシヨサ遺跡(第1・2・4・6・7次)遺物観察表

縄文・弥生時代

掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	残存率	色調	色調	備考
1	29～31	SN(2)1		縄文土器	深鉢				砕片	外:灰黄褐	内:灰黄褐	晩期
2	33	SN(2)1		縄文土器	深鉢			50	底部2/3	外:にぶい黄橙	内:褐灰	
3	32・34・	SN(2)1		縄文土器	浅鉢				砕片	外:にぶい黄橙	内:灰黄褐	晩期(中屋？)
4	40	SN(2)1		縄文土器	浅鉢				破片	外:にぶい黄橙	内:橙	下野式
5	41	SN(2)1		縄文土器					破片	外:浅黄橙	内:灰白	
6	35	SN(2)1		縄文土器					砕片	外:明黄褐	内:にぶい黄褐	
7	34	SN(4)	C0グリッド	縄文土器					砕片	外:にぶい黄橙	内:橙	
8	17	SN(2)48	1	縄文土器					砕片	外:浅黄橙	内:褐灰	
9	M-15	SN(6)	K14グリッド	弥生土器	甕	130			口縁1/7	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
10	M-16	SN(6)	K14グリッド	弥生土器	甕	151			口縁1/9	外:にぶい橙	内:にぶい橙	
11	M-14	SN(6)	K14グリッド	弥生土器	甕			58	底部1/2	外:にぶい橙	内;褐灰	
12	M-10	SN(6)	K14cグリッド	弥生土器	甕			57	底部1/4	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	残存率	石材	重量(g)	備考
13	H-37	SN(1)	包含層	石器	打製石斧	138	78	33	完形	緑色凝灰岩	416	
14	M-4	SN(6)	石斧A	石器	打製石斧	145	81	24	完形	火山礫凝灰岩	277	
15	M-9	SN(6)	K15グリッド	石器	打製石斧	141	85	25	完形	玢岩	411	
16	H-39	SN(1)		石器	打製石斧	119	75	35	完形	緑色凝灰岩	334	
17	H-38	SN(1)	包含層	石器	打製石斧	130	90	25	完形	緑色凝灰岩	357	
18	M-6	SN(6)	J17グリッド	石器	打製石斧	108	72	21	完形	緑色凝灰岩	186	
19	M-5	SN(6)	東壁	石器	打製石斧	150	77	33	完形	砂岩	449	
20	M-3	SN(6)	包含層	石器	打製石斧	153	88	26	完形	片磨岩	410	
21	M-1	SN(6)	K14cグリッド	石器	打製石斧	57	60	25	基部のみ	凝灰岩	94	
22	M-8	SN(6)	J17グリッド	石器	打製石斧	107	110	44	基部のみ	凝灰岩	595	
23	M-7	SN(6)	K15グリッド	石器	打製石斧	93	85	18	刃部のみ	凝灰岩	146	
24	M-2	SN(6)442		石器	打製石斧	87	82	27	刃部のみ	砂岩	225	
25	2	SN(4)9	イー30	石器	石皿	229	174	41	完形		2700	
26	1	SN(4)		石器	石皿	206	169	47	完形		2400	

古代

掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	残存率	色調	色調	備考
27	18	SN(2)56	2	須恵器	甕	182			口縁1/18	外:褐灰	内:褐灰	
28	14	SN(4)126	東側上面	須恵器	甕				砕片	外:灰	内:灰	

中世

掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	残存率	色調	色調	備考
29	0-111	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	48			口縁1/8	外:にぶい浅黄橙	内:にぶい浅黄橙	
30	0-66	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	55			全体1/12	外:橙	内:橙	
31	3	SN(4)	C2グリッド	中世土師器	皿	64	10	30	全体2/3	外:浅黄橙	内:赤橙	
32	H-20	SN(1)SK29	中層	中世土師器	皿	64	14	54	全体1/3	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
33	M-2	SN(7)1		中世土師器	皿	61	17	20	全体1/6	外:淡黄	内:淡黄	
34	0-36	SN(1)SK7	底部	中世土師器	皿	60			口縁1/4	外:浅黄橙	内:浅黄橙	内外面煤付着
35	0-67	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	60			口縁1/5	外:橙	内:橙	
36	0-96	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	76			口縁1/11	外:にぶい浅黄橙	内:にぶい浅黄橙	
37	H-26	SN(1)SK13		中世土師器	皿	74			口縁1/18	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
38	23	SN(4)5	底近く	中世土師器	皿	80	20		砕片	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
39	0-18	SN(1)SK12	F	中世土師器	皿	60	10	45	口縁1/12	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
40	0-117	SN(1)SX1		中世土師器	皿	76	18	45	全体1/10	外:にぶい浅黄橙	内:にぶい浅黄橙	
41	H-40	SN(1)	H6グリッド	中世土師器	皿	62			口縁1/6	外:にぶい橙	内:にぶい橙	
42	7	SN(4)162	石列内覆土	中世土師器	皿	80	17		全体2/3	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
43	H-49	SN(1)SK12	上層	中世土師器	皿	70			口縁1/18	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄褐	
44	0-88	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	70			口縁1/8	外:淡黄	内:淡黄	
45	H-57	SN(1)SP32		中世土師器	皿	75			口縁1/5	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
46	0-45	SN(1)	G4グリッド	中世土師器	皿	81			口縁1/7	外:灰黄	内:灰黄	
47	H-48	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	84			口縁1/16	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
48	0-84	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	74	17	40	全体1/3	外:橙	内:橙	
49	0-14	SN(1)SK12	B	中世土師器	皿	56	10	30	口縁1/7	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
50	H-14	SN(1)SK1	上層	中世土師器	皿	72			口縁1/12	外:にぶい灰白	内:にぶい灰白	
51	H-60	SN(1)SP2		中世土師器	皿	88			口縁1/5	外:にぶい橙	内:にぶい橙	
52	H-43	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	75	15		口縁1/10	外:灰黄褐	内:にぶい橙	
53	H-27	SN(1)SK22		中世土師器	皿	88			口縁1/15	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	

54	H-33	SN(1)SK28	表面	中世土師器	皿	70			口縁1/18	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
55	0-42	SN(1)	I4グリッド	中世土師器	皿	70			口縁1/6	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	内外面煤付着
56	H-10	SN(1)SK13	表面	中世土師器	皿	74			口縁1/7	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
57	H-41	SN(1)	H6グリッド	中世土師器	皿	80			口縁1/9	外:明褐灰	内:にぶい黄橙	
58	H-56	SN(1)SP32		中世土師器	皿	86			口縁1/8	外:にぶい橙	内:にぶい橙	
59	H-61	SN(1)SP2		中世土師器	皿	76			口縁1/8	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
60	H-24	SN(1)SK29	中層	中世土師器	皿	76			口縁1/8	外:灰黄褐	内:灰黄褐	
61	0-31	SN(1)SK28		中世土師器	皿	86	15	60	口縁1/7	外:にぶい橙	内:にぶい橙	
62	0-100	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	85			口縁1/16	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
63	0-109	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	67	19	40	全体1/4	外:橙	内:橙	
64	0-3	SN(1)SK11		中世土師器	皿	88	20		口縁1/5	外:にぶい橙	内:にぶい橙	Eタイプ、Ⅳ－Ⅰ期
65	0-62	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	85			口縁1/11	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
66	H-58	SN(1)SP4		中世土師器	皿	84	19	34	口縁1/6	外:にぶい橙	内:橙	
67	0-46	SN(1)	G5グリッド	中世土師器	皿	80			口縁1/5	外:橙	内:橙	
68	0-40	SN(1)	包含層4	中世土師器	皿	73			口縁1/7	外:灰白	内:灰白	
69	0-11	SN(1)SK11	上層g	中世土師器	皿	82			口縁1/13	外:橙	内:橙	
70	0-74	SN(1)	G3グリッド	中世土師器	皿	73			口縁1/7	外:にぶい浅黄橙	内:にぶい浅黄橙	内外面煤付着
71	0-90	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	70	13	40	全体1/7	外:にぶい浅黄橙	内:にぶい浅黄橙	
72	H-45	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	74			口縁1/8	外:にぶい橙	内:にぶい橙	
73	0-85	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	88			口縁1/9	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
74	H-28	SN(1)SK12		中世土師器	皿	70			口縁1/20	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
75	0-29	SN(1)SK14	c30.727	中世土師器	皿	78	17	45	全体1/7	外:灰白	内:灰白	
76	N-116	SN(1)SK12		中世土師器	皿	66			口縁1/9	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
77	0-101	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	74			口縁1/9	外:にぶい浅黄橙	内:にぶい浅黄橙	
78	H-30	SN(1)SK8		中世土師器	皿	72			口縁1/6	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
79	H-17	SN(1)SK28	西側	中世土師器	皿	88			口縁1/15	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
80	0-110	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	73			口縁1/8	外:にぶい浅黄橙	内:にぶい浅黄橙	
81	0-118	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	75	11	40	全体1/7	外:にぶい浅黄橙	内:にぶい浅黄橙	
82	0-95	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	75			口縁1/10	外:橙	内:橙	
83	H-46	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	66			口縁1/16	外:にぶい橙	内;にぶい橙	
84	0-19	SN(1)SK12	G上層	中世土師器	皿	68			口縁1/13	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
85	H-25	SN(1)SK13		中世土師器	皿	78			口縁1/18	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
86	H-19	SN(1)SK18		中世土師器	皿	74			口縁1/8	外:にぶい黄橙	内:黒褐色	
87	0-16	SN(1)SK12	D上層	中世土師器	皿	77			口縁1/9	外:橙	内:橙	
88	0-65	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	74			口縁1/7	外:橙	内:橙	
89	0-106	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	67			口縁1/12	外:橙	内:橙	
90	H-22	SN(1)SK29	中層	中世土師器	皿	70			口縁1/6	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
91	0-60	SN(1)		中世土師器	皿	88	20		口縁1/11	外:橙	内:橙	
92	0-108	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	66			口縁1/8	外:にぶい橙	内:にぶい橙	内外面煤付着
93	M-1	SN(7)-1		中世土師器	皿	67	18	16	全体1/6	外:にぶい橙	内:にぶい橙	
94	H-13	SN(1)SK1	上層	中世土師器	皿	75			口縁1/18	外:にぶい灰白	内:にぶい灰白	
95	0-34	SN(1)SK7	北東	中世土師器	皿	70	10	50	口縁1/3	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	Aタイプ、Ⅲ－Ⅱ2期
96	0-116	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	80			口縁1/11	外:にぶい浅黄橙	内:にぶい浅黄橙	
97	0-68	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿				口縁1/8	外:灰白	内:灰白	
98	H-16	SN(1)SK28	西側	中世土師器	皿	64			口縁1/7	外:橙	内:橙	
99	M-3	SN(7)1		中世土師器	皿	83	16		口縁1/6	外:にぶい橙	内:にぶい橙	
100	H-59	SN(1)SP2		中世土師器	皿	86			口縁1/5	外:にぶい橙	内:橙	
101	0-13	SN(1)SK12	B	中世土師器	皿	90	12	64	口縁1/13	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
102	0-92	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	85			口縁1/11	外:淡黄	内:淡黄	
103	0-89	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	86			口縁1/8	外:にぶい浅黄橙	内:にぶい浅黄橙	
104	0-24	SN(1)SK12	J上層	中世土師器	皿	79			口縁1/14	外:灰白	内:灰白	
105	0-30	SN(1)SK27		中世土師器	皿	89	21	60	全体1/6	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
106	0-21	SN(1)SK12	H	中世土師器	皿	83			口縁1/17	外:灰白	内:灰白	
107	H-23	SN(1)SK29	中層	中世土師器	皿	77			口縁1/18	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
108	0-93	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	70			口縁1/9	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
109	0-94	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	81			口縁1/10	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
110	N-117	SN(1)SK12		中世土師器	皿				口縁1/9	外:灰白	内:灰白	
111	H-7	SN(1)SP31		中世土師器	皿	76	14	50	全体1/4	外:橙色	内:にぶい黄橙	
112	0-53	SN(1)	H3グリッド	中世土師器	皿	86			口縁1/16	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	内外面煤付着
113	0-2	SN(1)SK11		中世土師器	皿	78			口縁1/9	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
114	N-114	SN(1)SK12		中世土師器	皿	80	13	32	全体1/12	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
115	0-91	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	81			口縁1/10	外:にぶい浅黄橙	内:にぶい浅黄橙	
116	H-9	SN(1)SK13	表面	中世土師器	皿	82	16	66	全体1/3	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	藤田Ⅲ期
117	H-47	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	84			口縁1/8	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
118	0-107	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	88			口縁1/12	外:淡黄	内:淡黄	
119	0-86	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	94			口縁1/10	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
120	0-27	SN(1)SK14		中世土師器	皿	97			口縁1/12	外:灰白	内:灰白	

121	0-20	SN(1)SK12	H	中世土師器	皿	94	19	55	全体1/5	外:灰白	内:灰白	
122	0-83	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	96			口縁1/10	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
123	0-4	SN(1)SK11	帯	中世土師器	皿	92	22		口縁1/5	外:にぶい橙	内:にぶい橙	内外面煤付着
124	0-1	SN(1)SK11		中世土師器	皿	90			口縁1/10	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
125	H-62	SN(1)SP2		中世土師器	皿	94			口縁1/17	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
126	0-87	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	90			口縁1/9	外:淡黄	内:淡黄	
127	0-114	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	89			口縁1/7	外:灰白	内:灰白	
128	0-115	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	89			口縁1/14	外:灰白	内:灰白	
129	Y-7	SN(1)SK12	表面6	中世土師器	皿	94			口縁1/8	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
130	9	SN(4)	B0グリッド	中世土師器	皿	104			口縁1/9	外:灰白	内:にぶい黄橙	小皿
131	H-18	SN(1)SK18		中世土師器	皿	102			口縁1/7	外:にぶい黄橙	内:黒褐色	
132	0-25	SN(1)SK12	J上層	中世土師器	皿	105			口縁1/10	外:灰白	内:灰白	
133	0-9	SN(1)SK11	表面e	中世土師器	皿	92			口縁1/6	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	内外面煤付着
134	0-75	SN(1)	G3グリッド	中世土師器	皿	110			口縁1/11	外:橙	内:橙	
135	0-80	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	104			口縁1/10	外:淡黄	内:淡黄	
136	22	SN(4)162	石列内覆土	中世土師器	皿	104	14	60	口縁1/9	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
137	H-44	SN(1)	H5グリッド	中世土師器	皿	92			口縁1/6	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
138	0-97	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	103			口縁1/11	外:浅黄橙	内:浅黄橙	内外面煤付着
139	H-8	SN(1)SP31		中世土師器	皿	84	21	50	全体1/6	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
140	H-55	SN(1)SP21		中世土師器	皿	98	29	50	全体1/4	外:浅黄橙	内:にぶい黄橙	
141	0-73	SN(1)	G3グリッド	中世土師器	皿	104			口縁1/12	外:にぶい浅黄橙	内:にぶい浅黄橙	
142	0-47	SN(1)	G5グリッド	中世土師器	皿	73	19		全体1/10	外:灰白	内:灰白	
143	0-79	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	104			口縁1/8	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
144	0-72	SN(1)	G3グリッド	中世土師器	皿	100			口縁1/13	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
145	0-82	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	106			口縁1/7	外:にぶい浅黄橙	内:にぶい浅黄橙	
146	0-12	SN(1)SK12	⑤⑥	中世土師器	皿	104	27	40	全体1/2	外:淡黄	内:淡黄	
147	0-71	SN(1)	G3グリッド	中世土師器	皿	120			口縁1/12	外:にぶい浅黄橙	内:にぶい浅黄橙	
148	0-23	SN(1)SK12	J上層	中世土師器	皿	131			口縁1/11	外:灰白	内:灰白	
149	N-115	SN(1)SK12		中世土師器	皿	114	24	70	全体1/12	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
150	0-99	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	112			口縁1/12	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
151	H-15	SN(1)SK28	西側	中世土師器	皿			66	底部1/4	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
152	0-59	SN(1)	G3グリッド	中世土師器	皿	146			口縁1/22	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
153	0-55	SN(1)	G3グリッド	中世土師器	皿	122			口縁1/10	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
154	0-58	SN(1)	G3グリッド	中世土師器	皿	116			口縁1/12	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
155	0-22	SN(1)SK12	I上層	中世土師器	皿	132			口縁1/9	外:にぶい橙	内:にぶい橙	内外面煤付着
156	0-57	SN(1)	G3グリッド	中世土師器	皿	110			口縁1/13	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
157	H-12	SN(1)SK1	上層	中世土師器	皿	101			口縁1/14	外:灰白	内:灰白	
158	Y-8	SN(1)SK12		中世土師器	皿	114	22		口縁1/8	外:にぶい灰白	内:にぶい灰白	
159	H-42	SN(1)	H6グリッド	中世土師器	皿	114			口縁1/8	外:灰白	内:灰白	
160	0-56	SN(1)	G3グリッド	中世土師器	皿	106			口縁1/12	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
161	H-11	SN(1)SK1	上層	中世土師器	皿			66	底部1/7	外:灰白	内:灰白	
162	H-21	SN(1)SK29	中層	中世土師器	皿	94			口縁1/7	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
163	0-54	SN(1)	G3グリッド	中世土師器	皿	114			口縁1/6	外:浅黄橙	内:浅黄橙	
164	18	SN(4)		中世土師器	皿	124			口縁小片	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
165	0-81	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	115			口縁小片	外:にぶい浅黄橙	内:にぶい浅黄橙	
166	0-98	SN(1)	H4グリッド	中世土師器	皿	82			口縁1/10	外:淡黄	内:淡黄	内外面煤付着
167	38	SN(4)21	イ−12	珠洲	片口鉢	388			砕片	外:灰	内:灰	吉岡編年Ⅴ期
168	H-6	SN(1)SK5		珠洲	片口鉢	376			口縁1/18	外:灰色	内:灰色	
169	H-5	SN(1)SK8	上層	珠洲	片口鉢	336			口縁1/20	外:灰色	内:灰色	
170	H-3	SN(1)SK29		珠洲	片口鉢	284			口縁1/8	外:黒褐色	内:褐灰色	
171	41	SN(4)9	イ−7	珠洲	片口鉢				砕片	外:灰	内:灰	吉岡編年Ⅳ期
172	0-112	SN(1)	H5グリッド	珠洲	片口鉢	262			口縁1/18	外:灰	内:灰	Ⅳ期か
173	0-77	SN(1)	G3グリッド	珠洲	片口鉢				口縁小片	外:灰	内:灰	
174	0-76	SN(1)	G3グリッド	珠洲	片口鉢				口縁小片	外:灰	内:灰	
175	H-4	SN(1)SK29		珠洲	片口鉢				口縁小片	外:灰白色	内:灰白色	
176	0-39	SN(1)		珠洲	片口鉢	176			口縁1/9	外:灰	内:灰	
177	Y-6	SN(1)SK12	表面2	珠洲	片口鉢				砕片	外:灰	内:灰	
178	Y-4	SN(1)SK7	C表面	珠洲	片口鉢				砕片	外:灰	内:灰	
179	0-7	SN(1)SK11	表面c	珠洲	片口鉢	547			口縁1/9	外:灰	内:灰	Ⅳ期
180	Y-2	SN(1)SK11		珠洲	片口鉢				砕片	外:灰	内:灰	
181	Y-5	SN(1)SK7		珠洲	片口鉢				砕片	外:灰白	内:灰白	
182	17	SN(4)	C2グリッド	珠洲	片口鉢				砕片	外:灰	内:灰	吉岡Ⅴ〜Ⅵ期
183	16	SN(4)162	イ−a	珠洲	片口鉢				砕片	外:灰白	内:灰黄褐	吉岡Ⅴ〜Ⅵ期
184	15	SN(4)162	下層石列外	珠洲	片口鉢				砕片	外:灰白	内:灰白	吉岡Ⅴ〜Ⅵ期
185	H−い	SN(1)SK12	14底部	珠洲	片口鉢				砕片	外:灰	内:灰	
186	0-32	SN(1)SK6		珠洲	片口鉢			112	底部1/4	外:にぶい橙	内:にぶい橙	焼成悪い
187	0-28	SN(1)SK14	b30.862	珠洲	片口鉢			122	底部1/4	外:灰	内:灰	Ⅴ期

188	0-37	SN(1)SP31	表面	珠洲	片口鉢			140	底部1/5	外:灰	内:灰	指頭圧痕
189	0-15	SN(1)SK12	B	珠洲	片口鉢			145	底部1/7	外:灰	内:灰	
190	0-113	SN(1)	H5グリッド	珠洲	片口鉢	128			底部1/5	外:灰	内:灰	
191	H－あ	SN(1)	東壁	珠洲	片口鉢			124	底部1/4	外:灰	内:灰	
192	0-33	SN(1)SK9	南西	珠洲	片口鉢			133	底部1/8	外:灰白	内:灰白	焼成悪い
193	13	SN(4)5	2	珠洲	片口鉢			140	底部1/6	外:灰白	内:灰黄褐	吉岡Ⅴ～Ⅵ期
194	0-119	SN(1)		珠洲	片口鉢	110			底部1/13	外:灰	内:灰	
195	H-1	SN(1)SK18	H	珠洲	片口鉢			162	底部1/5	外:灰	内:灰	
196	36	SN(4)21	イ－7	珠洲	壺				底部1/2	外:褐灰	内:黒褐	全面に炭化物付着
197	37	SN(4)162	イ－8	珠洲	甕				砕片	外:灰	内:灰	
198	42	SN(4)13	イ－5	珠洲	甕				砕片	外:灰	内:灰	吉岡編年Ⅳ期
199	40	SN(4)9	イ－2	珠洲	甕				砕片	外:灰	内:灰	
200	39	SN(4)21	イ－4	珠洲	片口鉢	412			口縁1/18	外:灰	内:灰	吉岡編年Ⅳ期
201	H-2	SN(1)SK22	包含層	越前	片口鉢	316			口縁1/8	外:灰黄褐色	内:にぶい黄褐	
202	8'	SN(4)6	覆土	越前	甕				砕片	外:灰褐	内:灰褐	
203	8	SN(4)	B0グリッド	越前	甕	400			口縁砕片	外:灰褐	内:灰褐	出光Ⅲ期
204	33	SN(4)13・	イ－4・10	越前	甕				砕片	外:灰褐	内:灰褐	
205	H-50	SN(1)SK12	12上層	陶器	平碗	179			口縁1/9	釉:灰釉	胎:灰白	瀬戸
206	N-113	SN(1)SK12	c中層	陶器	平碗	150			口縁1/18	釉:灰釉	胎:灰白	藤澤古瀬戸後Ⅰ期
207	10	SN(4)	F2グリッド	陶器	碗	150			口縁1/12	釉:灰釉	胎:灰白	藤澤古瀬戸後Ⅳ期
208	N-7	SN(1)	H5グリッド	陶器	小鉢	150			口縁1/12	釉:灰釉	胎:灰白	藤澤古瀬戸後Ⅱ～Ⅲ
209	0-43	SN(1)	I4グリッド	陶器	平碗	136			口縁1/15	釉:灰釉	胎:にぶい黄橙	瀬戸
210	12	SN(4)21	イ－6	陶器	平碗			44	底部1/9	釉:灰釉	胎:灰白	藤澤古瀬戸後Ⅱ期
211	N-118	SN(1)SK11		陶器	平碗				砕片	釉:灰釉	胎:灰白	藤澤古瀬戸後Ⅰ～Ⅲ
212	11	SN(4)21	イ－13	陶器	天目碗	104			口縁1/9	釉:黒	胎:灰黄	藤澤古瀬戸藤澤大窯
213	N-19	SN(1)	A区南壁	陶器	天目碗	123			口縁1/18	釉:鉄釉	胎:灰白	藤澤古瀬戸後Ⅳ古期
214	N-6	SN(1)	H4グリッド	陶器	天目茶碗	105			口縁1/16	釉:鉄釉	胎:灰白	藤澤古瀬戸後Ⅲ期
215	N-110	SN(1)SK12		陶器	小天目	44	18	18	完形	釉:鉄釉	胎:灰白	藤澤古瀬戸後Ⅲ期
216	0-50	SN(1)	H4グリッド	陶器	碗	138			口縁1/12	釉:鉄釉	胎:にぶい黄橙	瀬戸
217	N-54	SN(1)	G3グリッド	陶器	天目茶碗	98			口縁1/18	釉:鉄釉	胎:灰白	瀬戸
218	N-107	SN(1)SK9		中国製陶器	茶碗	120			口縁1/6	釉:鉄釉	胎:灰白	瀬戸
219	H-29	SN(1)SK12		陶器	天目茶碗			34	底部1/3	外:灰黄褐	内:鉄	瀬戸
220	0-6	SN(1)SK11	表面b	陶器	碗	122			口縁1/9	釉:鉄釉	胎:灰白	瀬戸
221	N-119	SN(1)SK12	表面7	陶器	天目茶碗				砕片	釉:灰釉	胎:灰黄	藤澤古瀬戸後Ⅳ期
222	0-78	SN(1)	G3グリッド	陶器	天目	153			口縁1/20	釉:鉄釉	胎:灰	瀬戸
223	N-106	SN(1)SK14		陶器	卸目付大皿	312	98	138	全体2/9	釉:灰釉	胎:灰黄	藤澤古瀬戸後Ⅳ古期
224	N-11	SN(1)	H5グリッド	陶器	縁釉小皿	100			口縁1/9	釉:灰釉	胎:灰白	瀬戸
225	Y-9	SN(1)SK12		陶器	縁釉小皿	13			口縁1/16	釉:灰釉	胎:灰黄	瀬戸
226	0-38	SN(1)SK3		陶器	縁釉小皿	142			口縁1/18	釉:灰釉	胎:灰白	瀬戸
227	0-102	SN(1)	H4グリッド	陶器	縁釉小皿	105			口縁1/17	釉:灰釉	胎:灰白	瀬戸
228	0-64	SN(1)	H5グリッド	陶器	縁釉小皿	118			口縁1/13	釉:灰釉	胎:灰白	瀬戸
229	N-5	SN(1)	H4グリッド	陶器	縁釉小皿	84			口縁1/14	釉:灰釉	胎:灰白	藤澤古瀬戸後Ⅲ期
230	H-34	SN(1)SK28	表面	陶器	縁釉小皿	106			口縁1/10	外:にぶい黄橙	内:灰黄	瀬戸
231	N-9	SN(1)	H5グリッド	陶器	縁釉小皿	102			口縁1/7	釉:灰釉	胎:灰白	藤澤古瀬戸後Ⅳ古期
232	H-35	SN(1)SK28	表面	陶器	卸皿	120			口縁1/11	釉:灰釉	胎:灰白	瀬戸
233	0-52	SN(1)	H3グリッド	陶器	卸皿	186			口縁1/25	釉:灰釉	胎:灰白	瀬戸
234	N-8	SN(1)	H5グリッド	陶器	縁釉小皿	102	22	54	全体1/9	釉:灰釉	胎:灰白	藤澤古瀬戸後Ⅳ古期
235	0-48	SN(1)	G5グリッド	陶器	縁釉小皿	104			口縁1/10	釉:灰釉	胎:にぶい黄橙	瀬戸
236	N-3	SN(1)	H4グリッド	陶器	縁釉小皿	100	24	54	全体1/3	釉:灰釉	胎:灰黄	藤澤古瀬戸後Ⅳ古期
237	N-4	SN(1)	H5グリッド	陶器	卸皿	106			口縁1/7	釉:鉄釉	胎:灰白	藤澤古瀬戸後Ⅲ期
238	0-35	SN(1)SK7	中層	陶器	花瓶	74			口縁1/7	釉:灰釉	胎:灰白	瀬戸
239	0-51	SN(1)	H3グリッド	陶器	瓶子	75			口縁1/19	釉:灰釉	胎:灰白	瀬戸
240	N-111	SN(1)SK12		陶器	瓶子	64			口縁1/4	釉:灰釉	胎:灰白	藤澤古瀬戸中1期
241	N-112	SN(1)SK11		陶器	尊式花瓶				砕片	釉:灰釉	胎:灰黄	藤澤古瀬戸後Ⅲ～Ⅳ
242	Y-1	SN(1)SK11		中国青磁	碗	215			口縁1/36	釉:青磁釉	胎:灰白	
243	0-10	SN(1)SK11	上層i	中国青磁	碗	145			口縁1/9	釉:青磁釉	胎:灰白	D類、14C
244	M-17	SN(6)		中国青磁	碗	159			口縁1/12	釉:青磁	胎:明オリーブ灰	
245	0-49	SN(1)	H4グリッド	中国青磁	碗	154			口縁1/8	釉:青磁釉	胎:灰白	14C
246	0-63	SN(1)	H5グリッド	中国青磁	碗	145			口縁1/19	釉:青磁釉	胎:灰	
247	H-31	SN(1)SK8		中国青磁	碗	98			口縁1/14	釉:青磁釉	胎:灰白	
248	27	SN(4)21	イ－3	中国青磁	皿	120	32	44	全体1/3	釉:青磁	胎:明オリーブ灰	
249	N-53	SN(1)	G3グリッド	中国青磁	皿			62	底部1/5	釉:青磁釉	胎:灰白	
250	0-103	SN(1)	H4グリッド	中国青磁	皿	133			口縁1/11	釉:青磁釉	胎:灰白	
251	0-121	SN(1)	Ⅱ区大河	中国青磁	碗	57			底部完形	釉:青磁釉	胎:にぶい橙	
252	0-5	SN(1)SK11	帯	中国青磁	鉢			47	底部1/4	釉:青磁釉	胎:灰白	14C後
253	0-70	SN(1)	8Hグリッド	中国青磁	碗	60			底部1/3	釉:青磁釉	胎:灰	13C初
254	N-109	SN(1)SK12		中国青磁	花瓶				砕片	釉:青磁釉	胎:灰白	

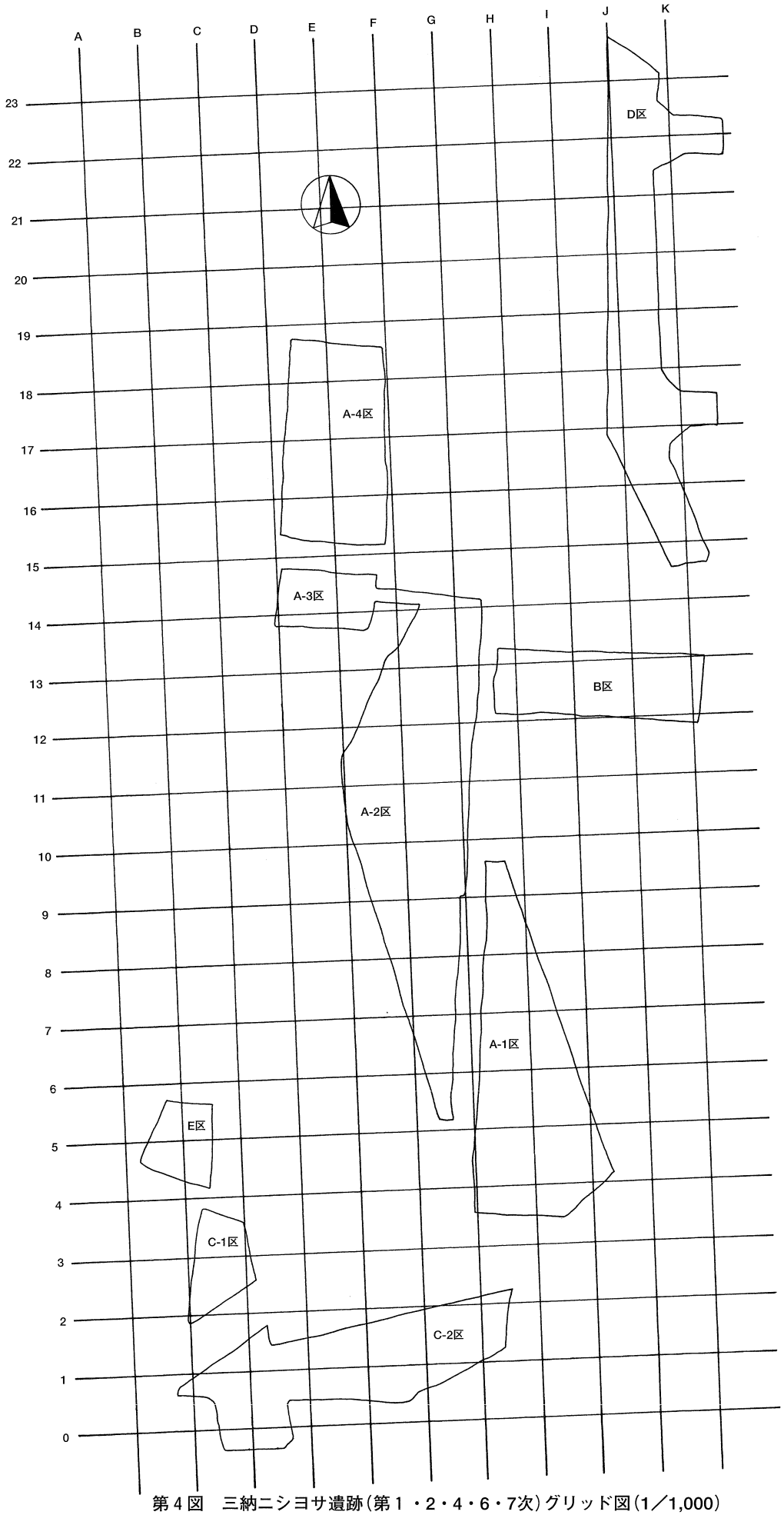
255	N-108	SN(1)SK9		中国白磁	皿	128			口縁1/9	釉:透明釉	胎:灰白	
256	0-8	SN(1)SK11	表面d	中国製陶器	碗	130			口縁1/9	釉:鉄釉	胎:灰	うるし接ぎ
257	N-10	SN(1)	H5グリッド	中国製陶器	碗	152			口縁1/8	釉:鉄釉	胎:灰白	

近世

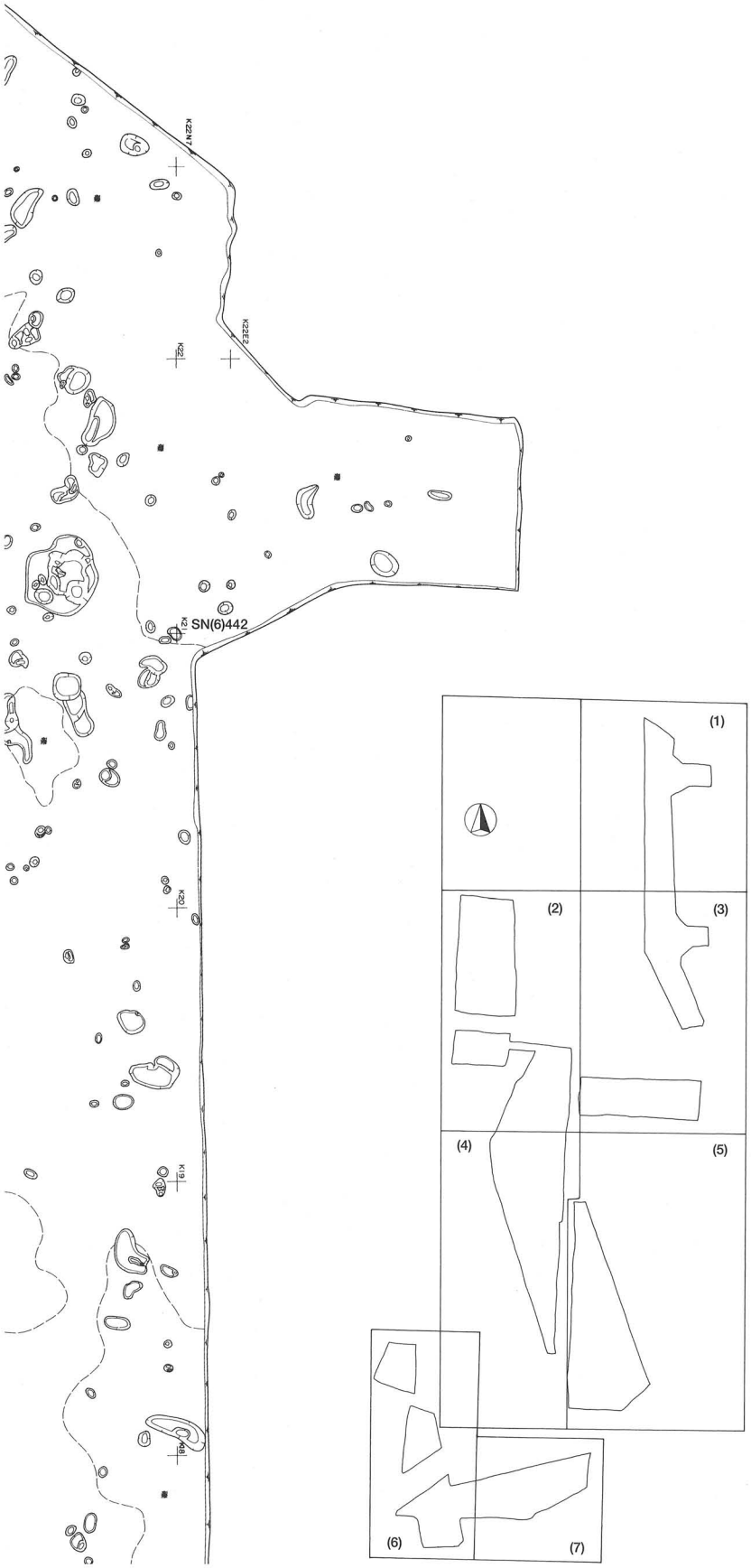
掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	残存率	色調	色調	備考
258	M-13	SN(6)	K14aグリッド	陶器	碗	111	69	41	全体1/3	釉:白泥	胎:黄灰	
259	0-104	SN(1)	H4グリッド	磁器	碗	90			口縁1/20	釉:透明釉	胎:灰白	
260	0-122	SN(1)	Ⅱ区大河	陶器	碗	131			口縁1/15	釉:白泥	胎:にぶい橙	
261	0-69	SN(1)	H7グリッド	磁器	碗	98			口縁1/13	釉:透明釉	胎:灰白	
262	0-44	SN(1)	G6W4グリッ	磁器	碗	125			口縁1/26	釉:透明釉	胎:灰白	
263	0-41	SN(1)	G11グリッド	磁器	碗			47	底部1/3	釉:透明釉	胎:灰白	
264	0-61	SN(1)		磁器	碗			32	底部1/6	釉:透明釉	胎:灰白	
265	35	SN(4)	F2グリッド	磁器	瓶類				体部1/9	釉:透明釉	胎:灰白	肥前、19～20世紀
266	19	SN(4)2		陶器	蓋	118			口縁1/9	外:浅黄橙	内:浅黄橙	施釉陶器
267	32		イ－12	陶器	甕	204			口縁2/9	外:灰褐	内:灰褐	近世(肥前？)

その他

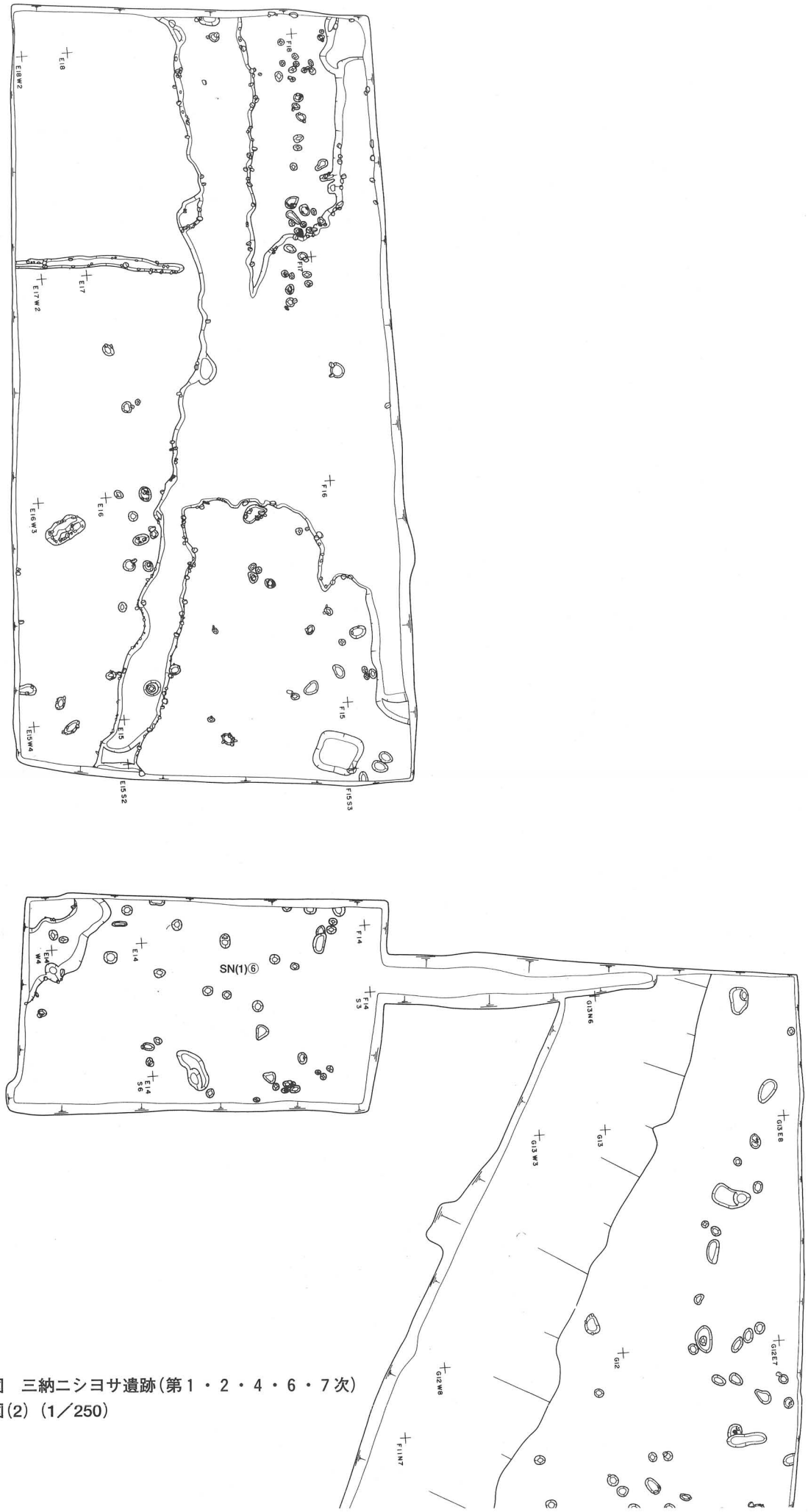
掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	残存率	色調(石器石質)	色調	備考
268	M-12	SN(6)	K14aグリッド	土器	火鉢	108			口縁1/8	外:浅黄橙	内:にぶい黄橙	
269	25	SN(4)21	イ－2	石製品	砥石	112	59	56				重335g
270	26	SN(4)21	イ－1	石製品	砥石	124	59	42				重298g
271	H-52	SN(1)SK12	13上層	石製品	砥石	152	74	39				重526g
272	0-120	SN(1)		石製品	砥石				欠損			
273	5	SN(4)162	西石列内	石製品	砥石		45	35				砂岩、重96g
274	0-17	SN(1)SK12	E上層	石製品	砥石	58	32	16	欠損			重43g
275	H-36	SN(1)SK10		石製品	砥石	75	42	9	欠損			重39g
276	6	SN(4)162	石列内覆土	石製品	砥石		42	37				砂岩、重74g
277	31	SN(4)13	イ－b	石製品	行火							重130g
278	24	SN(4)21		石	炉石							重1420g
279	21	SN(4)162	石列内覆土	石	炉石		137					重2170g
280	H-54	SN(1)		石	炉石	211	182	91				重2100g
281	29	SN(4)13	イ－あ	石	炉石							重2270g
282	M-11	SN(6)	K14aグリッド	土製品	土錘	47	32	29	完形	外:にぶい橙	内:褐灰	
283	H-53	SN(1)SK12	11底部	石	炉石		196	98				重2090g
284	H54	SN(1)SK12		石	炉石	228	197	148	欠損			
285	H-51	SN(1)SK12	9	石製品	行火				欠損			重2347g
286	30	SN(4)13	イ－12	石製品	行火							重3600g
287	M-1	SN(4)21	イ－8	鉄製品	刀子	33	17	5				3.3g
288		SN(4)21	イ－8	鉄製品	刀子	30	13	6				2.6g
289	M-8	SN(4)21	イ－8	鉄製品	刀子	44	14	4				4.0g
290		SN(4)21	イ－8	鉄製品		15	9	4				0.6g
291	M-12	SN(4)21	イ－8	鉄製品	刀子	51	11	4				3.8g
292		SN(4)21	イ－8	鉄製品	刀子	39	16	4				4.0g
293		SN(4)13		鉄製品	釘	32	7	5				1.7g
294	M-3	SN(4)7	イ－8	鉄製品	釘	24	5	4				0.5g
295	M-4	SN(4)162	下層	鉄製品		18	12	3				1.3g
296	M-9	SN(4)21	イ－8	鉄製品	刀子	35	12	3				2.1g
297	M-6	SN(4)162	イ－C	鉄製品	刀子	54	12	4				4.2g
298	M-2	SN(4)6	イ－4	鉄製品		36	28	7				8.6g
299	M-1	SN(4)162	イ－C	鉄製品	刀子	110	16	5				11.8g
300	M-7	SN(4)162	イ－ロ	鉄製品	刀子	144	23	6				22.8g



第４図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）グリッド図（1／1,000）

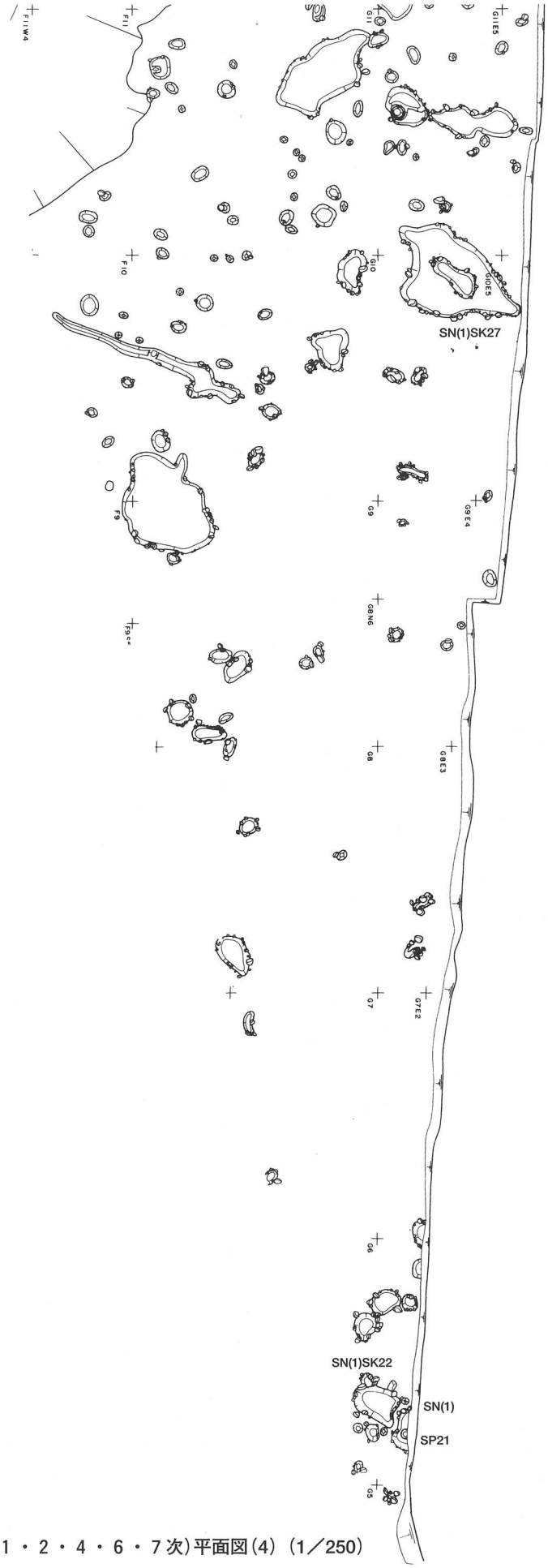


第５図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）平面図（1）（1／250）

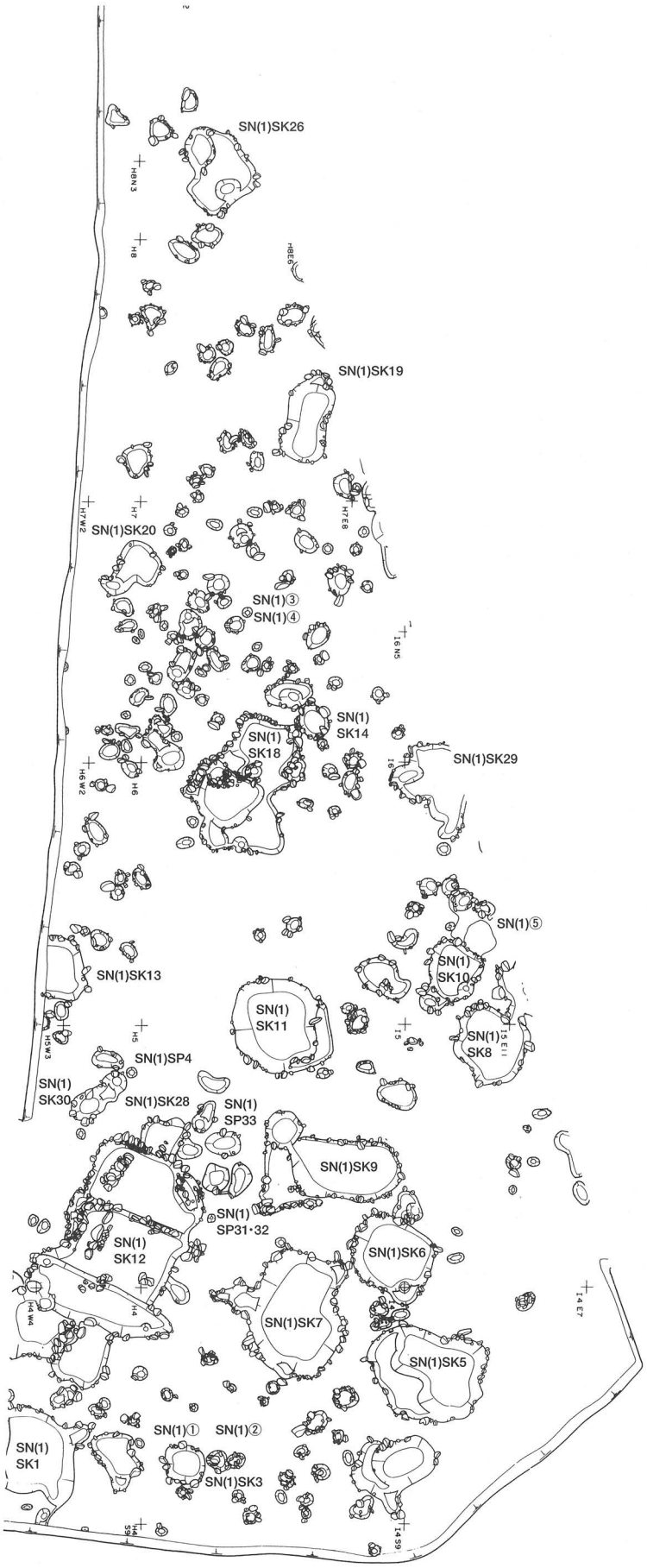


第６図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）
平面図(2)（1／250）

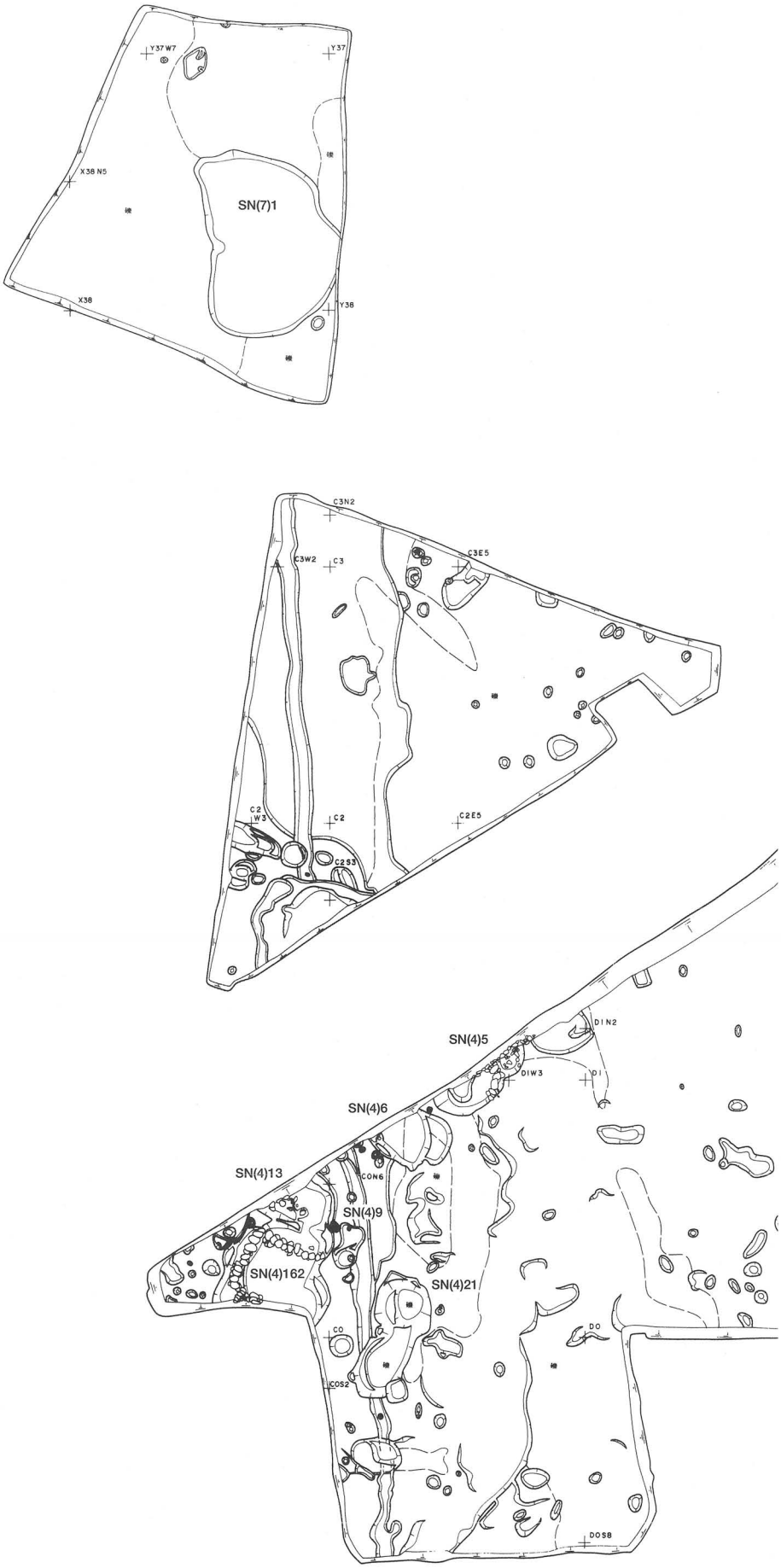
第７図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）平面図（3）（1／250）



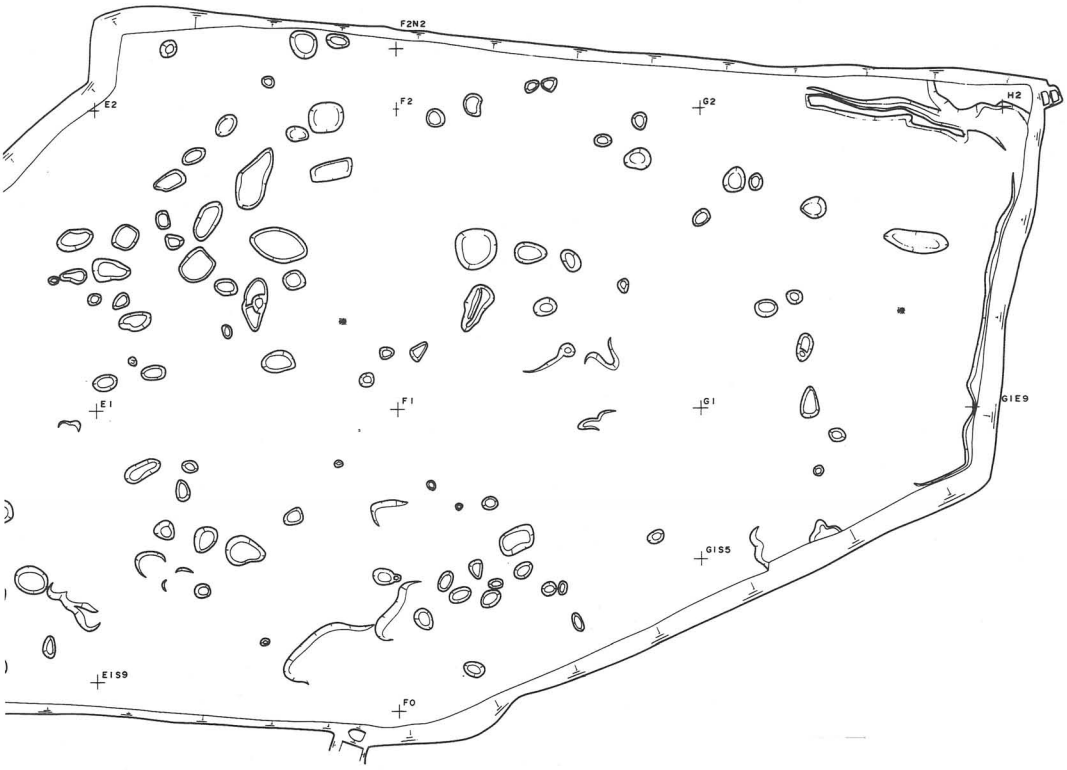
第８図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）平面図（4）（1／250）



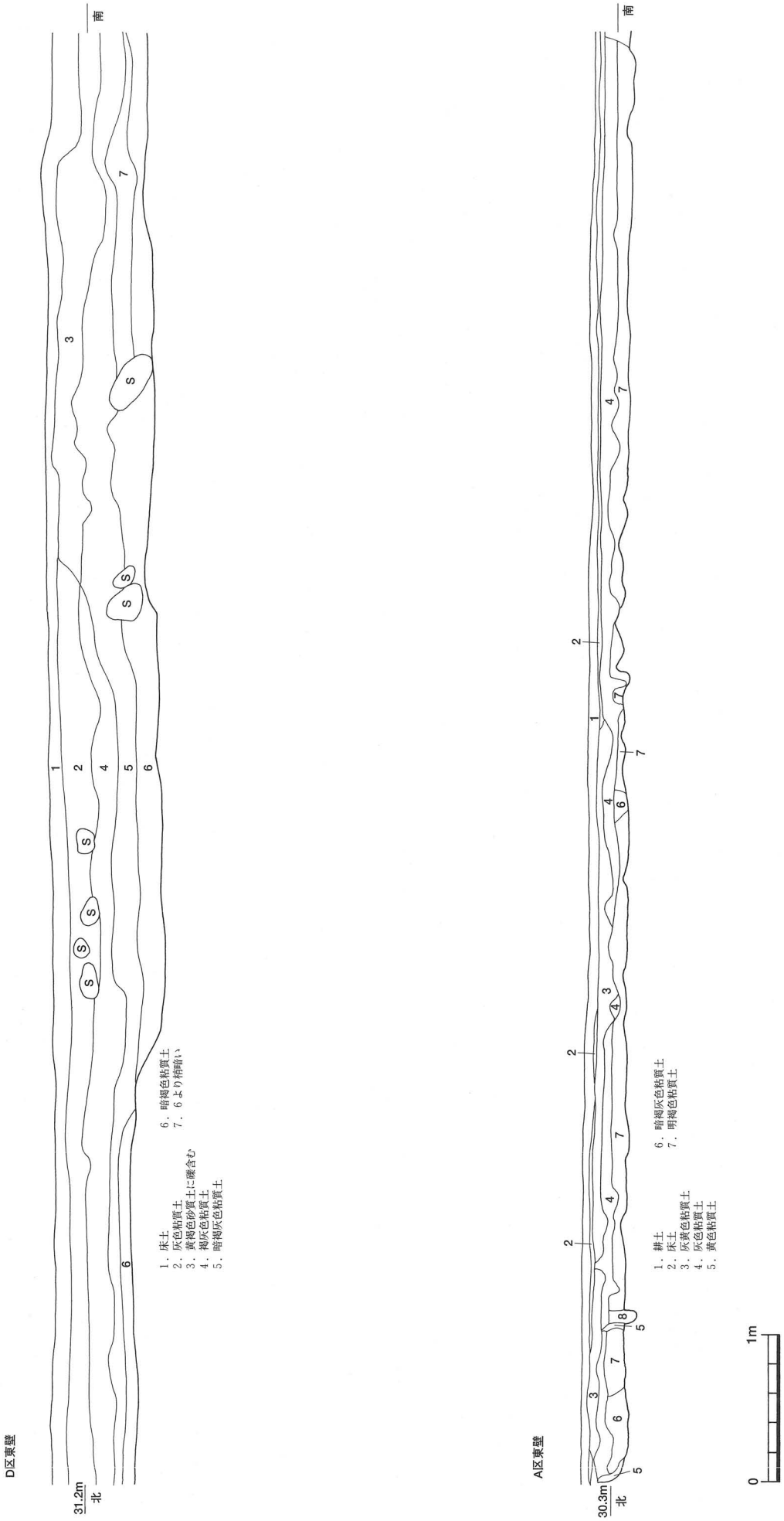
第９図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）平面図（5）（1／250）



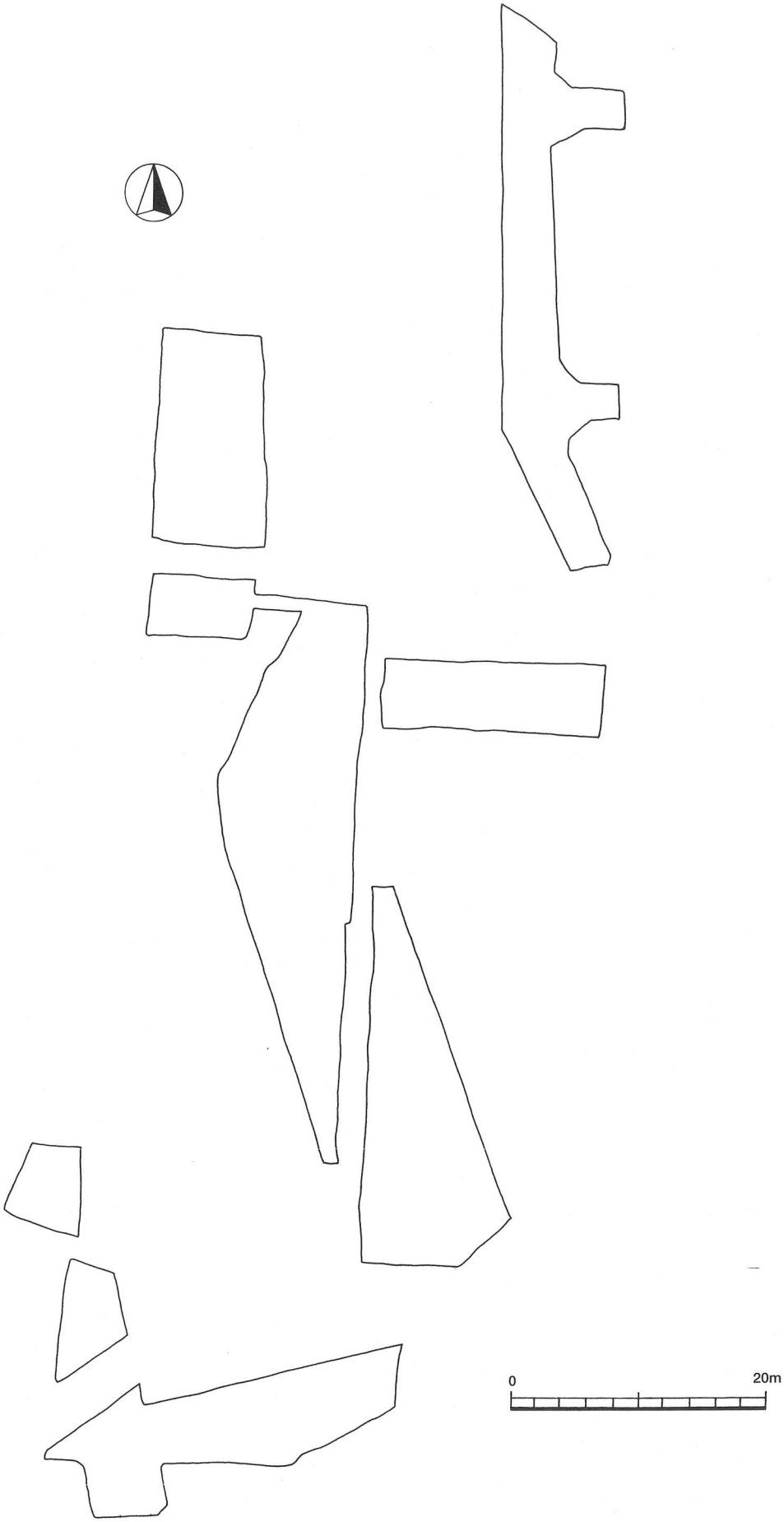
第10図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６次）平面図(6)（1／250）



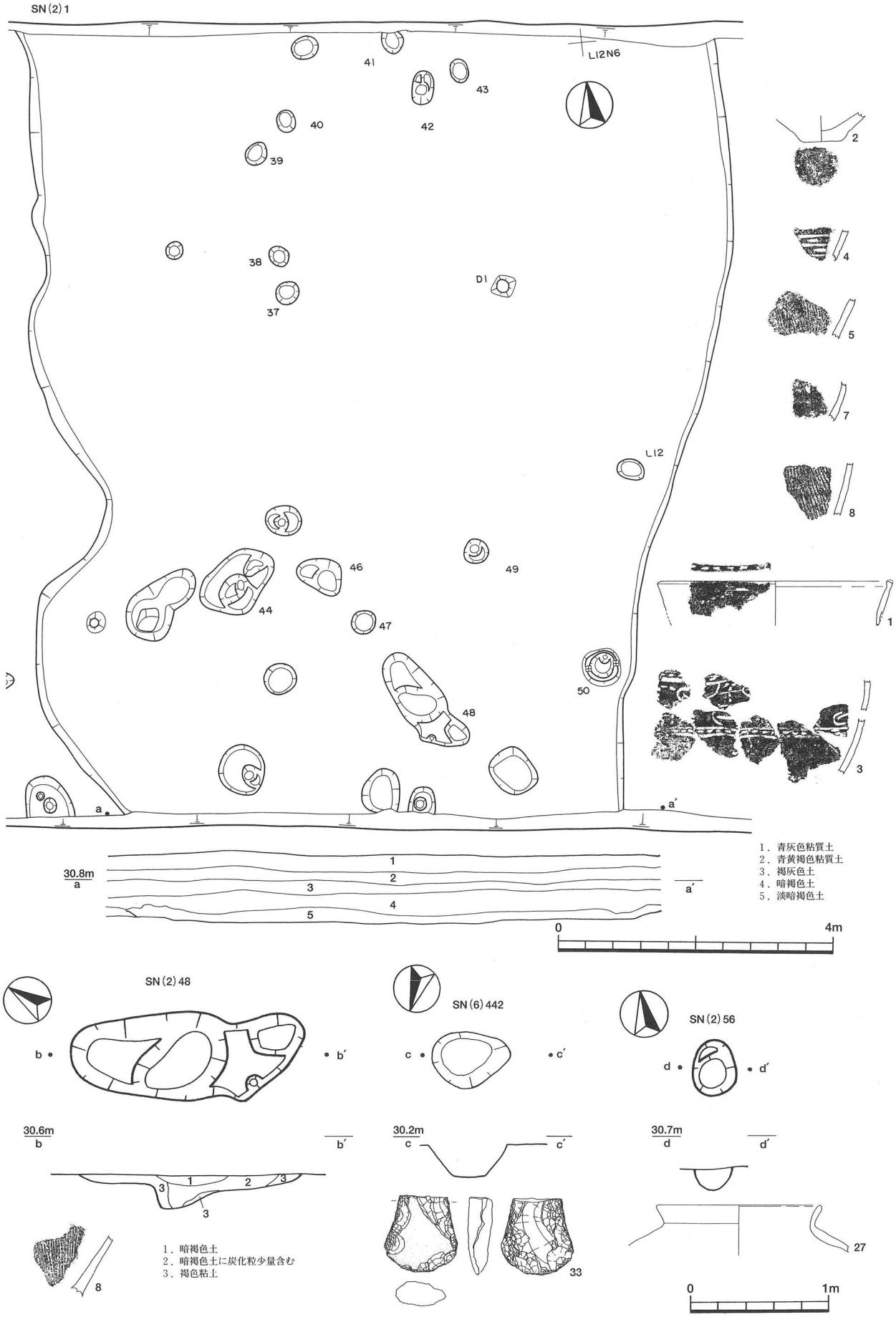
第11図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６次）平面図（7）（1／250）



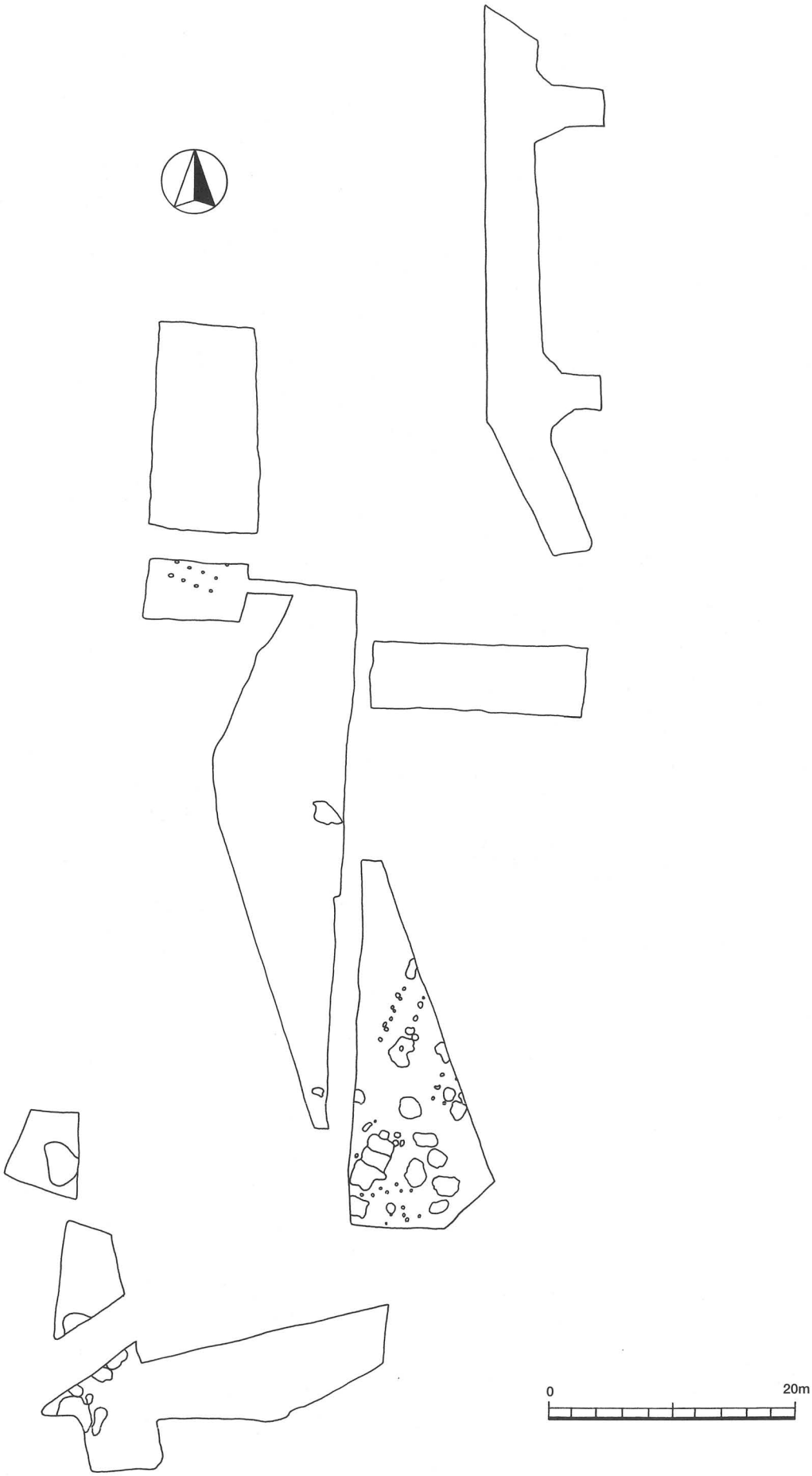
第12図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）A-1区東壁・D区東壁　土層断面図（1／40）



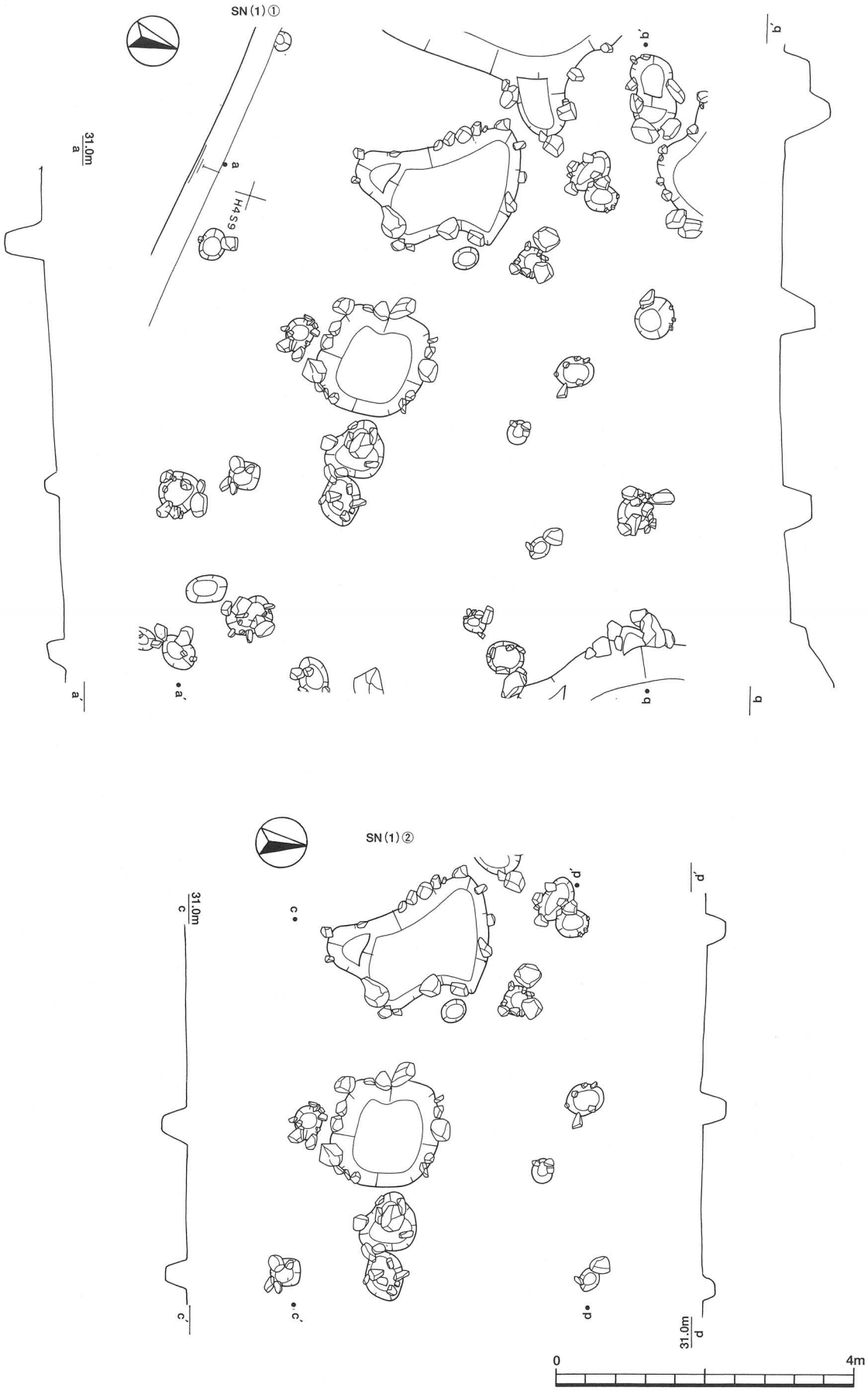
第13図　古代以前遺構全体図（1／1,000）



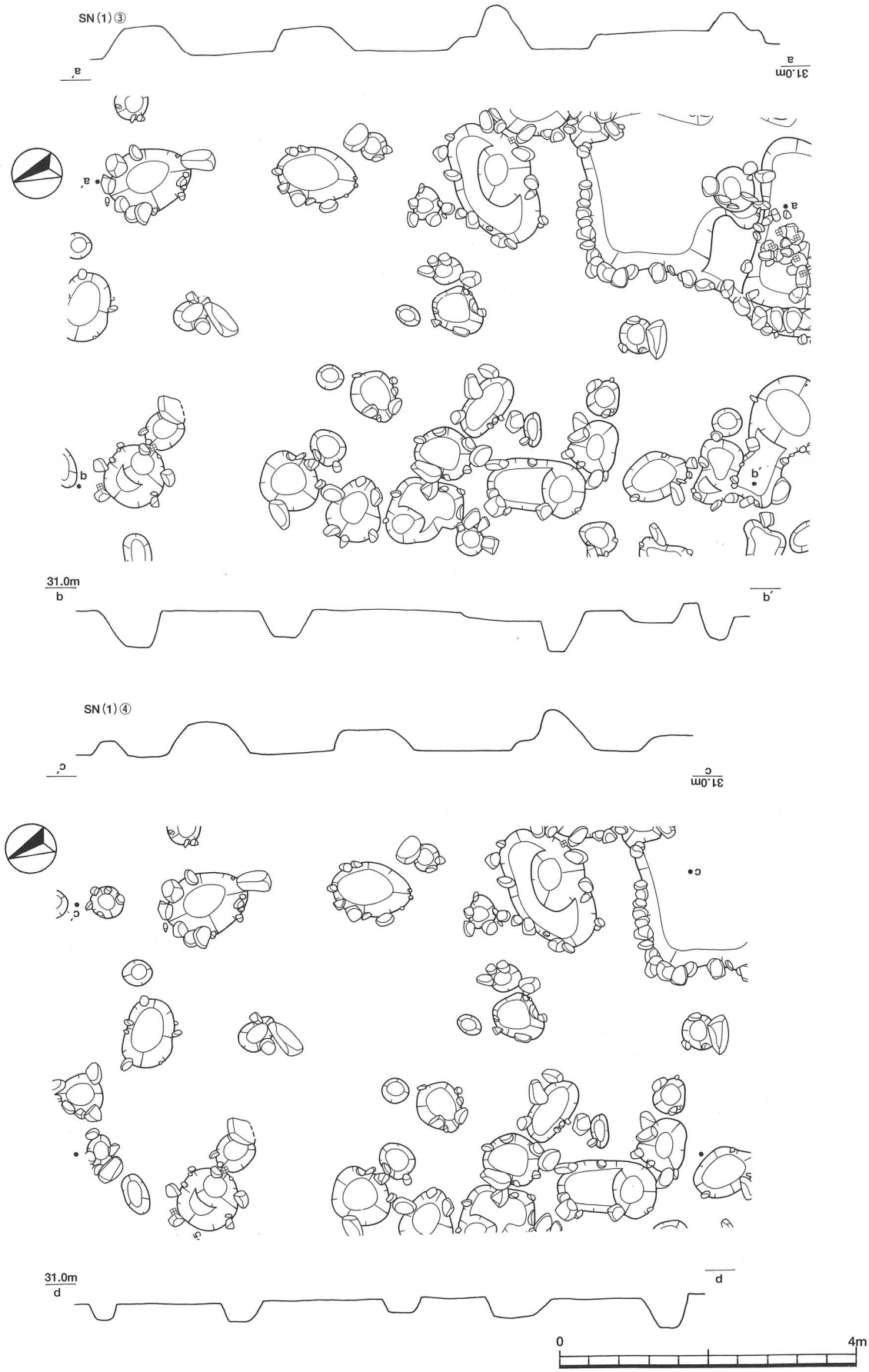
第14図　遺構実測図　河道SN(2)1　ピットSN(2)48・SN(6)442・SN(2)56（1／80、1／40）



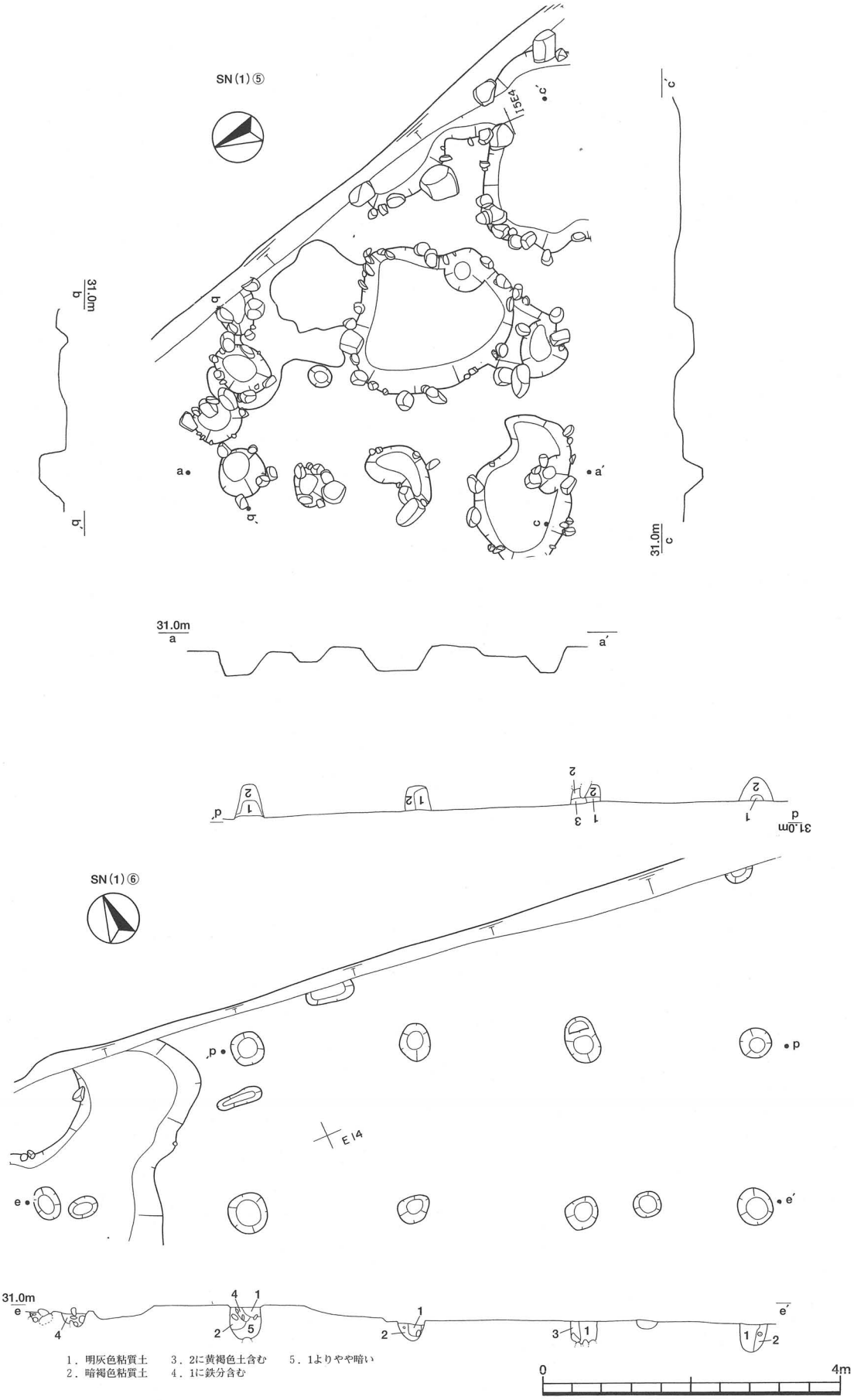
第15図　中世遺構全体図（1／1,000）



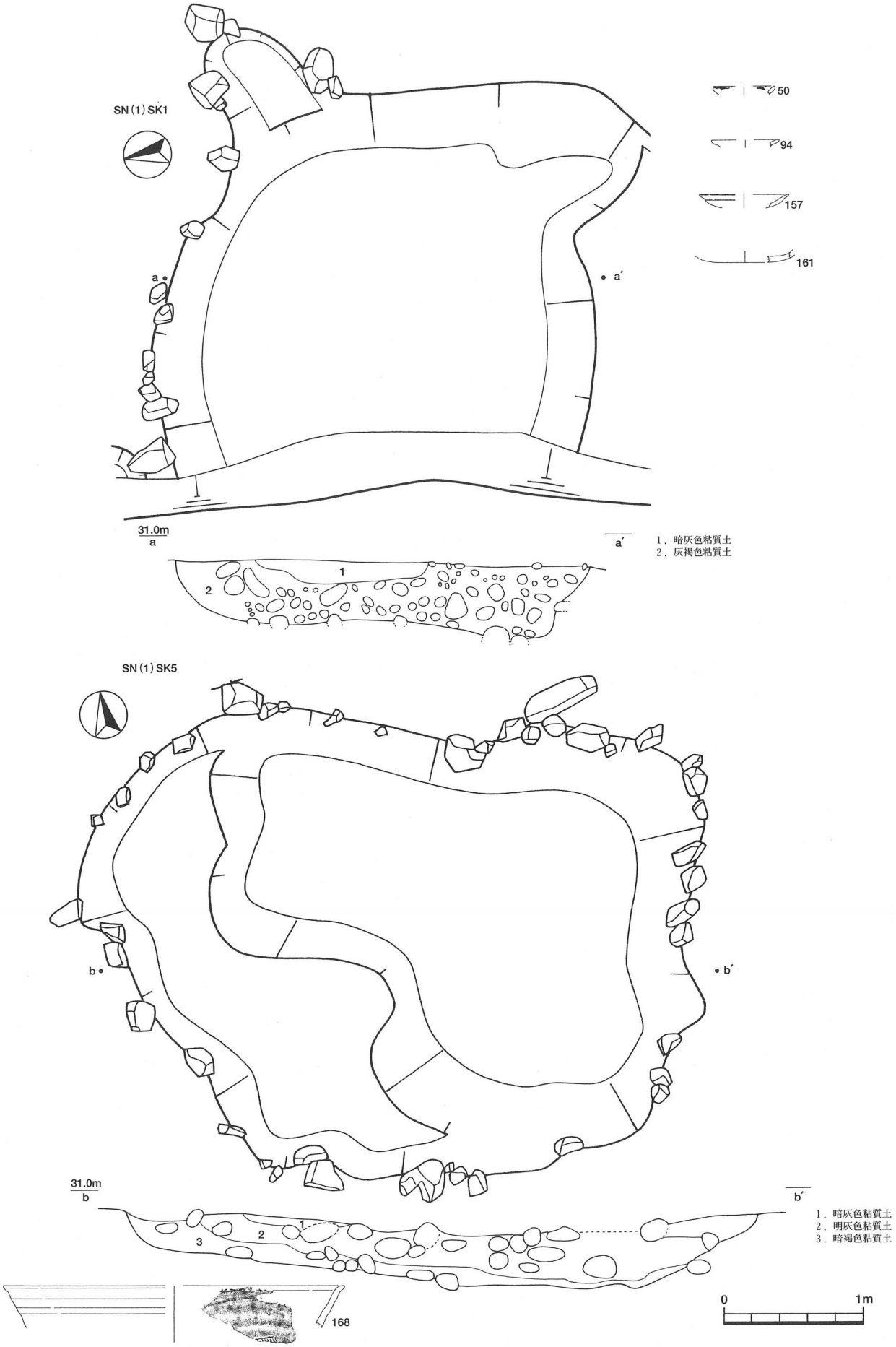
第16図　遺構実測図　掘立柱建物SN(1)①・②　（1／80）



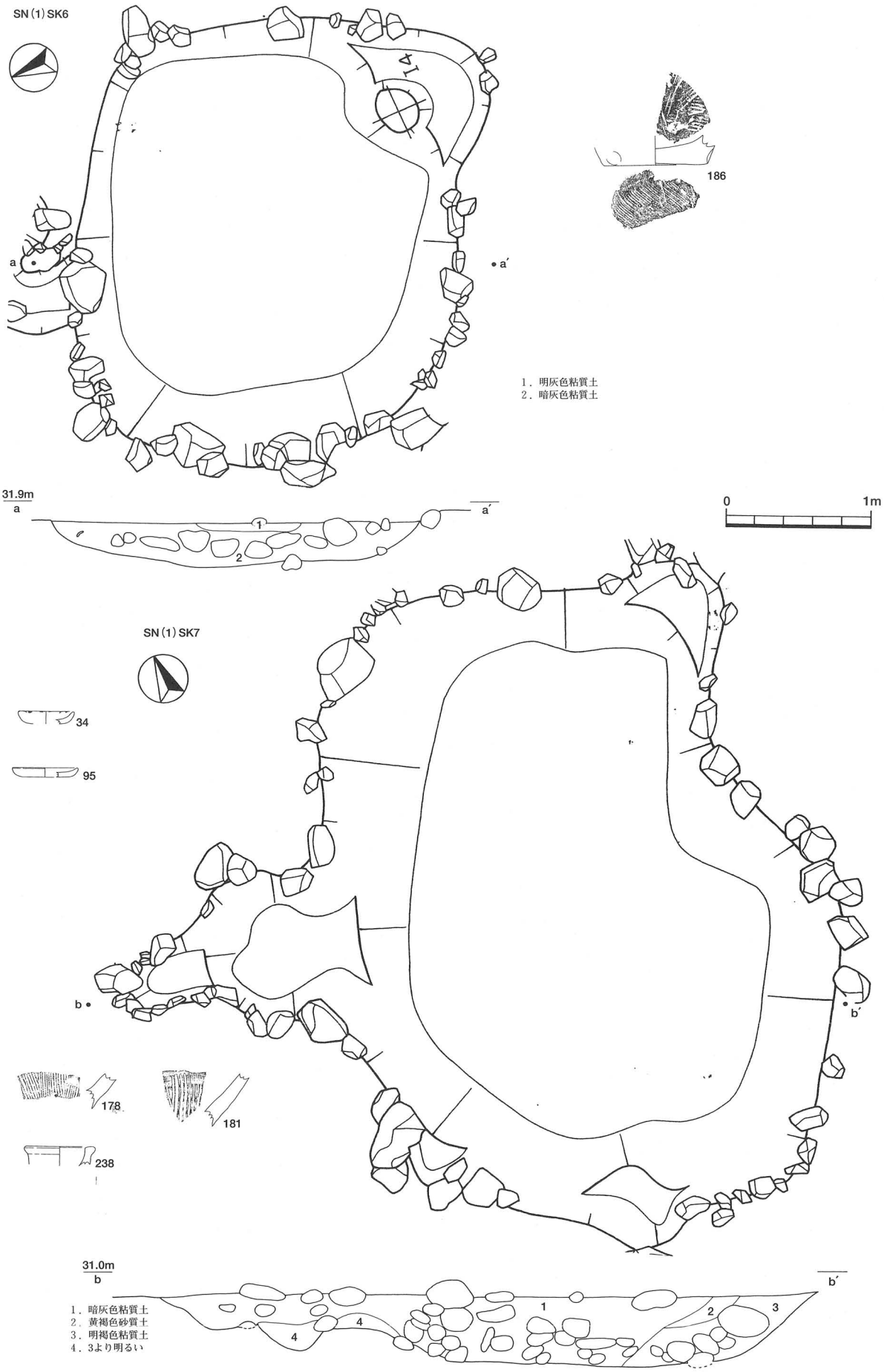
第17図　遺構実測図　掘立柱建物SN(1)③・④（1／80）



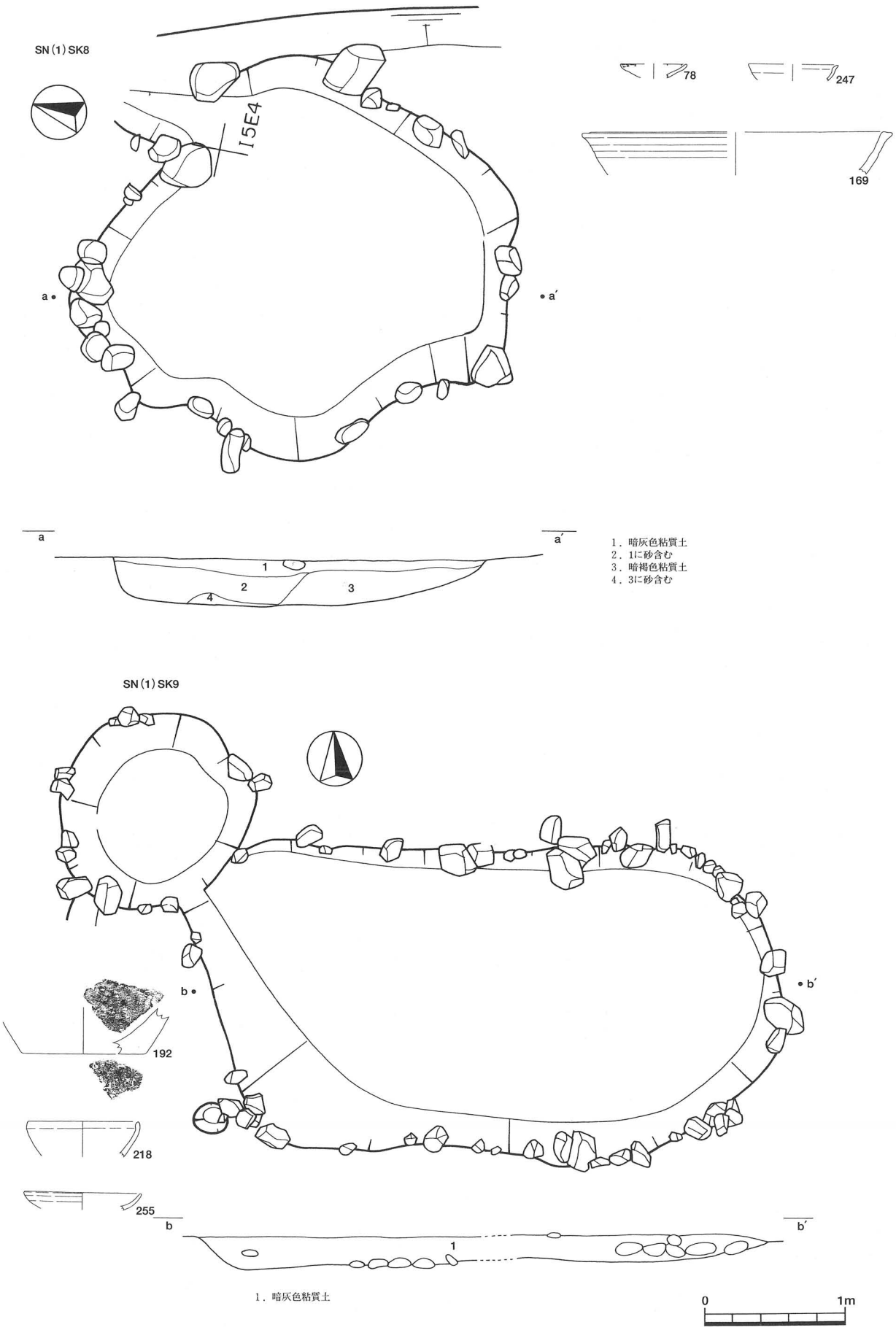
第18図　遺構実測図　掘立柱建物SN(1)⑤・⑥　（1／80）



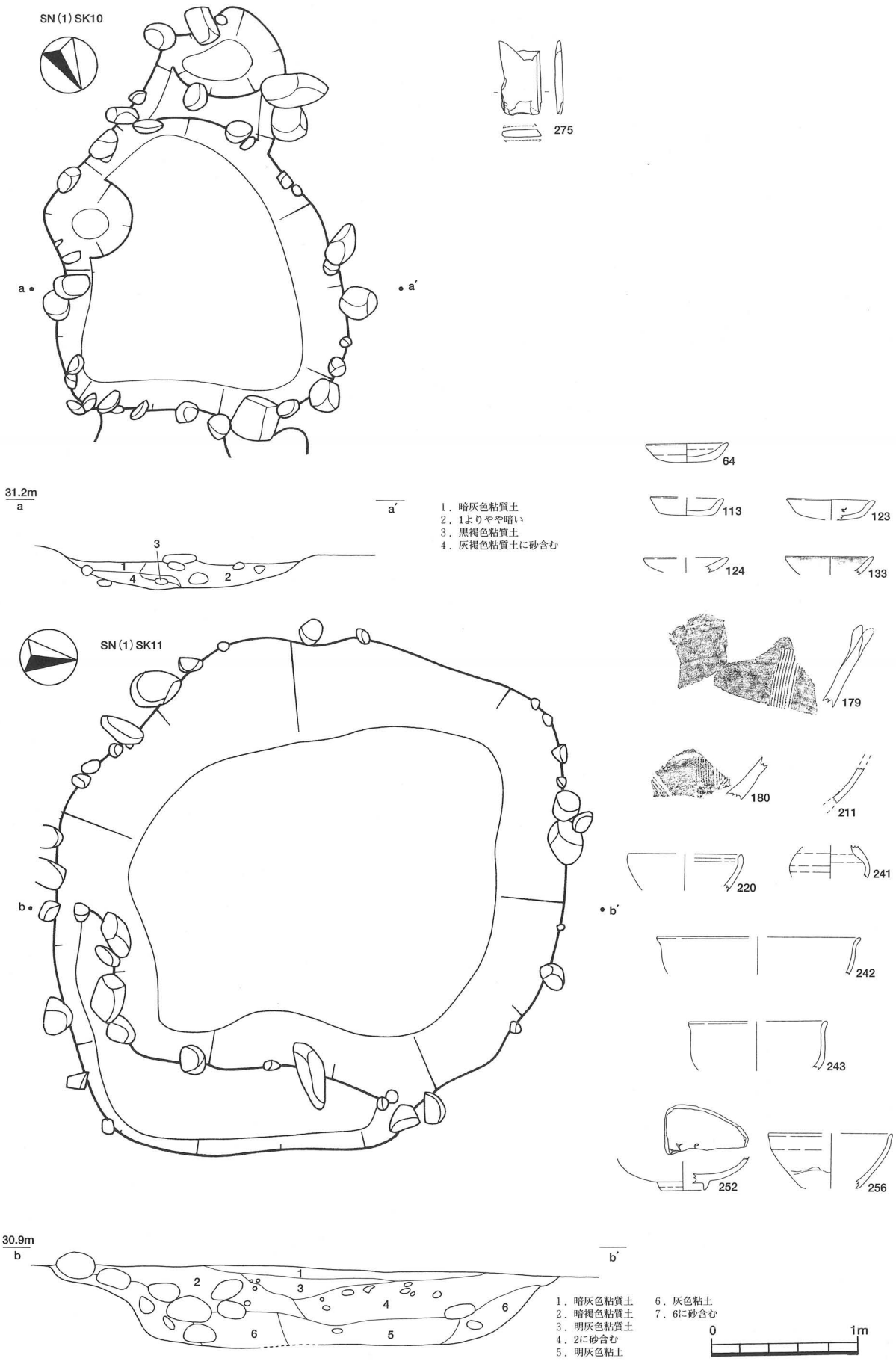
第19図　遺構実測図　竪穴状遺構SN(1)SK1・SK5　（1／40）



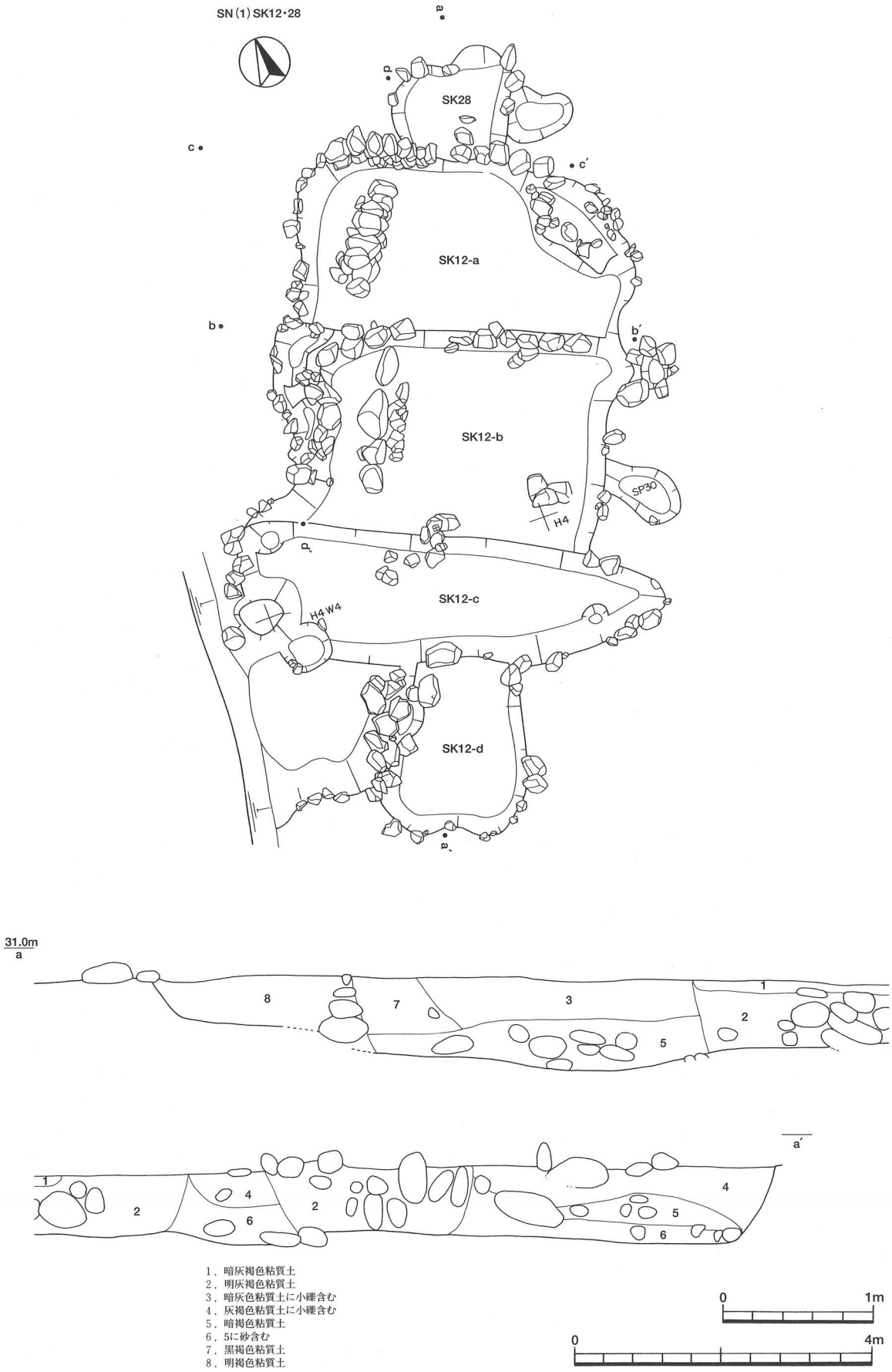
第20図　遺構実測図　竪穴状遺構SN(1)SK6・SK7（1／40）



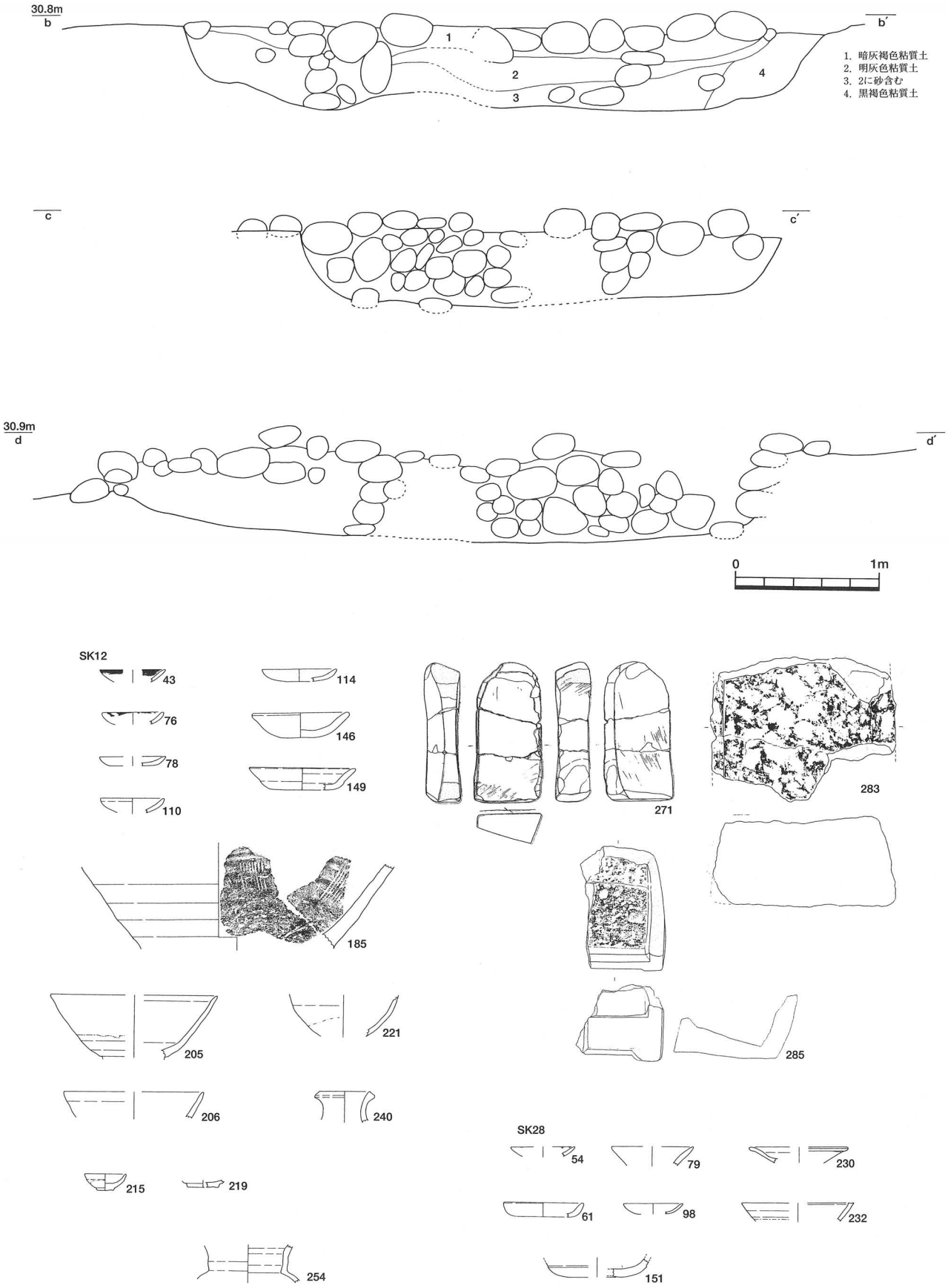
第21図　遺構実測図　竪穴状遺構SN(1)SK8・SK9（1／40）



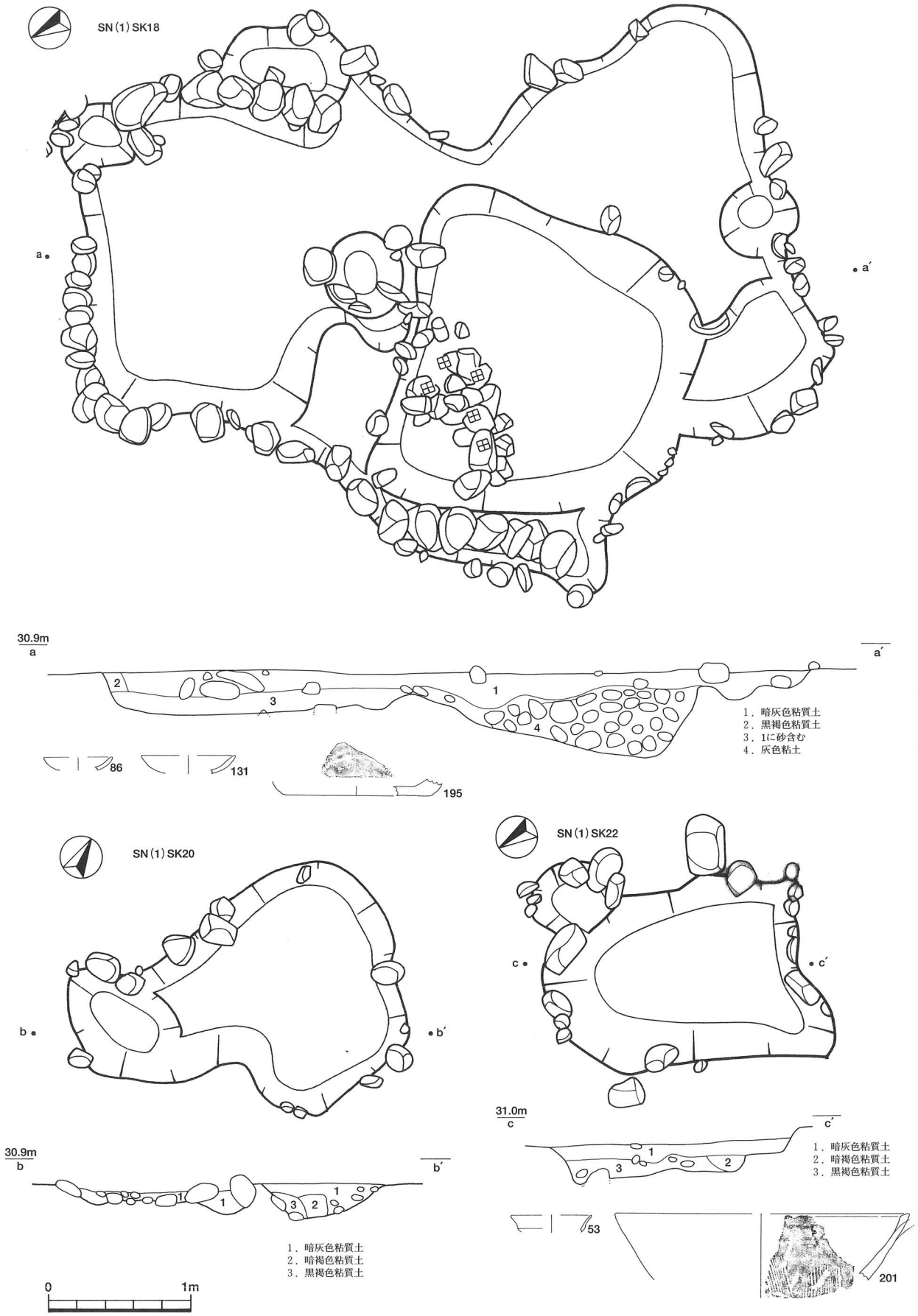
第22図　遺構実測図　竪穴状遺構SN(1)SK10・SK11（1／40）



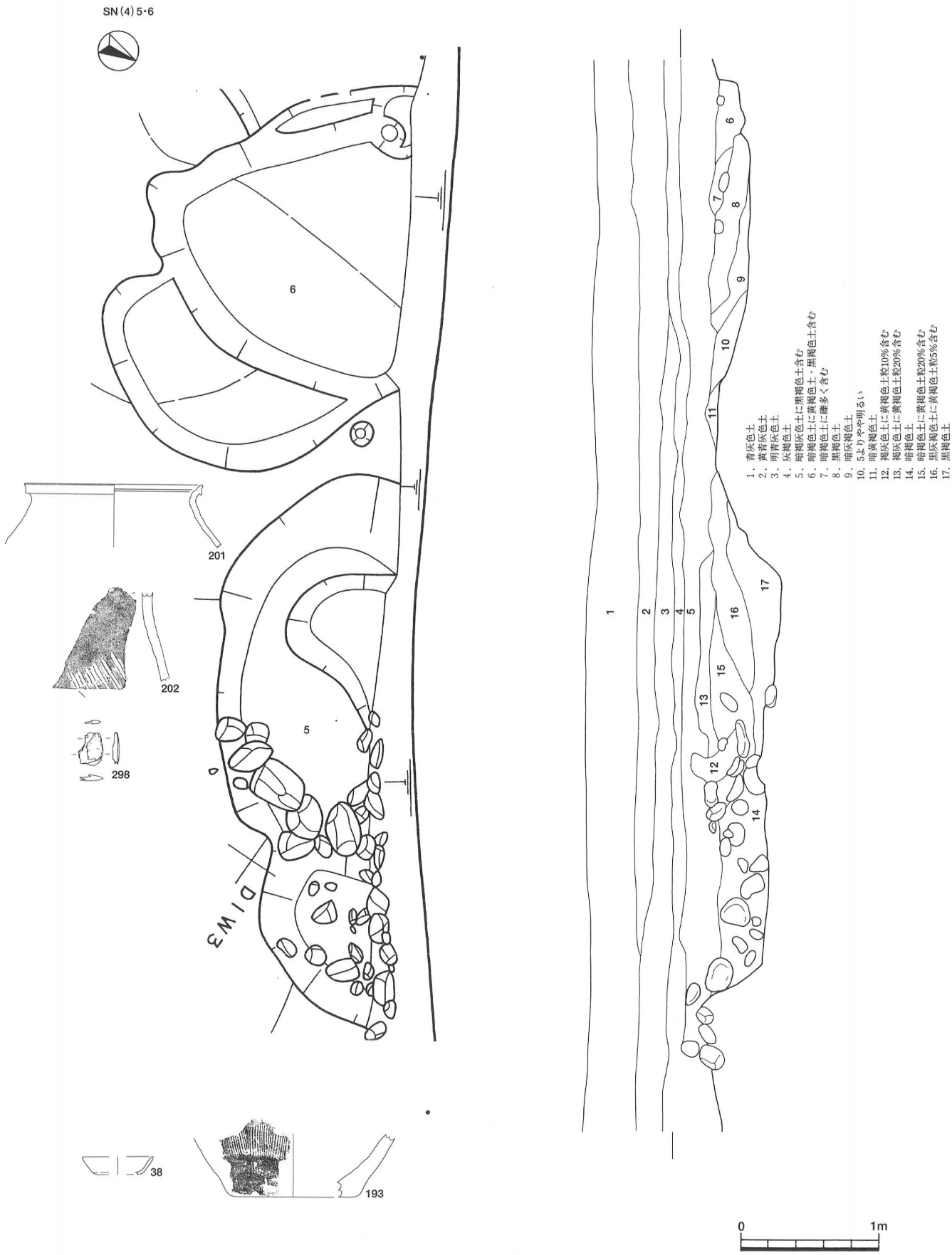
第23図　遺構実測図　竪穴状遺構SN(1)SK12・SK28(1)(1／80、1／40)



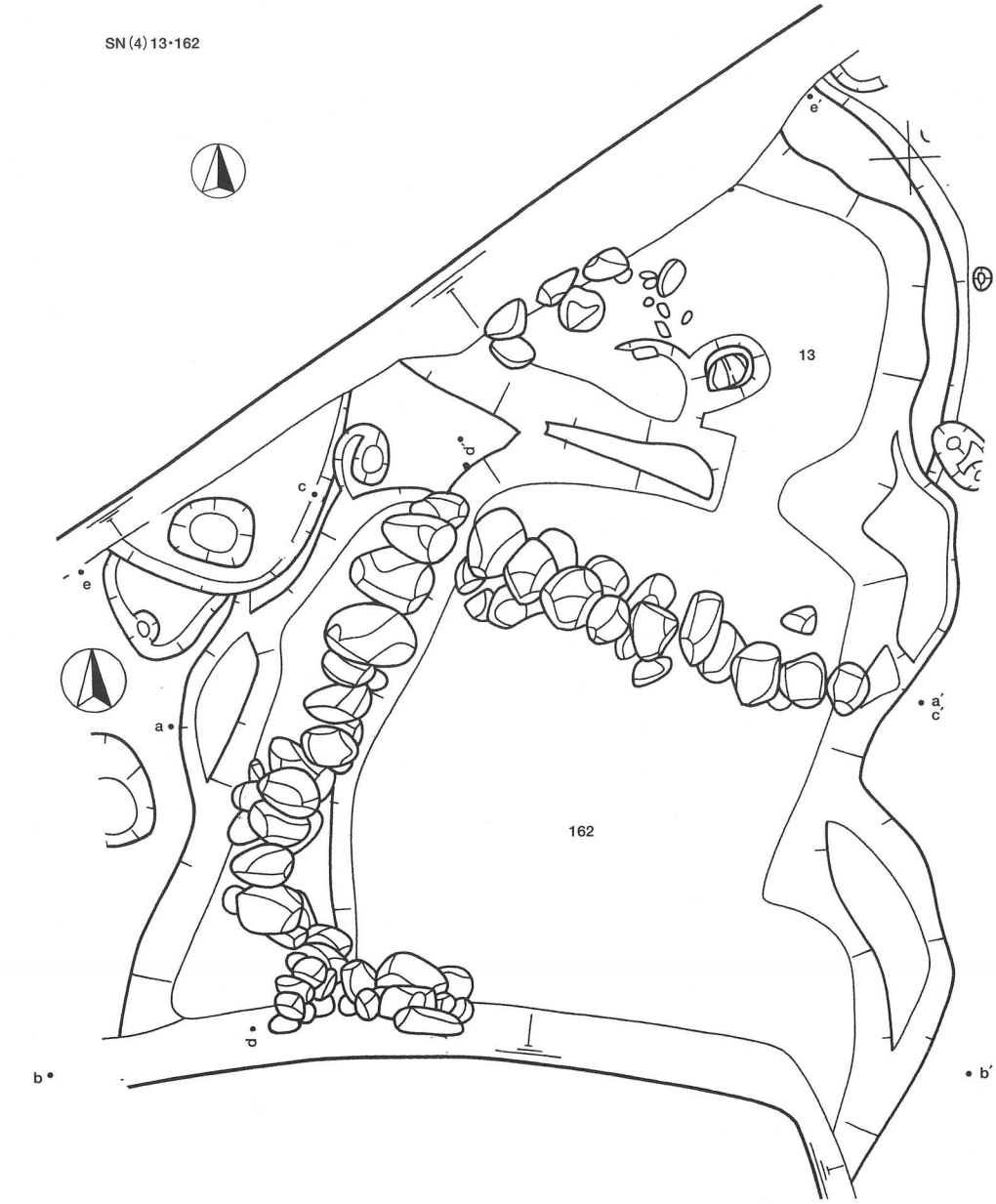
第24図　遺構実測図　竪穴状遺構SN(1)SK12・SK28(2)(1／40)

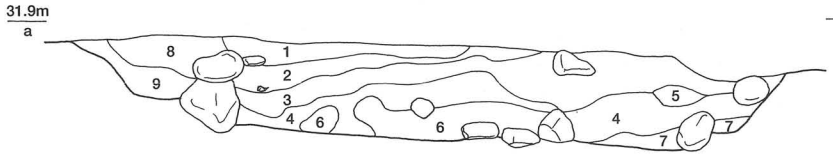


第25図　遺構実測図　竪穴状遺構SN(1)SK18　土坑SK20・SK22（1／40）

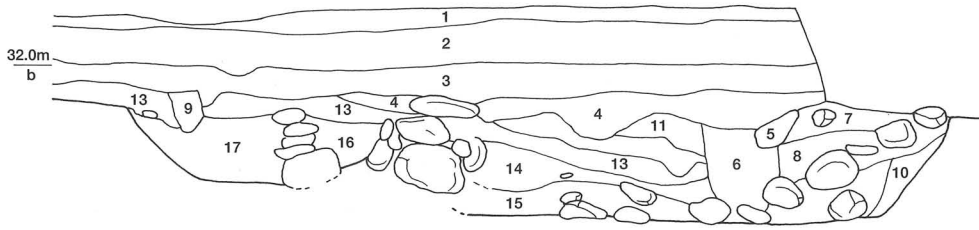


第26図　遺構実測図　竪穴状遺構SN(4)5・6（1／40）





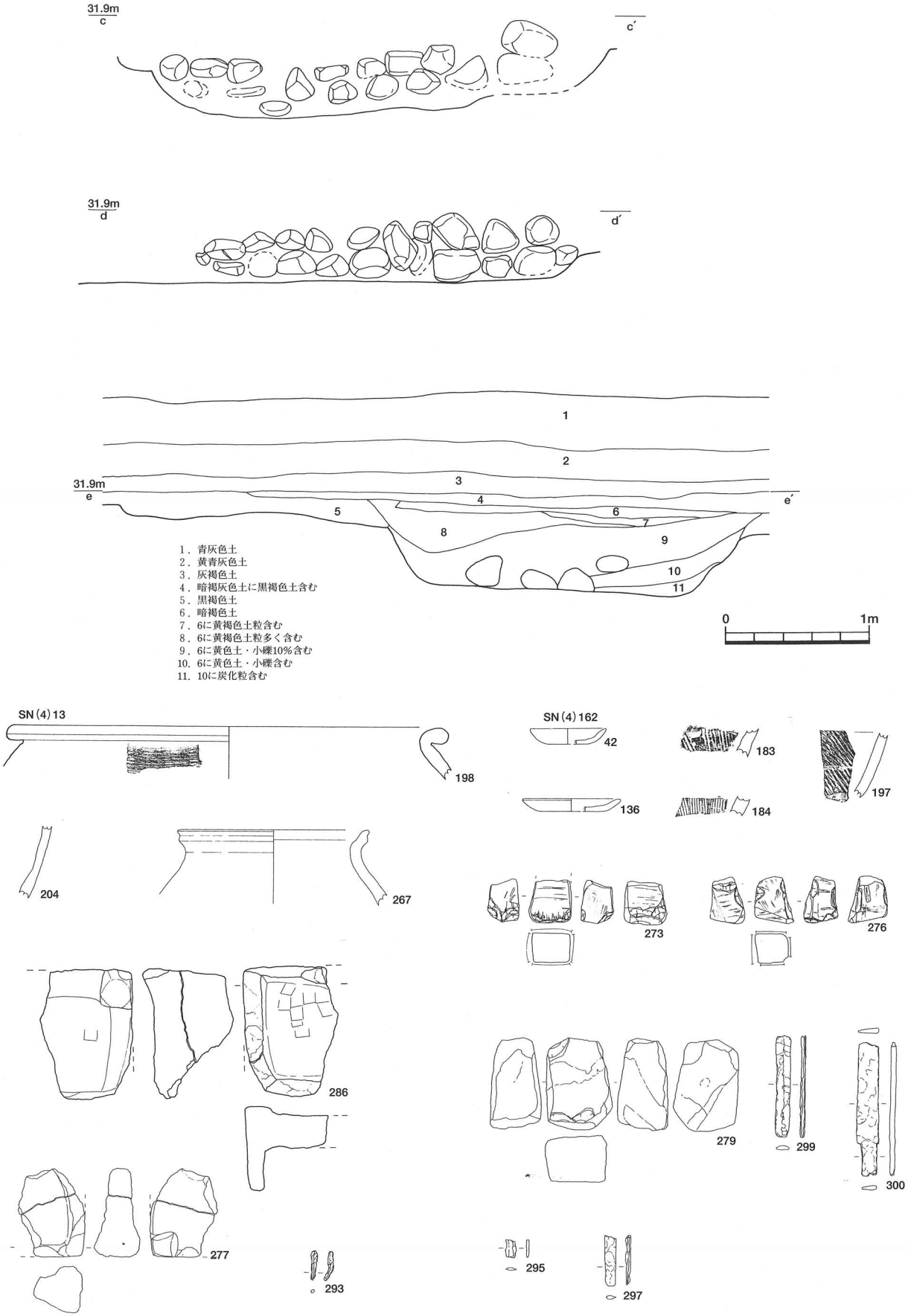
1．黄褐色土に暗褐色土粒20%含む
2．暗褐色土に黄褐色土粒20%含む
3．暗褐色土に黄褐色土粒50%含む
4．黒褐色土に黄褐色土粒10%含む
5．黒褐色土
6．暗褐色土
7．黒褐色土に黄褐色土粒20%含む
8．暗褐色土に黄褐色土粒20%含む
9．暗褐色土に黄褐色土粒30%含む



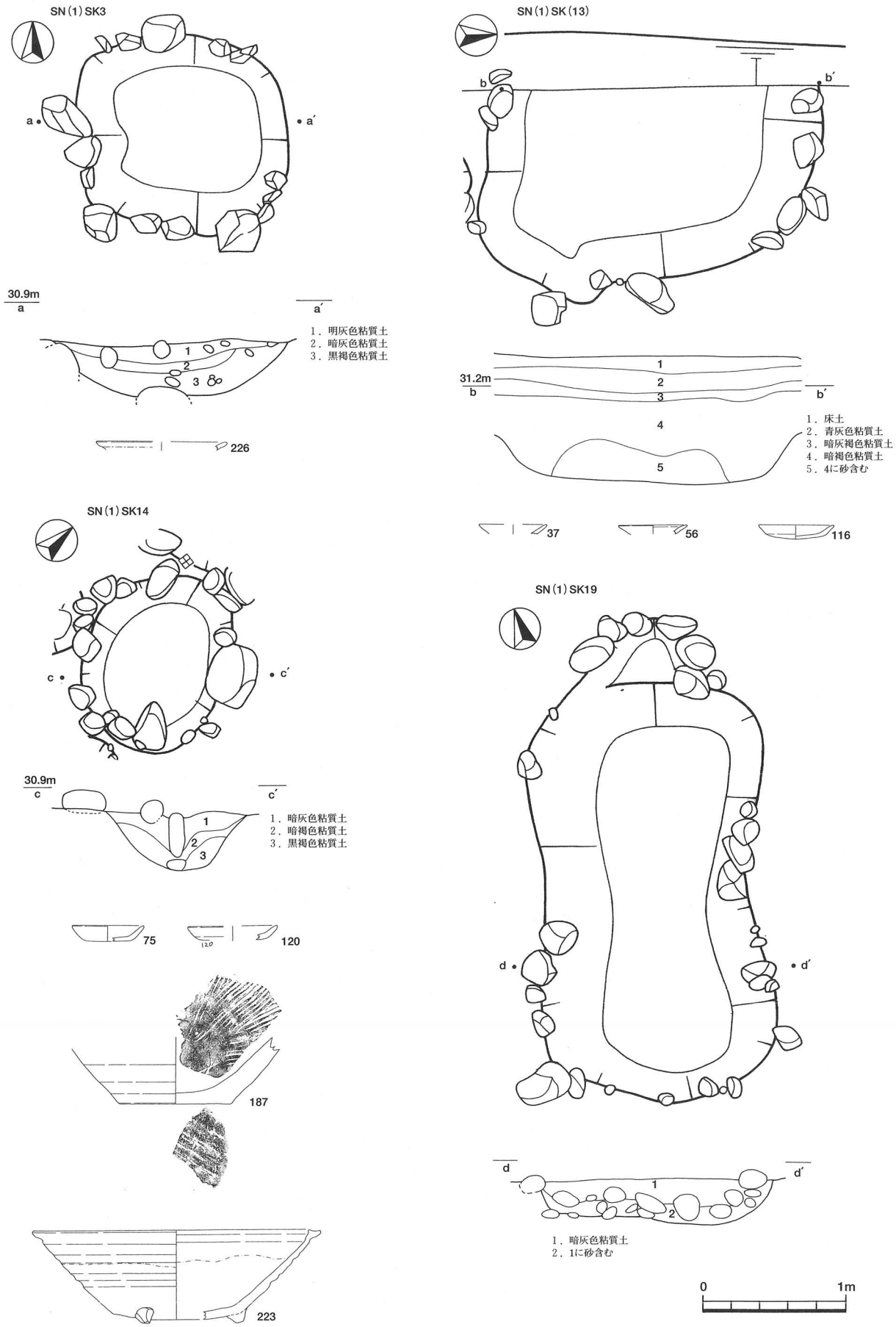
1．黄灰色土
2．灰色土
3．褐灰色土
4．褐灰色土
5．暗褐灰色土に炭化粒含む
6．5よりやや暗い
7．暗褐色土
8．暗褐色土に黄褐色土粒含む
9．暗褐灰色土に炭化粒含む
10．暗褐色土に黄褐色土粒含む
11．暗褐色土
12．黄灰色土に暗褐色土粒含む
13．黒褐色土に炭化粒含む
14．暗褐色土
15．暗褐色土
16．暗褐色土
17．褐色土に黄褐色土・暗褐色土粒含む

0　1m

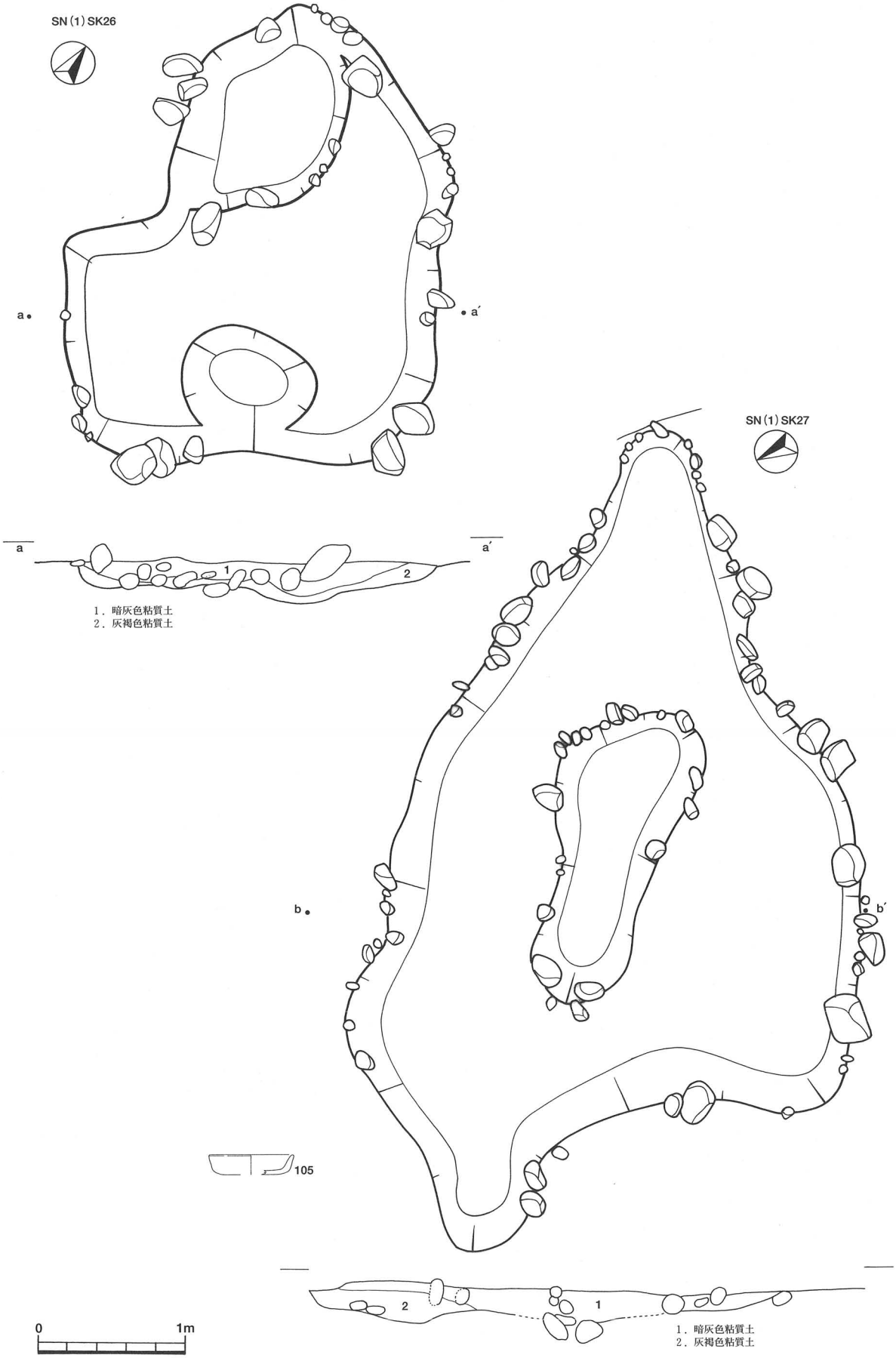
第27図　遺構実測図　竪穴状遺構SN(4)13・162(1)（1／40）



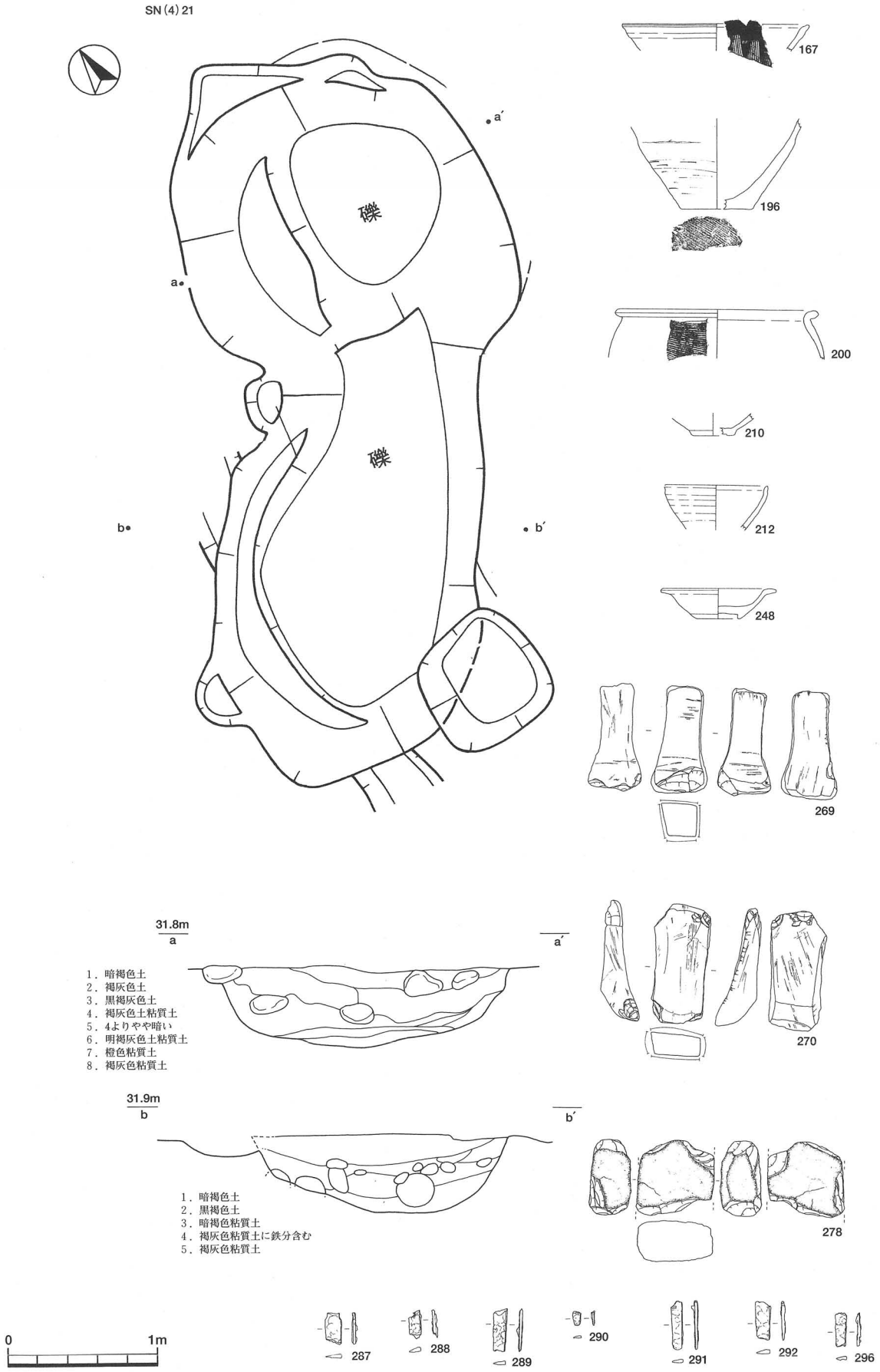
第28図　遺構実測図　竪穴状遺構SN(4)13・162(2)（1／40）



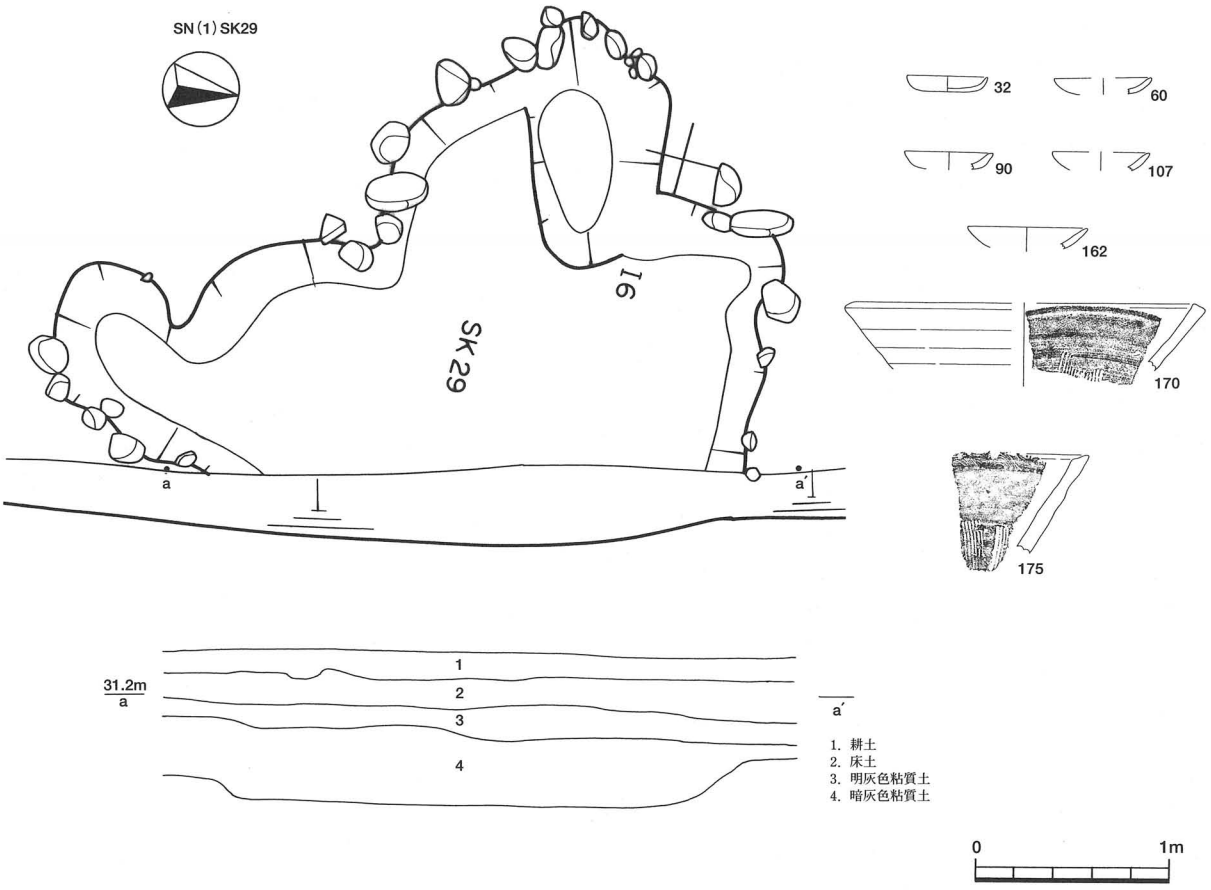
第29図　遺構実測図　土坑SN(1)SK3・SK13・SK14・SK19（1／40）

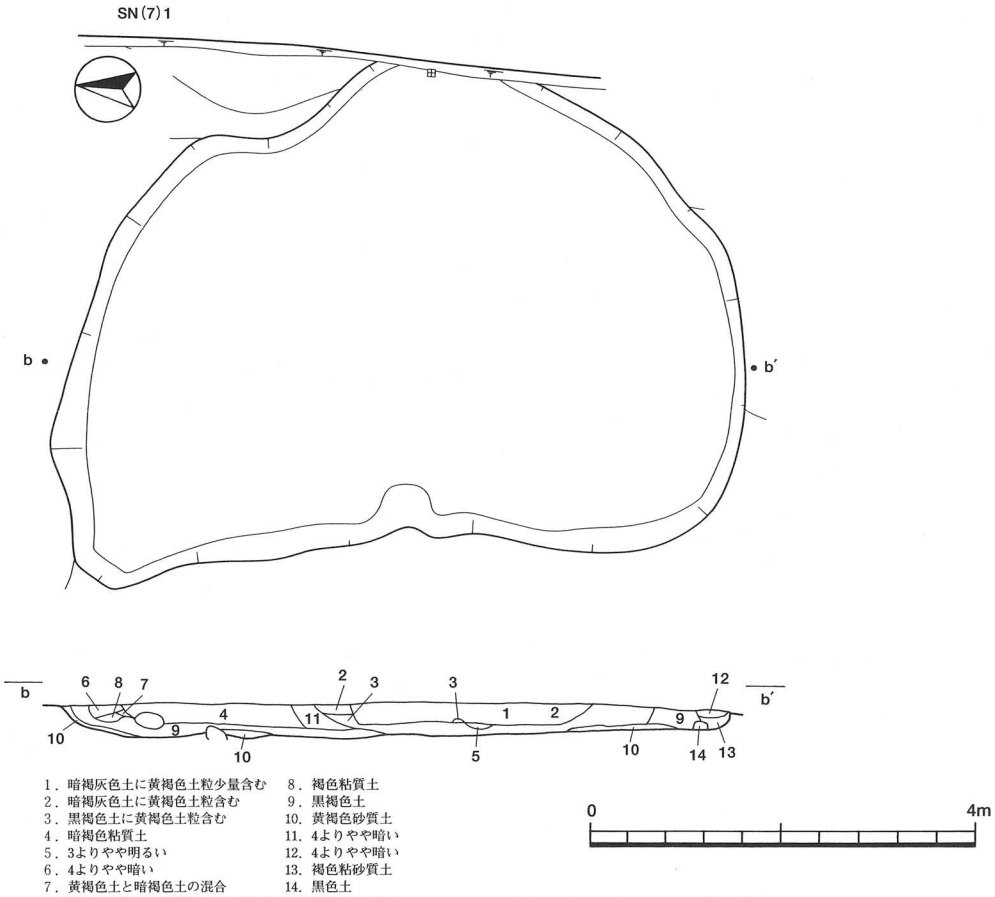


第30図　遺構実測図　土坑SN(1)SK26・SK27（1／40）

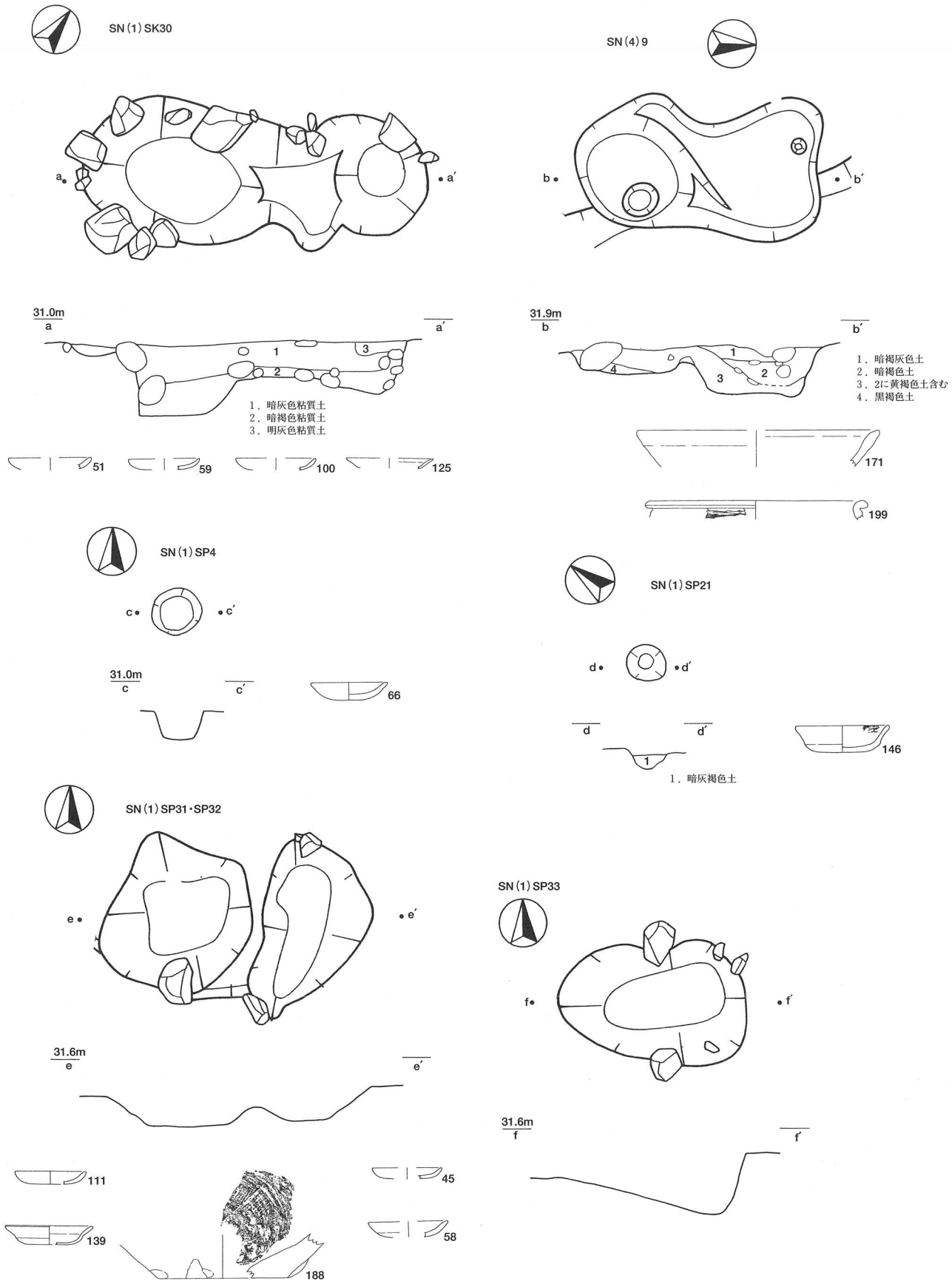


第31図　遺構実測図　土坑SN(4)21（1／40）

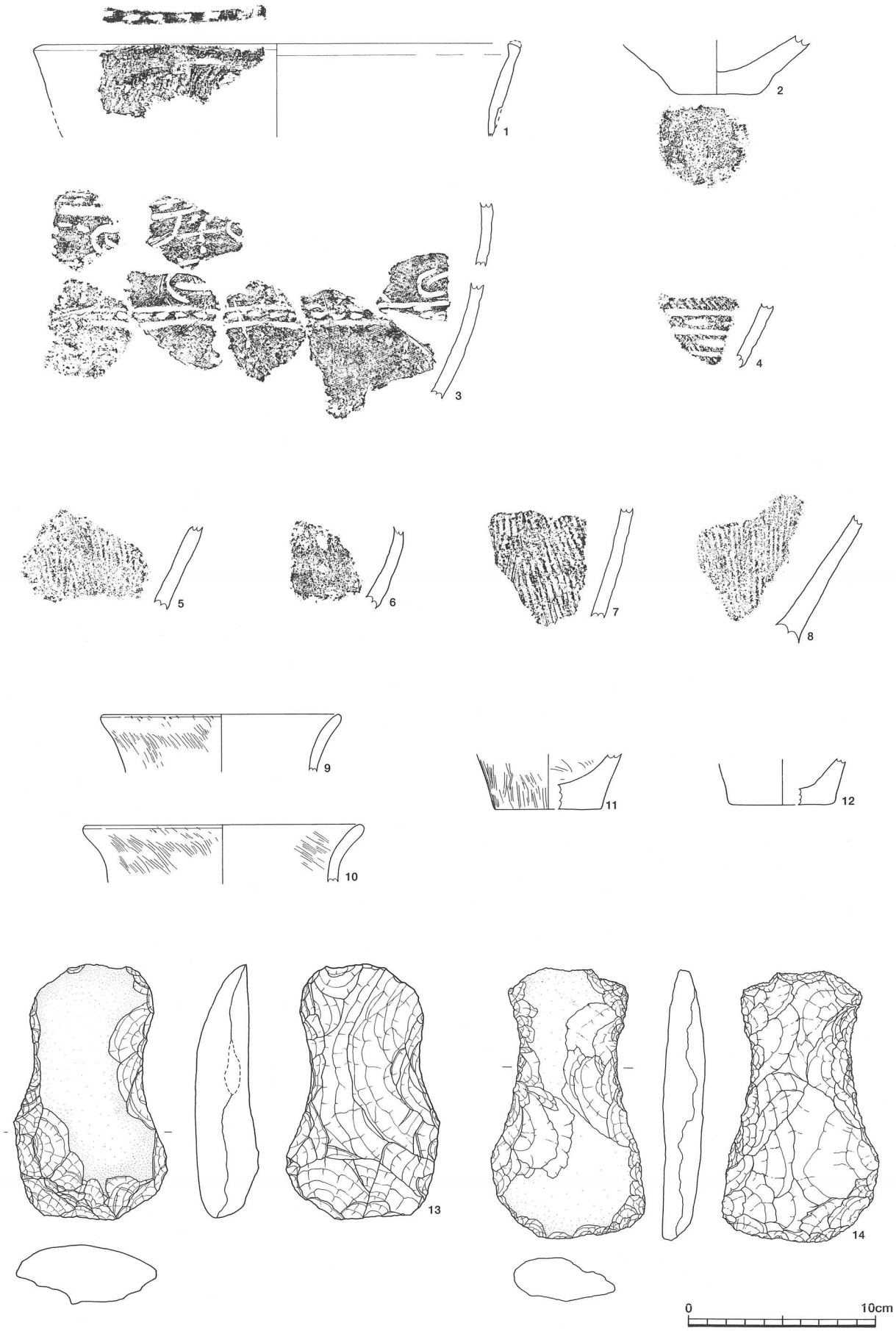




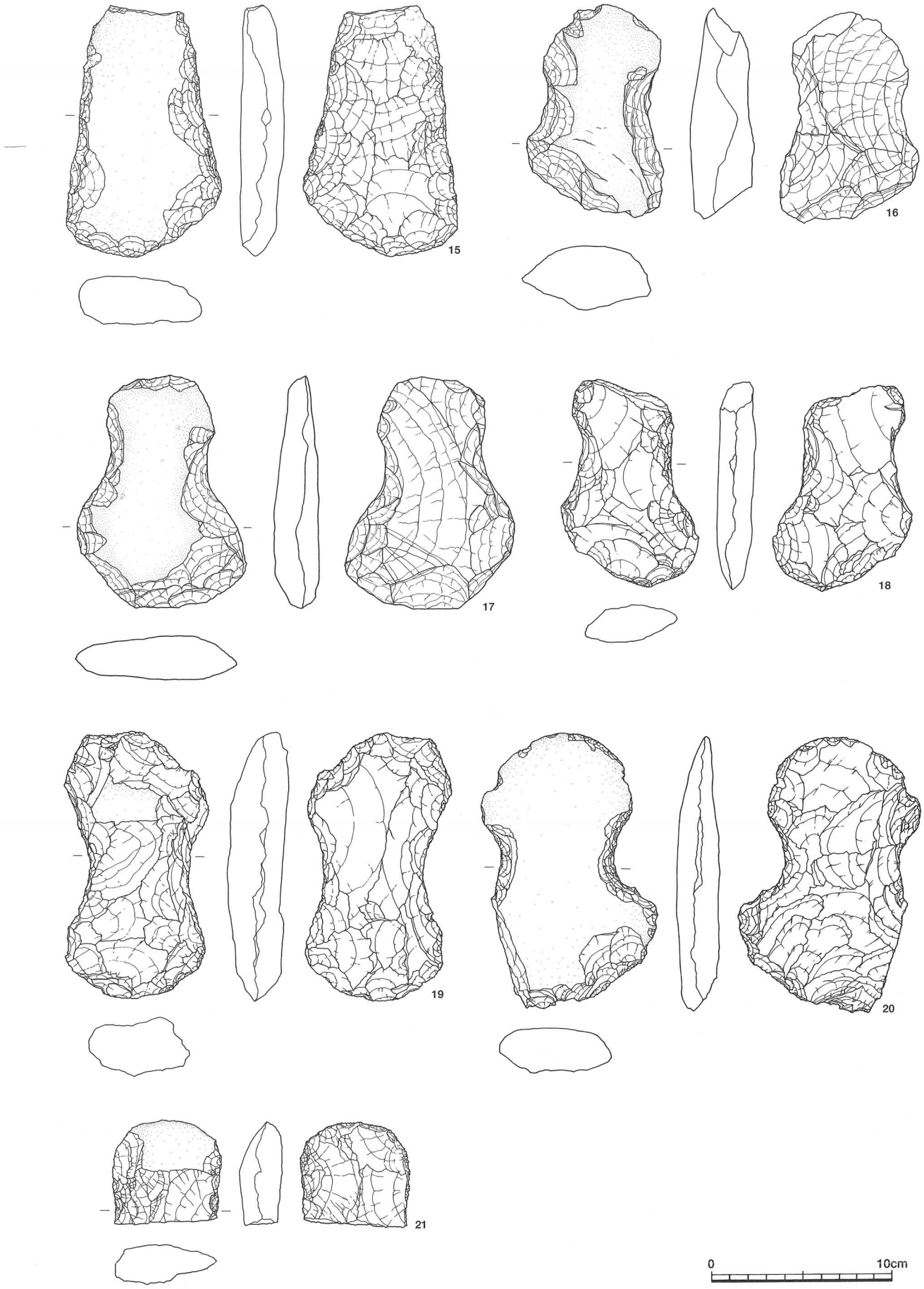
第32図　遺構実測図　土坑SN(1)SK29・SN(7)1（1／40、1／80）



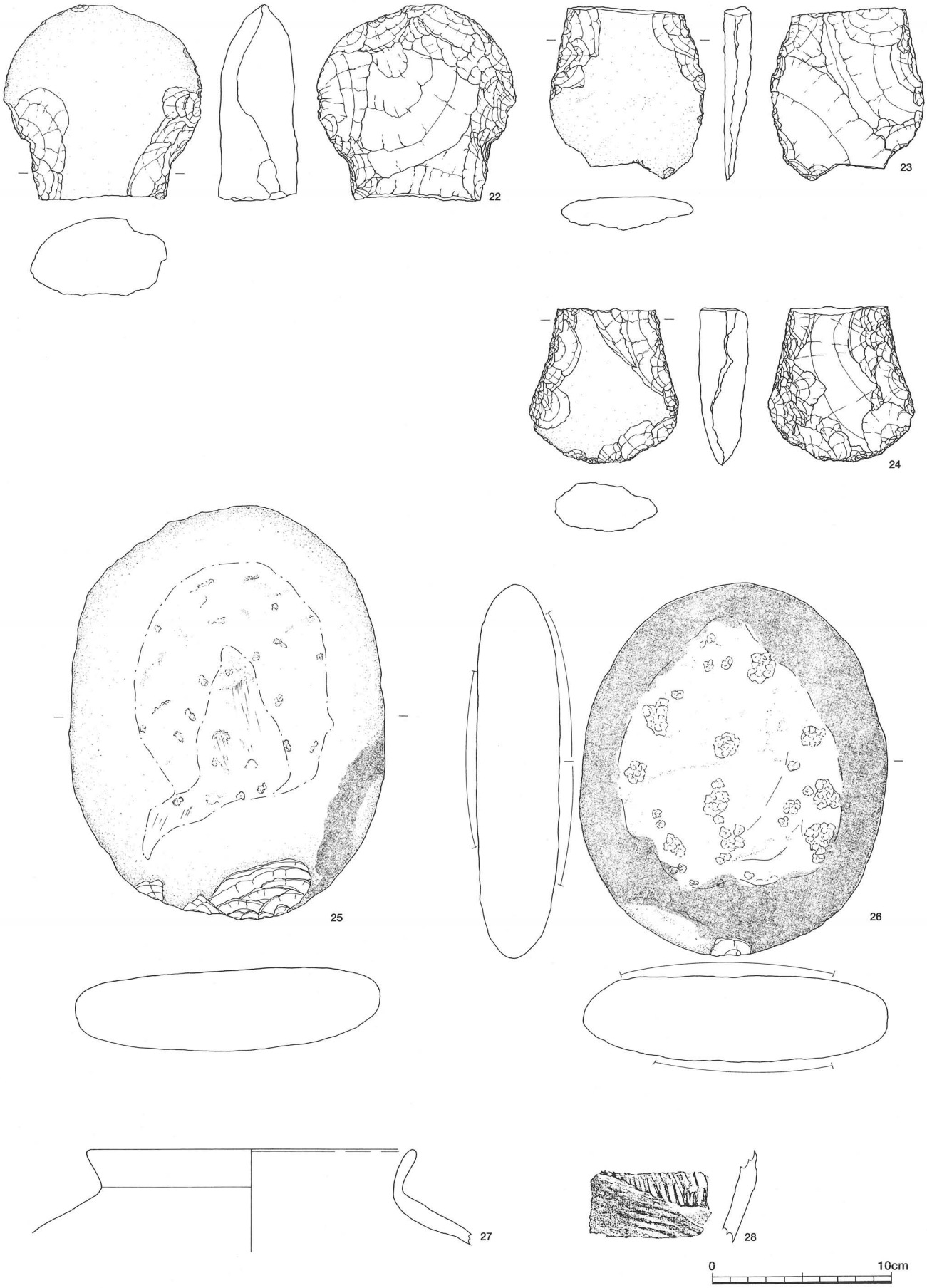
第33図　遺構実測図　土坑SN(1)SK30・SN(4)9　ピットSN(1)SP4・SP21・SP31～33（1／40）



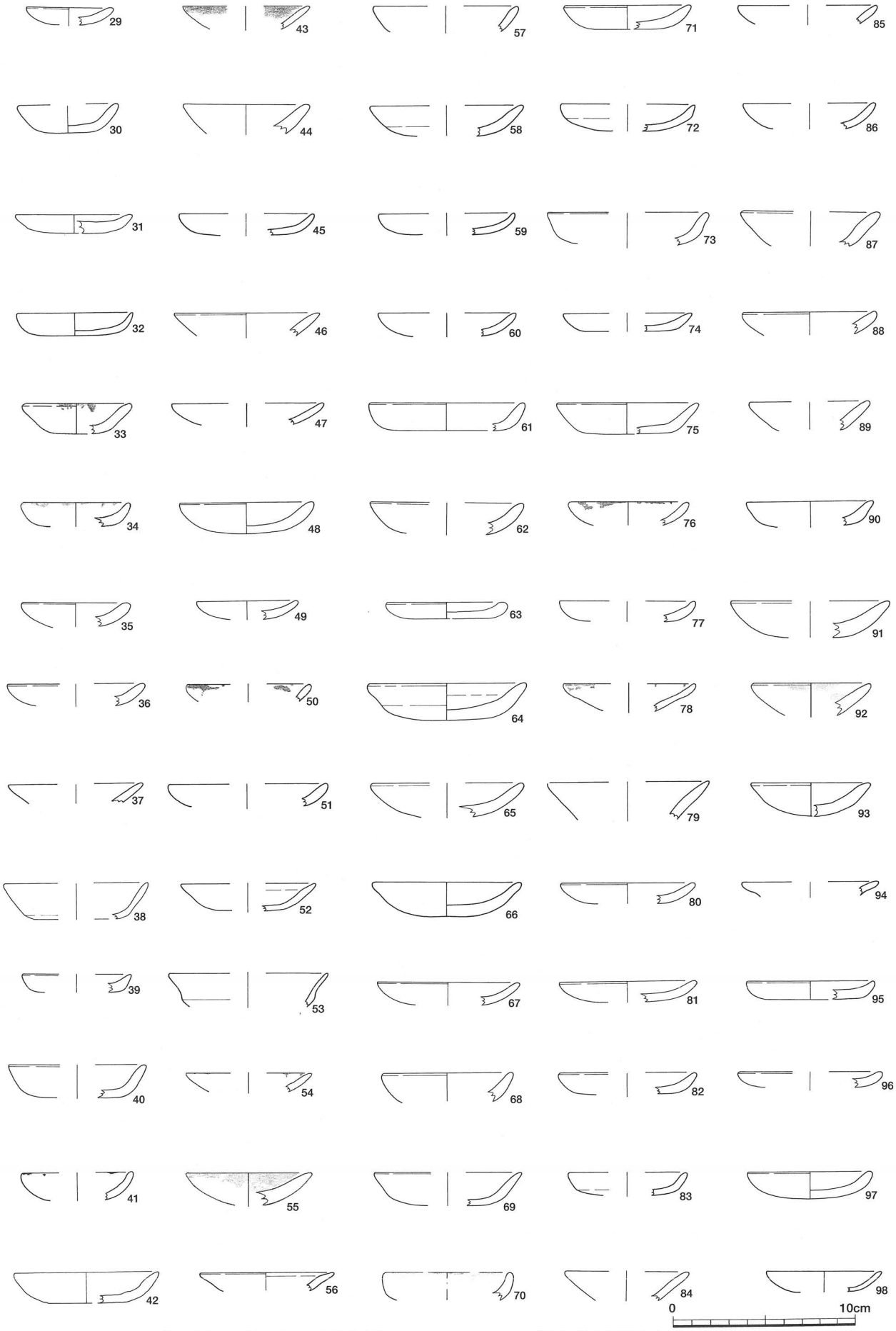
第34図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）遺物実測図（1）（1／3）



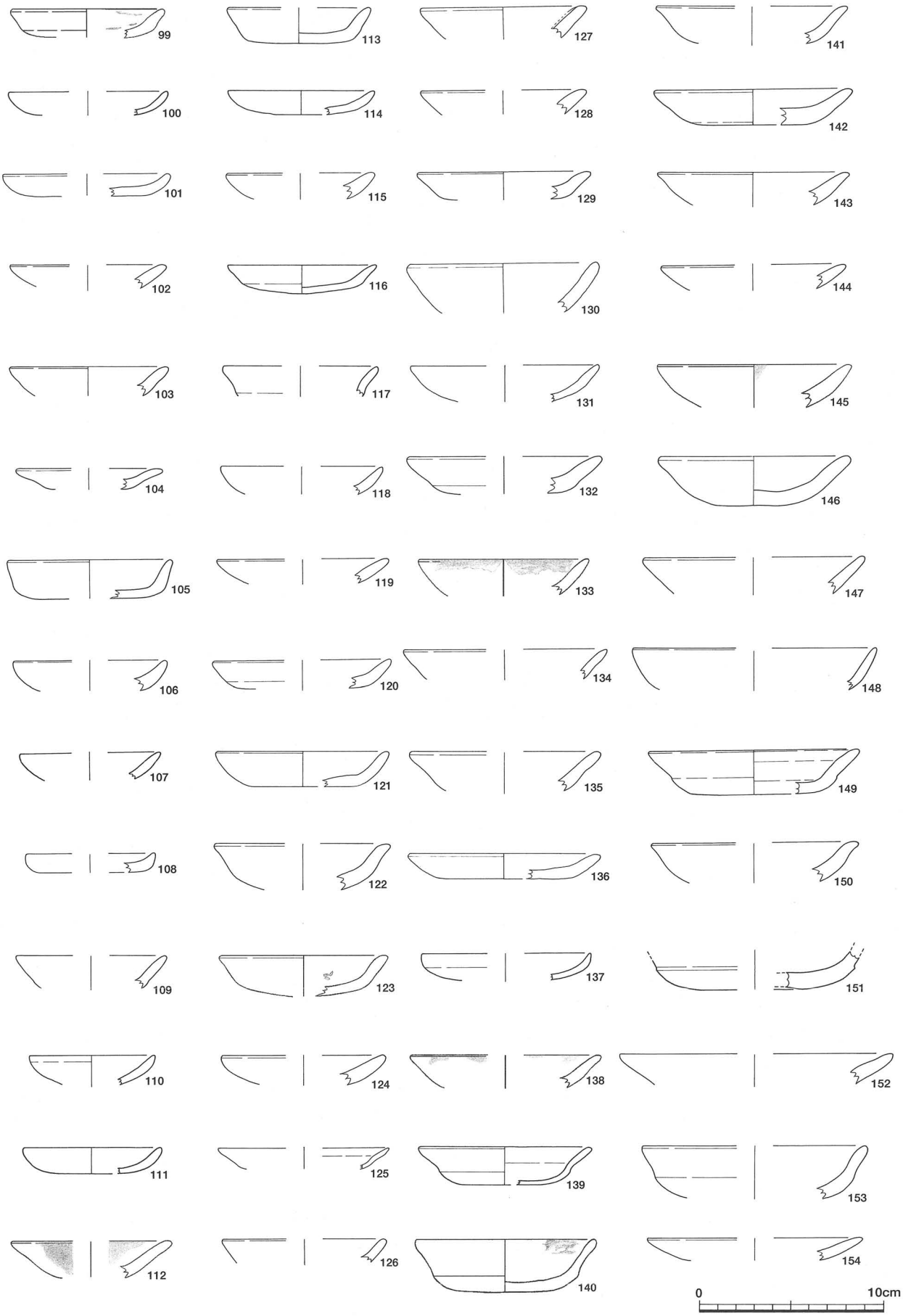
第35図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）遺物実測図（2）（1／3）



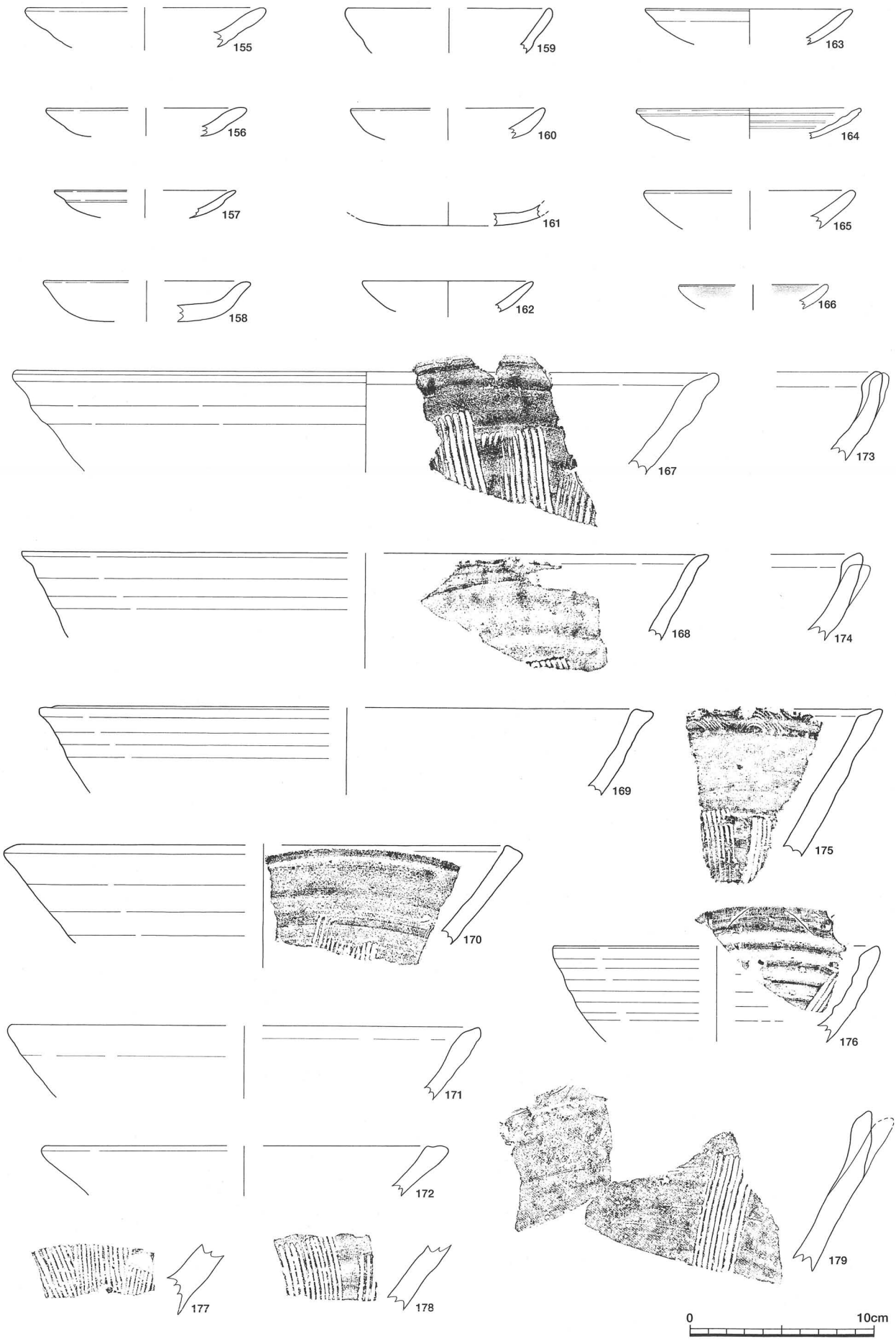
第36図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）遺物実測図（3）（1／3）



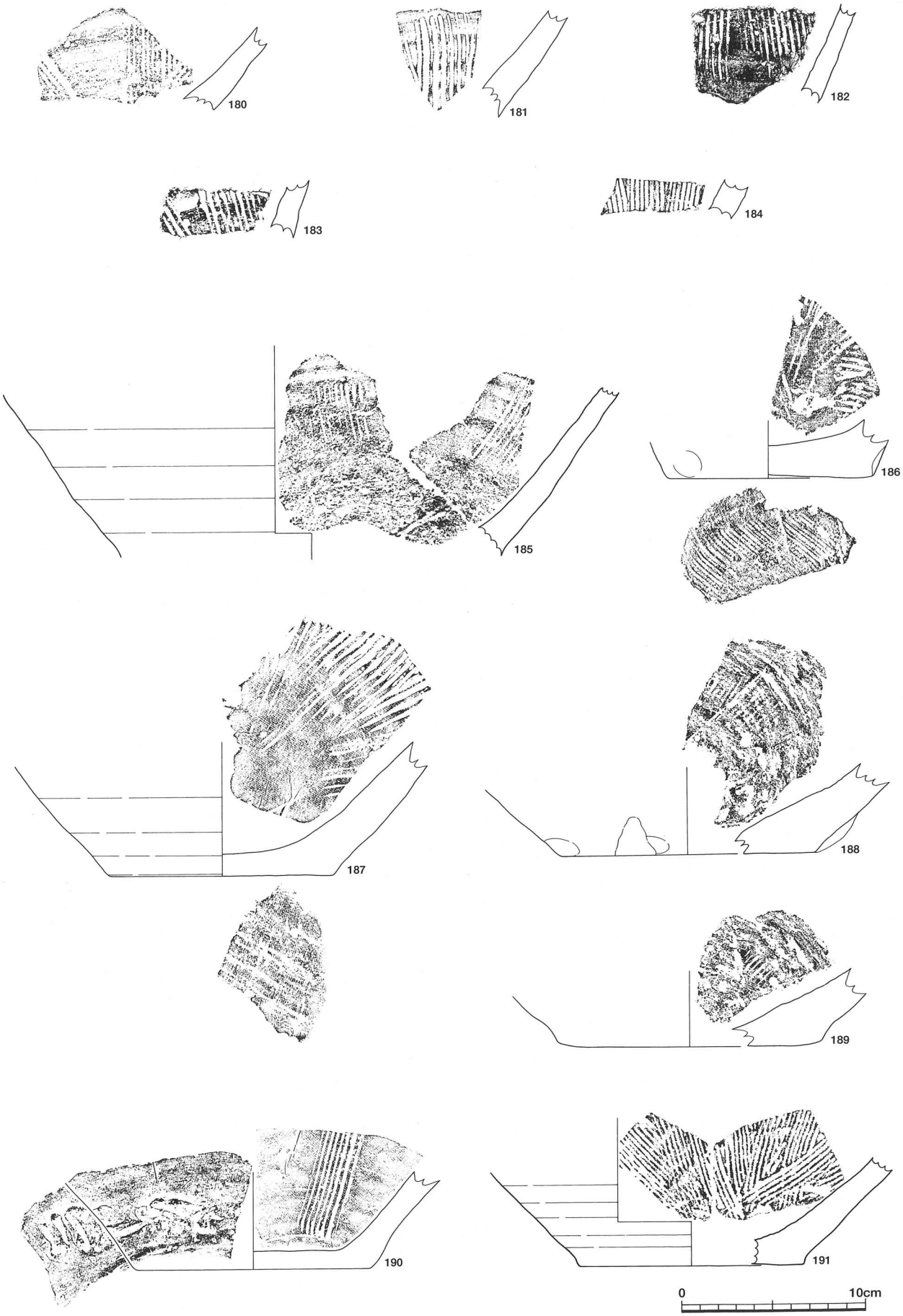
第37図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）遺物実測図（4）（1／3）



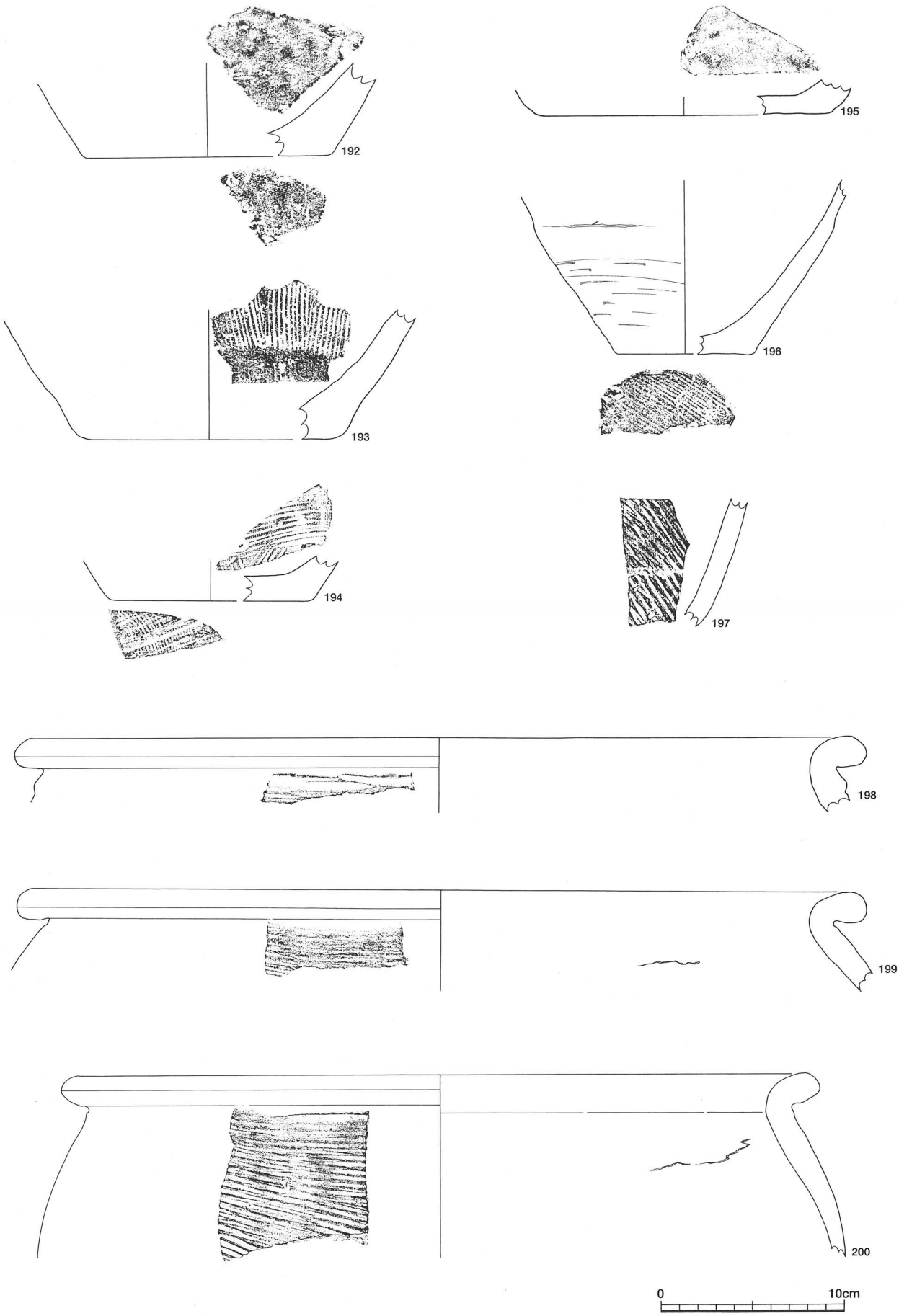
第38図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）遺物実測図(5)（1／3）



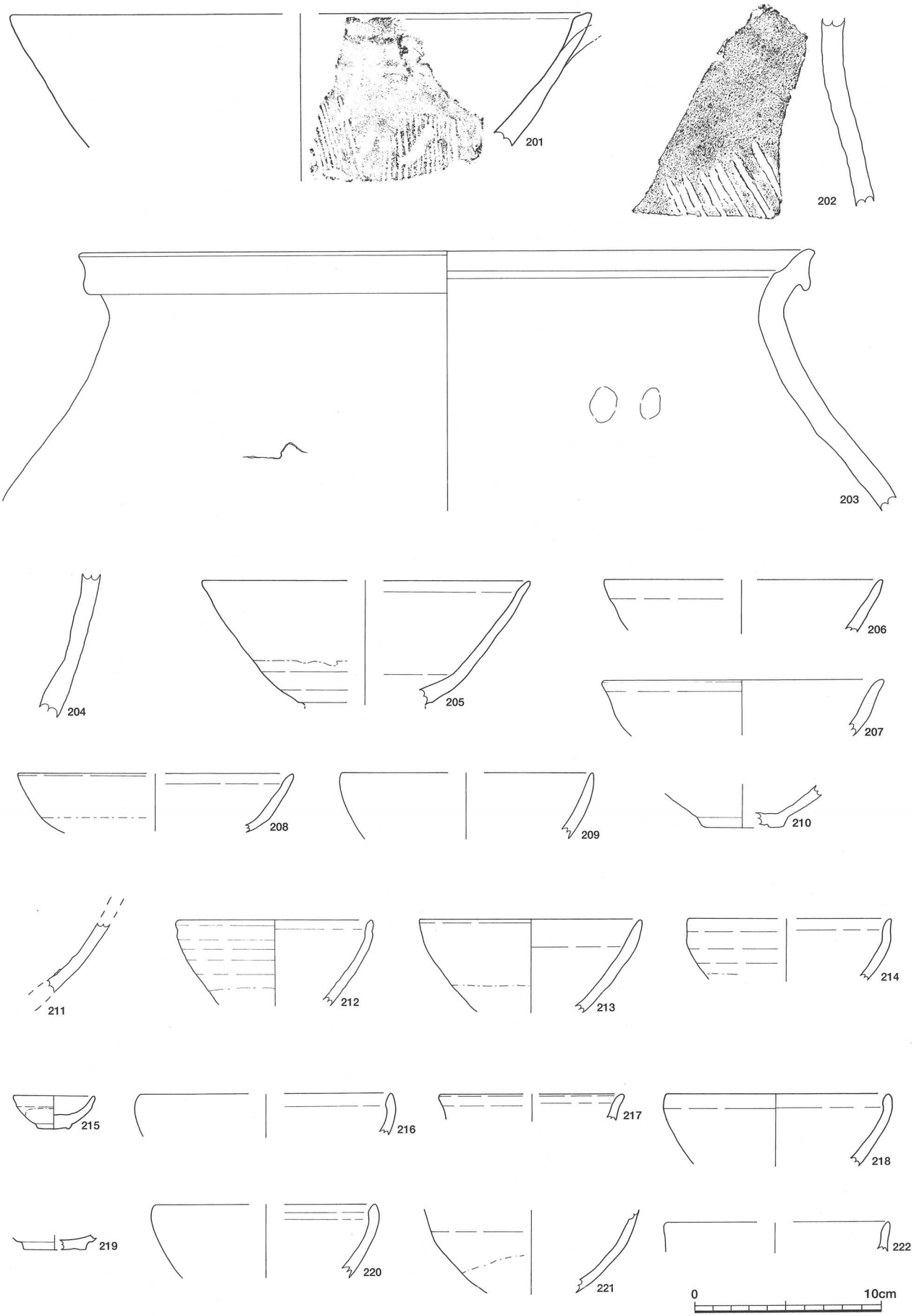
第39図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）遺物実測図（6）（1／3）



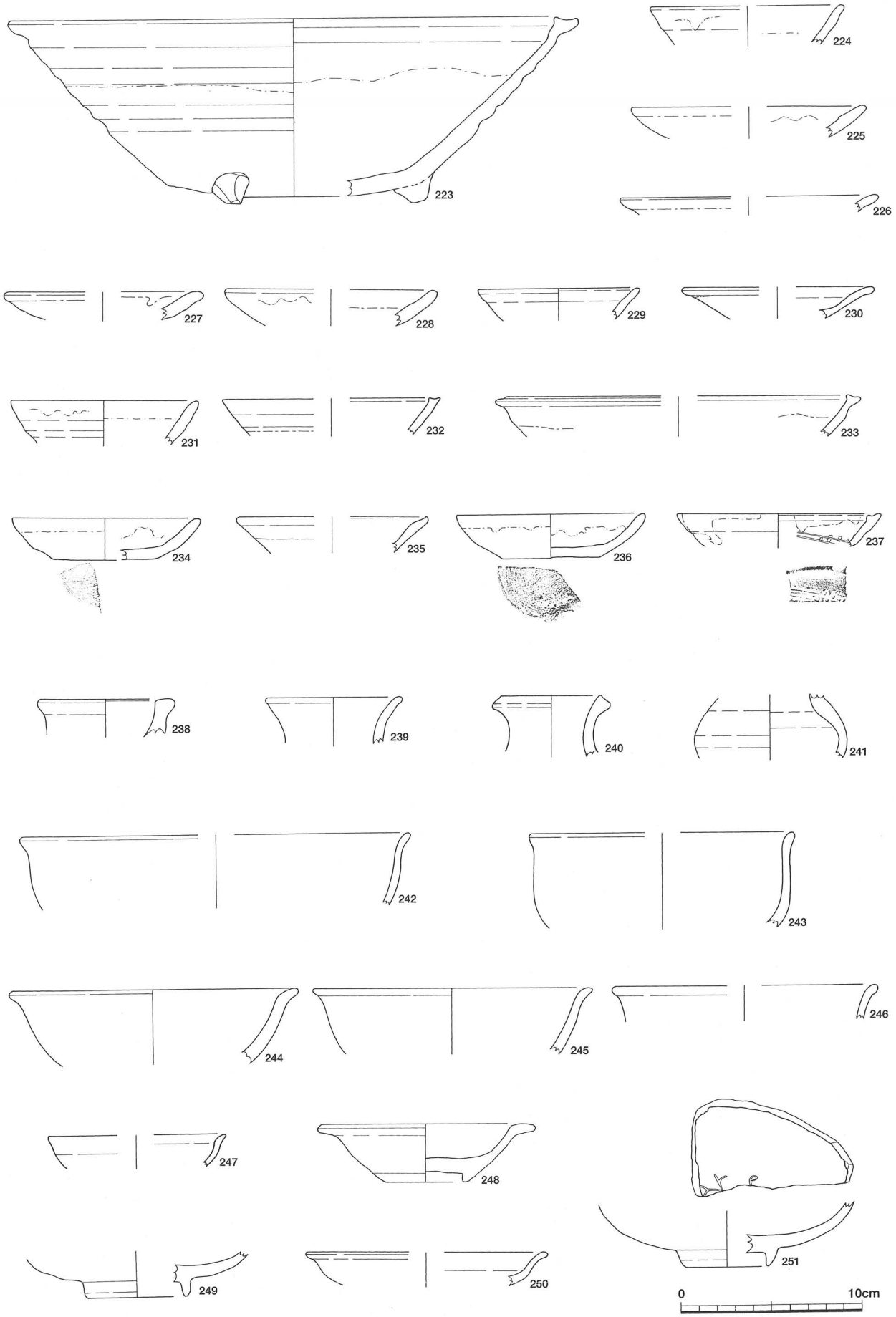
第40図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）遺物実測図（7）（1／3）



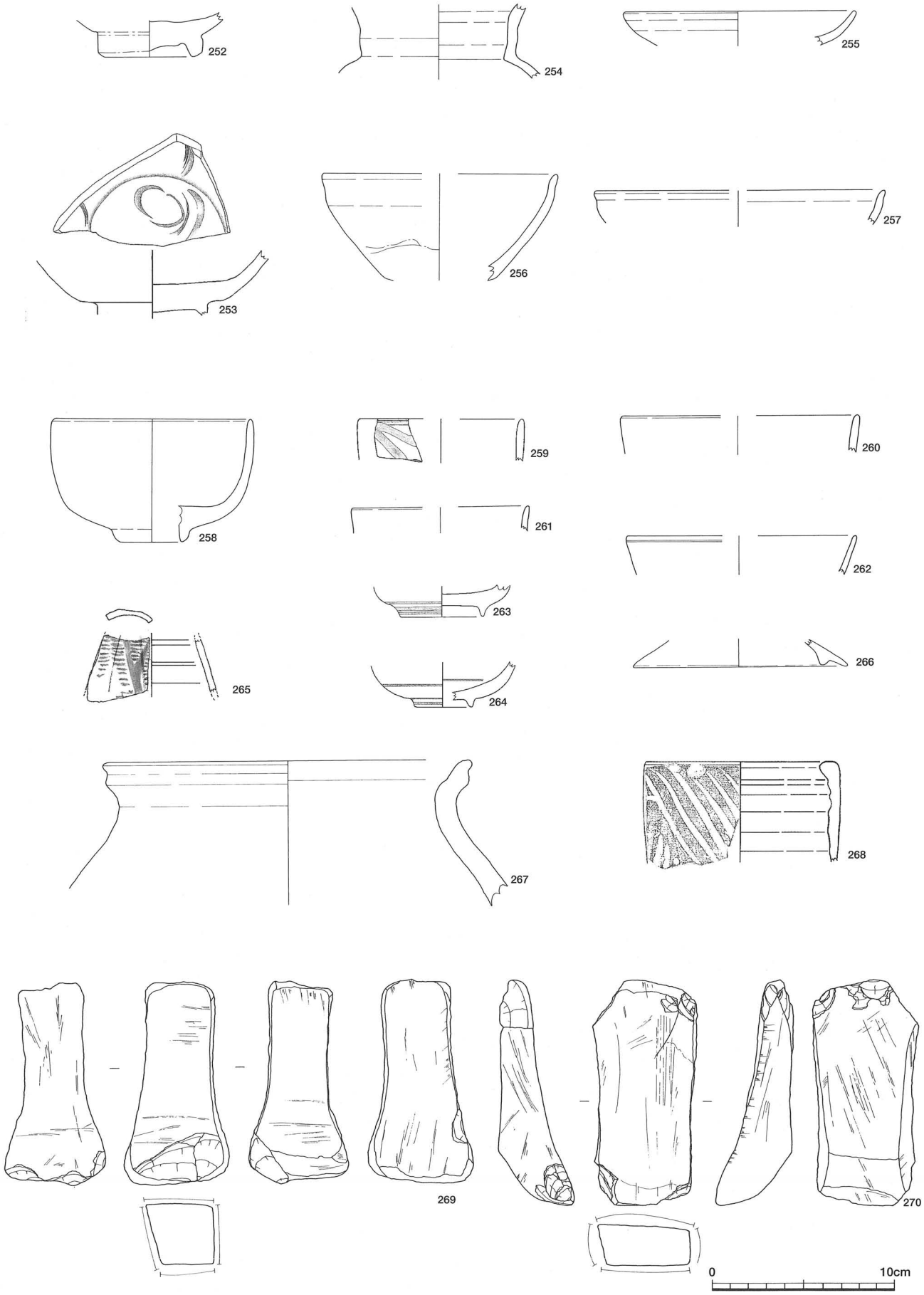
第41図　三納ニシヨサ遺跡(第１・２・４・６・７次)遺物実測図(8)（1／3）



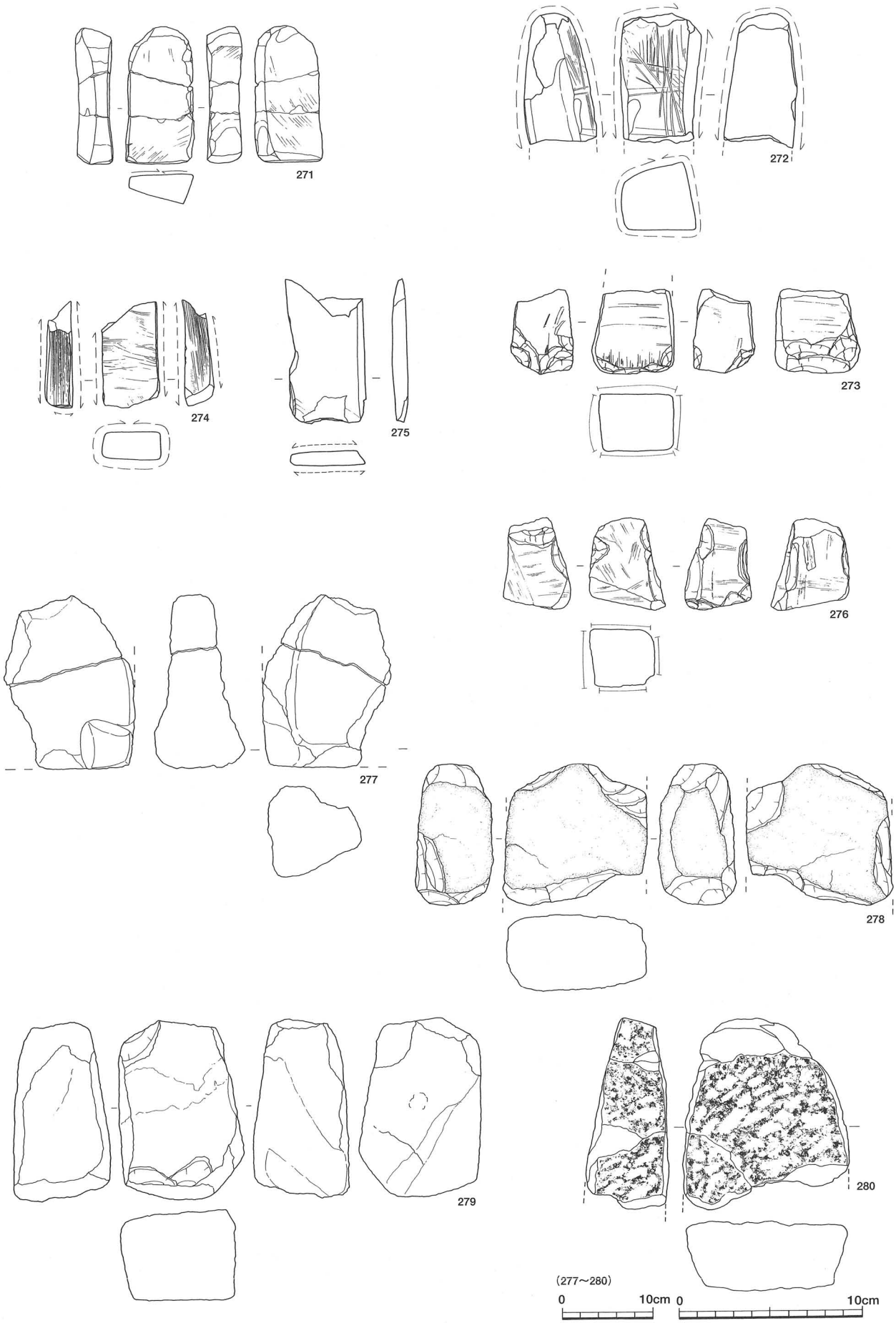
第42図　三納ニシヨサ遺跡(第１・２・４・６・７次)遺物実測図(9)（1／3）



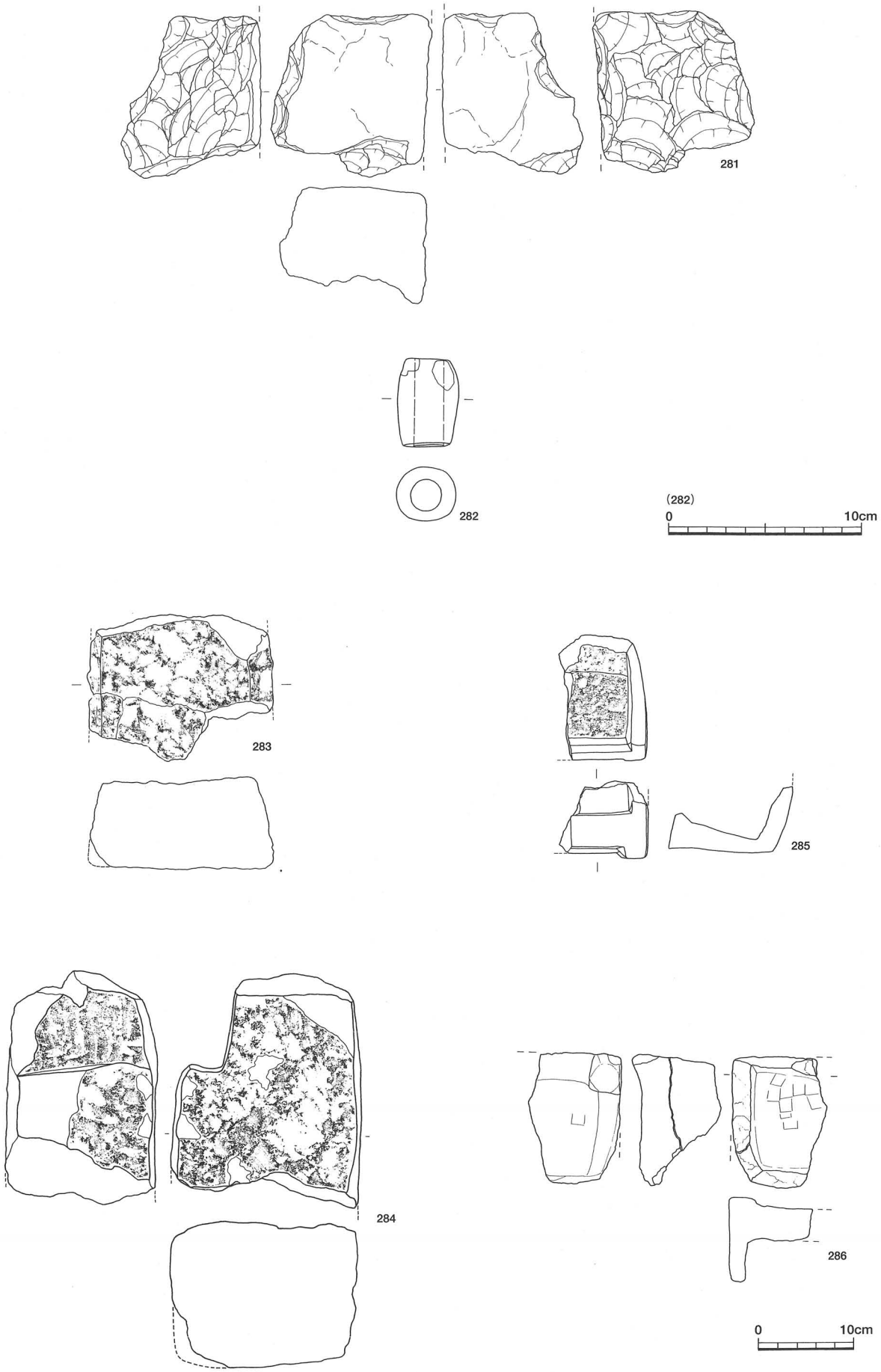
第43図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）遺物実測図（10）（1／3）



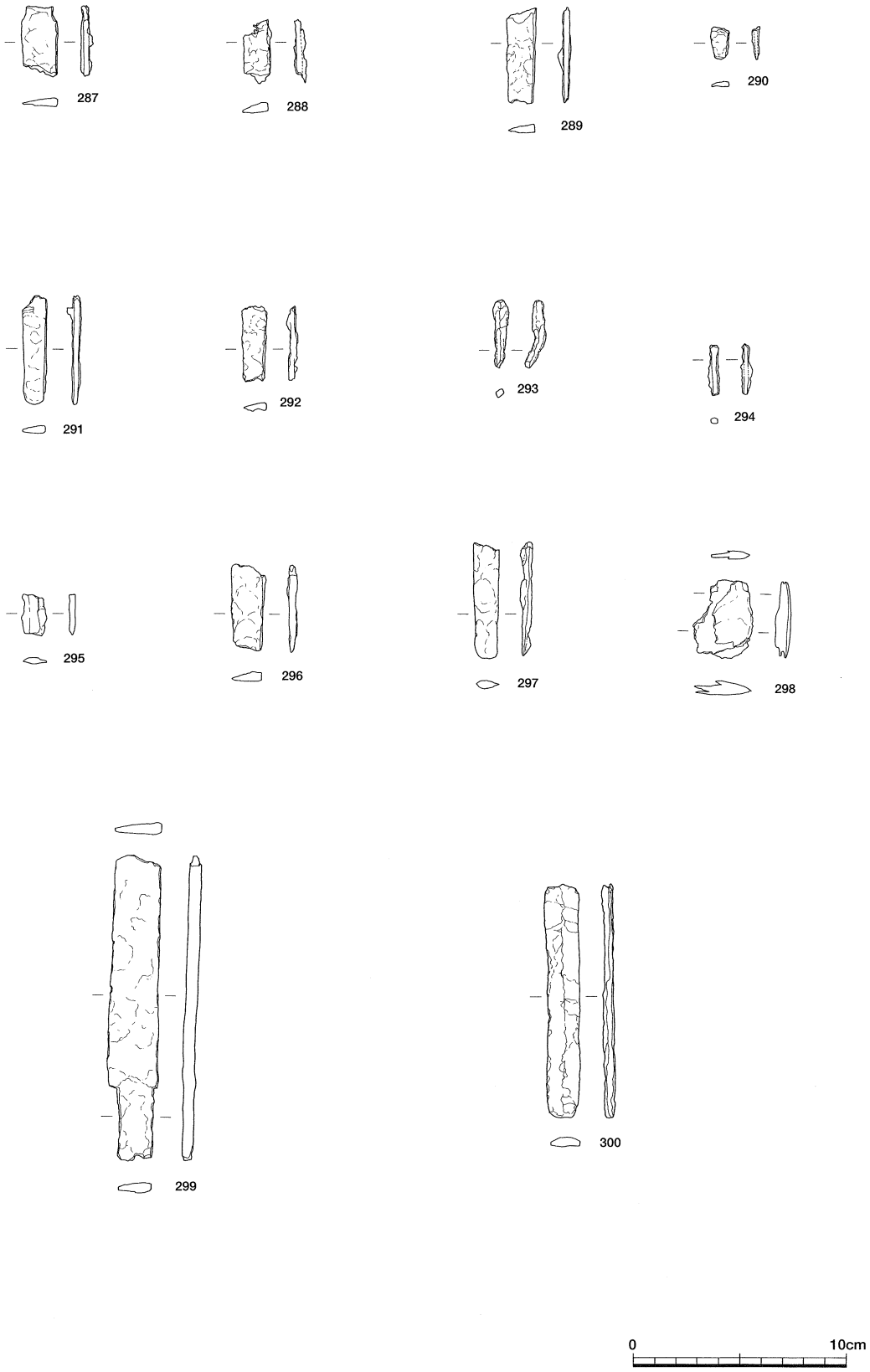
第44図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）遺物実測図（11）（1／3）



第45図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）遺物実測図（12）（1／3、1／6）



第46図　三納ニシヨサ遺跡（第１・２・４・６・７次）遺物実測図（13）（1／3、1／6）



第47図　三納ニシヨサ遺跡(第１・２・４・６・７次)遺物実測図(14)（1／3）

第４章　　三納アラミヤ遺跡（第３次調査）

第１節 調査と報告の方法

三納アラミヤ遺跡は野々市町中南部土地区画整理事業に先立って、平成10年10月22日～11月6日にかけて実施された分布調査によって発見された遺跡である。

分布調査は事業区域内に平面１×１ｍの試掘坑を225箇所設定し、地山面が確認される深度まで掘削、平面および土層断面の観察を行った。その結果通称“アラミヤ”と呼ばれる農地一帯から遺構や古代遺物が検出されたため、約11,500㎡を新規の埋蔵文化財包蔵地と確認し、三納アラミヤ遺跡と命名された。

区画整理事業に伴う発掘調査は平成13年度から平成16年度までに3次にわたって実施された。本書では平成15年度に実施した第3次調査について報告を行う。なお、第1・2時調査については平成17年度刊行の「粟田遺跡(第10次)・三納アラミヤ遺跡（第1・2次）・三納トヘイダゴシ遺跡(第1・3次)」において報告している。

発掘調査では、各年次調査区に公共座標に基づく10×10ｍのグリッドを設定し、北西隅の杭番号でその区画を呼称した。遺構の掘削は、基本的に遺構を半裁して断面の観察を行って土色や堆積状況を観察し、必要に応じて写真や図面による記録保存を行った。

遺構の報告にあたっては、便宜上各調査区をA～C区に分かち（第48図）グリッド番号と共に記載した。個々の遺構の名称は各遺構番号の前に三納アラミヤ遺跡第3次調査を示すSA(3)を付し、時代・種類・グリッドに関係なく１から通しで調査番号を付けている。遺物の総数は、パンケースで19箱である。

遺構・遺物の説明及び遺物図版・観察表・出土遺物の機種形式については第3章第1節を参照されたい。

第２節 基本層序（第54図）

三納アラミヤ遺跡の土層は、上層から耕土・床土・旧耕上・旧床土・灰色粘質土・暗褐色粘質土・濁灰色～暗灰色粘質土の順で堆積している。灰色粘質土は近世、暗褐色粘質・濁灰色粘質土は古代の覆土である。古代の覆土と地山との間に一部淡い暗灰色土が堆積するが古墳時代以前の覆土である。

第３節 遺構

(1)縄文時代の遺構(第55図)

a)河川

SA(3)河川(第61・62図、図版20～22)

B区中央とC区東端をほぼ南北に流れる河川である。三納アラミヤ遺跡第１・2次調査で調査したSA(131)・SA(2)1の続きであり、古墳時代以前と古代の2時期がある。今次調査での延長は約50m、幅2～3.6m、深さはもっとも深いところで1.6mを測るが、最下層まで出土遺物のほとんどが古代のもので、この時期の河川はより浅いものと考えられる。B区から縄文土器(3)・C区東端の下層北壁際より打製石斧(4)が出土した。

(2)古代の遺構(第56図)

a)掘立柱建物

掘立柱建物：SA(3)①(第57図、図版18・19)

C区P31グリッドに位置する東西2間×南北1間以上で、北側が調査区外に伸びているため全体の規模は分からない。軸はN－7°－Eである。東西の長さは4.1m、柱間距離は1.8～2.3mとややばらつきがあるが、南北の柱間距離は1.8mである。柱穴は円形ないし楕円形で径40～70cm、深さは10～30cm、覆土は暗灰色土を主とする。遺物の出土はなかったが、覆土の土色から古代の遺構と考えられる。

b)竪穴建物

1号竪穴建物：SA(3)306(第58～60図、図版18・19)

C区S32グリッドに位置する。南東を2号竪穴建物SA(3)307に切られている。平面形は南北4.2m、東西4mでほぼ正方形で床面積は約14㎡である。壁高は約35cmで、覆土は褐色土を主とする。竪穴軸はN－9°－Eである。竪穴に伴う柱穴は確認できなかった。遺構内のほぼ全面に3種類の貼床が確認された。貼床1は灰色土・黒色土・地山質の黄色土からなり硬化面は硬く踏み締まっている。中央西側に分布する。貼床2は灰色土を主とし硬化面の硬さは貼床1に次ぐ。貼床1の南側に分布する。貼床3は灰色土と黄色土からなり弱い硬化面が遺構内のほぼ全域に広がる。カマドは確認できなかったが、SA(3)307のカマドが建物の南東隅から検出されていることから、本竪穴建物のカマドも本来南東隅にあって、後にSA(3)307が建てられた際に破壊された可能性がある。田嶋編年Ⅳ期を主体とした土師器・須恵器を出土しており、そのうち須恵器壺(106)、甕(126・131・132・137)、土師器釜(151・155・156・165)を図示した。

2号竪穴建物：SA(3)307(第58～60図、図版18・19)

C区532グリッドに位置する。1号竪穴建物SA(3)306の南東に所在し、SA(3)306を切っている。平面形は南北3.3m、東西2.9mの方形で床面積は約6.5㎡である。壁高は約50cmでしっかりと立ち上がる。竪穴軸はN－12°－Eである。覆土は褐色土を主とする。竪穴に伴う柱穴は確認できなかった。SA(3)306同様3種類の貼床が確認された。硬化面の硬い貼床1は南側で、灰色土を主とする貼床2はその西側に、貼床3は残りの部分全体にそれぞれ広がっている。南東隅にカマドがあり、煙道が南に伸びている。カマドは中央の床から煙道にかけて焼土が確認された。田嶋編年Ⅳ期を主体とした土師器・須恵器を出土した。須恵器杯・有台杯(37・53)、甕(133・139)、土師器小釜(147・159)、釜(153・157・158・162・165・166)を図示した。このうち153・157・158・159はカマド周辺から出土している。

c)土坑

SA(3)305(第58～60図、図版18・19)

C区S31グリッドに位置する。竪穴建物SA(3)306のすぐ北に隣接する。平面形は長方形で径3.5×1.8m、深度は35cmで、幅はSA(3)306よりやや小さいが深度は同じである。覆土もSA(3)306と同じく褐色土を主体とする。中央南にテラスをもち、また中央のやや東に径78×66cmを測る比較的大きめのピットがあるほか、遺構内の壁際にいくつかのピットがある。床面はほぼ平坦で貼床や焼土は検出されなかった。SA(3)306の付属施設と考えられる。遺構内からは須恵器甕(130)、土師器釜(154・160・161)が出土している。

d)ピット

SA(3)62(第57図)

A区S27グリッドに位置する。平面形は略円形で径50×48cm、深度40cmを測る。中層から須恵器甕(138)の体部片が出土している。

SA(3)243(第57図)

C区Q31グリッドに位置する。平面形は楕円形で径33×23cm、深度12cmを測る。須恵器有台杯(63)が出土している。

SA(3)286(第57図)

C区R31グリッドに位置する。平面形は歪な楕円形で径60×35cm、深度30cmを測る。須恵器杯蓋(90)・甕(140)が出土している。

SA(3)314(第57図)

C区R32グリッドに位置する。平面形は歪な楕円形で径44×19cm、深度14cmを測る。2つのピットが重複しているが前後関係は不明である。図示してはないが土師器杯の小片が出土している。

SA(3)544(第57図)

B区W29グリッドに位置する。東側が調査区外に伸びているが、平面形は円形を呈するものと思われる。遺存する径は28×16cm、深度28cmを測る。図示してはないが須恵器杯の小片が出土している。

SA(3)560(第57図)

B区W29グリッドに位置する。南東を他の遺構に切られているが、平面形は楕円形を呈するものと思われる。遺存する径は57×31cm、深度24cmを測る。図示してはないが須恵器杯の小片が出土している。

e)旧河川

SA(3)河川(第61～63図)

B区中央とC区東端をほぼ南北に流れる河川である。第3節(1)で述べたように三納アラミヤ遺跡第1・2次調査で検出したSA(131)・SA(2)1とは同一河川で、古墳時代以前と古代の2時期がある。今次調査での延長は約50m、幅2～3.6m、深さは最深部で1.6mを測る。覆土は大きく上層と下層に分かれ、上層は褐色系の粘質土を主体とし、下層は灰色系の粘砂質土、最下層では灰色砂質土となる。上層から下層まで多くの遺物を出土しているが、そのほとんどが古代の遺物であり、それ以前の遺物は極少量である。遺物は須恵器無台杯(10～36)・杯(39～41)・有台杯(42～52・54～62・64～66・68～71・74～79)・高杯脚(80)・杯蓋(81～89・92)・須恵器椀(93・94)・須恵器はそう(95)・瓶類(97～100)・壺類(101～105・107・108・112)・鉢類(109・114～117)甕・(119～125・127～129・134～136)土師器有台杯(141)・椀(142～144)・釜類(145・146・148～150・152・164)が出土した。

(3)近世の遺構(第64図)

a)SA(3)近世溝(第65図)

B区南東隅に位置する。近世～近代にかけての溝で、検出した長さ6.2m、幅2.7m、深さは最深部で20cmである。流路は南から北東に向かうようである。覆土は灰色砂土である。近世～近代の陶磁器(170～187)を出土している。

第4節 遺物

遺物の記述には、本文・観察表・図面図版・写真図版を用いる。当調査区からは縄文～近世までの遺物が出土している。

(1)縄文時代の遺物(第66図、図版23)

土　器(1～3)　1～3は縄文土器である。1は深鉢の口縁である。2とともに横位の条痕文が施されている。3は縦位の条痕文がある。

石　器(4～8)　出土した石器はすべて打製石斧である。形態は撥形で、石材は凝灰岩と玢岩が見られる。4は大型の打製石斧でC区SA(3)河川の最下層から出土した。他の打製石斧は古代遺構の混入品及び包含層からの出土である。5は握部の一部が、8は刃部が欠損している。

(2)古代の遺物(第77図、図版23～28)

三納アラミヤ遺跡第3次調査で出土した遺物のほとんどが古代須恵器・土師器であり、これら須恵器・土師器のうちA(3)河川からの出土遺物が大部分を占めている。三納ニシヨサ遺跡第1・2次調査と同じく古代集落からの投棄されたものであろう。

須恵器(9～140)　杯類(無台杯・有台杯・高杯)・杯蓋・椀・はそう・瓶類・壺・鉢・甕が出土した。時期は田嶋編年のⅡ～Ⅴ期であるが主体となるのはⅣ期である。産地は高松窯が比較的多いが、末・辰口・南加賀各窯も定量出土している。9～36は無台の杯、37～42は底部が不明の杯類、43～79は有台杯、80は高杯脚、81～92は杯蓋、93・94は椀、95ははそう、96は横瓶、97～100は瓶類、101～108・112は壺類、109・113～118は鉢類、119～140は甕である。墨書土器や転用硯は見当たらない。

土師器(141～167)　有台杯・椀・釜・小釜が出土した。141は有台杯で須恵器有台杯の模倣である。内外面に赤彩が施されている。142～144は椀、145～148・152・159は小釜、149～151・153～158・160～167は釜である。153・157・158と155・160・161はそれぞれ同一個体と思われる。釜・小釜には煤がつくものが多い。土師器は竪穴建物・土坑からの出土の割合が高い。時期は一部に田嶋編年のⅡ期のものがあるが、おおむねⅣ期が中心となる。

(3)中世以降の遺物(第77図、図版28)

中世のものとしては土師器皿(168)と珠洲焼片口鉢(169)を図示した。168は包含層から、169はB区西壁からの出土であり遺構に伴うものではない。近世～近代のものでは磁器碗(170～179・181)、鉢(184)、皿(182・185・186・188)・蓋(183)・陶器鉢(180・187)が出土している。出土地点はSA(3)近世溝がほとんどで、その他はSA(3)河川と包含層から出土しているだけである。

第5節　総括

三納アラミヤ遺跡は標高28～30mを測る手取川扇状地扇央部に所在する。本遺跡東端の地形は既に住宅地となっているため不明であるが西端は鞍部となっており、扇状地扇央部によく見られる微高地上に位置しているものと考えられる。遺跡中央部分には古代の掘立柱建物や竪穴建物など集落跡がある程度のまとまりをもって検出されている。また東側には南北に蛇行しながら流れる河川があり、縄文土器・打製石斧・古代土器・近世陶磁器などが出土している

縄文時代

今次調査では縄文時代の遺構は検出されず、自然河川であるSA(3)河川より縄文時代晩期の土器と打製石斧が出土したのみである。しかし平成14年度の調査で石器製作跡SA(2)325を検出しており、また本遺跡より500m南東にある粟田遺跡でも打製石斧素材採取の跡が検出されていることから、縄文時代晩期～弥生時代初頭にかけてこの付近一帯で人々が活動していたことは確実である。ただし、この地域ではこれまでのところ当該期の住居跡等、定住した痕跡は発見されていない。

古代

当該時期の建物としては掘立柱建物1棟と竪穴建物2棟を検出している。掘立柱建物は本遺跡西端に位置する。またその約20m東に2棟の竪穴建物が位置する。竪穴建物は重複しているため同時期に存在したものではないが、どちらも田嶋編年(1988)のⅣ期と考えられる土器が出土しており大きな時期差はないものと思われる。本調査区の北側ではこれまでに3棟の掘立柱建物と3棟の竪穴建物が密集して確認されている。いずれも道路築造部分の発掘調査で面的な調査ではないため、その他の建物群は確認されていない。しかし本遺跡とほぼ同時期で地理的にも近い粟田遺跡では、数棟の単位で建物群が散在する様相を呈しており、本遺跡でも同様の建物構成をもっていると思われる。

本遺跡で検出された2棟の竪穴建物のうち、カマドが確認されたのは竪穴建物SA(3)307の1棟で、建物内の南東隅に存在する。過去に行った調査も含め三納アラミヤ遺跡で5棟の竪穴建物が検出され、そのうちカマドの確認されたSA(1)120・SA(1)121・SA(3)307のいずれもが南東隅に存在している。これは既述のように近隣の上林・新庄遺跡群や末松遺跡群と同じ様相を呈している。

今次調査では遺構に伴う出土遺物が少なく、大半が河川からの出土である。これら遺物の主体となる時期は田嶋編年のⅡ3～Ⅳ期で、これまでの調査成果と同様であり本遺跡の古代集落の存続期間と考えられる。

近世以降

今次調査では用水と河川の跡を確認している。河川はごく一部分の検出であるが、平成13年度調査で検出した取水施設の設置された旧河川の続きであろう。以上から江戸時代以降はこのあたり一帯が耕作地として利用されていたものと思われる。

参考文献

石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター　2005　『末松遺跡』

(財)石川県埋蔵文化財センター　2000　『野々市町末松遺跡群』

(社)石川県埋蔵文化財保存協会　1991　『粟田遺跡発掘調査報告書』

野々市町教育委員会　1992　『粟田遺跡第二次発掘調査報告書』

野々市町教育委員会　1998　『上新庄ニシウラ遺跡』

野々市町教育委員会　1999　『下新庄アラチ遺跡』

野々市町教育委員会　2000　『上林新庄遺跡・上林古墳・上林テラダ遺跡・下新庄タナカダ遺跡』

野々市町教育委員会　2003　『富樫館跡Ⅲ』

野々市町教育委員会　2006　『粟田遺跡(第10次)・三納アラミヤ遺跡(第1・2次)・三納トヘイダゴシ遺跡(第1・3次)

野々市町史専門委員会　2003　『野々市町史　資料編1』　石川県野々市町

第4表　三納アラミヤ遺跡（第3次）遺物観察表

縄文時代

掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	残存率	色調	色調	備考
1	o15	SA(3)	C区中央	縄文土器					細片	外:褐	内:褐	
2	o24	SA(3)306	d	縄文土器					細片	外:褐	内:褐	
3	H78	SA(3)河道	B区W29	縄文土器					細片	外:褐	内:褐	
掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	残存率	石材	重量(g)	備考
4	H72	SA(3)河道	C区東端	石器	打製石斧	231	127	39	完形	凝灰岩	1160	
5	o74	SA(3)	C区中央	石器	打製石斧	144	89	27		玢岩	357	
6	o75	SA(3)307	c	石器	打製石斧	130	73	29	完形	凝灰岩	287	
7	H73	SA(3)	C区	石器	打製石斧	131	88	29	完形	凝灰岩	452	
8	o73	SA(3)307	a	石器	打製石斧	97	69	29	基部のみ	凝灰岩	253	

古代

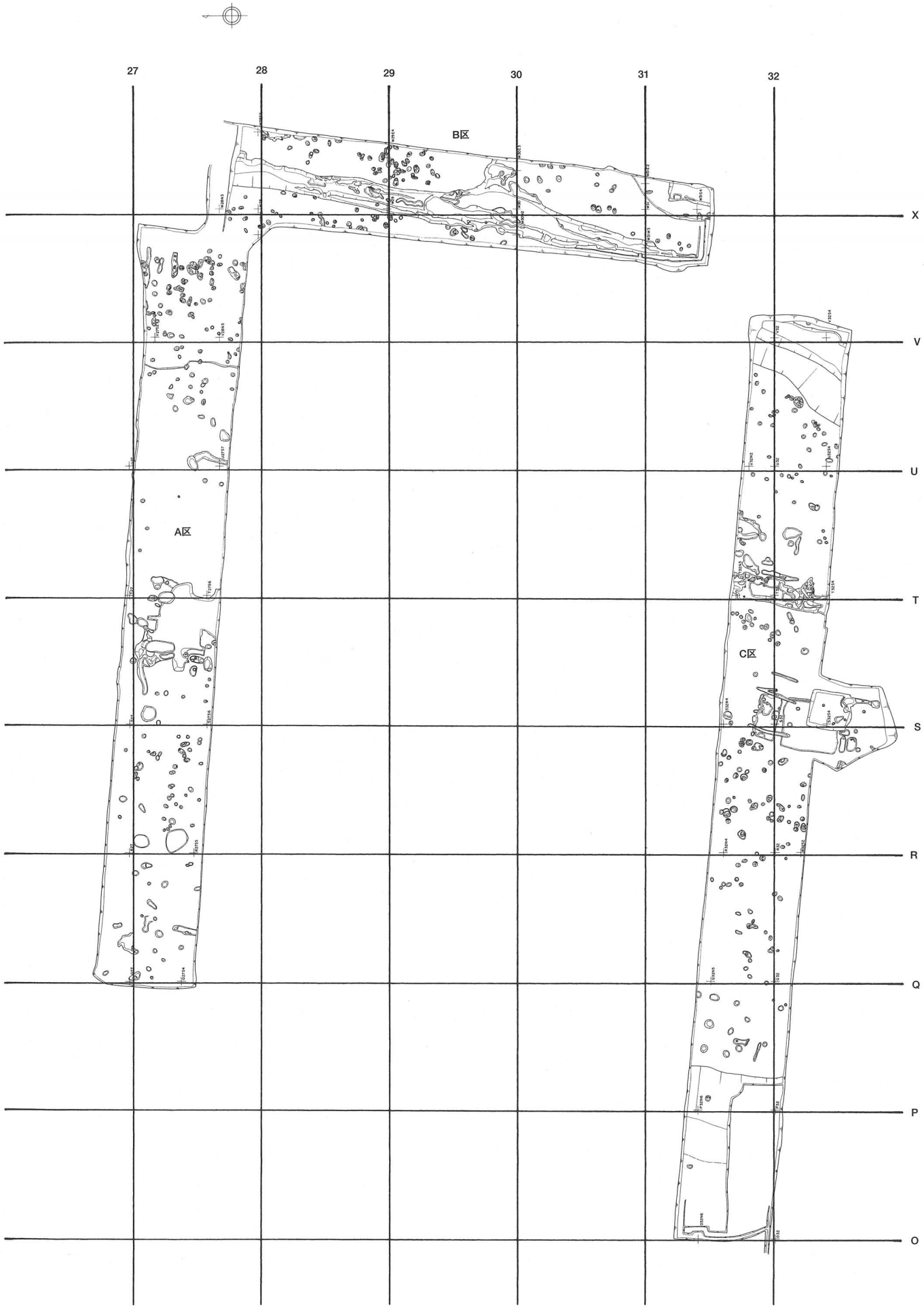
掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	残存率	色調	色調	備考
9	o85	SA(3)	B区	須恵器	無台杯	110	29	71	全体1/8	外:灰	内:灰	高松Ⅳ1期
10	H31	SA(3)河川	B区V30底	須恵器	無台杯	129	37	101	全体1/4	外:灰白	内:灰白	辰口　田嶋Ⅴ1期
11	H61	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	無台杯	130	34	86	全体1/3	外:灰黄	内:灰黄	高松　田嶋Ⅳ2期
12	H59	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	無台杯	114	33	81	底部1/3	外:灰	内:灰	高松　田嶋Ⅳ2新期
13	H33	SA(3)河川	B区V30底	須恵器	無台杯	130	31	96	全体1/3	外:灰黄褐	内:灰黄褐	高松Ⅳ2期
14	H05	SA(3)河川	B区V30	須恵器	無台杯	136	31	94	全体1/7	外:灰	内:黄灰	辰口　田嶋Ⅲ期
15	H19	SA(3)河川	B区V30	須恵器	無台杯	152	39	102	底部完形	外:褐灰	内:灰黄褐	高松か　田嶋Ⅲ期
16	H60	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	無台杯	116	36	90	全体1/5	外:灰	内:黄灰	田嶋Ⅳ期
17	H32	SA(3)河川	B区V30底	須恵器	無台杯	118	29	80	全体3/4	外:灰	内:灰	辰口Ⅴ2期
18	H62	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	無台杯	118	28	90	全体1/4	外:灰	内:灰	末　田嶋Ⅳ2新期
19	H63	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	無台杯	124	34	90	全体1/4	外:にぶい橙	内:にぶい橙	田嶋高松Ⅴ1期
20	H36	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	無台杯	134	31	86	全体1/2	外:黄灰	内:黄灰	末　田嶋Ⅳ2期
21	H37	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	無台杯	138	32	102	全体1/2	外:灰白	内:灰黄	高松　田嶋Ⅳ1期
22	o84	SA(3)河川	B区V29	須恵器	無台杯	130	32	82	全体1/2	外:浅黄	内:浅黄	田嶋Ⅴ1期
23	H03	SA(3)河川	B区V30	須恵器	無台杯	124	33	87	全体完形	外:灰黄	内:浅黄	高松　田嶋Ⅴ1期
24	H66	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	無台杯	136	30	96	全体1/4	外:灰	内:灰	田嶋Ⅳ1期
25	o81	SA(3)河川	B区V29	須恵器	無台杯			98	底部1/5	外:灰白	内:灰白	辰口　田嶋Ⅳ2新期
26	o52	SA(3)河川	C区底	須恵器	無台杯	160	34	113	全体1/8	外:灰白	内:灰白	高松　田嶋Ⅳ期
27	o80	SA(3)河川	B区V29	須恵器	無台杯	144	35	104	底部1/4	外:灰白	内:灰白	高松　田嶋Ⅳ1期
28	H04	SA(3)河川	B区V30	須恵器	無台杯			90	底部完形	外:灰黄	内:灰白	辰口　田嶋Ⅳ1期
29	H64	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	無台杯			102	底部1/3	外:灰黄褐	内:にぶい黄橙	田嶋高松Ⅳ2期
30	H14	SA(3)河川	B区V29	須恵器	無台杯			90	底部1/3	外:灰	内:灰	辰口　田嶋Ⅳ期
31	H10	SA(3)河川	B区V31	須恵器	無台杯			95	底部3/4	外:灰	内:灰白	高松　田嶋Ⅳ2古期
32	o61	SA(3)河川	C区	須恵器	無台杯			96	底部1/7	外:灰	内:灰	田嶋Ⅳ期
33	o47	SA(3)河川	C区底	須恵器	無台杯			110	底部1/5	外:灰白	内:灰白	南加賀
34	o46	SA(3)河川	C区底	須恵器	無台杯			81	底部1/3	外:灰白	内:灰白	高松　田嶋Ⅲ期
35	o51	SA(3)河川	C区底	須恵器	無台杯			90	底部1/2	外:灰白	内:灰白	高松　田嶋Ⅳ2期
36	o53	SA(3)河川	C区底	須恵器	無台杯			88	低部1/4	外:灰白	内:灰白	高松か　Ⅳ期か
37	o11	SA(3)307	南東黒色土	須恵器	杯	129			口縁1/10	外:灰	内:灰	
38	o02	SA(3)	A区東側	須恵器	無台杯	111			口縁1/8	外:灰	内:灰	田嶋Ⅳ期か
39	H07	SA(3)河川	B区V30	須恵器	杯	138			口縁1/8	外:灰	内:灰	
40	o55	SA(3)河川	C区底	須恵器	杯	133			口縁1/7	外:灰	内:灰	田嶋Ⅳ期
41	H08	SA(3)河川	B区V30	須恵器	杯	171			口縁1/12	外:灰	内:灰	
42	H15	SA(3)河川	B区V29	須恵器	有台杯	156			口縁1/12	外:灰	内:灰白	高松　田嶋Ⅲ期か
43	H27	SA(3)河川	B区V30	須恵器	有台杯	116	42	88	全体1/3	外:暗オリーブ	内:灰	辰口or南加賀　田嶋
44	H51	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯	120	43	79	底部1/3	外:オリーブ灰	内:オリーブ灰	高松　田嶋Ⅳ期
45	H55	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯	114	43	74	全体1/5	外:灰	内:灰	高松　田嶋Ⅳ1期か
46	H57	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯	110	40	82	全体1/5	外:灰	内:黄灰	辰口　田嶋Ⅳ期
47	H65	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯	136	41	88	底部1/6	外:灰	内:灰	田嶋Ⅳ1期
48	H56	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯	120	39	86	全体1/4	外:灰	内:灰	
49	H48	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯	111	43	82	全体1/3	外:灰	内:灰白	辰口　田嶋Ⅳ2古期
50	H29	SA(3)河川	B区V30	須恵器	有台杯	117	37	81	全体1/4	外:暗オリーブ	内:灰	高松　田嶋Ⅳ1期
51	H20	SA(3)河川	B区V30	須恵器	有台杯	122	34	94	全体1/3	外:暗オリーブ	内:灰	末　田嶋Ⅳ1期
52	o45	SA(3)河川	C区底	須恵器	有台杯	102	37	74	全体1/2	外:灰白	内:灰白	高松　田嶋Ⅳ1期
53	o14	SA(3)307	南壁底部	須恵器	有台杯	106	39	77	全体1/3	外:黄灰	内:灰白	
54	H58	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯	120	36	81	全体1/5	外:灰	内:灰	末　田嶋Ⅳ1期
55	H46	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯	117	38	77	全体1/3	外:灰	内:灰	辰口　田嶋Ⅳ期
56	H34	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯	170	62	116	全体1/2	外:黒	内:灰白	南加賀　田嶋Ⅲ期
57	H30	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯	160	65	112	全体1/2	外:灰	内:灰	末　田嶋Ⅳ1期
58	H01	SA(3)河川	B区V30	須恵器	有台杯	156	50	107	完形	外:褐灰	内:灰白	南加賀　田嶋Ⅲ期
59	H13	SA(3)河川	B区V29	須恵器	有台杯	152	39	110	底部3/4	外:灰	内:灰	南加賀　田嶋Ⅲ期
60	H76	SA(3)河川	B区W29	須恵器	有台杯	157	57	90	全体1/4	外:オリーブ灰	内:灰	高松　田嶋Ⅱ3期か
61	o79	SA(3)河川	B区V29	須恵器	有台杯			83	底部1/4	外:灰白	内:灰白	高松　田嶋Ⅳ期
62	o39	SA(3)河川	C区	須恵器	有台杯			76	底部1/5	外:暗灰	内:灰	末Ⅳ1期
63	o69	SA(3)243		須恵器	有台杯			92	底部1/10	外:灰	内:灰白	田嶋Ⅳ期
64	H54	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯			72	底部1/3	外:灰	内:灰	高松　田嶋Ⅳ1期か
65	o44	SA(3)河川	C区底	須恵器	有台杯			80	底部1/6	外:灰白	内:灰白	田嶋Ⅳ1期
66	H49	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯			80	底部1/3	外:灰白	内:灰白	辰口　田嶋Ⅳ期

67	o63	SA(3)		須恵器	有台杯			75	底部1/3	外:灰白	内:灰白	田嶋Ⅳ期
68	H50	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯			88	底部1/2	外:暗緑灰	内:灰白	辰口　田嶋Ⅳ期
69	o54	SA(3)河川	C区底	須恵器	有台杯			96	底部1/4	外:灰	内:灰	南加賀　田嶋Ⅳ期
70	o43	SA(3)河川	C区底	須恵器	有台杯			70	底部1/5	外:灰	内:灰白	辰口　田嶋Ⅳ2新期
71	H28	SA(3)河川	B区V29	須恵器	有台杯			71	底部3/4	外:灰黄褐	内:灰黄褐	末　田嶋Ⅳ2期
72	o62	SA(3)	C区鞍部	須恵器	有台杯			74	底部1/3	外:灰白	内:灰白	田嶋Ⅳ期
73	o64	SA(3)		須恵器	有台杯			104	底部1/10	外:灰	内:灰	末　田嶋Ⅳ1期
74	H47	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯			110	底部1/4	外:暗オリーブ	内:灰	南加賀　田嶋Ⅲ期
75	H44	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯				底部1/2	外:灰	内:灰	末　田嶋Ⅳ期
76	H52	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯			112	底部1/6	外:黄灰	内:灰白	辰口か　田嶋Ⅳ2期
77	H45	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯			140	底部1/4	外:灰	内:灰	田嶋Ⅳ2期
78	H53	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯			112	底部1/6	外:灰	内:灰白	辰口か　田嶋Ⅳ2期
79	H43	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	有台杯			123	底部2/3	外:灰	内:灰	南加賀　田嶋Ⅳ2期
80	H24	SA(3)河川	B区V30	須恵器	高杯脚	140			口縁1/5	外:灰	内:灰白	南加賀　田嶋Ⅳ期
81	H26	SA(3)河川	B区V30	須恵器	杯蓋				小片	外:灰	内:灰	末か　田嶋Ⅳ期
82	H25	SA(3)河川	B区V30	須恵器	杯蓋				小片	外:灰	内:灰	高松　田嶋Ⅳ期
83	H79	SA(3)河川	B区W27底	須恵器	杯蓋	110	20		全体1/4	外:灰	内:黄灰	高松　Ⅳ1期
84	H02	SA(3)河川	B区V30	須恵器	杯蓋	118	31		全体1/2	外:灰	内:灰	高松　田嶋Ⅳ1期
85	o59	SA(3)河川	C区底	須恵器	杯蓋				全体1/3	外:灰白	内:灰白	高松　田嶋Ⅳ期
86	H75	SA(3)河川	B区W28上	須恵器	杯蓋	140			口縁1/5	外:灰オリーブ	内:黄灰	田嶋Ⅳ2期
87	H17	SA(3)河川	B区V29	須恵器	杯蓋	120			全体1/5	外:黄灰	内:灰白	末か　田嶋Ⅳ期
88	o60	SA(3)河川	C区底	須恵器	杯蓋				口縁1/7	外:灰白	内:灰白	南加賀　田嶋Ⅳ期
89	H23	SA(3)河川	B区V30	須恵器	杯蓋	164			口縁1/7	外:灰	内:灰	高松　田嶋Ⅳ期
90	o68	SA(3)286		須恵器	杯蓋	176			全体1/2	外:灰	内:灰	末　田嶋Ⅳ2期　o71
91	o71	SA(3)	C区Q31	須恵器	杯蓋	178			全体1/5	外:灰	内:灰	末　田嶋Ⅳ2期　o68
92	H16	SA(3)河川	B区V29	須恵器	杯蓋	188			全体1/6	外:灰	内:灰白	末　田嶋Ⅳ1期
93	o50	SA(3)河川	C区底	須恵器	椀	133	32	78	全体1/7	外:灰白	内:灰白	末　田嶋Ⅴ1期
94	o49	SA(3)河川	C区底	須恵器	椀	142	31	69	全体1/10	外:灰白	内:灰白	末　田嶋Ⅴ1期
95	H38	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	はそう			76	全体1/3	外:褐灰	内:灰白	南加賀
96	o30	SA(3)	B区V31グ	須恵器	横瓶				小片	外:灰白	内:灰白	
97	o100	SA(3)河川	B区W28	須恵器	長頸瓶				頸部完形	外:暗灰	内:灰	南加賀　田嶋Ⅲ～Ⅳ
98	H18	SA(3)河川	B区V29	須恵器	長頸瓶			102	底部完形	外:灰黄褐	内:灰白	高松　田嶋Ⅳ期
99	o78	SA(3)河川	B区V29	須恵器	長頸瓶			112	底部1/5	外:灰白	内:灰白	南加賀
100	H68	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	広口瓶			137	底部1/2	外:灰	内:オリーブ黒	田嶋Ⅲ～Ⅳ期
101	o95	SA(3)河川	B区V29	須恵器	壺	342			口縁1/10	外:灰黄褐	内:黄灰	
102	o58	SA(3)河川	C区底	須恵器	短頸壺	64			口縁1/3	外:灰白	内:灰白	南加賀
103	H71	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	短頸壺			124	底部1/4	外:灰	内:褐灰	田嶋Ⅲ期
104	H39	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	短頸壺	168			口縁1/6	外:黄灰	内:灰黄	辰口　田嶋Ⅲ～Ⅳ期
105	H22	SA(3)河川	B区V29	須恵器	広口壺			164	底部3/4	外:褐灰	内:灰白	南加賀
106	o29	SA(3)306	c	須恵器	壺				小片	外:灰白	内:灰白	
107	H11	SA(3)河川	B区V30	須恵器	広口壺			110	底部1/4	外:灰白	内:灰白	
108	o91	SA(3)河川	B区W28	須恵器	広口瓶or壺			90	底部1/7	外:	内:	
109	o96	SA(3)河川	B区W28	須恵器	鉢	406			口縁1/8	外:黄灰	内:黄灰	高松か　田嶋Ⅲ期
109	o97	SA(3)河川	B区W28	須恵器	鉢				小片	外:黄橙	内:灰	高松か　田嶋Ⅲ期
109	o98	SA(3)河川	B区V30	須恵器	鉢			140	底部2/3	外:褐灰	内:黄灰	高松か　田嶋Ⅲ期
112	H67	SA(3)河川	B区V30底	須恵器	広口壺	180			口縁1/16	外:	内:	田嶋Ⅳ期
113	o70	SA(3)343		須恵器	鉢			95	底部1/16	外:灰白	内:灰白	
114	H06	SA(3)河川	B区V30	須恵器	鉢			74	底部1/4	外:灰白	内:灰	田嶋Ⅳ～Ⅴ期
115	H74	SA(3)河川	B区W28上	須恵器	鉢				小片	外:灰	内:灰	高松か　田嶋Ⅲ～Ⅳ
116	oあ	SA(3)河川	BC区	須恵器	鉄鉢				底部1/7	外:灰	内:灰	鉄鉢　田嶋Ⅱ3～Ⅲ
117	H70	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	鉄鉢	182			口縁1/12	外:灰	内:オリーブ灰	田嶋Ⅲ～Ⅳ1期
118	o41	SA(3)	B区表面	須恵器	鉄鉢	206			口縁1/15	外:灰	内:灰白	鉄鉢　田嶋Ⅱ3～Ⅲ
119	o83	SA(3)河川	B区V29	須恵器	甕	244			口縁1/12	外:灰白	内:灰白	辰口　田嶋Ⅲ～Ⅳ期
120	o57	SA(3)河川	C区底	須恵器	甕	252			口縁1/13	外:灰	内:灰白	辰口
121	H80	SA(3)河川	B区W27底	須恵器	甕	242			口縁1/18	外:灰白	内:灰白	高松　Ⅳ期か
122	H21	SA(3)河川	B区V30	須恵器	甕				小片	外:灰	内:灰	南加賀　田嶋Ⅱ3～
123	o82	SA(3)河川	B区V29	須恵器	甕	205			口縁1/8	外:黄灰	内:黄灰	辰口　田嶋Ⅲ～Ⅳ期
124	H77	SA(3)河川	B区W29	須恵器	甕	220			口縁1/18	外:青黒	内:オリーブ黒	
125	o42	SA(3)河川	C区底	須恵器	甕	194			口縁1/9	外:灰	内:灰白	辰口
126	o21	SA(3)306	b	須恵器	甕	286			口縁1/14	外:暗灰	内:暗灰	
127	o01	SA(3)河川	B区V30			215			口縁完形	外:灰白	内:灰白	田嶋Ⅲ～Ⅳ期
128	o92	SA(3)河川	B区W28	須恵器	甕				小片	外:灰白	内:灰白	辰口か南加賀　田嶋
129	o26	SA(3)河川	B区W28	須恵器	甕				小片	外:灰	内:灰	
130	o07	SA(3)305	a	須恵器	甕				小片	外:灰	内:灰	
131	o22	SA(3)306	c	須恵器	甕				小片	外:灰	内:灰	
132	o25	SA(3)306	h	須恵器	甕				小片	外:褐灰	内:褐灰	
133	o08	SA(3)307	f	須恵器	甕				小片	外:褐灰	内::褐灰	
134	o94	SA(3)河川	B区V29	須恵器	甕				小片	外:灰白	内:灰白	辰口か南加賀　田嶋
135	o93	SA(3)河川	C区	須恵器	甕				小片	外:灰白	内:灰白	辰口か南加賀　田嶋
136	o99	SA(3)河川	B区V29	須恵器	甕			60	底部1/2	外:灰	内:灰	南加賀　田嶋Ⅳ期
137	o23	SA(3)306	d	須恵器	甕				小片	外:暗灰	内:灰	
138	o04	SA(3)	底	須恵器	甕				小片	外:灰	内:灰	Ⅳ期
139	o09	SA(3)307	中層	須恵器	甕				小片	外:褐灰	内::褐灰	
140	o67	SA(3)286		須恵器	甕				小片	外:灰白	内:灰黄	
141	H12	SA(3)河川	B区V30	土師器	有台杯	136	44	104	底部完形	外:にぶい黄橙	内:にぶい橙	田嶋Ⅳ2期　赤彩
142	o56	SA(3)河川	C区底	土師器	椀			76	底部1/3	外:橙	内:橙	田嶋Ⅳ期

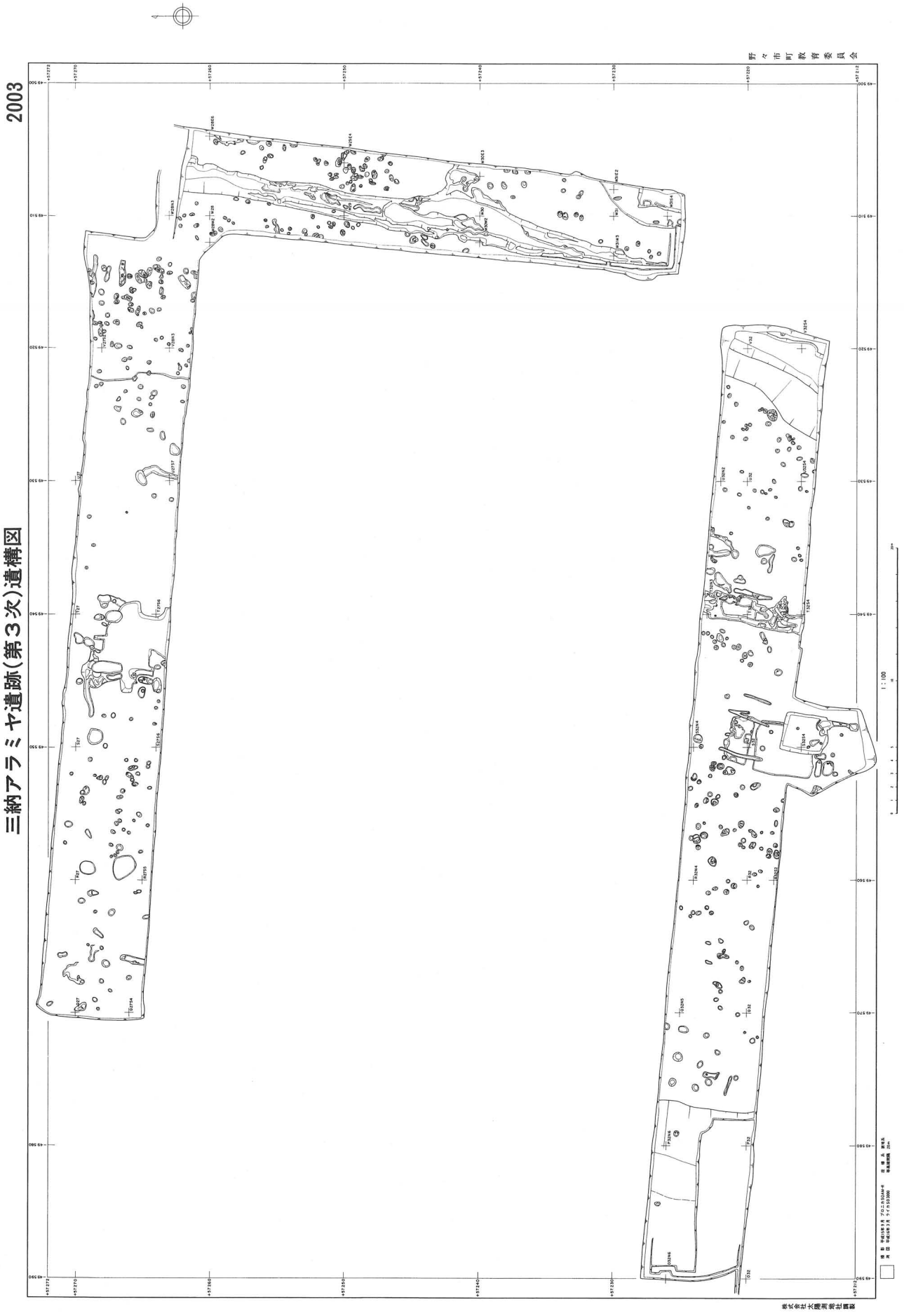
143	H69	SA(3)河川	B区W28底	土師器	椀	176	57	73	底部1/2	外:赤彩	内:赤彩	田嶋Ⅳ1期　赤彩
144	H35	SA(3)河川	B区W28底	土師器	椀	186		136	口縁1/4	外:赤彩	内:赤彩	田嶋Ⅱ3期　赤彩
145	H09	SA(3)河川	B区V30	土師器	小釜	80			口縁1/4	外:黄橙	内:黄橙	
146	o48	SA(3)河川	C区底	土師器	小釜	134			口縁1/12	外:淡黄	内:淡黄	田嶋Ⅳ～Ⅴ期
147	o10	SA(3)307	中層	土師器	小釜			75	底部1/5	外:淡黄	内:淡黄	
148	o77	SA(3)河川	B区V29	土師器	小釜			78	底部1/4	外:淡黄	内:淡黄	
149	H41	SA(3)河川	B区W28底	土師器	釜	202			口縁1/16	外:にぶい橙	内:にぶい橙	田嶋Ⅱ3～Ⅲ期
150	H40	SA(3)河川	B区W28底	須恵器	甕	250			口縁1/8	外:灰オリーブ	内:黄灰	辰口　田嶋Ⅲ～Ⅳ期
151	o27	SA(3)306	帯中層	土師器	釜	258			口縁1/14	外:淡黄	内:淡黄	
152	H42	SA(3)河川	B区W28底	土師器	小釜			82	底部1/4	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
153	o31	SA(3)307	かまど付近	土師器	釜				口縁1/10	外:橙	内:橙	田嶋Ⅳ期　o31・o33・
154	o35	SA(3)305	bcdehijk	土師器	釜	213			口縁1/5	外:橙	内:橙	田嶋Ⅳ期　外面煤付
155	o38	SA(3)306	南北帯貼床	土師器	釜				小片	外:橙	内:橙	田嶋Ⅳ期　o35・o36・
156	o20	SA(3)306	a	須恵器	甕				小片	外:灰	内:灰	
157	o33	SA(3)307	かまど付近	土師器	釜				1/6	外:橙	内:橙	田嶋Ⅳ期　o31・o33・
158	o34	SA(3)307	かまど付近	土師器	釜				1/7	外:橙	内:橙	田嶋Ⅳ期　o31・o33・
159	o12	SA(3)307	南東黒色土	土師器	小釜				小片	外:浅黄	内:淡黄	
160	o36	SA(3)305	f	土師器	釜				小片	外:橙	内:橙	田嶋Ⅳ期　o35・o36・
161	o37	SA(3)305	g	土師器	釜				小片	外:橙	内:橙	田嶋Ⅳ期　o35・o36・
162	o16	SA(3)307	貼床	土師器	釜				小片	外:橙	内:橙	
163	o18	SA(3)307	b	土師器	釜				小片	外:橙	内:橙	
164	o88	SA(3)河川	B区W32	土師器	長胴釜				小片	外:橙	内:橙	
165	o19	SA(3)307	北西	土師器	釜				小片	外:橙	内:橙	
166	o13	SA(3)307	南東黒色土	土師器	釜				小片	外:橙	内:橙	
167	o17	SA(3)307	貼床	土師器	釜				小片	外:橙	内:橙	
168	o72	SA(3)	C区O31	土師器	皿	120			口縁1/7	外:淡黄	内:淡黄	中世

中世～近世

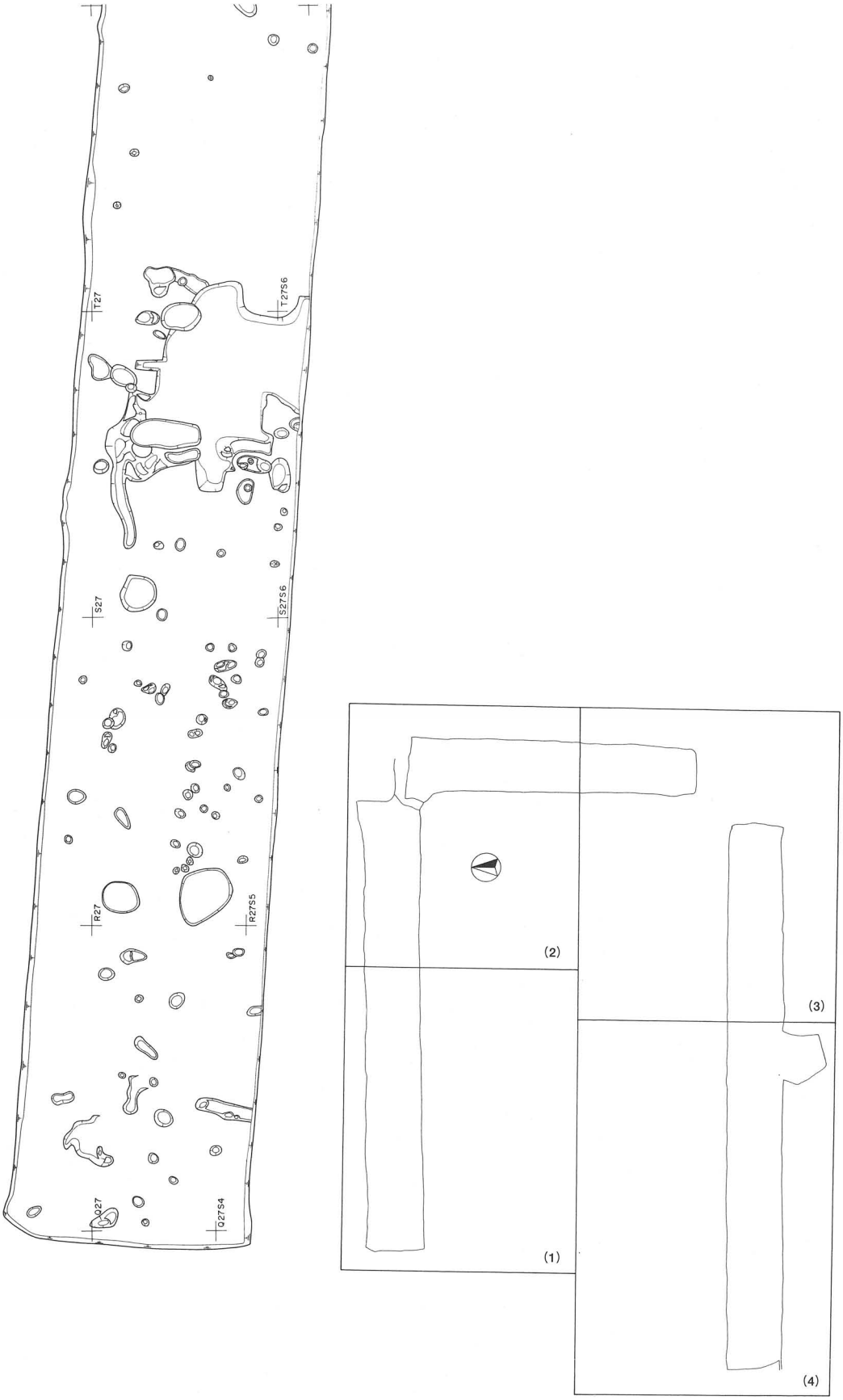
掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	残存率	色調	色調	備考
169	o86	SA(3)西壁	B区西壁	珠洲	片口鉢				小片	外:灰	内:灰	
170	T05	SA(3)近世溝	B区	近世陶磁	碗	76	51	30	口縁1/3	釉:透明釉	胎:灰白	
171	T10	SA(3)近世溝	B区	近世陶磁	碗				小片	釉:透明釉	胎:白	
172	T02	SA(3)近世溝	B区	近世陶磁	碗	74			口縁5/7	釉:透明釉	胎:灰白	
173	o90	SA(3)河川	B区W32	近世陶磁	?			40	底部1/6	釉:青磁釉	胎:灰白	
174	T07	SA(3)近世溝	B区	近世陶磁	碗	126			口縁1/9	釉:透明釉	胎:灰白	
175	T08	SA(3)近世溝	B区	近世陶磁	碗			36	底部1/2	釉:透明釉	胎:灰白	
176	o06	SA(3)	A区近世撹	近世陶磁	碗			40	底部1/4	釉:透明釉	胎:灰白	
177	T11	SA(3)近世溝	B区	近世陶磁	碗			34	底部1/2	釉:透明釉	胎:白	
178	T03	SA(3)近世溝	B区	近世陶磁	碗			36	底部1/4	釉:透明釉	胎:灰白	
179	T12	SA(3)近世溝	B区	近世陶磁	碗			29	底部1/2	釉:透明釉	胎:乳白	
180	o87	SA(3)河川	B区W32	近世陶磁	鉢			94	底部1/5	釉:白泥	胎:橙	
181	o05	SA(3)	A区包含層	近世陶磁	碗			44	底部1/2	釉:透明釉	胎:灰白	
182	T01	SA(3)近世溝	B区	近世陶磁	皿	134	34	74	底部2/9	釉:透明釉	胎:灰白	
183	T06	SA(3)近世溝	B区	近世陶磁	蓋	140	37	62	全体1/7	釉:透明釉	胎:灰白	
184	T04	SA(3)近世溝	B区	近世陶磁	鉢	260			口縁1/12	釉:透明釉	胎:灰白	
185	o89	SA(3)河川	B区W32	近世陶磁	皿			92	底部1/12	釉:透明釉	胎:白	
186	T09	SA(3)近世溝	B区	近世陶磁	皿			68	底部1/4	釉:透明釉	胎:灰白	
187	T13	SA(3)近世溝	B区	近世陶磁	鉢	228			口縁1/12	釉:灰釉	胎:白	
188	o65	SA(3)		近世陶磁	皿			36	全体1/15	釉:透明釉	内:白	
189	o66	SA(3)		近世土師皿		116			口縁1/10	外:橙	内:橙	内外面煤付着



第48図　三納アラミヤ遺跡（第3次）グリッド図（1/400）

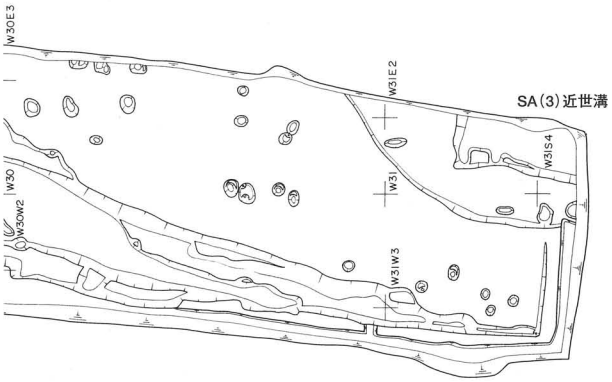


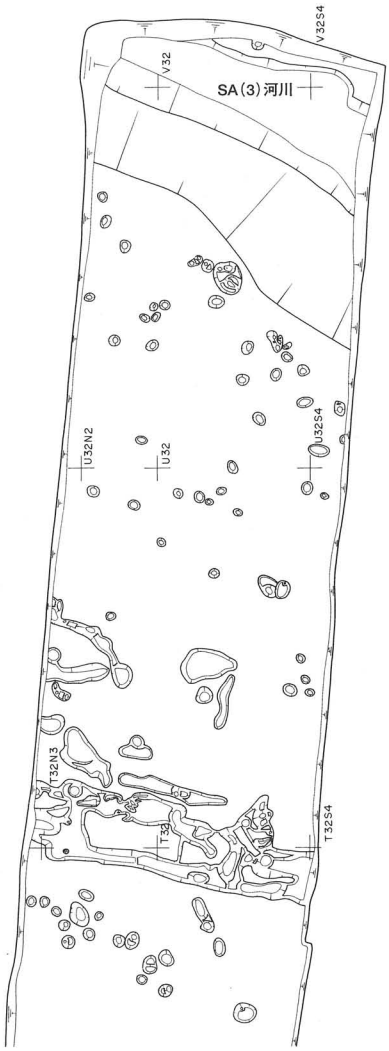
第49図　三納アラミヤ遺跡(第3次)遺構分布図（1/400）



第50図　三納アラミヤ遺跡（第3次）平面図（1）（1／200）

第51図　三納アラミヤ遺跡（第3次）平面図（2）（1／200）

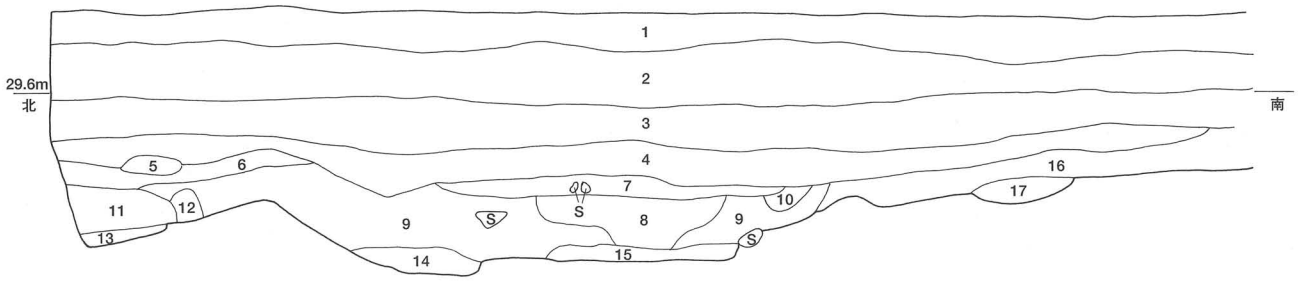




第52図　三納アラミヤ遺跡（第3次）平面図（3）（1／200）

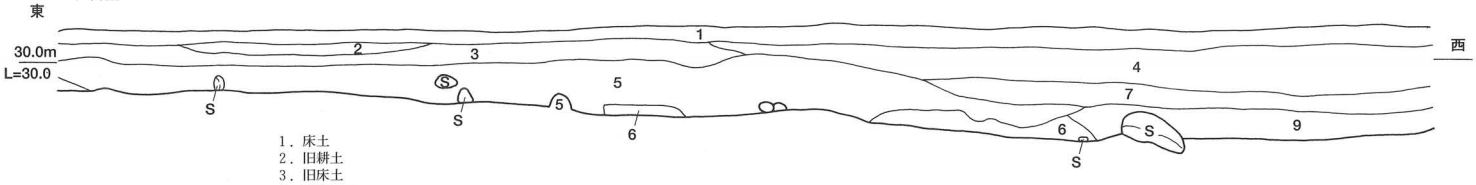
第53図　三納アラミヤ遺跡（第3次）平面図（4）（1／200）

B区東壁



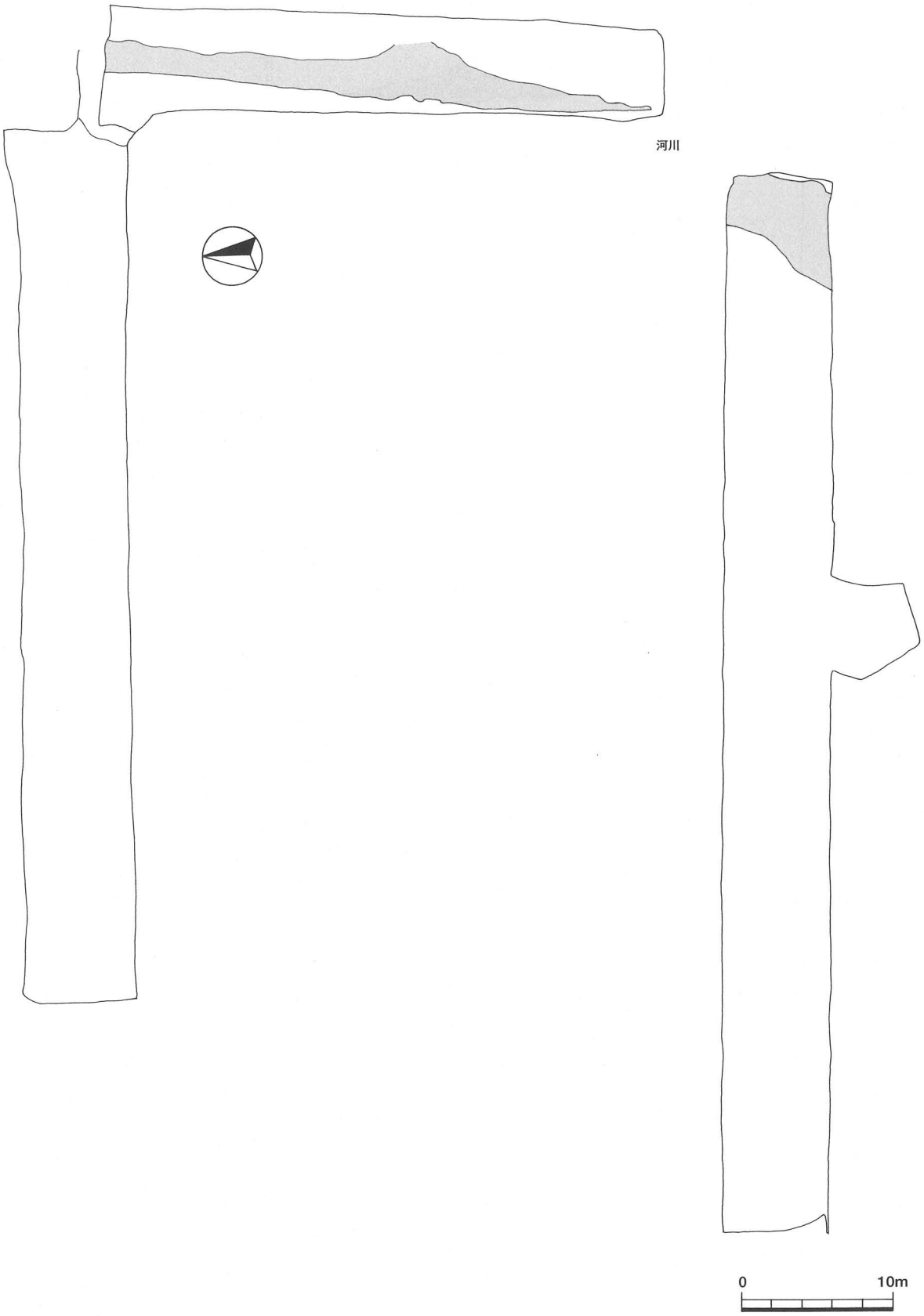
1．床土
2．旧耕土
3．旧床土
4．明褐色粘質土
5．灰色粘土
6．黒灰色粘質土
7．濃濁灰色粘質土
8．濃淡灰色粘質土
9．暗褐色粘質土
10．淡灰色粘質土
11．黒褐色粘質土
12．濁灰色粘質土
13．11に黄色土粒含む
14．黒色粘質土に黄色土粒含む
15．８に黄色土粒含む
16．明褐灰色粘質土
17．16に黄色土粒含む

C区南壁

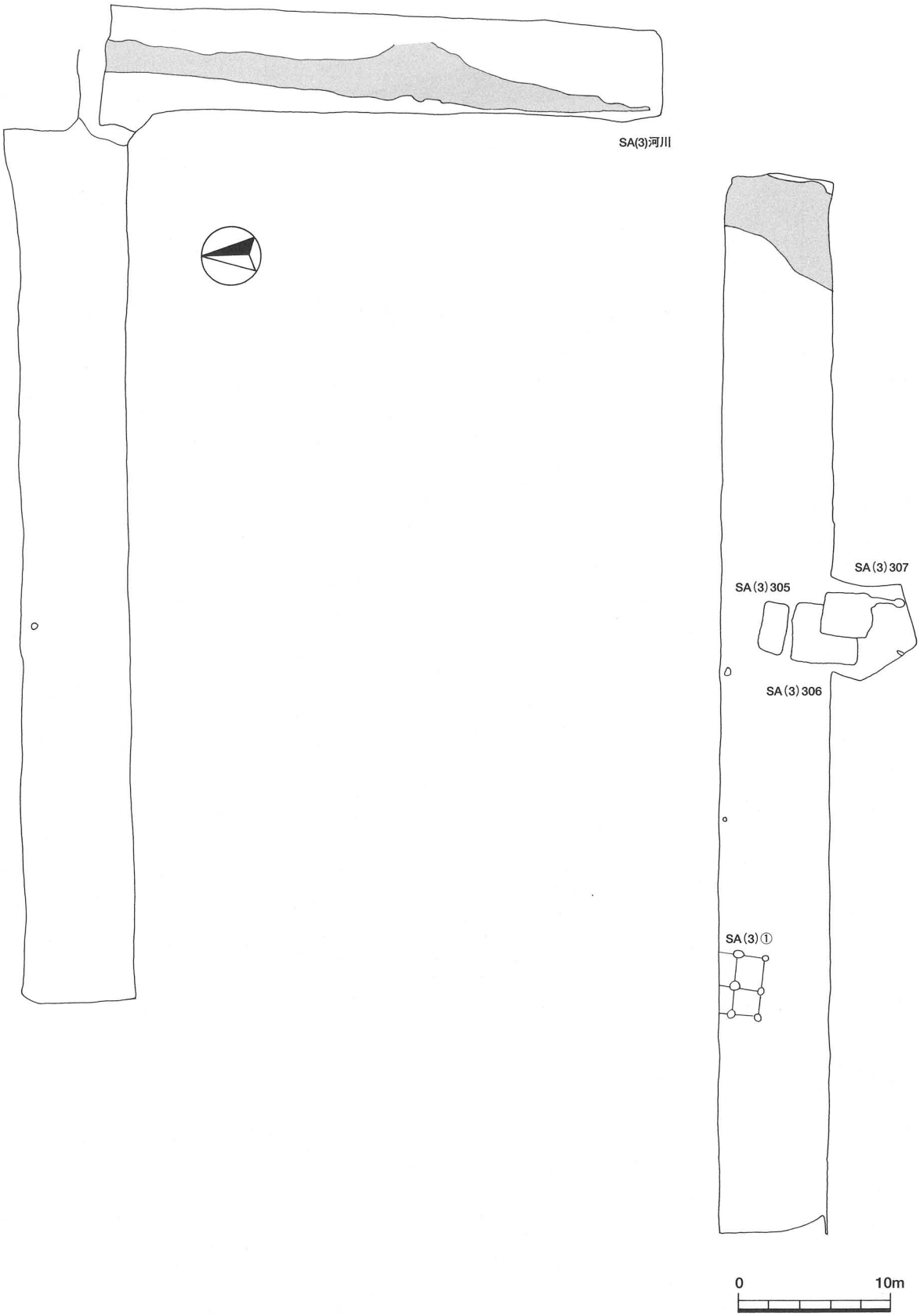


1．床土
2．旧耕土
3．旧床土
4．灰色粘土
5．暗褐色粘土
6．５よりやや明るい
7．濁灰色粘質土
8．暗灰色強粘質土

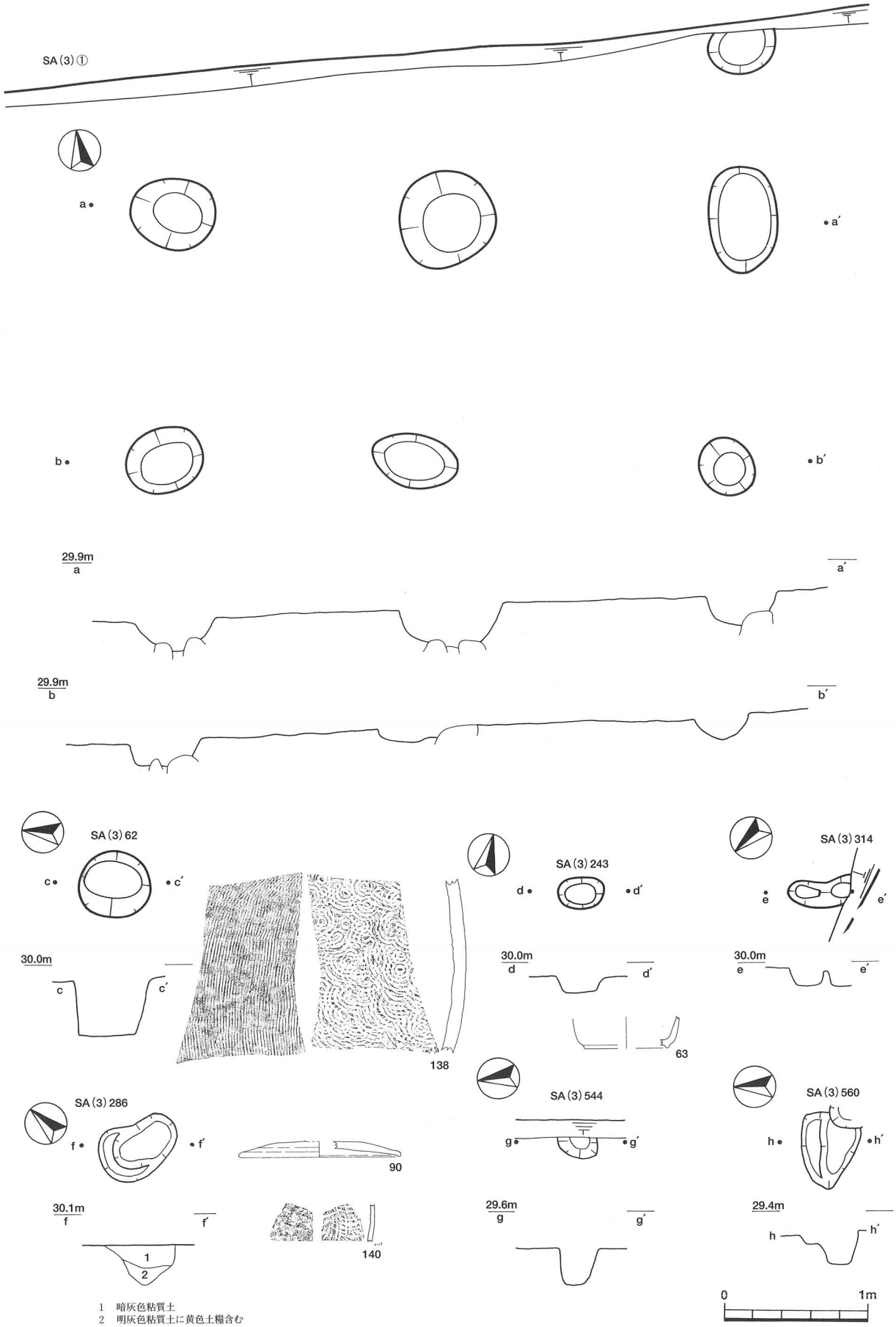
第54図　三納アラミヤ遺跡（第３次）B区東壁・C区南壁　土層断面図（1／40）



第55図　縄文時代遺構全体図（1/400）

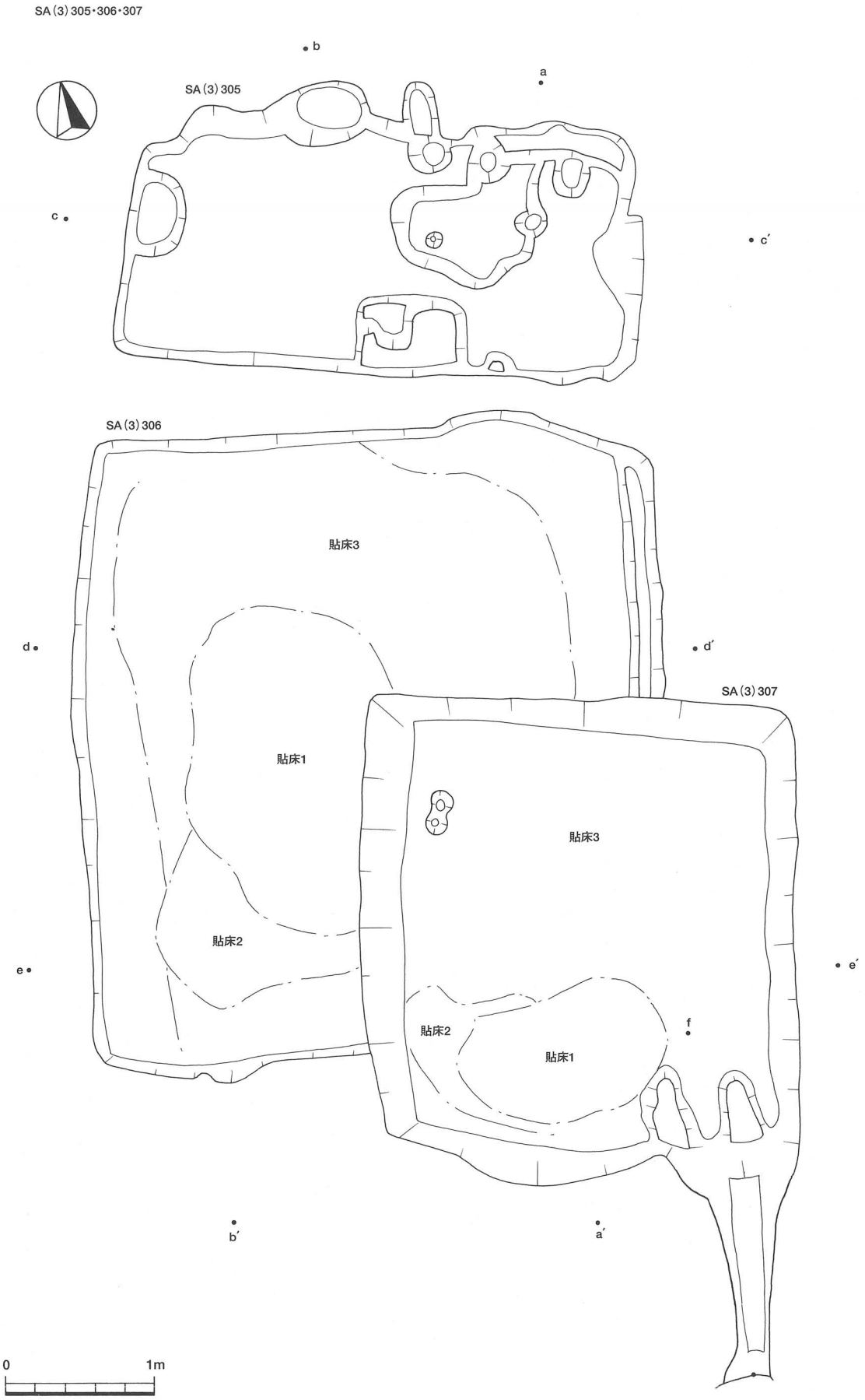


第56図　古代遺構全体図（1/400）

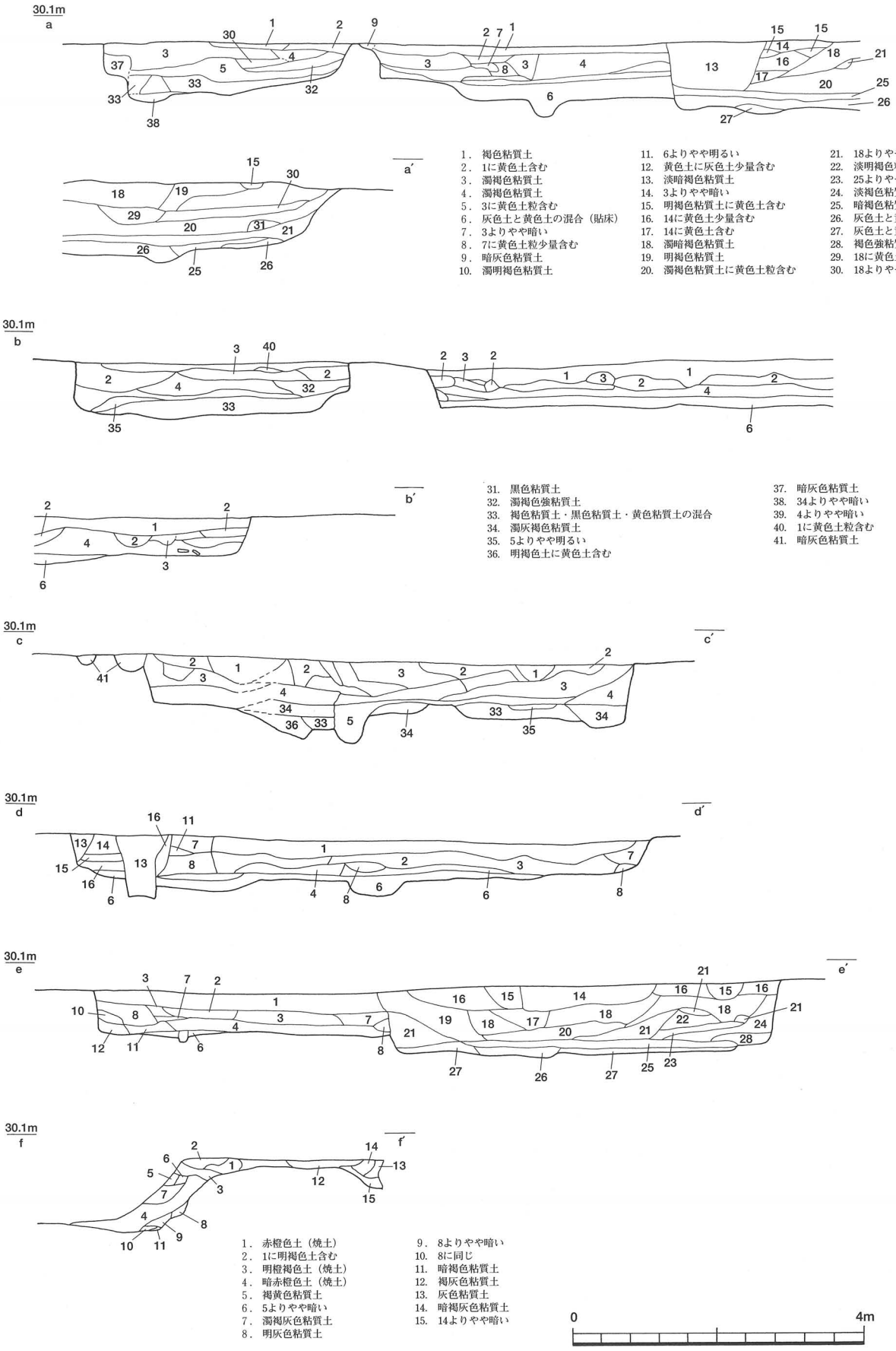


1　暗灰色粘質土
2　明灰色粘質土に黄色土糧含む

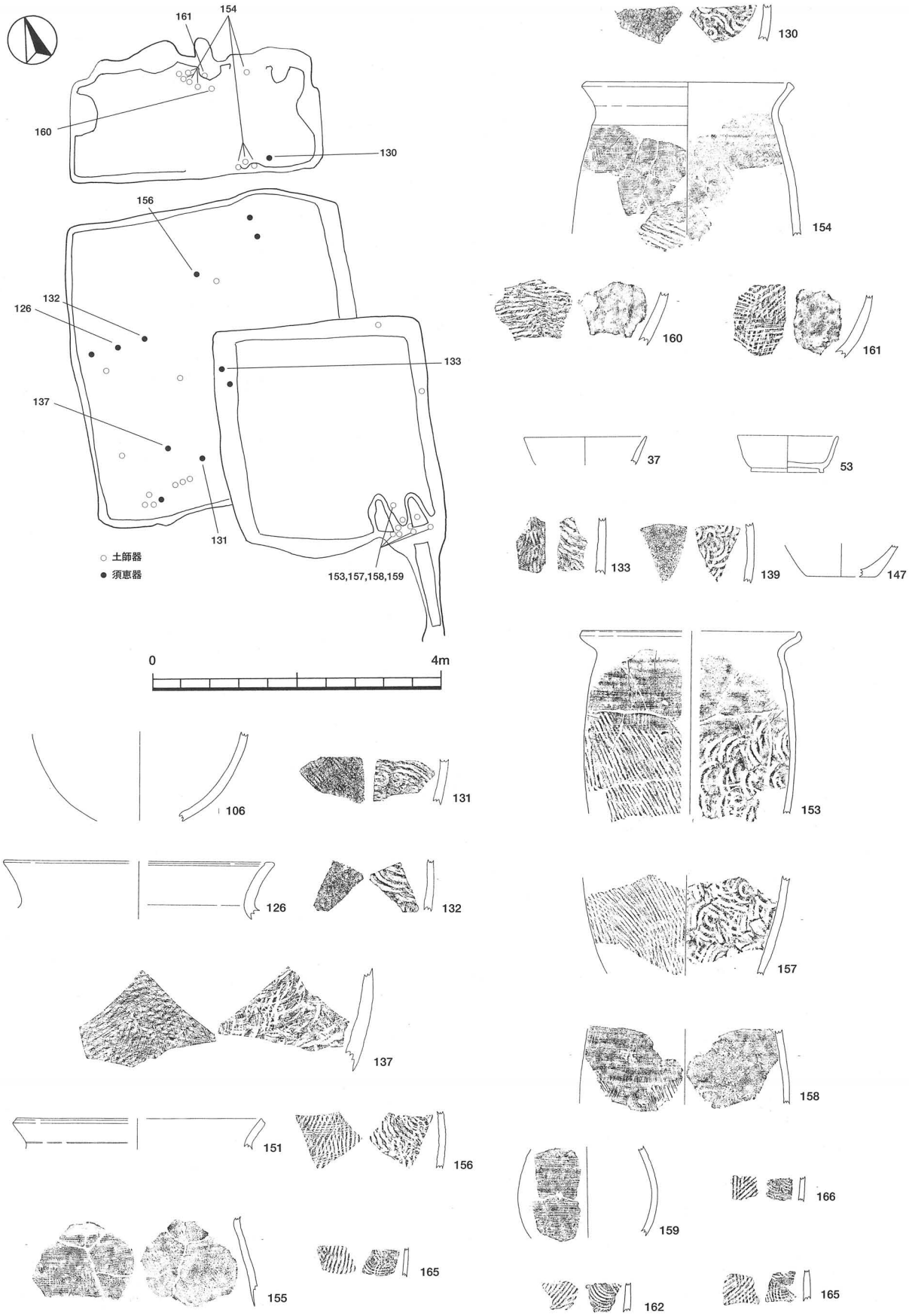
第57図　遺構実測図　掘立柱建物SA(3)①ピットSA(3)62・243・286・314・544・560（1／40）



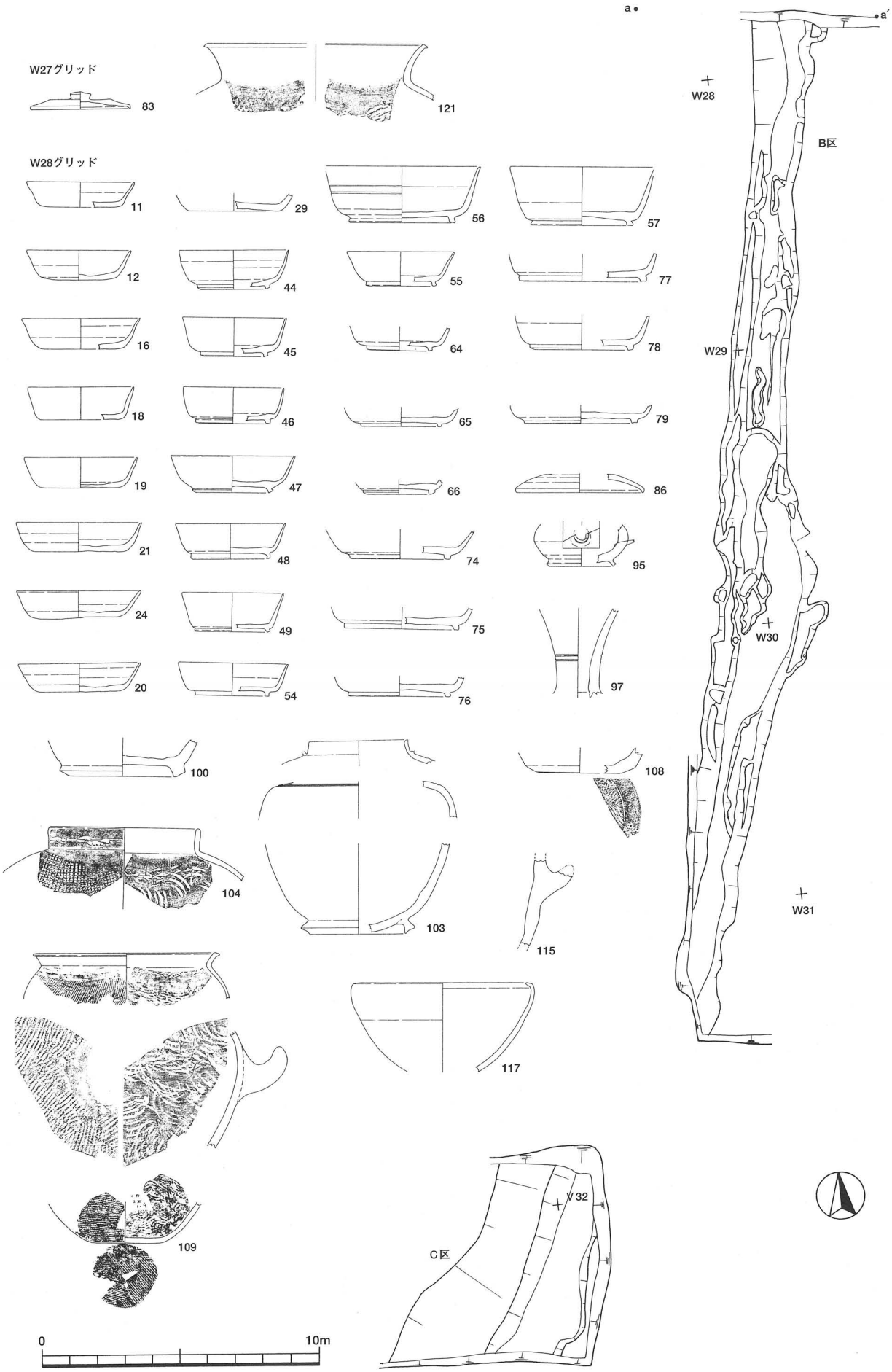
第58図　遺構実測図　土坑SA(3)305　竪穴建物306・307（1／40）



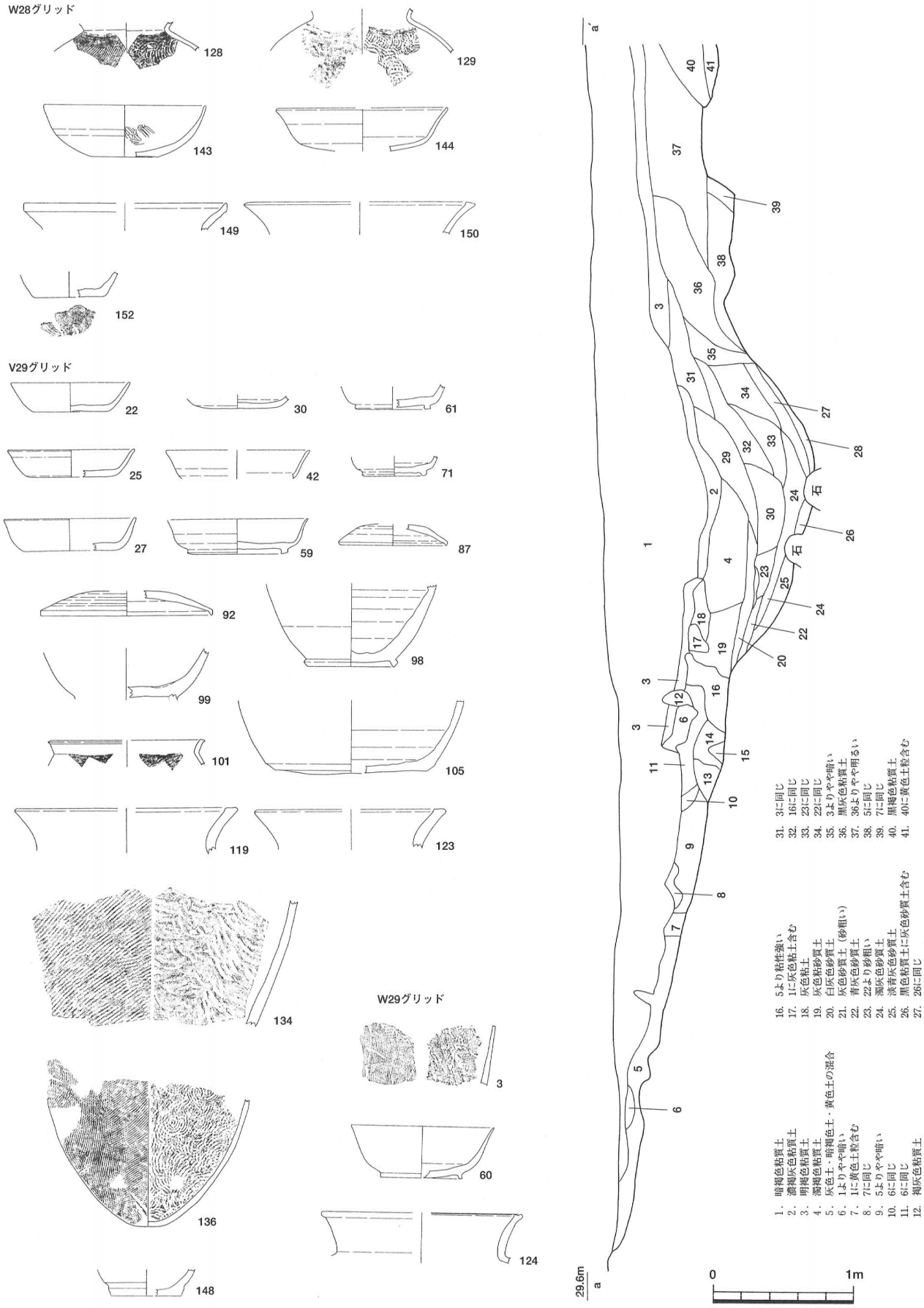
第59図　遺構実測図　土坑(3)305　竪穴建物306・307（1／80）



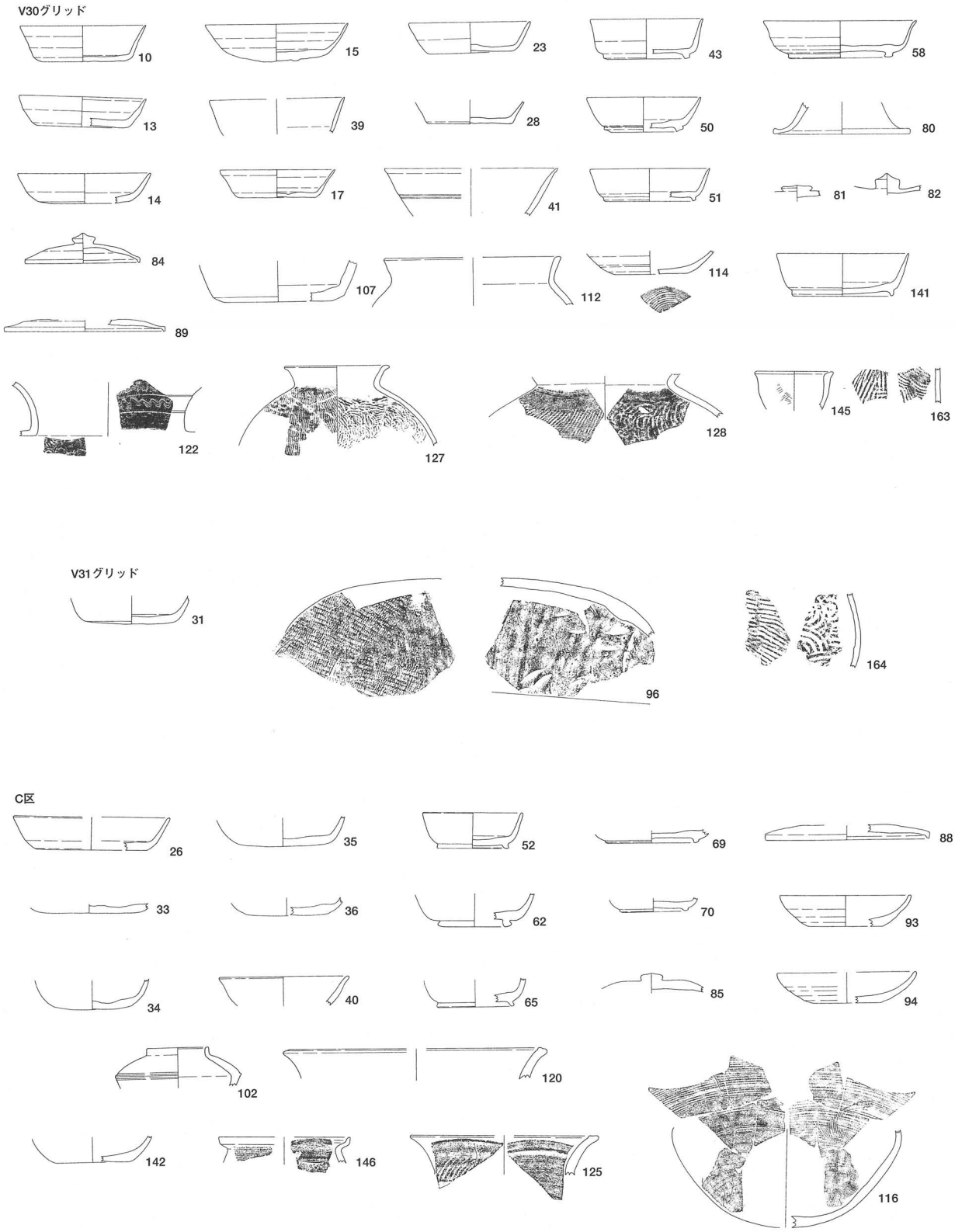
第60図　遺構出土状況　土杭SA(3)305　竪穴建物SA(3)306・307（1／80）



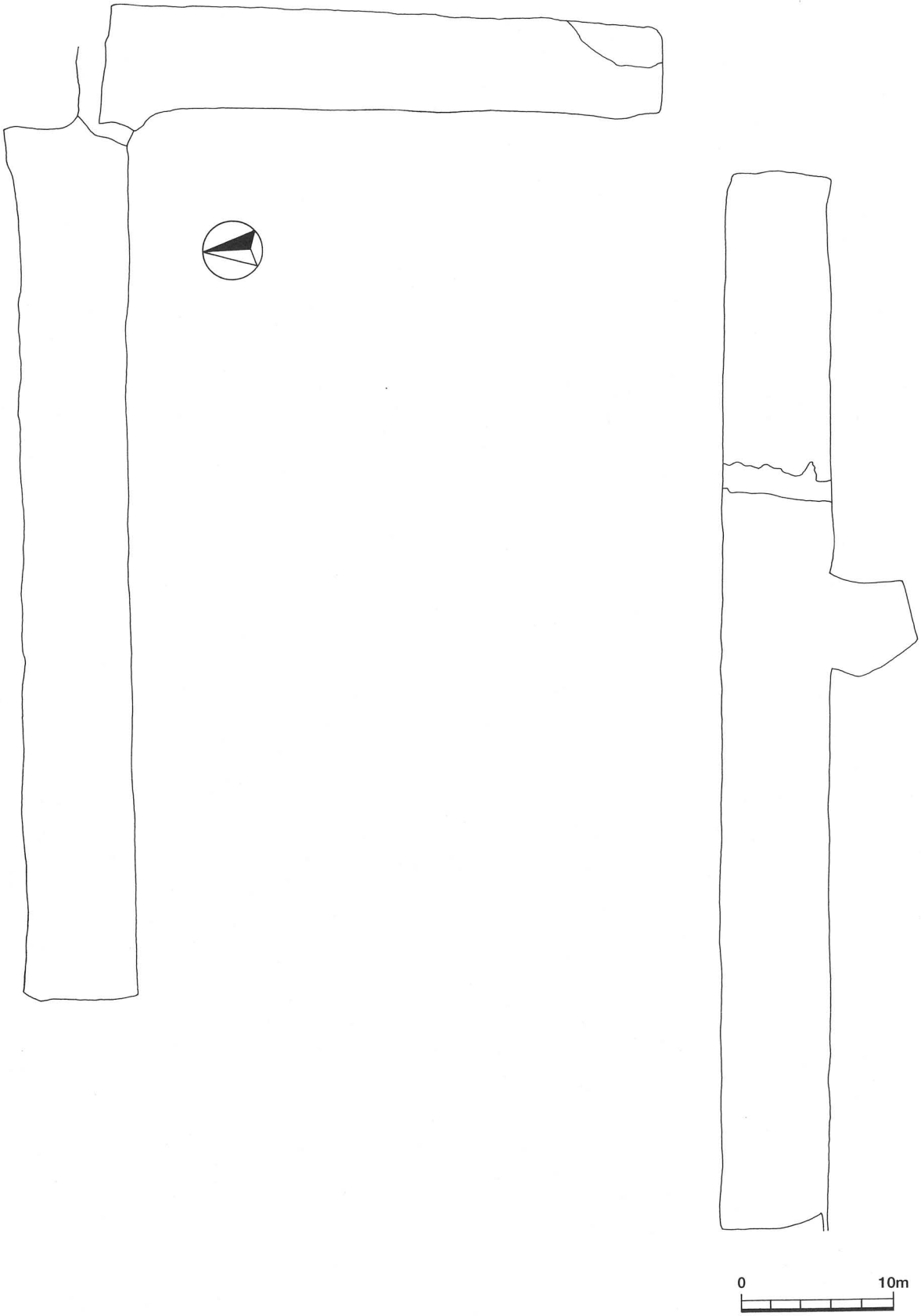
第61図　遺構実測図　SA(3)河川(1／200)



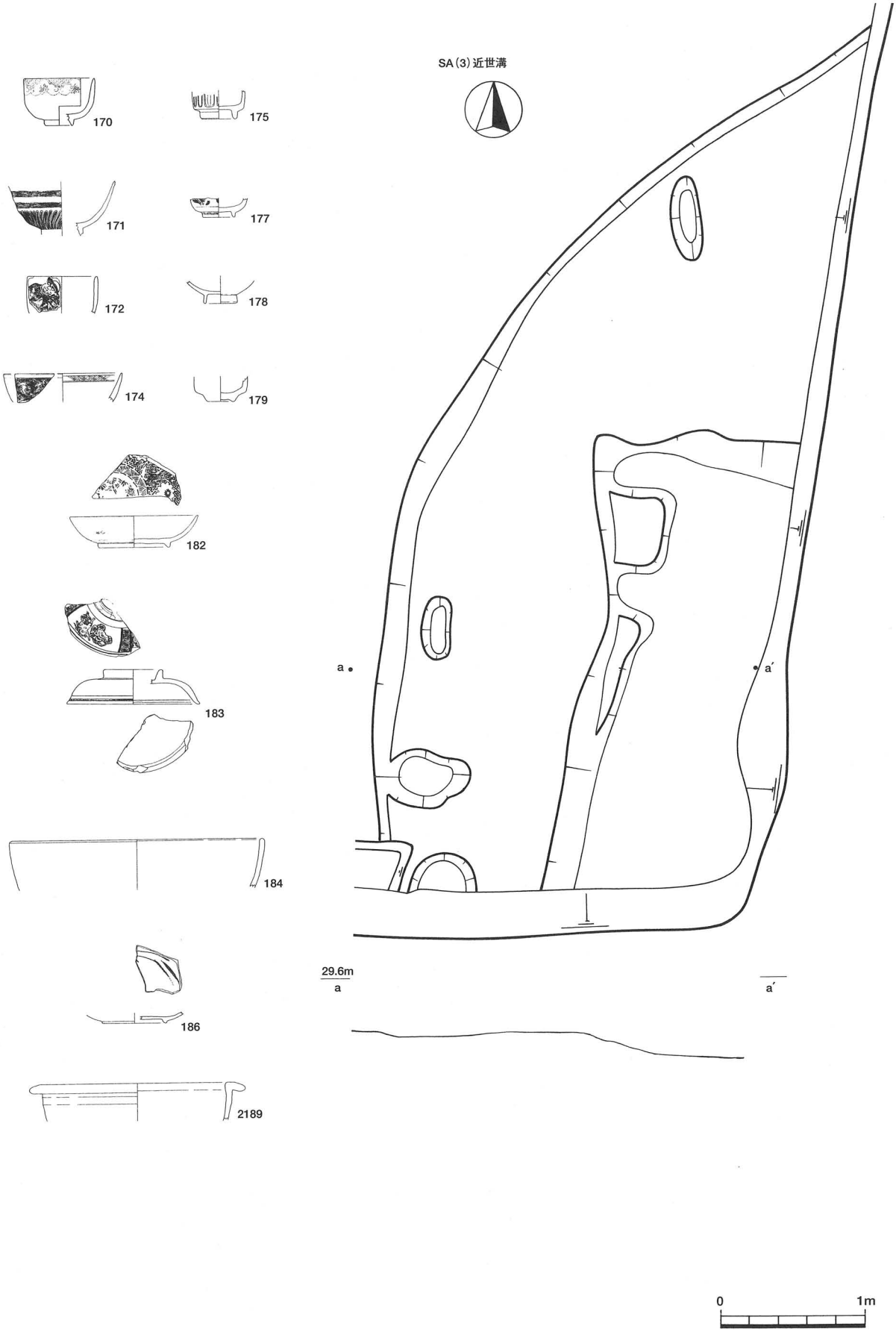
第62図　遺構実測図　SA(3)河川（1／40）



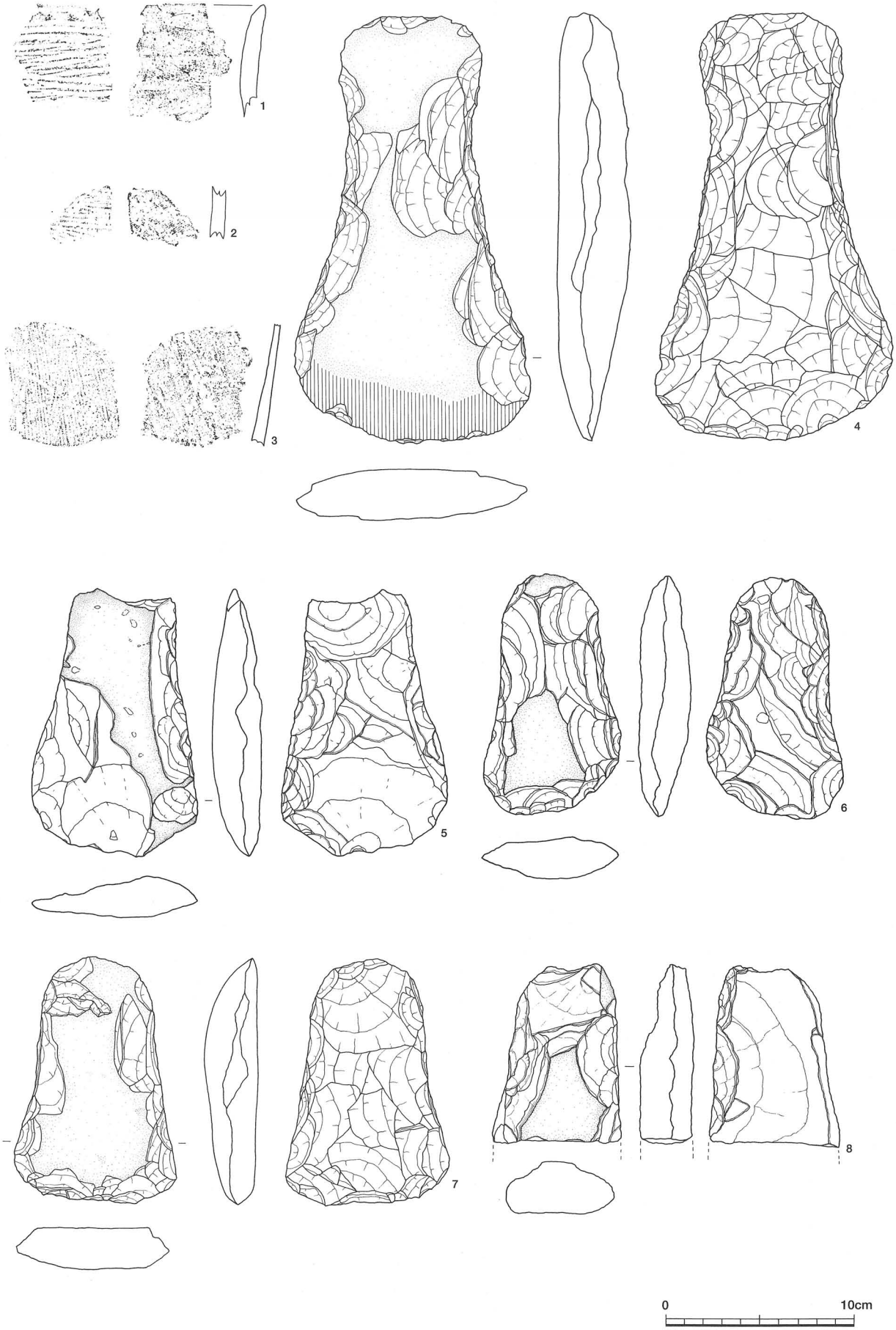
第63図　遺構実測図　SA(3)河川



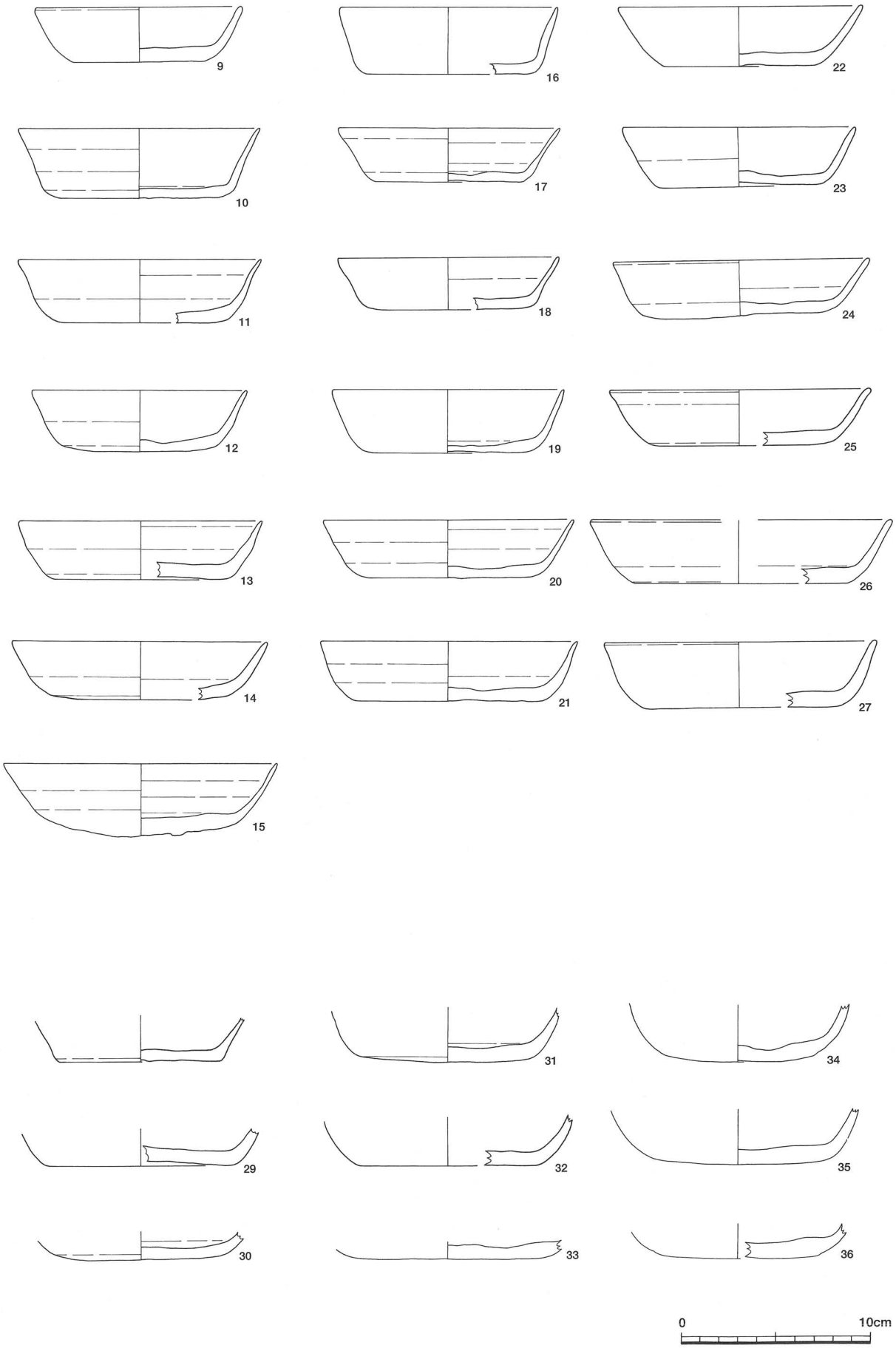
第64図　近世・近代遺構全体図　（1／400）



第65図　遺構実測図　SA(3)近世溝　(1／40)

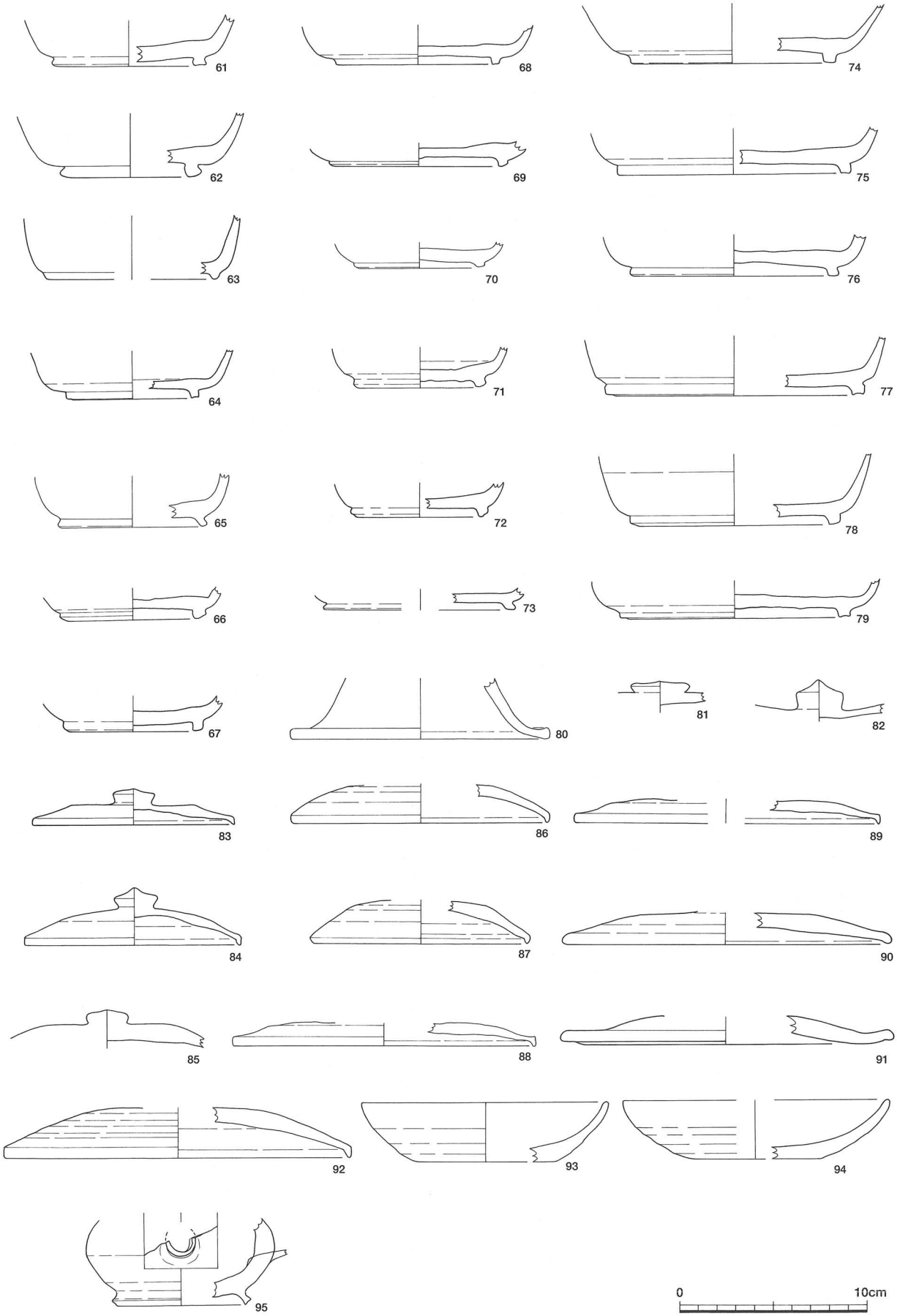


第66図　三納アラミヤ遺跡（第３次）遺物実測図（1）（1／3）

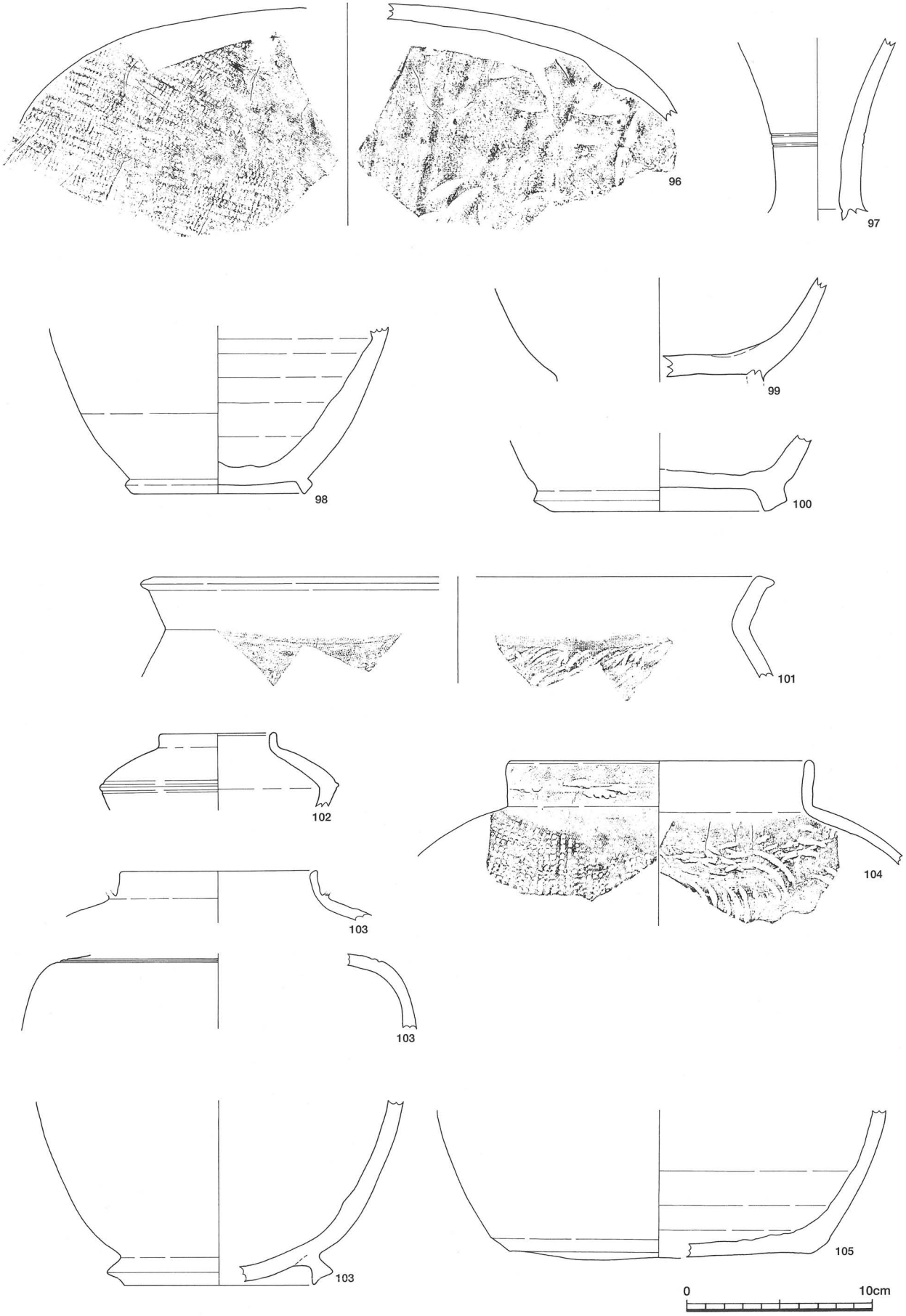


第67図　三納アラミヤ遺跡（第３次）遺物実測図（1）（1／3）

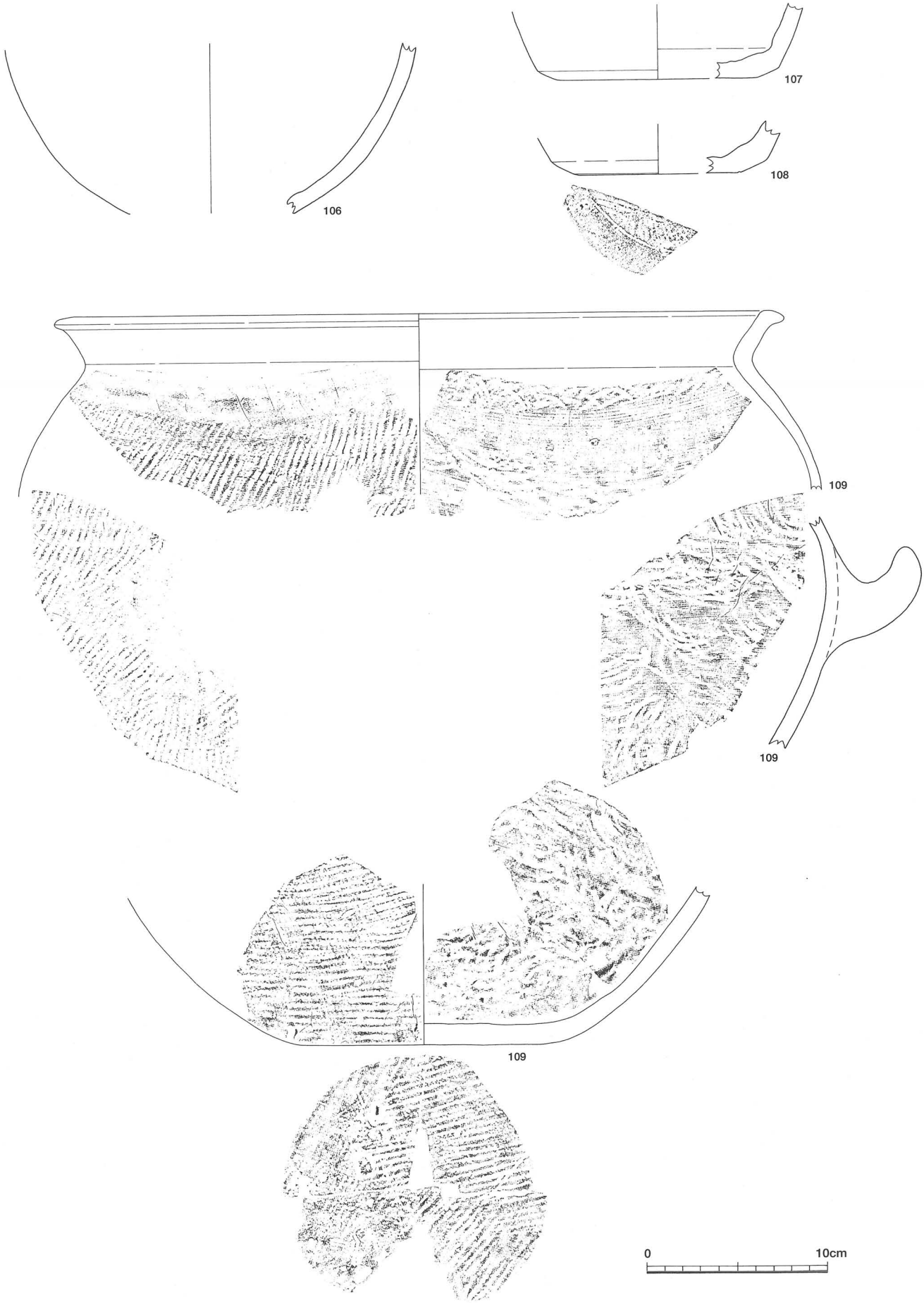
第68図　三納アラミヤ遺跡（第３次）遺物実測図（3）（1／3）



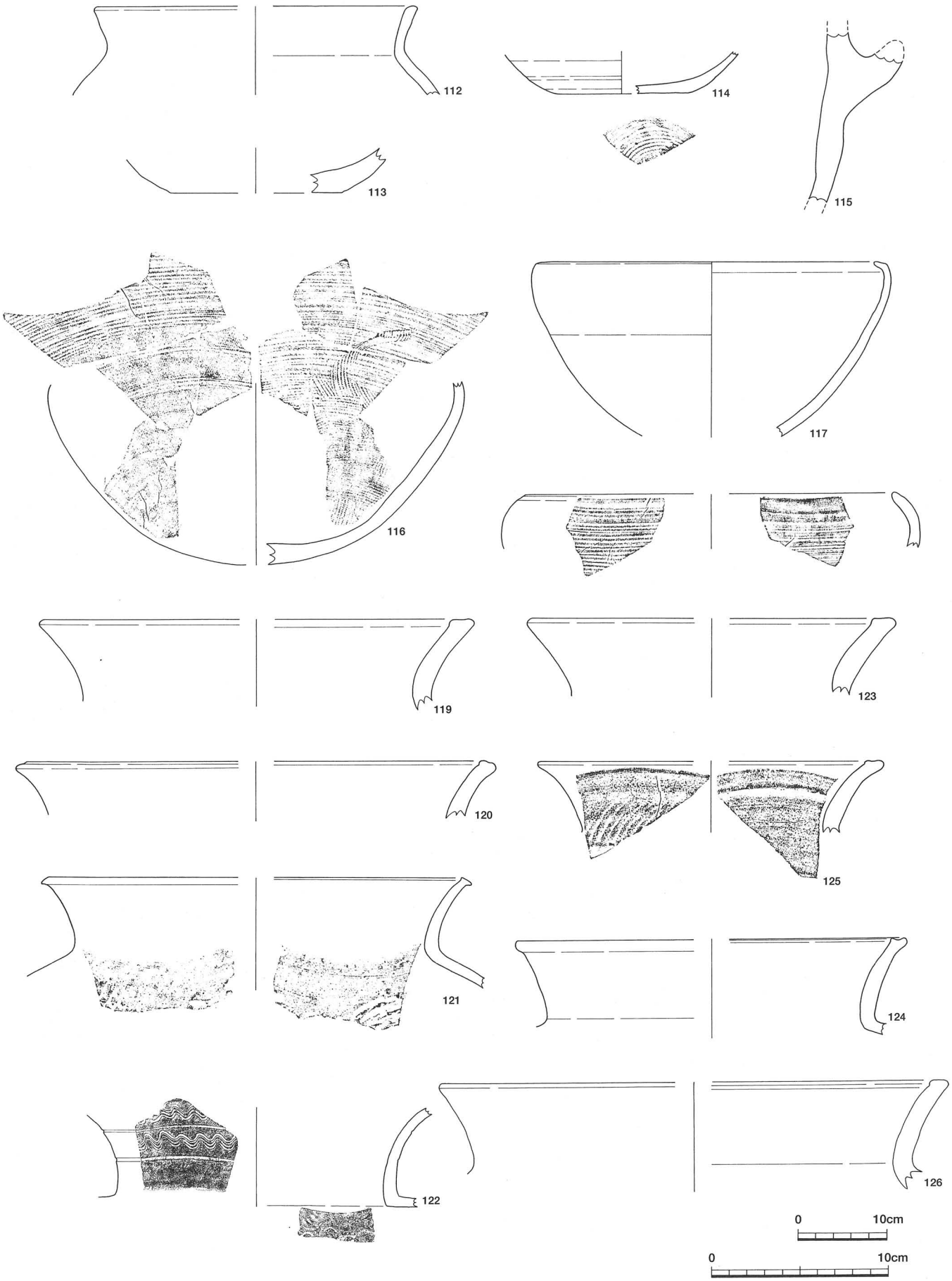
第69図　三納アラミヤ遺跡（第３次）遺物実測図（4）（1／3）



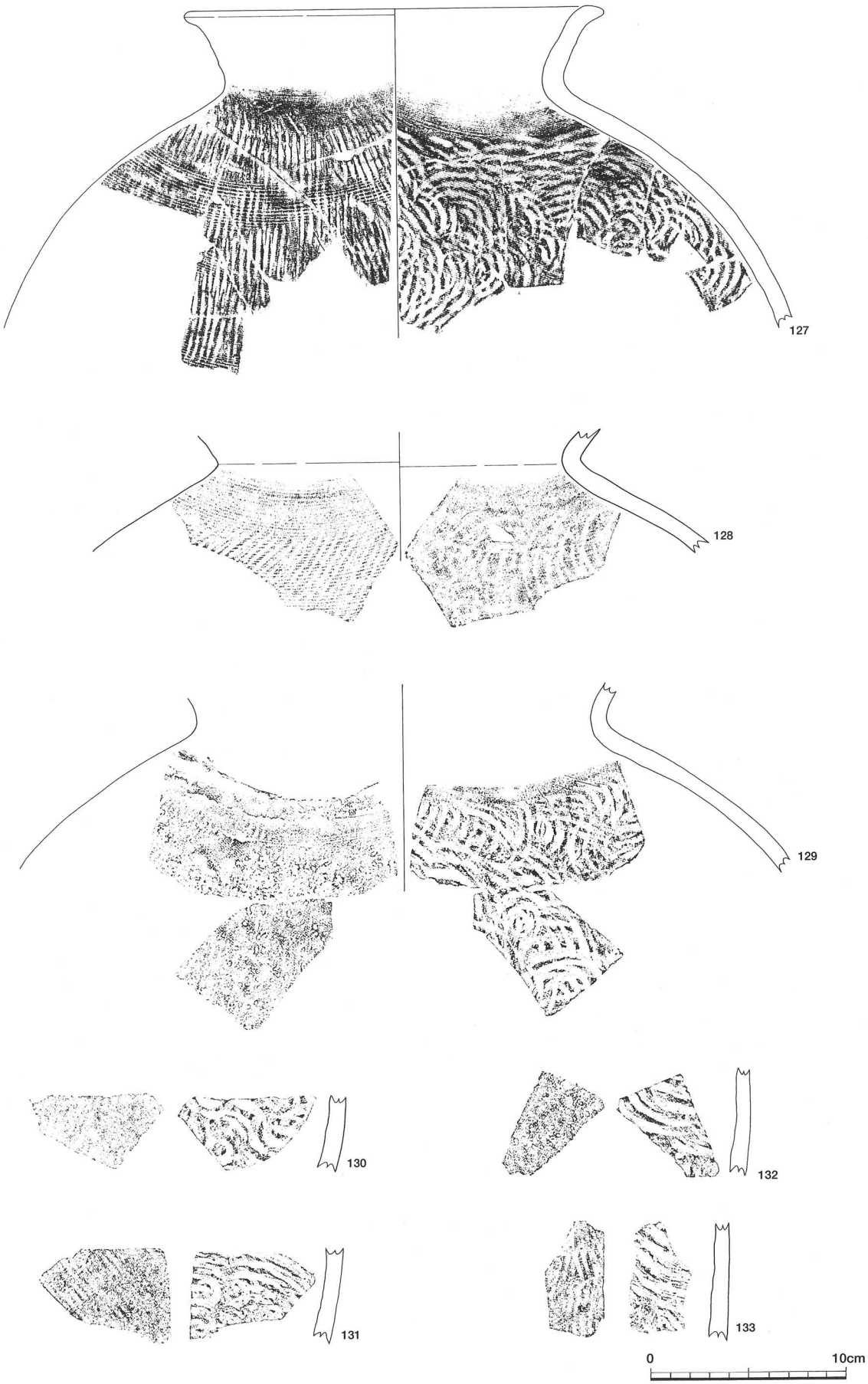
第70図　三納アラミヤ遺跡（第３次）遺物実測図（5）（1／3）



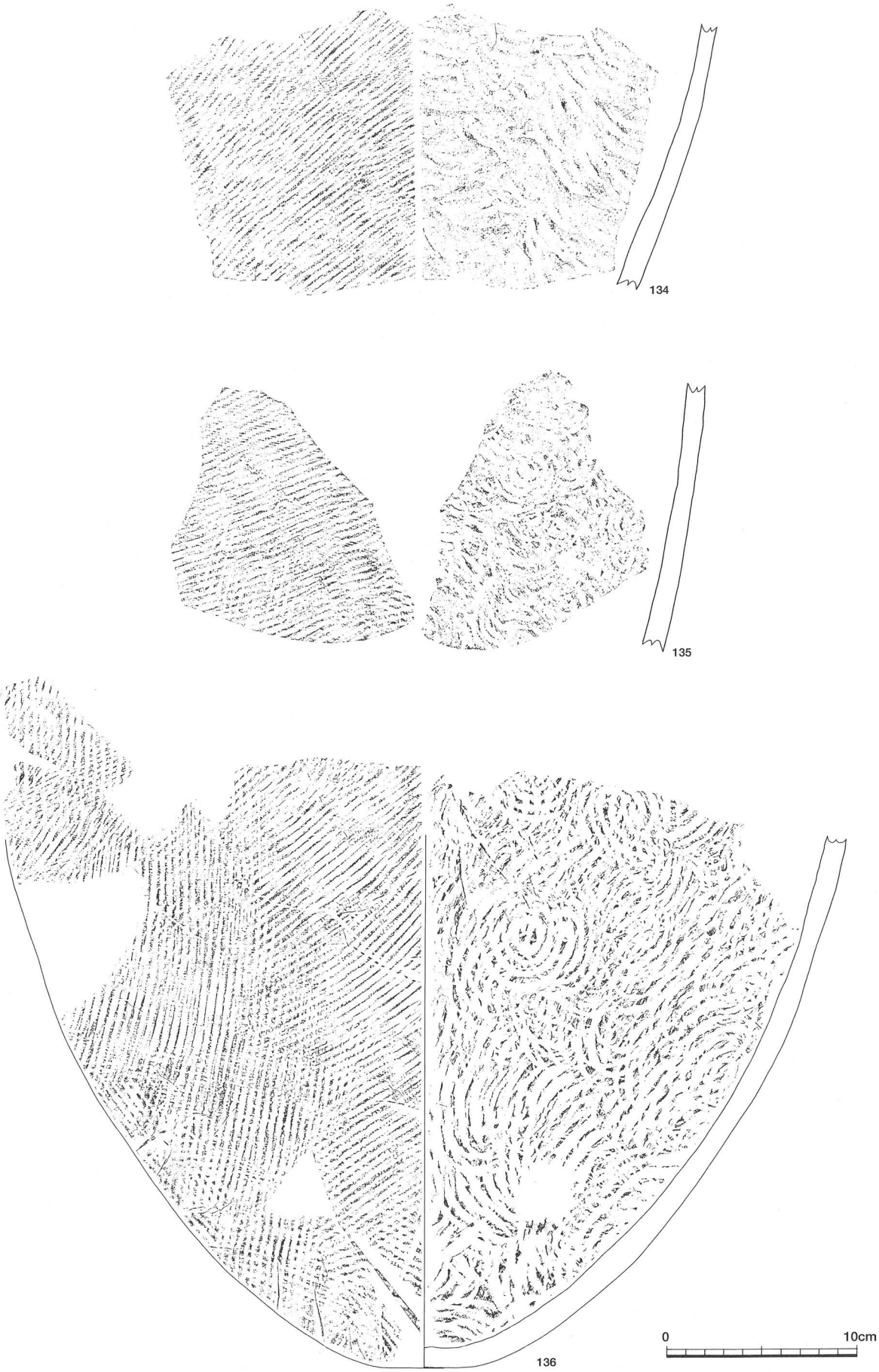
第71図　三納アラミヤ遺跡（第３次）遺物実測図（6）（1／3）



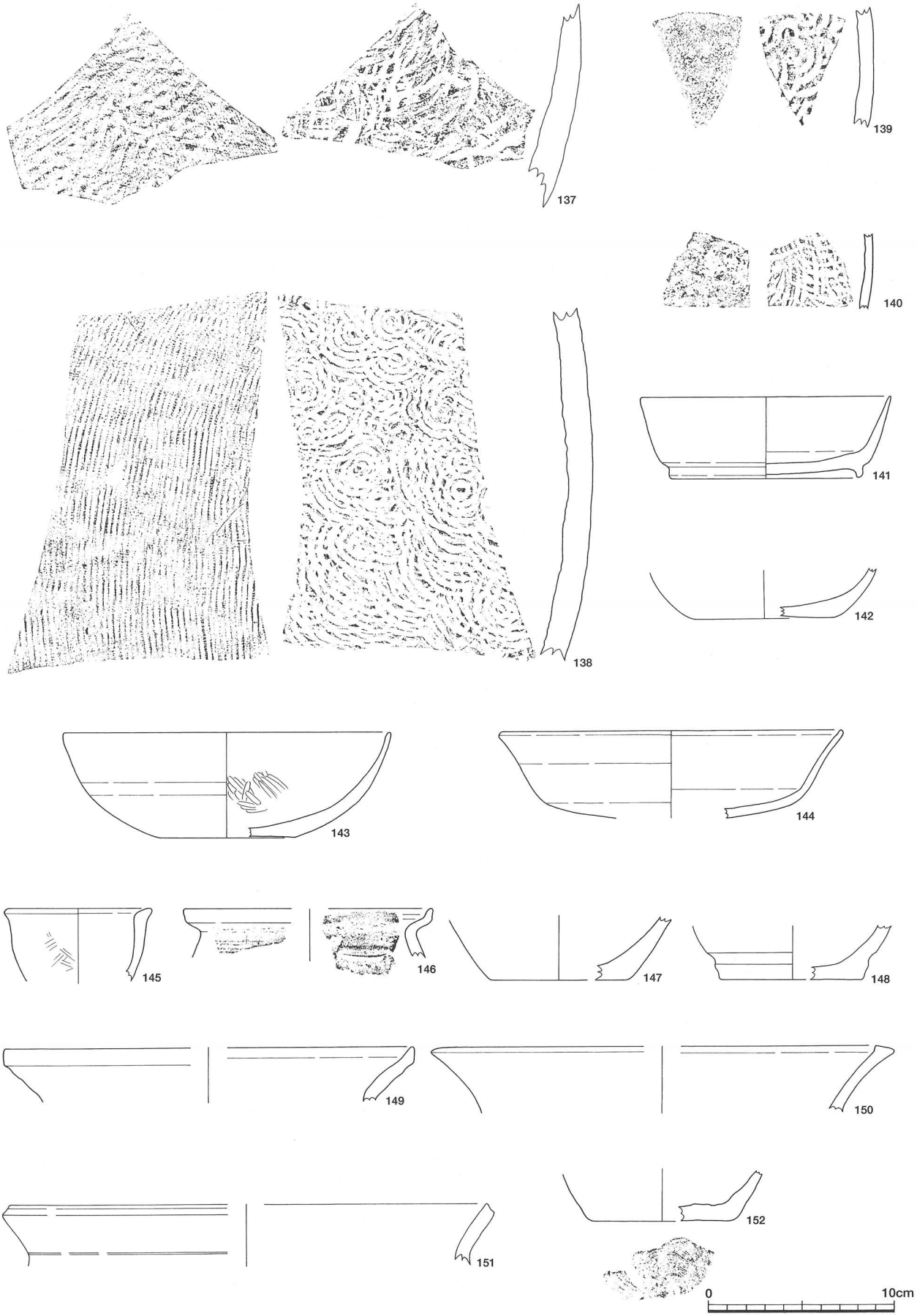
第72図　三納アラミヤ遺跡（第３次）遺物実測図（7）（1／3）



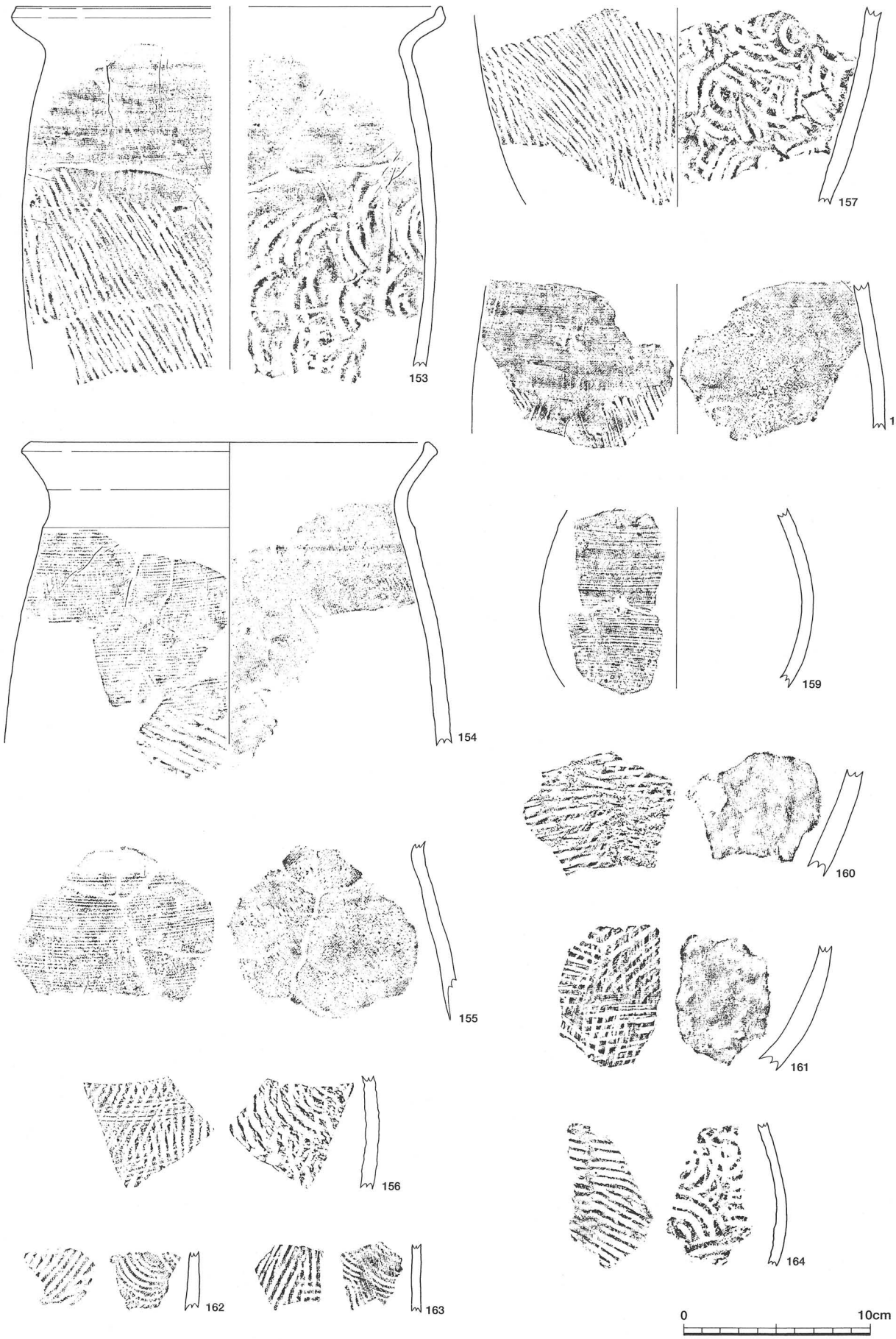
第73図　三納アラミヤ遺跡（第３次）遺物実測図（8）（1／3）



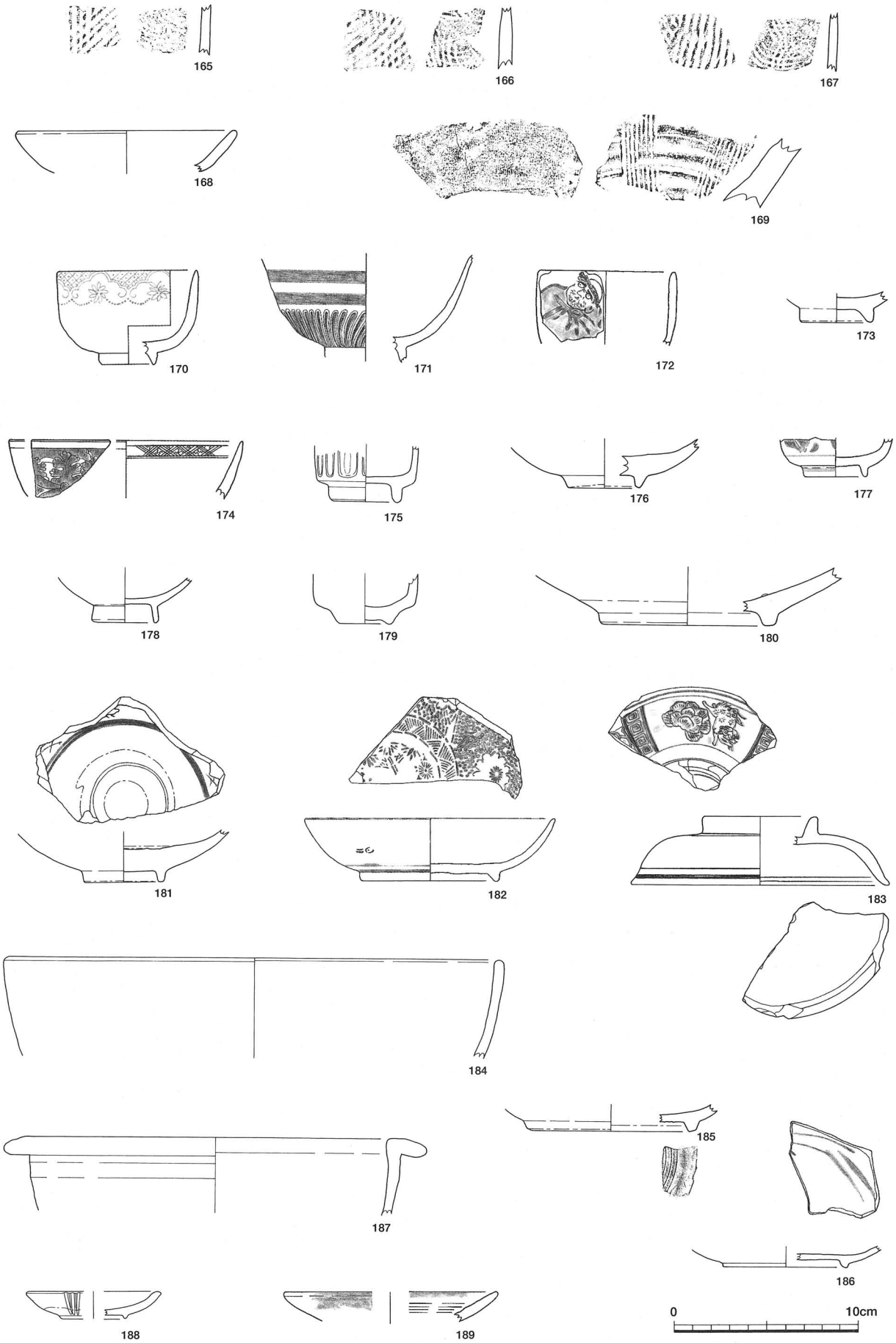
第74図　三納アラミヤ遺跡（第３次）遺物実測図（9）（1／3）



第75図　三納アラミヤ遺跡（第３次）遺物実測図（10）（1／3）



第76図　三納アラミヤ遺跡（第３次）遺物実測図（11）（1／3）



第77図　三納アラミヤ遺跡（第３次）遺物実測図（12）（1／3）

第5章　藤平田ナカシンギジ遺跡（第１～３次調査）

第１節 調査と報告の方法

藤平田ナカシンギジ遺跡は野々市町中南部土地区画整理事業に先立って、平成10年10月22日～11月6日にかけて実施された分布調査によって発見された遺跡である。

分布調査は事業区域内に平面１×１ｍの試掘坑を225箇所設定し、地山面が確認される深度まで掘削、平面および土層断面の観察を行った。その結果通称“ナカシンギジ”と呼ばれる農地一帯から遺構・遺物が検出されたため、約28,000㎡を新規の埋蔵文化財包蔵地と確認し、藤平田ナカシンギジ遺跡と命名された。

区画整理事業に伴う発掘調査は平成15・16年度に3次にわたって実施した。

発掘調査では、各年次調査区に公共座標に基づく10×10ｍのグリッドを設定し、北西隅の杭番号でその区画を呼称した。各区画は更に5×5ｍの４つの区画に分け北西、北東、南西、南東の各区画をそれぞれa、ｂ、ｃ、ｄと呼称している。遺構の掘削は、基本的に遺構を半裁して断面の観察を行って土色や堆積状況を観察し、必要に応じて写真や図面による記録保存を行った。

遺構の報告にあたっては、便宜上各調査区をA～C区に分かち（第78図）グリッド番号と共に記載した。個々の遺構の名称は各遺構番号の前に藤平田ナカシンギジ遺跡を示すTNSと(1)、(2)といった調査年次を組み合わせ、それぞれ藤平田ナカシンギジ遺跡（第1次）：TNS(1)、（第2次）：TNS(2)、（第3次）：TNS(3)とする。時代・種類・グリッドに関係なく遺跡・調査年次ごとに１から通しで調査番号を付けている。遺物の総数は、パンケースで第1次調査2箱、第2次調査1箱、第3次調査1箱である。

遺構・遺物の説明及び遺物図版・観察表・出土遺物の機種形式については第3章第1節を参照されたい。

第２節 基本層序(第91図)

藤平田ナカシンギジ遺跡の土層は北側と南側では若干異なる様相を呈している。北側のA区は上層から耕土・床土・濃灰色粘質土・暗灰色粘質土・淡灰色粘質土の順で堆積している。濃灰色粘質土は中近世、暗灰色粘質土は古代・淡灰色粘質土はそれ以前の覆土である。南側のD区では上層から耕土・床土・褐灰色粘質土・黒褐色粘質土・灰黄褐色粘質土・黒色粘質土となっている。褐灰色粘質土は中世、黒褐色粘質土以下は古墳時代以前と思われる。

第３節 遺構

(1)古墳時代以前の遺構(第92図)

a)土坑

TNS(1)148(第93図、図版29)

A区L13グリッドに位置する。平面形は北側が突出した不整な五角形で径340×205cm、深度は8cmを測る。北端のピット状の深度は22cmである。覆土は淡灰色土である。時期は弥生時代末期である。月影式の甕(2)や炭が出土している。

TNS(1)172(第93図、図版29)

A区L14グリッドに位置する。南側が調査区外のため全体の規模は不明だが、南北106×東西140cm、深度は10cmを測る。覆土は淡褐色土である。時期は縄文時代晩期～弥生時代初頭であろう。遺構の

全域から粗製の深鉢(1)の破片が出土している。

TNS(1)335(第93図)

A区N14グリッドに位置する。平面形は不整形で径365×284cm、深度12cmで中央ピット状の最深部は32cmを測る。遺構内に3つのピットを持つ。覆土は淡灰色土である。時期は縄文時代晩期～弥生時代初めか。図示はしていないが粗製深鉢と思われる小片が出土している。

b)ピット

TNS(1)120(第93図、図版30)

A区K12グリッドに位置する。平面形は楕円形で径80×52cm、深度は最深部で15cmを測る。覆土は淡褐色土である。時期は古墳時代前期である。土師器壺(9)が出土している。

TNS(1)168(第93図)

A区L13グリッドに位置する。平面形は略円形で径34×32cm、深度は13cmを測る。覆土は淡褐色土である。時期は弥生時代～古墳時代か。図示していないが土師器が1点出土している。小片のため機種等は不明である。

TNS(1)274(第93図)

A区M13グリッドに位置する。平面形は略円形で径30×28cm、深度は16cmを測る。覆土は淡褐色土である。時期は弥生時代～古墳時代か。図示していないが土師器が1点出土している。小片のため機種等は不明である。

TNS(1)439(第93図)

A区O13グリッドに位置する。平面形は不整な楕円形で径100×47cm、深度は14cmを測る。覆土は淡灰色土である。時期は縄文時代晩期か。図示はしていないが底部より縄文土器の小片が出土している。

TNS(1)448(第93図)

A区O13グリッドに位置する。平面形は楕円形で径100×47cm、深度は14cmを測る。覆土は淡灰色土である。時期は縄文時代晩期か。図示はしていないが縄文土器の小片が出土している。

TNS(1)541(第93図)

A区P14グリッドに位置する。平面形は略楕円形で北側が切れているが南北50×28cm、深度は28cmを測る。覆土は淡褐色土である。時期は弥生時代か。図示はしていないが弥生土器の小片が出土している。

(2)古代の遺構(第94図)

a)道路状遺構

TNS(1)580・585(第96図、図版30)

A区Q12・13グリッドに位置する。N－43°－Eの方向に2条の溝TNS(1)580・TNS(1)585が平行に走ており道路状遺構の側溝と考えられる。確認できた長さは約12m、路面の幅は2.8mである。TNS(1)580は2箇所で途切れているが、合計の長さが10.5m、幅は40～104cmで、深度は8cmを測る。TNS(585)は長さ13.2m、幅42～83cmで、深度は22cmを測る。覆土はTNS(1)580・TNS(1)585ともに暗灰色粘質土である。硬化面は確認できなかった。路面内には若干のピットが見られるが、TNS(1)580・TNS(1)585とは土色が異なり道路廃絶後のものと思われる。遺物の出土はなく、また本遺跡からは他の古代遺構は検出されていないが、覆土の土色及び清金アガトウ遺跡で検出された道路状遺構との方向などの類似性から古代の遺構と判断した。

(3)中世の遺構(第95図)

a)掘立柱建物

１号掘立柱建物TNS(1)①(第96図、図版31)

B区Q18グリッドに位置する。東西2間×南北2間以上の総柱建物で、北側が調査区外に伸びているため全体の規模は分からない。軸はN－16°－Eである。東西の長さは5m、柱間距離は2.4・2.6m、南北は柱間距離1.8m・1.2mである。柱穴は円形ないし楕円形で径28～44cm、深さは8～44ｃｍ、覆土は暗褐灰色土を主とする。遺物の出土はなかったが、覆土の土色から中世の遺構と考えられる。

２号掘立柱建物TNS(1)②(第97図、図版31)

A区Q14グリッドに位置する。南北2間×東西3間以上の側柱建物で、東側が調査区外に伸びているため全体の規模は分からない。軸はN－24°－Eである。南北の長さは4.7m、柱間距離は2.4・2.3m、東西は柱間距離1.8m・1.2mである。柱穴は円形ないし楕円形で径28～44cm、深さは8～44ｃｍ、覆土は暗褐灰色土を主とする。遺物の出土はなかったが、覆土の土色から中世の遺構と考えられる。

３号掘立柱建物TNS(1)③(第97図)

A区O12・13グリッドに位置する。東西4間×南北1間の総柱建物である。軸はN－43°－Eである。平面形はやや歪な長方形を呈する。東西の長さは8.0m、柱間距離は1.6～2.5m、南北の長さは1.8mを測る。南側柱列では一部柱穴を確認することはできなかった。柱穴は円形ないし楕円形で深さは8～40ｃｍ、覆土は暗褐灰色土を主とする。遺物の出土はなかったが、覆土の土色から中世の遺構と考えられる。

b)平行溝群

藤平田ナカシンギジ遺跡では3箇所で平行溝群が検出された。当遺跡周辺の粟田遺跡や三納トヘイダゴシ遺跡・三納ニシヨサ遺跡でも平行溝群が検出されており、畑跡のような耕作に伴う遺構と考えられる。

TNS(1)平行溝群(第99図、図版32)

B区K18・L18グリッドに位置する。平均長3.0m、平均幅26cm、深度は6～14cmを測る。覆土は暗褐灰色土を主とする。最大長は6.2m、最大幅は34cmである。軸E－22～30°－Sで北西－南東を向く。遺物はない。

覆土の土色から中世のものと判断した。

TNS(2)平行溝群(第98図、図版33)

D区M27・M28・N27・N28グリッドに位置する。平行溝群の東側はかつて鞍部地形だった場所で、鞍部が埋まった後の黒褐色土上に掘られている。平均長6.3m、平均幅34cm、深度は6～22cmを測る。最大長は13.1m、最大幅は41cmである。軸E－4～15°－Sでおおむね東西方向である。溝の長さにより約7～8mのものと5m前後の2種類に分けられる。覆土はいずれも灰黄褐色土を主とする。遺物はない。覆土の土色から中世のものと判断した。

TNS(3)平行溝群(第98図、図版32・33)

C区I22グリッドに位置する。平均長4.0m、平均幅23cm、深度は4～16cmを測る。覆土は暗褐灰色土を主とする。最大長は6.6m、最大幅は26cmである。軸E－58～62°－Sで北西－南東を向く。遺物はない。

覆土の土色から中世のものと思われる。

(4)近世の遺構

a)土坑

TNS(1)288(第100図)

A区M12グリッドに位置する。平面形は略楕円形で、径304×223cm、深度は最深部で20cmを測る。中心が一段低くなっているほか、遺構内にいくつかのピットを持つ。覆土は褐灰色土に灰色砂質土を含む。煙管(36－1・36－2)が出土している。

b)溝

TNS(3)77(第100図)

E区P32グリッドに位置する南北に流れる溝である。検出した長さは約8m、幅約2.9mで深度は32cmを測る。覆土は青灰色砂質土・黄褐色粘質土を主とする。図示はしなかったが肥前磁器や土師器の小片が出土している。

第4節 遺物

遺物の記述には、本文・観察表・図面図版・写真図版を用いる。当調査区からは縄文～近世までの遺物が出土している。

(1)古墳時代以前の遺物(第101・102図、図版35)

土　器(1～9)　1は柴山出村式の深鉢である。2・3は月影式の甕の口縁である。4～9は古墳時代の甕である。5は高畠式か。7・8・9は胎土に小礫を多く含む。9は壺である。赤彩が施されている。

石　器(10～15)　10～14は打製石斧である。完形は10～12の3点で形状は短冊形である。石質は10・11が凝灰岩、12は砂岩である。13・14は欠損している。石質は凝灰岩である。藤平田ナカシンギジ遺跡から出土した打製石斧はすべて包含層から出土している。15は磨石である。

(2)古代の遺物(第102図、図版35)

須恵器(16・17)　須恵器有台杯を2点図化した。2点とも底部である。遺構に伴うものはなく、包含層からの出土である。

(3)中世の遺物(第103図、図版35)

土　器(18～21)　中世土師器の皿は口縁部の残るもの4点を図化した。口径は9cm台以下で口縁部周縁に油煙痕が残る。藤田編年Ⅳ期である。

陶磁器(22～26)　陶磁器は越前鉢22、甕23、瀬戸美濃縁釉小皿 24、天目茶碗25、折縁深皿ないし直縁大皿26、輸入品の青磁碗27・28を図化した。いずれも小片のため時期は特定できないが14～15世紀頃と思われる。26は底部に回転糸切痕が残る。27は内面見込に印花文がある。

石製品(30・31)　砥石30は鳴滝産の仕上げ砥石である。31は石臼の下臼である。磨耗が著しく溝は確認できない。

(4)近世の遺物(第103図、図版35)

磁　器(32～35)　32・33は碗、34・35は皿である。34は蛇の目釉剥ぎが施されている。

金属製品(36－1・36－2)　36－1・36－2は煙管で同一個体である。TNS(1)288から出土した。

第5節　総括

古墳時代以前

本遺跡の北端A区から縄文時代晩期～弥生時代初頭の土器・石器及び弥生時代末期～古墳時代前期にかけての土器が包含層やピット・土坑といった遺構から出土している。このうち縄文時代晩期～弥生時代初頭の土器や打製石斧の出土については粟田遺跡や三納ニシヨサ遺跡など周辺の遺跡でも広く見られる。弥生時代末期～古墳時代前期の土器についてはあまり見つかっていないが、本遺跡の南に位置する上新庄ニシウラ遺跡や荒屋遺跡ではこの時期の集落跡が検出されており、本遺跡との関連が考えられる。

古代

道路状遺構TNS(1)580・585を1条検出した。本遺跡の周辺では三日市A遺跡・三日市ヒガシタンボ遺跡・粟田遺跡・清金アガトウ遺跡・三納アラミヤ遺跡で古代の道路状遺構が検出されている。このうち三日市A遺跡の道路状遺構は路面幅約8mの規模をもち古代の官道である北陸道跡とされる。また三日市ヒガシタンボ遺跡のそれも路面幅約6mで第2次古代北陸道ともいうべき規模のものである。これに対して粟田遺跡・清金アガトウ遺跡・三納アラミヤ遺跡で検出された道路状遺構は方向はそれぞれ北北西－南南東・北東－南西・西北西－東南東であるが幅が約3～4mと狭く、TNS(1)580・585の路面幅も2.8mと規模はほぼ同じである。今回の調査区では1条の道路状遺構以外に目立った遺構は見つからなかったことから、周辺の集落間を結ぶ生活用の道路跡と推察される。

中世

主な遺構としては掘立柱建物3棟と平行溝群を検出している。掘立柱建物は北側のA・B区に点在しており、他の調査区からは検出されなかった。掘立柱建物の周辺からは竪穴状遺構や土坑など他の遺構は検出されなかった。これらの遺構は未調査区に存在する可能性はあるが、極めて少ない出土遺物と併せて当該期の集落としては近隣の三納ニシヨサ遺跡などとはかなり様相は異なるようである。平行溝群は本遺跡のほぼ中央にあたるB・C・D区から検出されている。確認できた平行溝群の深さは4～22cmと比較的浅く後世段階に削平されたものも少なくないと思われ、その他の調査区にも存在していた可能性は高い。本遺跡に隣接する三納トヘイダゴシ遺跡や三納ニシヨサ遺跡からも耕作地と考えられる平行溝群が検出されており、本遺跡はもっぱら畑作などの耕作地として活用され、検出された掘立柱建物も定住のためというよりは農作業などのための臨時的なものではなかったかと思われる。

遺跡の時期については乏しい遺物からは判断しにくいが、本遺跡の南東に14～15世紀を主体とする集落である三納ニシヨサ遺跡が所在しており、本遺跡は三納ニシヨサ遺跡に対する耕作地エリアと考え、同時期のものと判断したい。

近世

土坑1基と溝1条を検出している。土坑の性格は不明である。周辺に他の近世遺構は検出されていない。溝は旧用水とみられ、少量ながら近世全般の遺物が出土している。中世に引き続き近世も耕作地として活用され、今日に及ぶと考えられる。

参考文献

石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター　2005　『末松遺跡』

(財)石川県埋蔵文化財センター　2000　『野々市町末松遺跡群』

(社)石川県埋蔵文化財保存協会　1991　『粟田遺跡発掘調査報告書』

野々市町教育委員会　1992　『粟田遺跡第二次発掘調査報告書』

野々市町教育委員会　2000　『上林新庄遺跡・上林古墳・上林テラダ遺跡・下新庄タナカダ遺跡』

野々市町教育委員会　2000　『粟田遺跡藤平地区・清金アガトウ遺跡』

野々市町教育委員会　2003　『富樫館跡Ⅲ』

野々市町教育委員会　2006　『粟田遺跡(第10次)・三納アラミヤ遺跡(第1・2次)・三納トヘイダゴシ遺跡(第1・3次)

野々市町史専門委員会　2003　『野々市町史　資料編１』　石川県野々市町

北陸中世土器研究会　1997　『中・近世の北陸』　桂書房

第5表　藤平田ナカシンギジ遺跡（第1～3次）遺物観察表

弥生・古墳

掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	残存率	色調	色調	備考
1	1-9	TNS(1)172		弥生土器	深鉢	157			口縁1/4	外:にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	柴山出村式
2	1-11	TNS(1)148		弥生土器	甕	180			口縁1/10	外:にぶい黄橙	内:明黄褐	月影式
3	1-1～5	TNS(1)	A区L13グリ	弥生土器	甕	157			口縁1/4	外:にぶい黄橙	内:橙	月影式
4	1-6	TNS(1)	A区K13グリ	土師器	鉢	116			口縁1/7	外:灰黄褐	内:灰黄褐	
5	2-1	TNS(2)	D区中央	土師器	甕	169			口縁完形	外:浅黄橙	内:灰白	
6	2-2	TNS(2)	D区中央	土師器	甕	151			口縁1/6	外:にぶい赤褐	内:にぶい褐	
7	2-3	TNS(2)	D区中央	土師器	甕	171			口縁1/14	外:にぶい赤褐	内:にぶい褐	
8	2-4	TNS(2)	D区中央	土師器	甕	173			口縁1/14	外:にぶい赤褐	内:にぶい褐	
9	1-17	TNS(1)120	表面	土師器	壺				頸部完形	外:橙	内:橙	
掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	残存率	石材	重量(g)	備考
10	1-13	TNS(1)	A区	石器	打製石斧	155	74	24	完形	砂岩	312	
11	1-12	TNS(1)	B区	石器	打製石斧	154	75	27	完形	石英安山岩	412	
12	1-15	TNS(1)	A区	石器	打製石斧	138	66	28	完形	砂岩	384	
13	1-16	TNS(1)	A区	石器	打製石斧	54	52	16	基部のみ	緑色凝灰岩	62	
14	1-14	TNS(1)	A区	石器	打製石斧	94	90	20	刃部のみ	火山礫凝灰岩	200	
15	2-8	TNS(2)	D区西	石器	磨石	105	89	32	完形		470	

古代

掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	残存率	色調	色調	備考
16	2-14	TNS(2)	D区	須恵器	有台杯			116	底部1/6	外:灰白	内:灰白	
17	3-6	TNS(3)	C区	須恵器	有台杯				小片	外:灰白	内:灰白	

中世

掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	残存率	色調	色調	備考
18	3-2	TNS(3)142	表面	中世土師器	皿	86			口縁1/5	外:黒褐	内:黒褐	内外面煤付着
19	2-12	TNS(2)	D区O28グリ	中世土師器	皿	87			口縁1/8	外:浅黄橙	内:にぶい橙	内外面煤付着
20	2-17	TNS(2)	D区O28グリ	中世土師器	皿	57	17		口縁1/8	外:橙	内:橙	内外面煤付着
21	2-9	TNS(2)	D区	中世土師器	皿	78			口縁1/3	外:橙	内:橙	
22	1-7	TNS(1)	A区	越前	鉢			124	底部1/3	外:にぶい赤褐	内:にぶい赤褐	
23	1-23	TNS(2)	D区東	越前	甕				小片	外:にぶい褐	内:にぶい褐	
24	2-15	TNS(2)	D区	陶器	縁釉小皿	85			口縁1/18	釉:灰釉	胎:灰白	瀬戸
25	3-3	TNS(3)		陶器	天目碗	109			口縁1/20	釉:鉄釉	胎:灰白	瀬戸
26	3-4	TNS(3)		陶器	皿			120	底部1/10	釉:灰釉	胎:灰白	瀬戸
27	2-6	TNS(2)	D区東	中国青磁	碗			60	底部1/3	釉:青磁釉	胎:灰白	
28	3-1	TNS(3)	C区	中国青磁	碗	130			底部1/12	釉:青磁釉	胎:灰白	
29	2-13	TNS(2)	D区O28グリ	中国白磁	皿	121			口縁1/9	釉:白泥	胎:灰白	

石製品

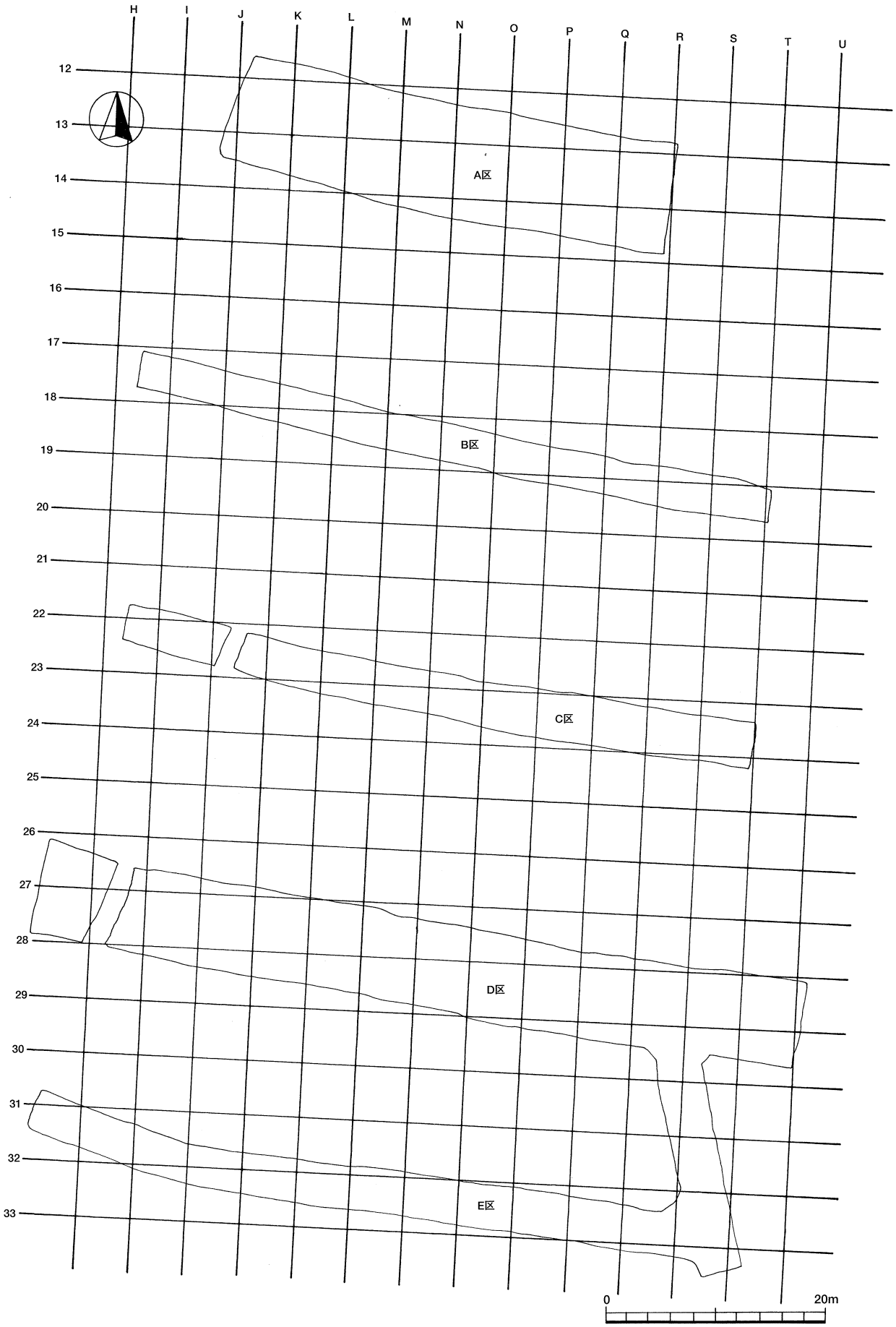
掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	残存率	石質	重量(g)	備考
30	2-7	TNS(2)	D区東	石製品	砥石	21	29	8	欠損		6600	
31	1-10	TNS(1)	A区	石製品	石臼	277	140	78	全体1/2	火山礫凝灰岩	5010	

近世

掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	残存率	色調	色調	備考
32	3-5	TNS(3)	C区北壁	磁器	碗	98			口縁1/4	釉:透明釉	胎:灰白	
33	2-11	TNS(2)	D区北壁	磁器	碗			49	底部1/5	釉:透明釉	胎:灰白	
34	2-16	TNS(2)	D区	磁器	皿			64	底部完形	釉:透明釉	胎:灰白	
35	2-10	TNS(2)	D区北壁	磁器	皿			80	底部1/8	釉:透明釉	胎:灰白	

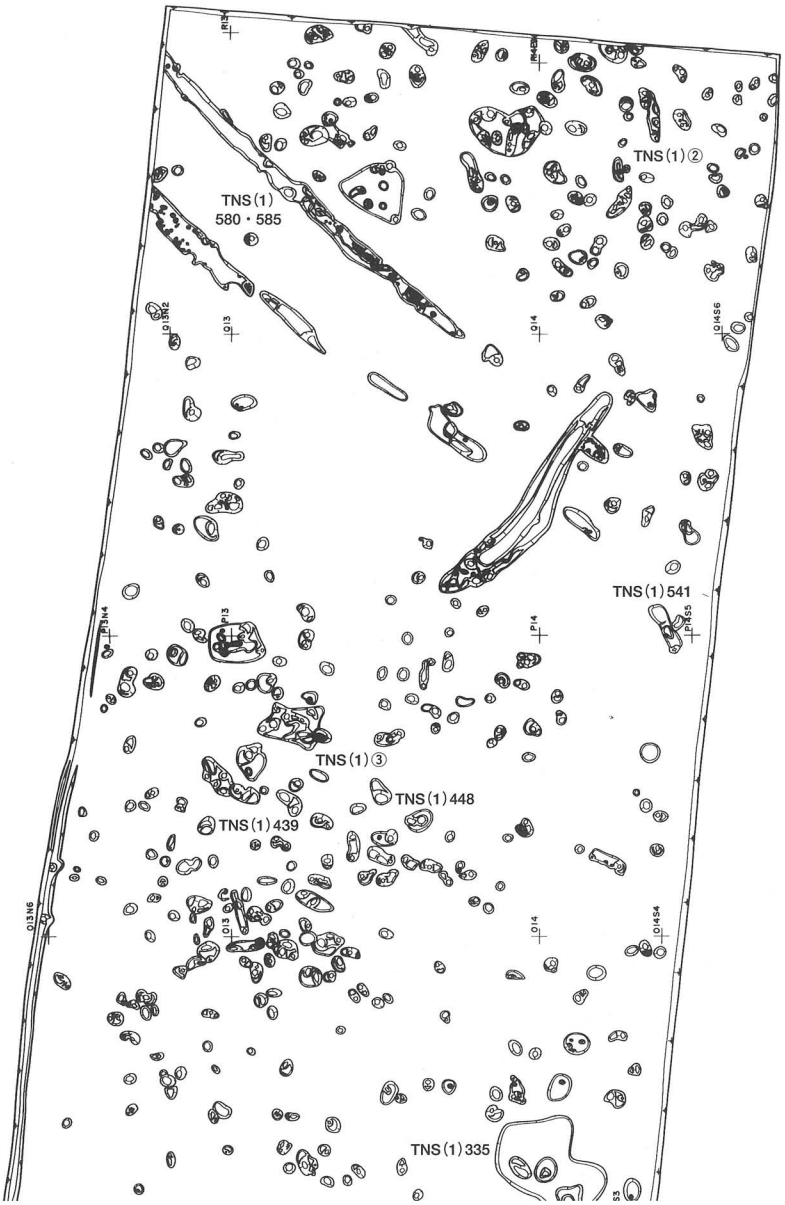
金属製品

掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	残存率	色調	重量(g)	備考
36-1	1-8-1	TNS(1)288		金属製品	煙管	47	9	9			8.1	雁首
36-2	1-8-2	TNS(1)288		金属製品	煙管	67	9.5	9.5			11.2	吸口

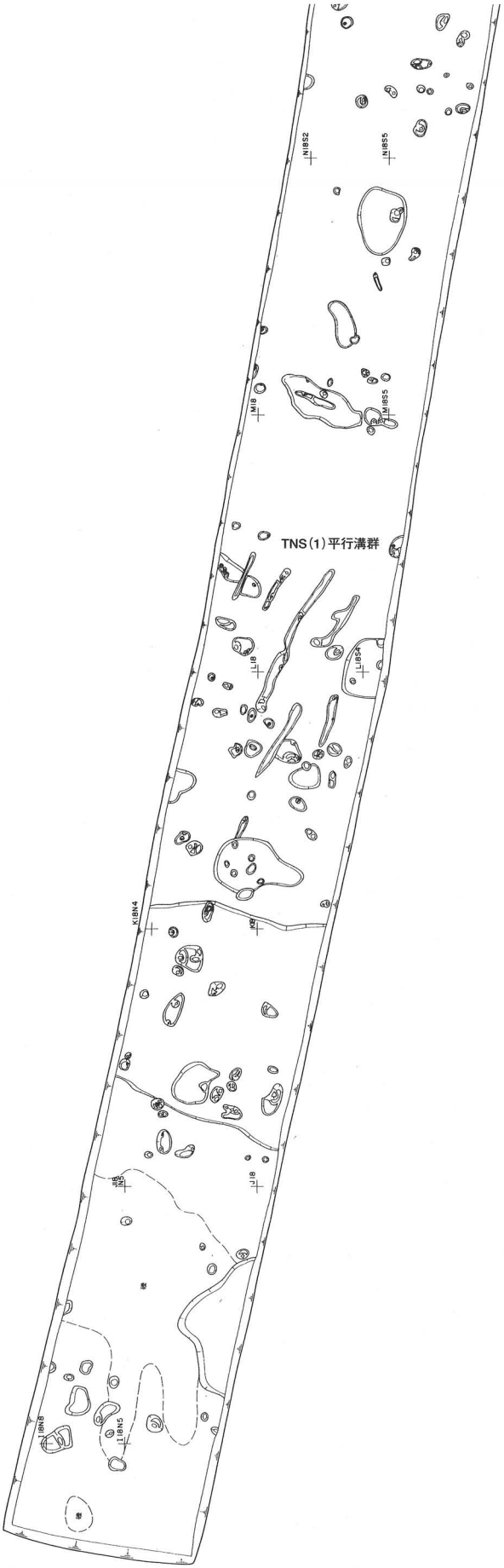


第78図　藤平田ナカシンギジ遺跡（第１～３次）グリッド図（1/1,000）

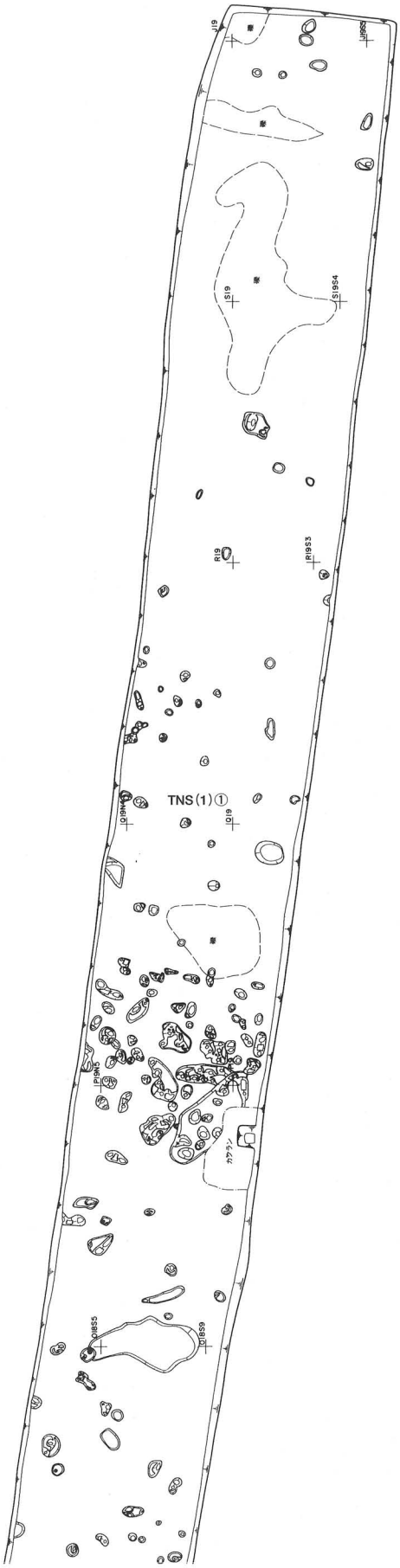
第79図　藤平田ナカシンギジ遺跡（第1～3次）平面図（1）（1／250）



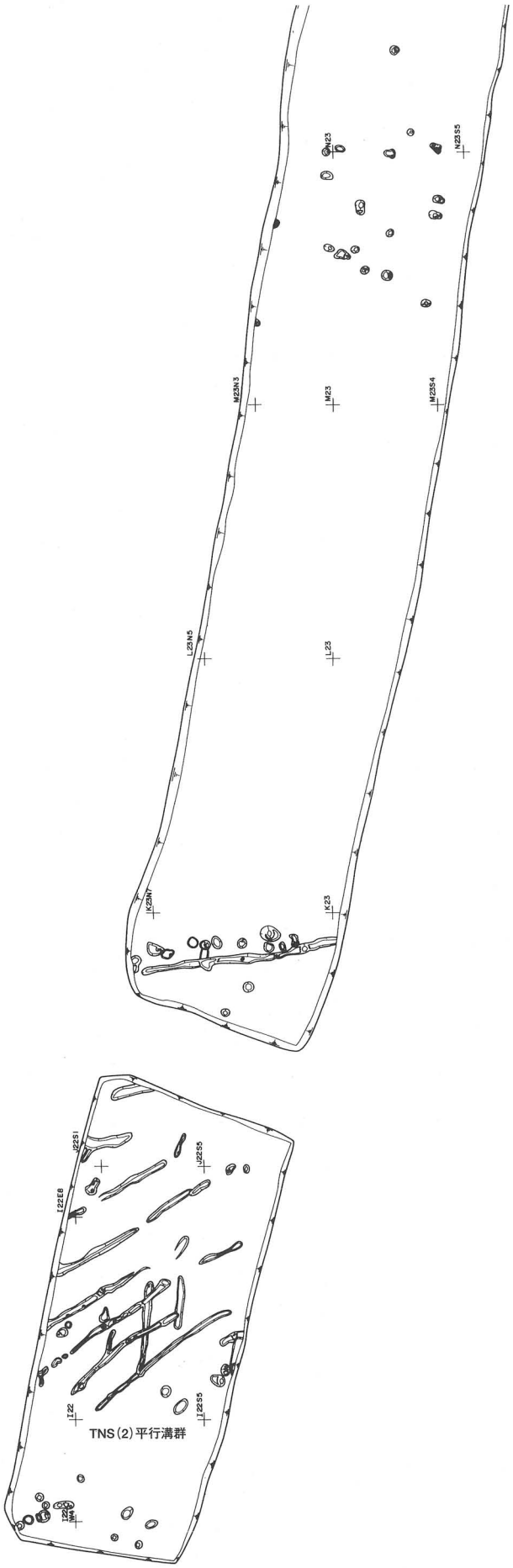
第80図　藤平田ナカシンギジ遺跡（第1～3次）平面図（2）（1／250）



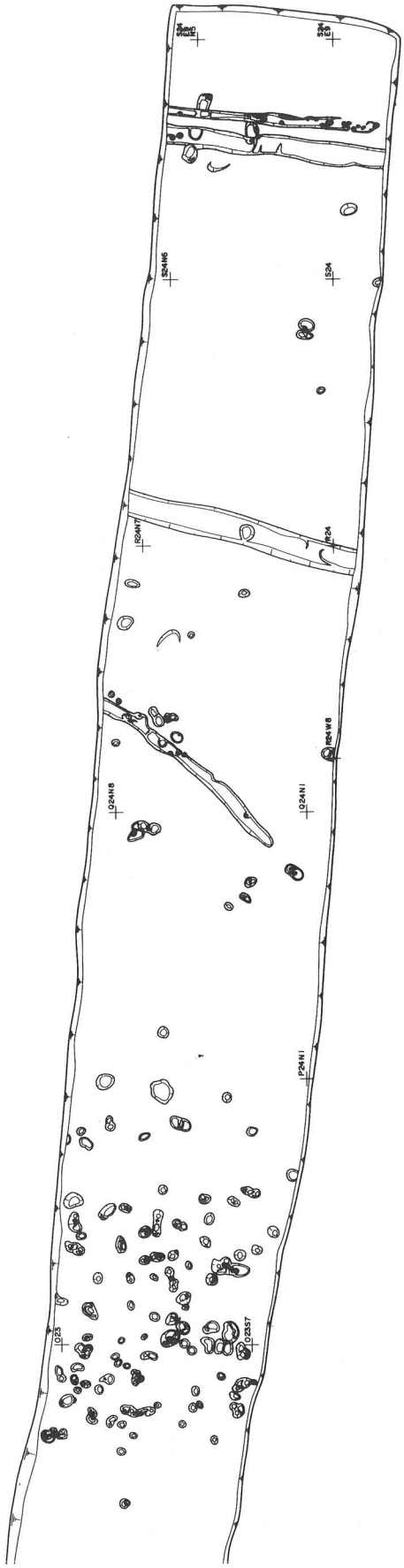
第81図　藤平田ナカシンギジ遺跡(第1～3次)平面図(3)　(1／250)



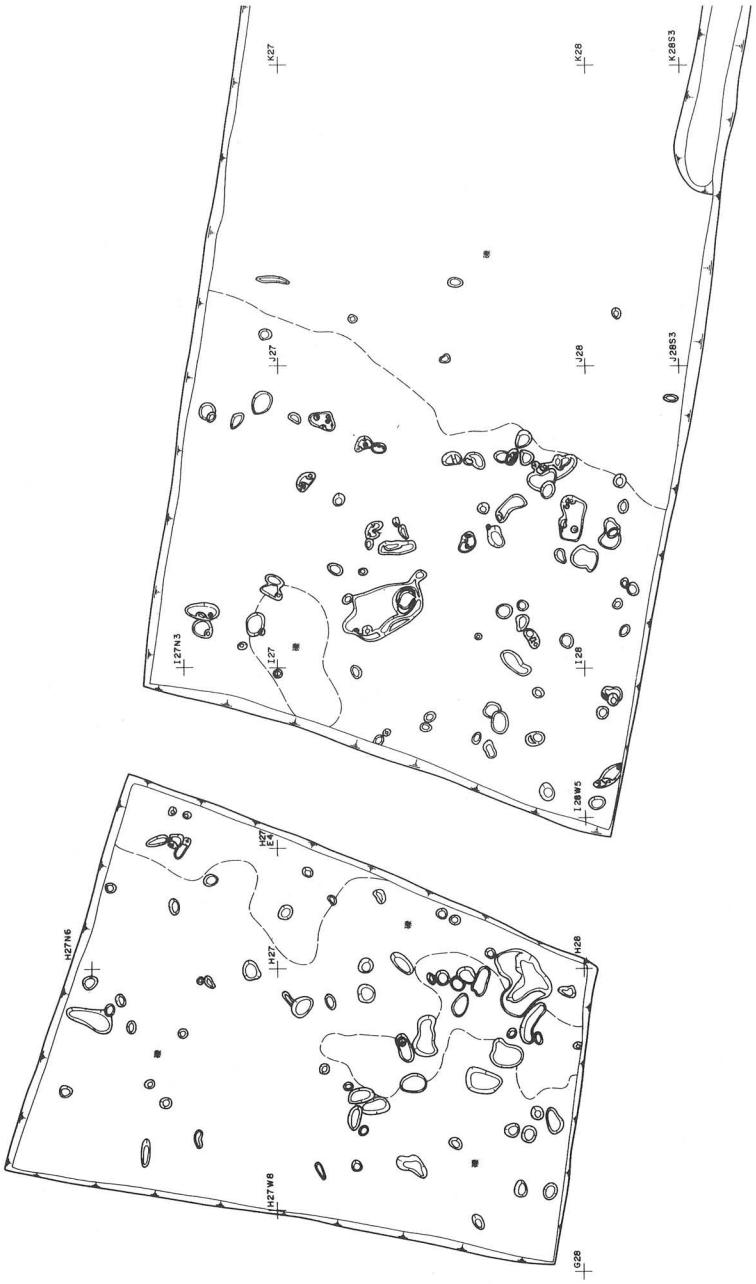
第82図　藤平田ナカシンギジ遺跡（第1～3次）平面図（4）（1／250）



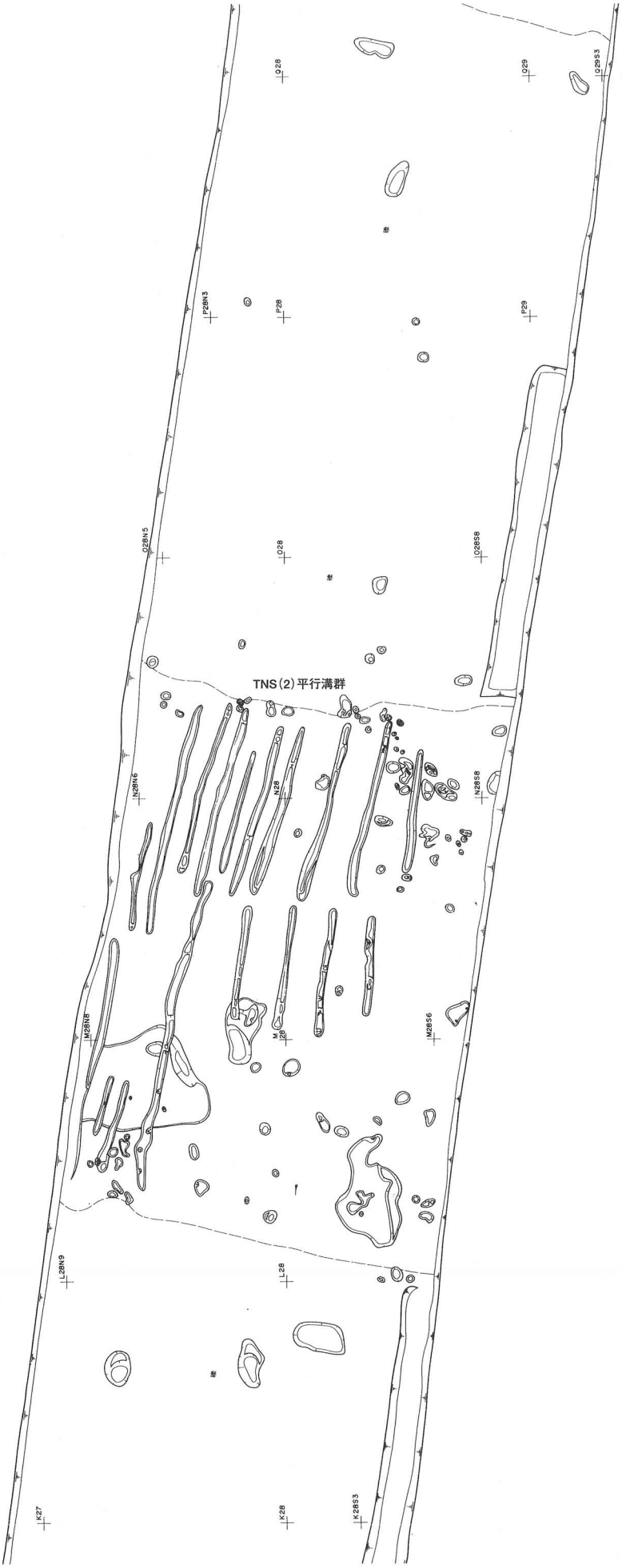
第83図　藤平田ナカシンギジ遺跡(第1～3次)平面図(5)（1／250）



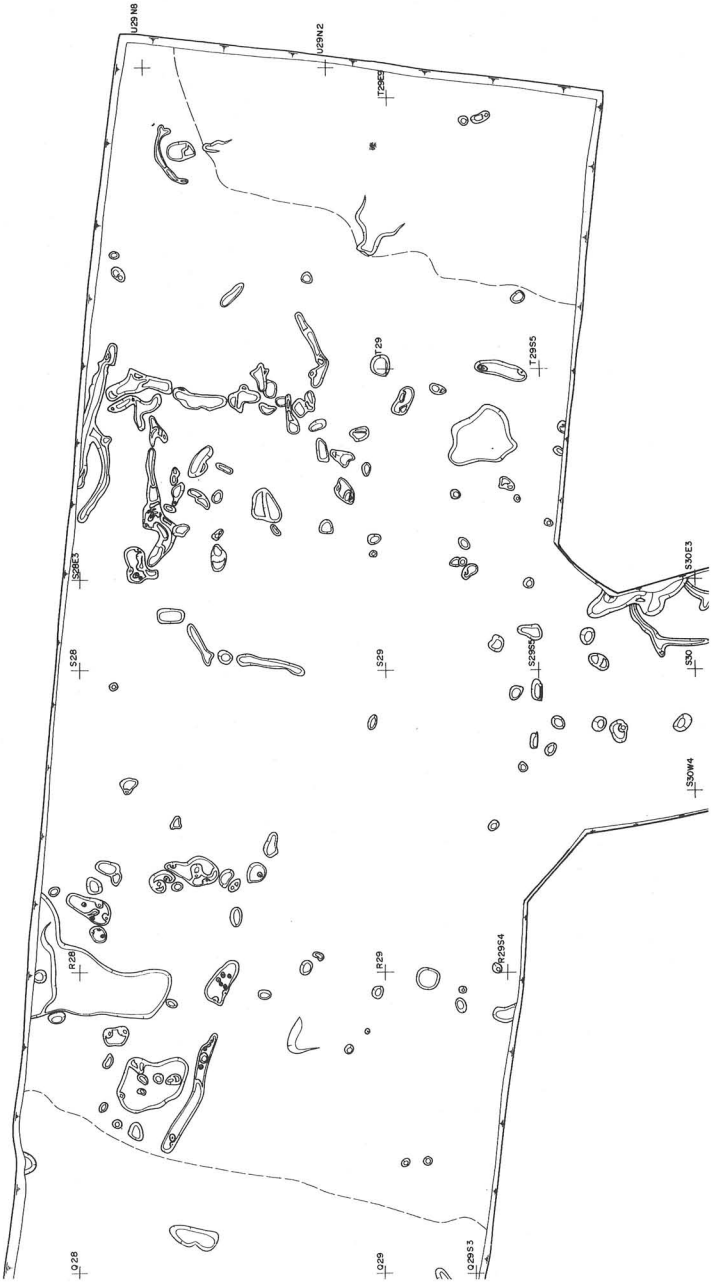
第84図　藤平田ナカシンギジ遺跡（第1～3次）平面図（6）（1／250）



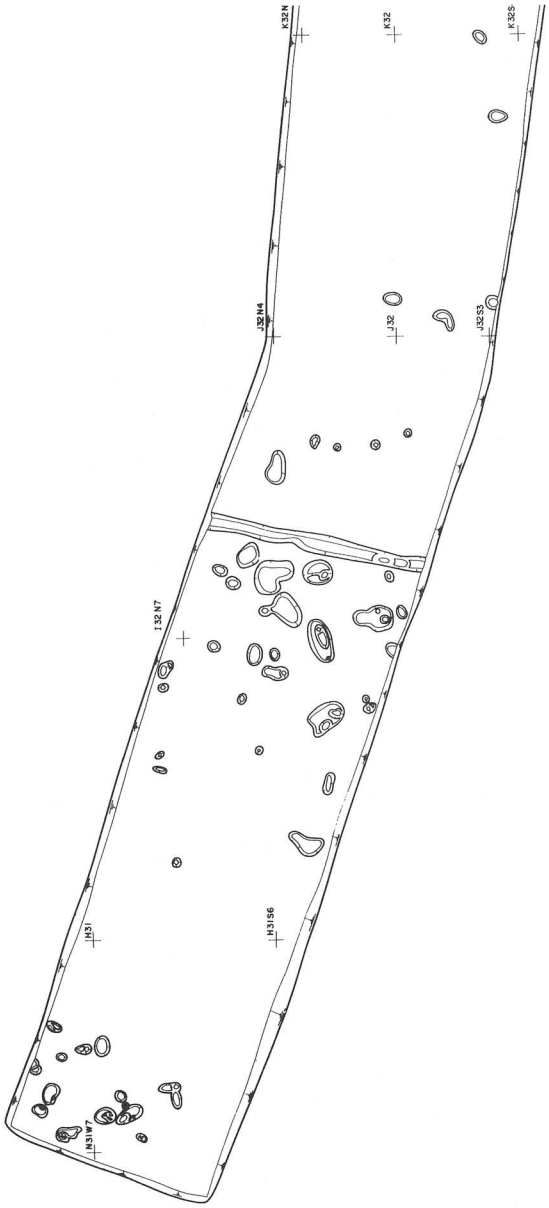
第85図　藤平田ナカシンギジ遺跡（第1～3次）平面図（7）（1／250）



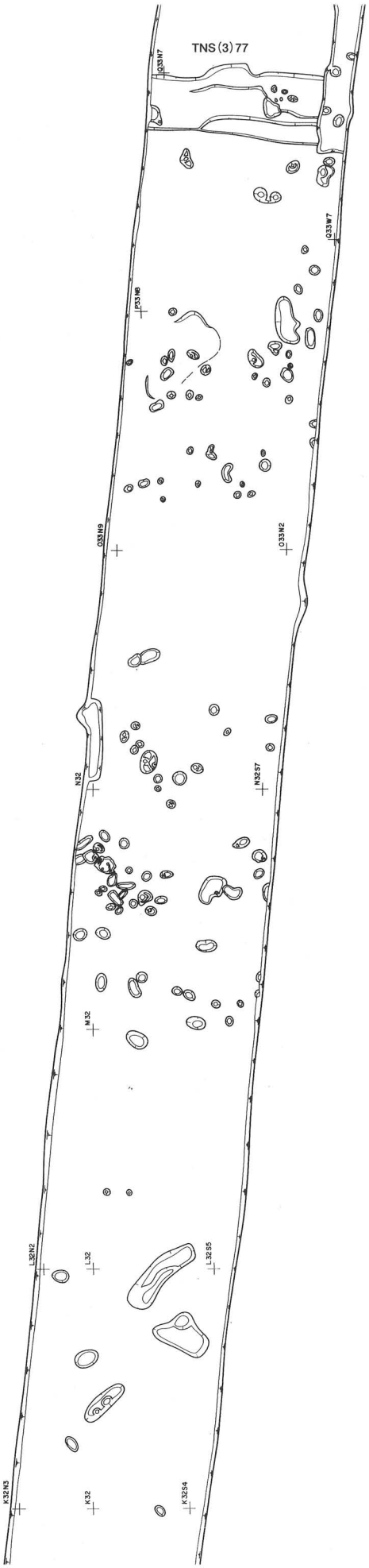
第86図　藤平田ナカシンギジ遺跡(第1～3次)平面図(8)（1／250）



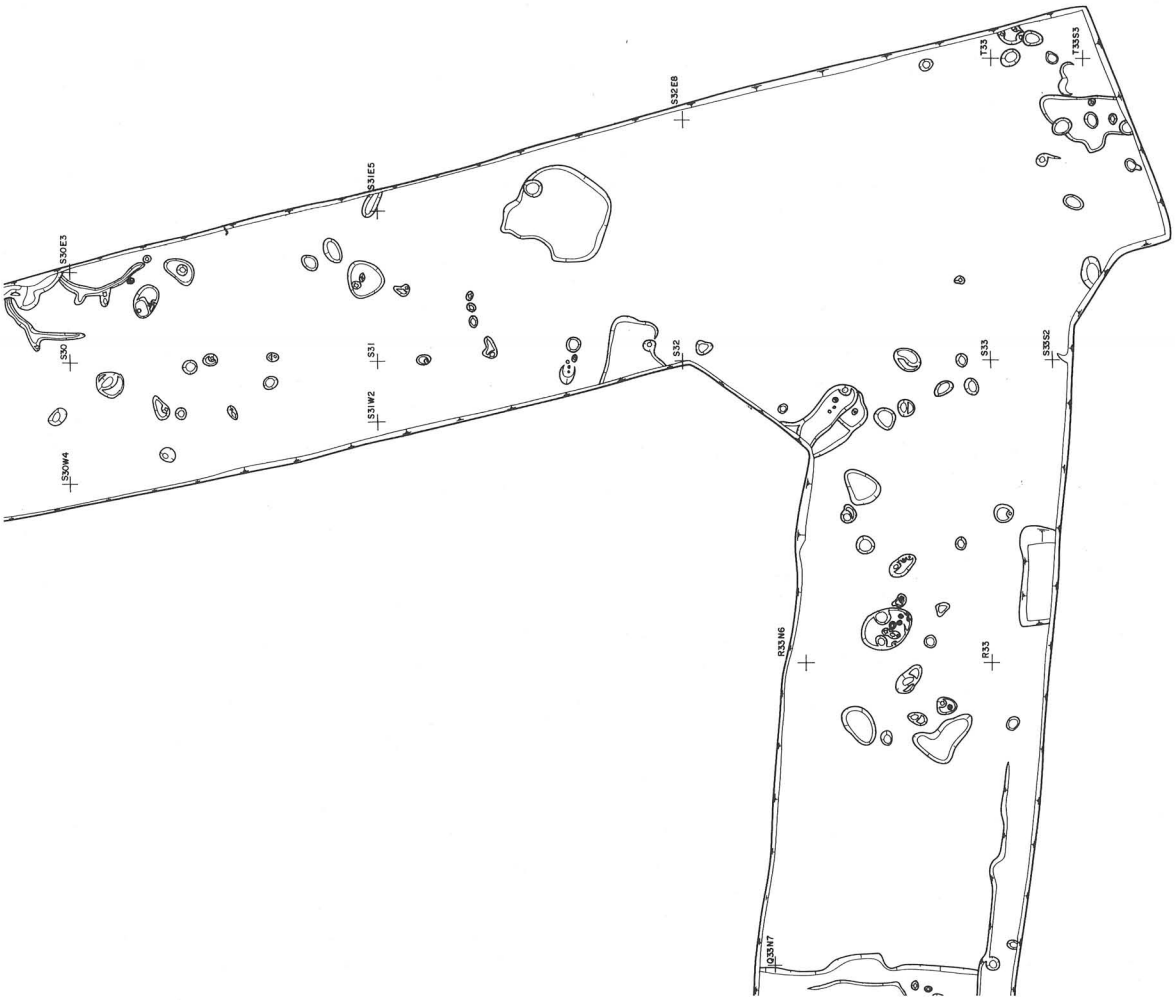
第87図　藤平田ナカシンギジ遺跡（第1～3次）平面図（9）（1／250）



第88図　藤平田ナカシンギジ遺跡（第1～3次）平面図（10）（1／250）

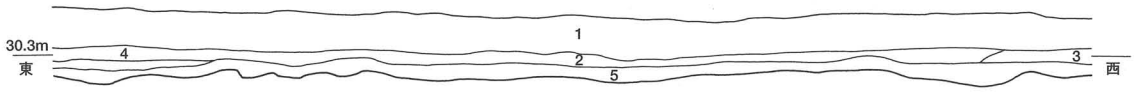


第89図　藤平田ナカシンギジ遺跡（第1～3次）平面図（11）（1／250）

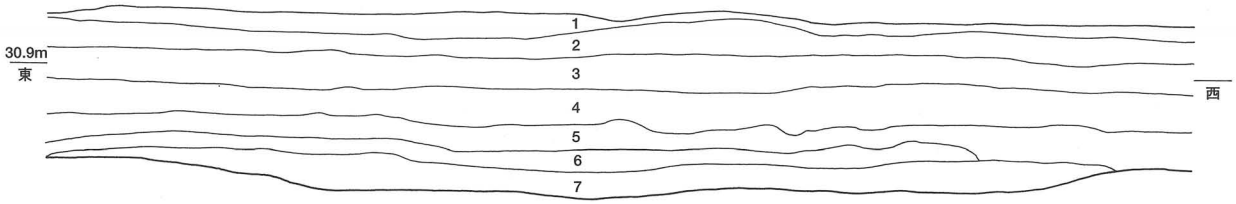


第90図　藤平田ナカシンギジ遺跡（第1～3次）平面図（12）（1／250）

A区南壁

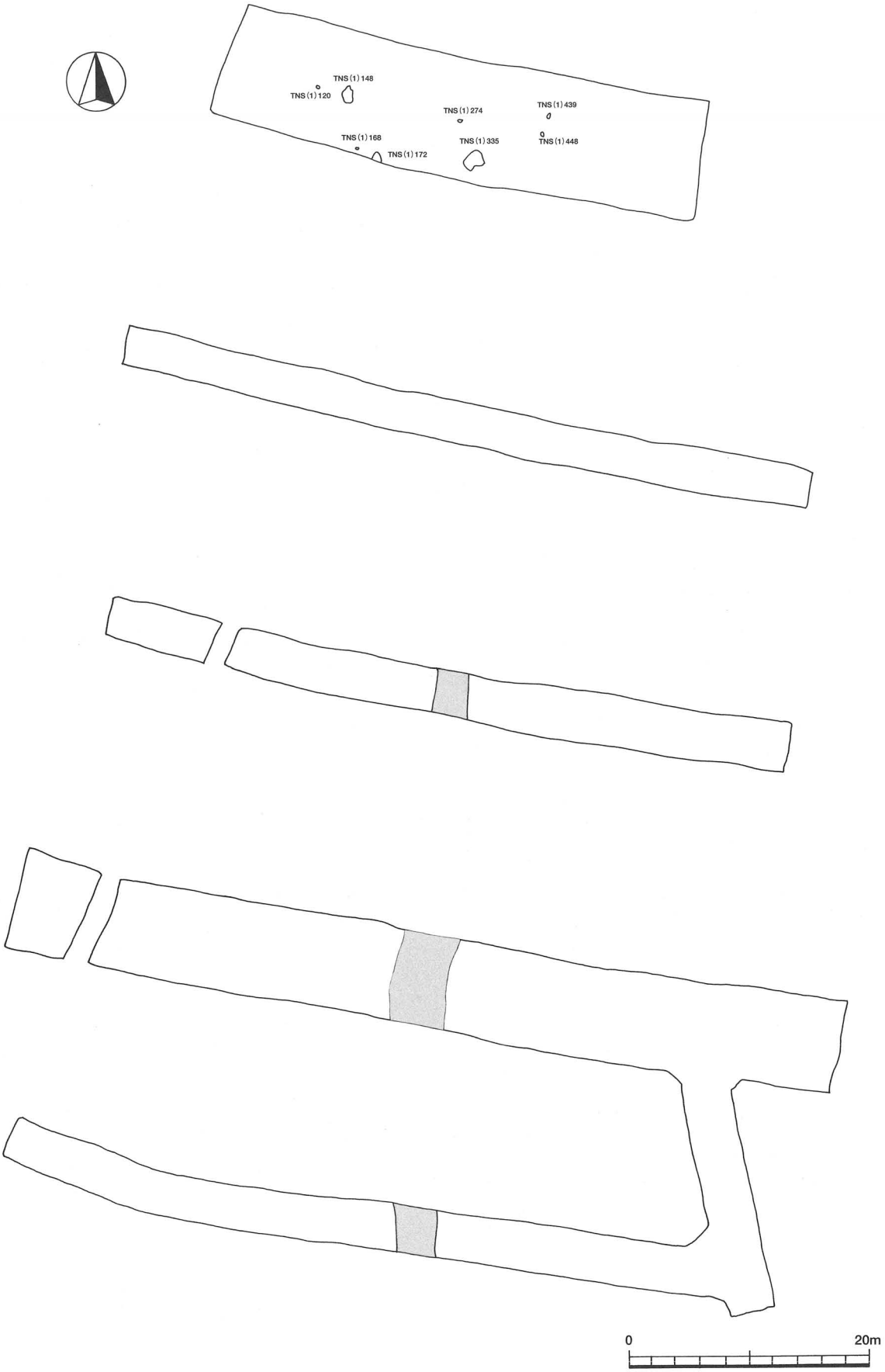


1．耕土
2．床土
3．床土２
4．濃灰色粘質土
5．暗灰色粘質土

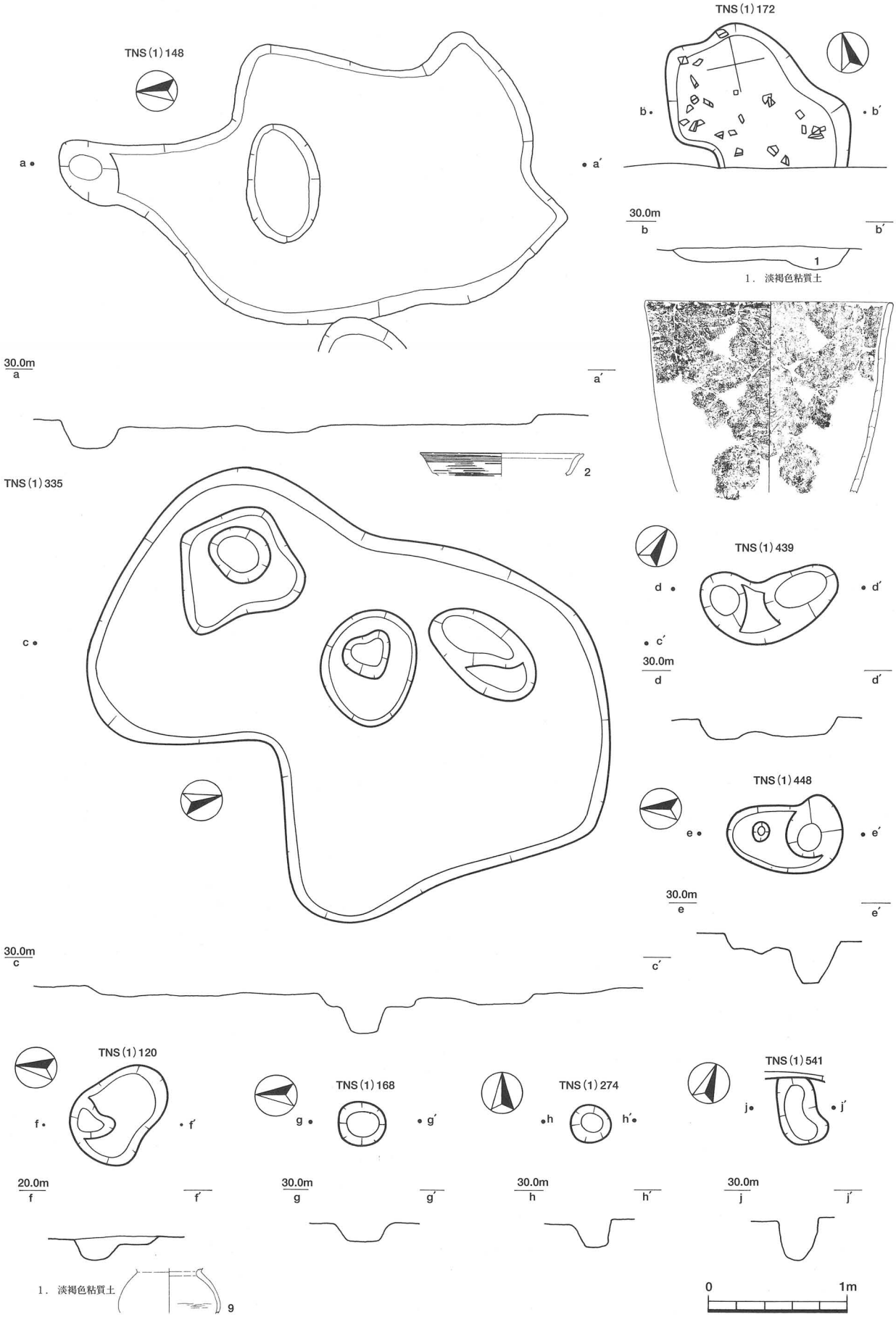


1．耕土
2．床土
3．褐灰色粘質土
4．３より楕暗い
5．黒褐色粘質土
6．灰黄褐色粘質土
7．黒色粘質土

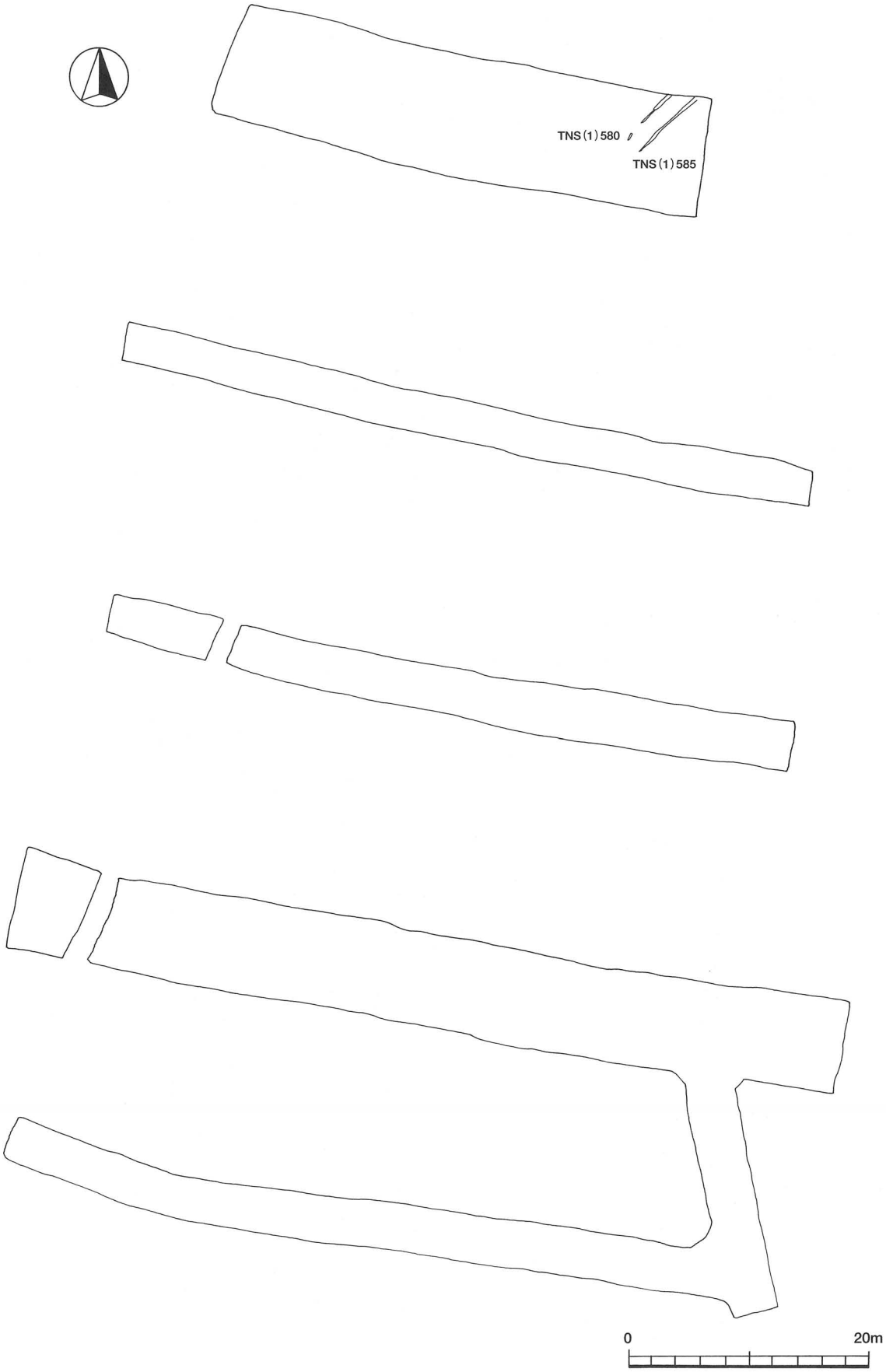
第91図　藤平田ナカシンギジ遺跡（第１～３次）A区南壁・D区南壁　土層断面図（1／40）



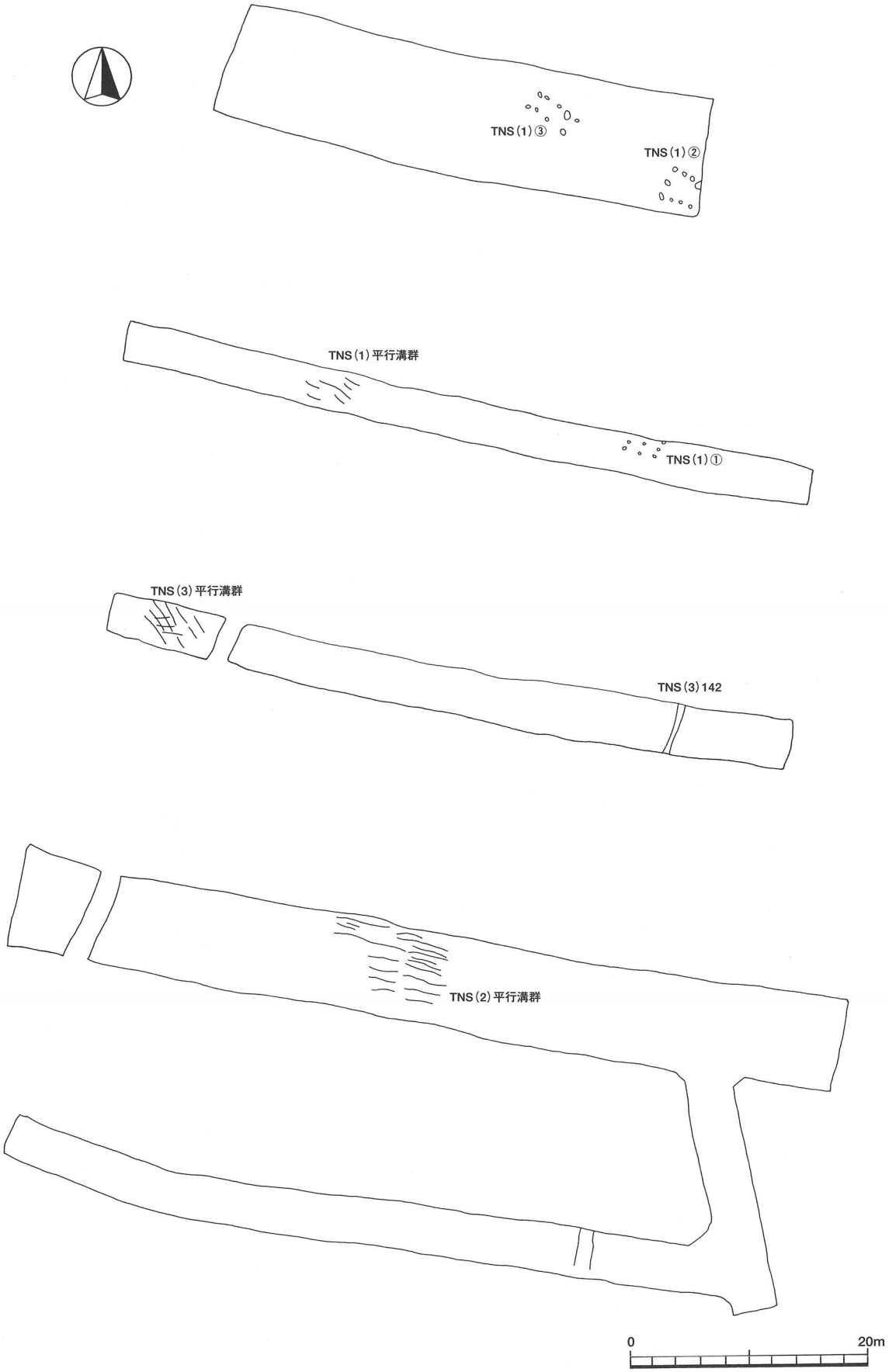
第92図　古墳時代以前遺構全体図　（1／1,000）



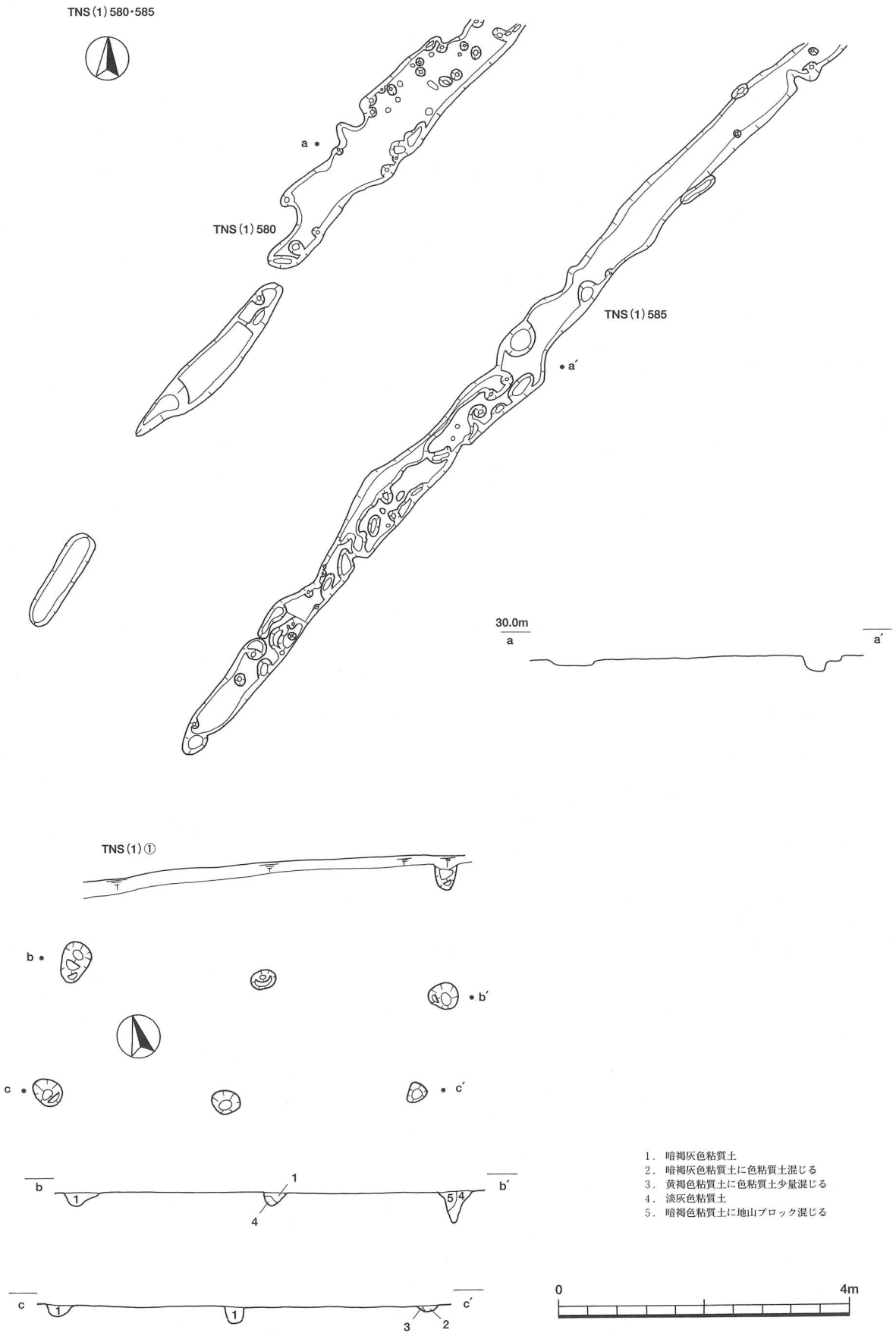
第93図　遺構実測図　土杭TNS (1) 148・172・335ピットTNS (1) 120・168・274・439・448・541　(1／40)



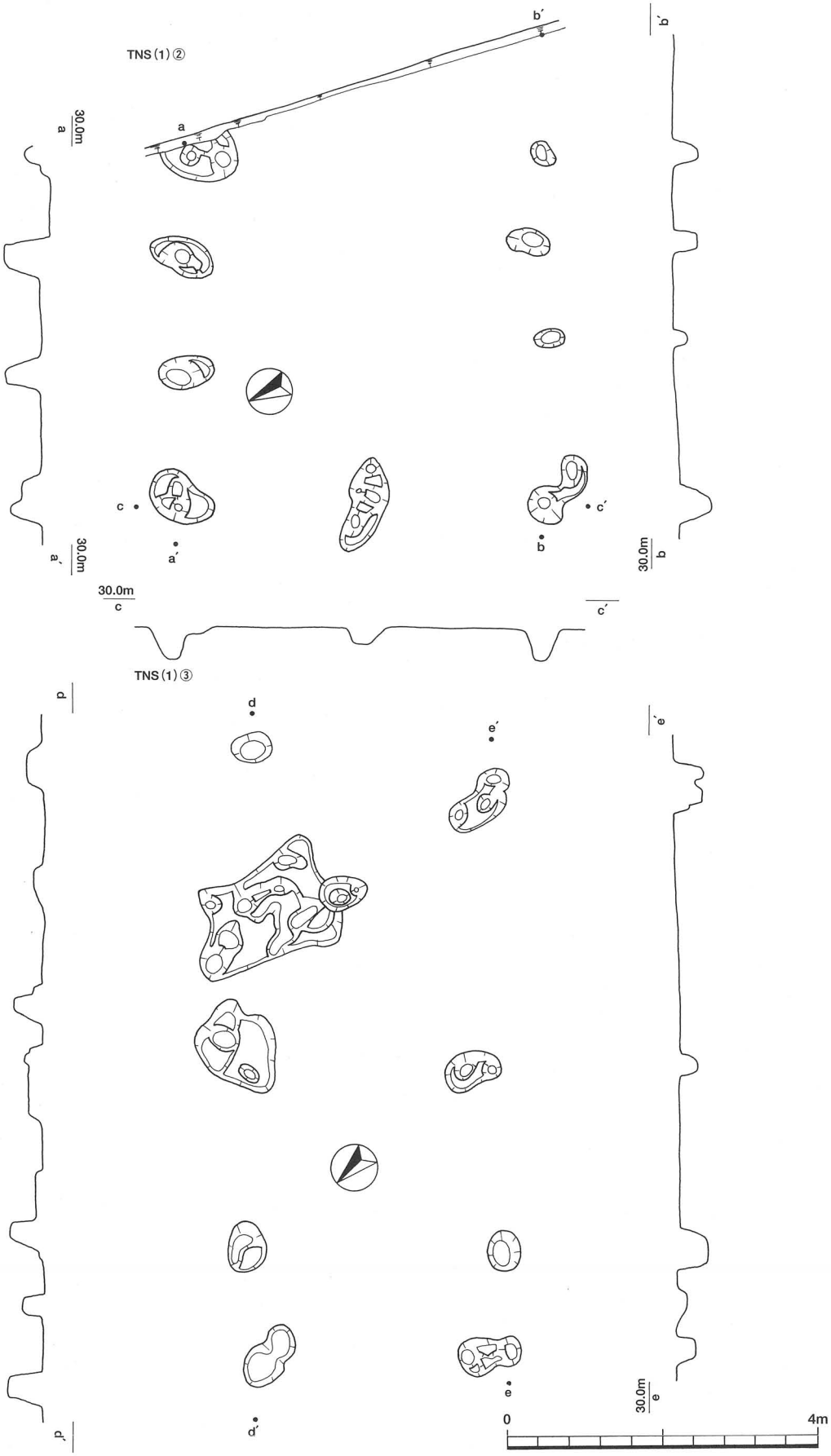
第94図　中世遺構全体図　（1／1,000）



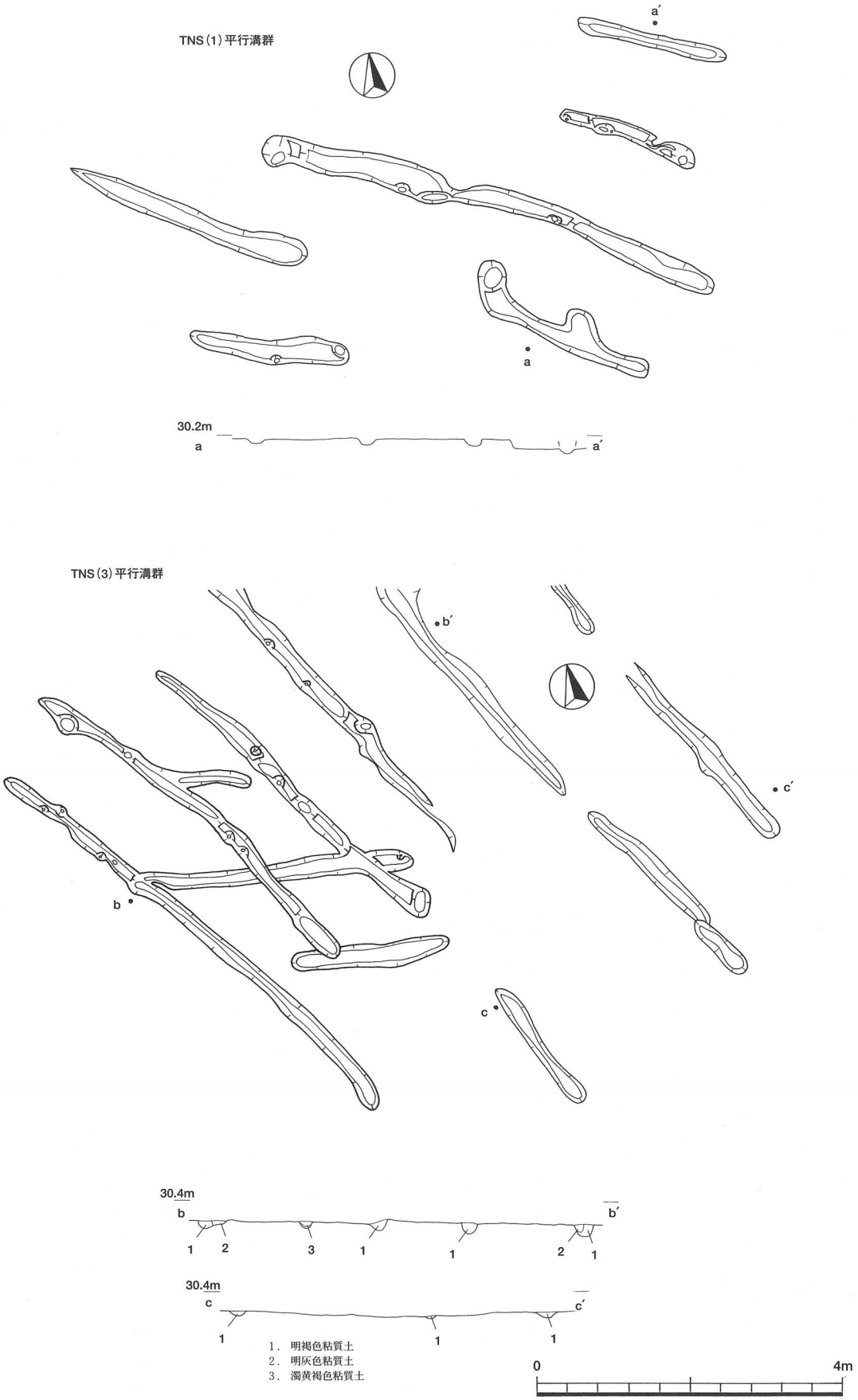
第95図　中世遺構全体図　（1／1,000）



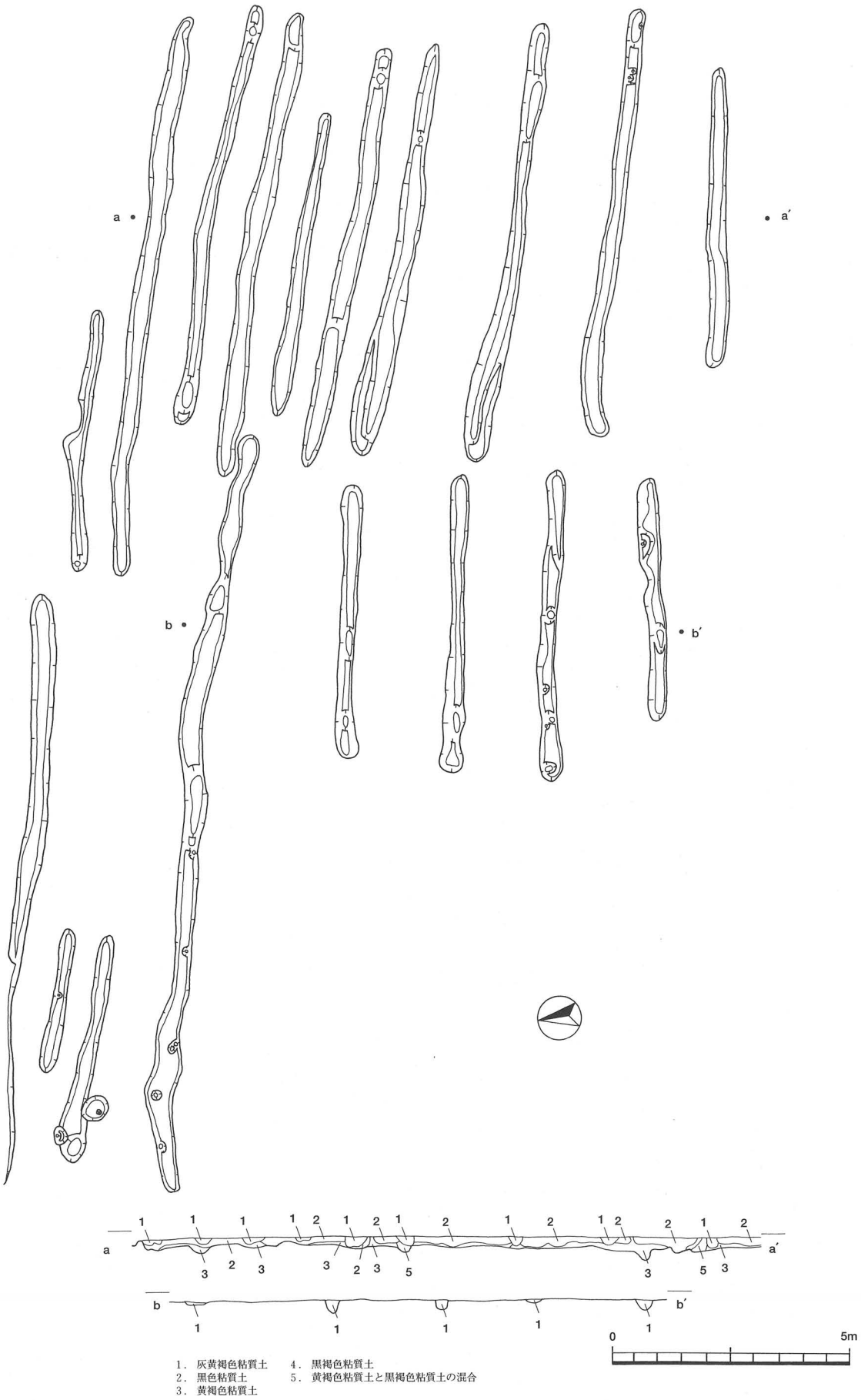
第96図　遺構実測図　溝TNS(1)580・585　掘立柱建物TNS(1)①（1／80）



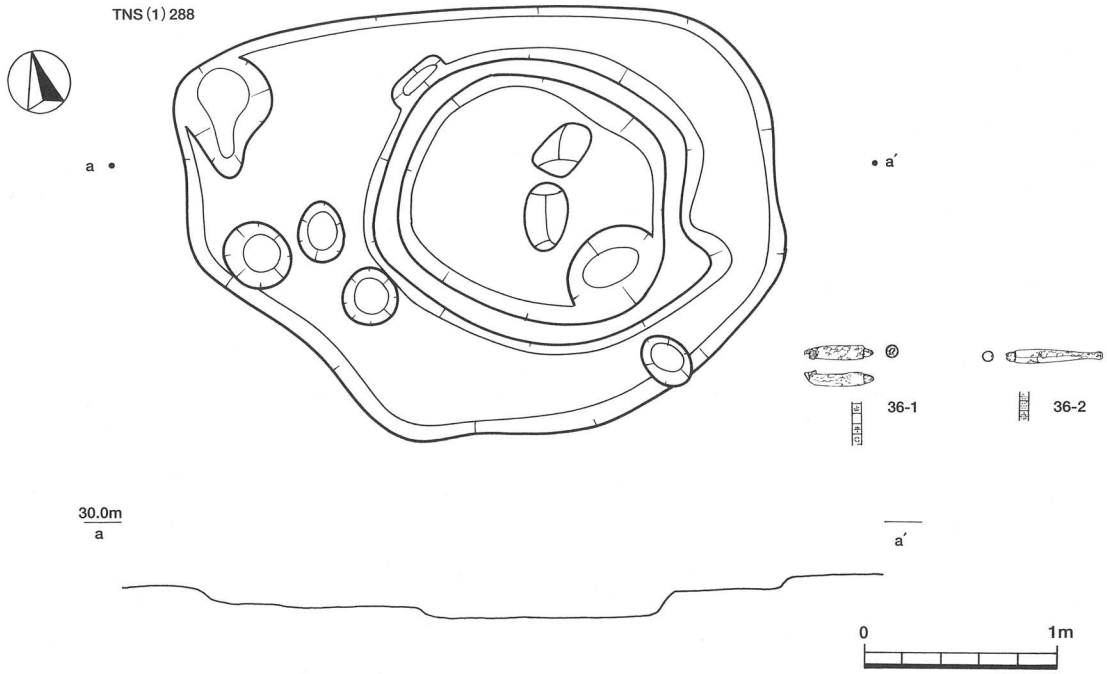
第97図　遺構実測図　掘立柱建物TNS(1)②ー③　(1／80)

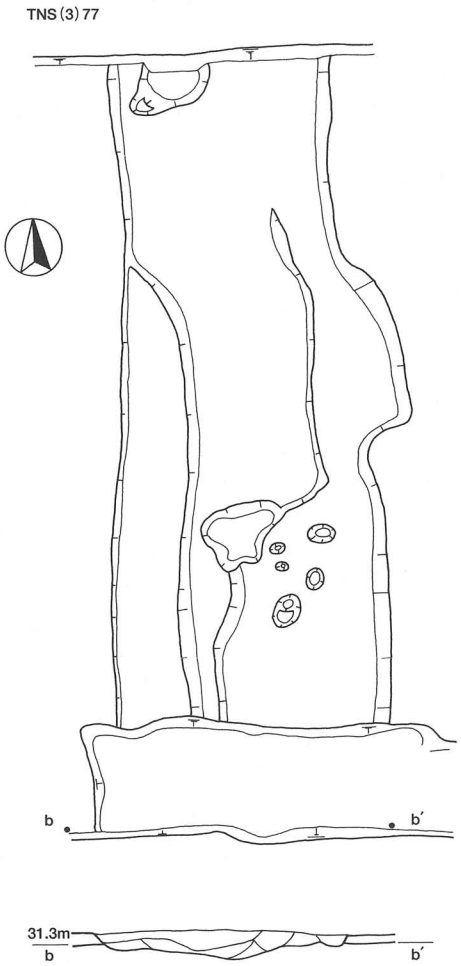


第98図　遺構実測図　TNS (1) 平行溝群・TNS (3) 平行溝群（1／80）



第99図　遺構実測図　TNS(2)平行溝群（1／100）

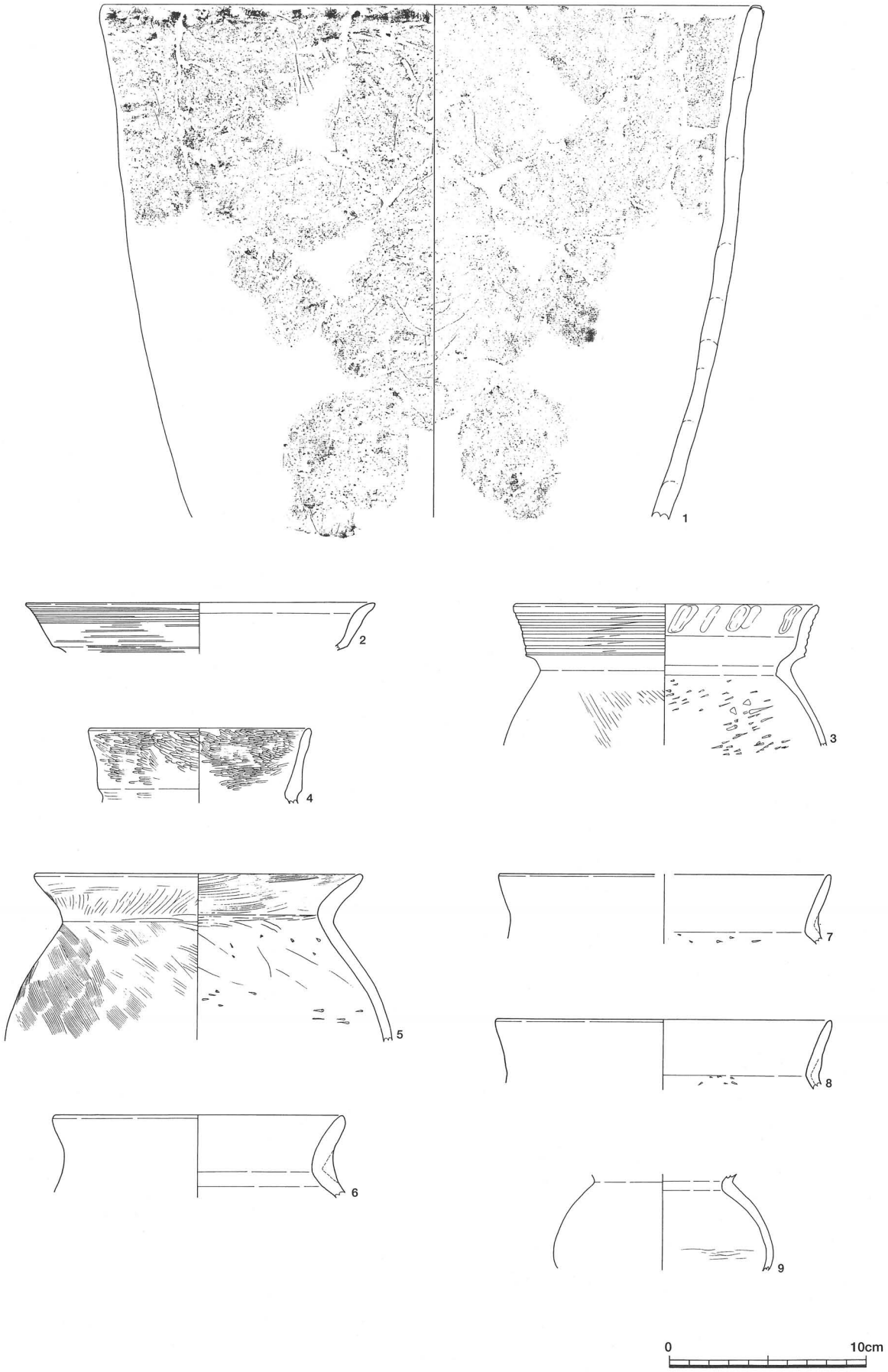




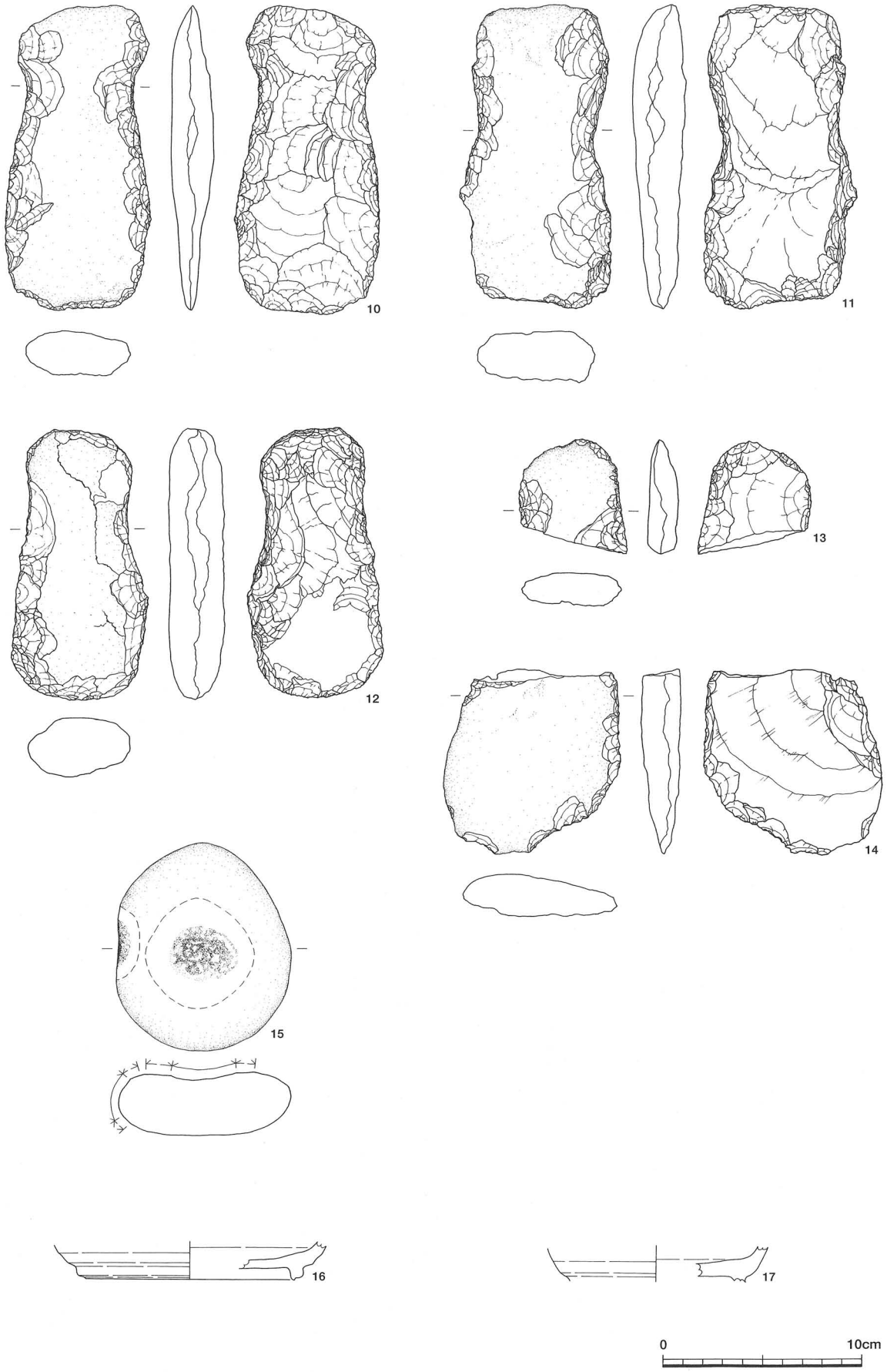
1．青灰色砂質土（砂細かい）
2．青灰色砂質土（砂粗い）
3．黄褐色粘質土と黒色粘質土の混合
4．黄褐色粘砂質土
5．暗褐色粘質土

0　4m

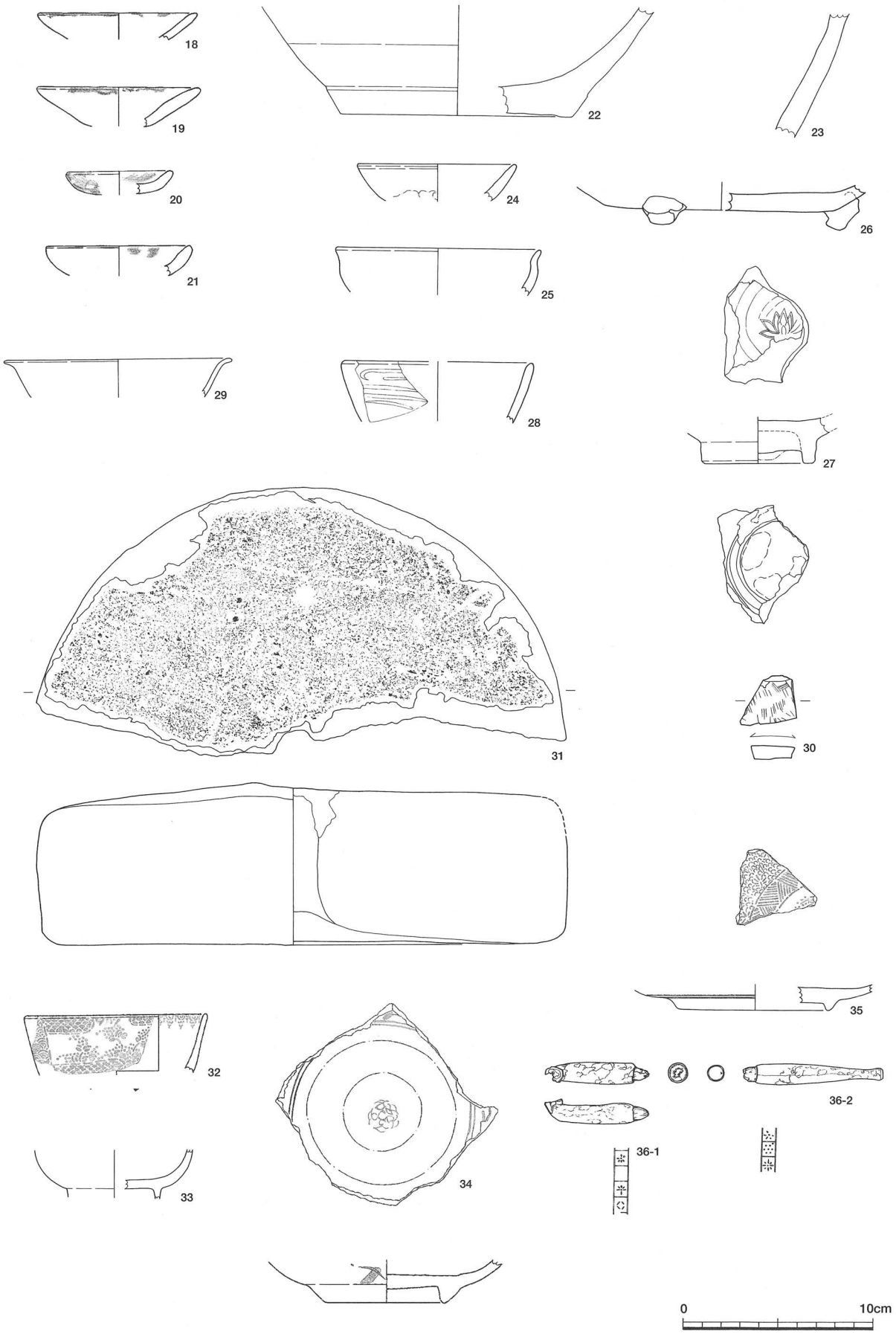
第100図　遺構実測図　土坑TNS (1) 288　溝TNS (3) 77（1／40・1／80）



第101図　藤平田ナカシンギジ遺跡(第1～3次)遺物実測図(1)（1／3）



第102図　藤平田ナカシンギジ遺跡（第１～３次）遺物実測図（2）（1／3）



第103図　藤平田ナカシンギジ遺跡（第１～３次）遺物実測図（3）（1／3）

B区　完掘（西から）

河川SA（2）1　完掘（南西から）

掘立柱建物SN（1）③④　完掘（北から）

掘立柱建物SN（1）⑤　完掘（南東から）

掘立柱建物SN（1）⑥　完掘（東から）

竪穴状遺構SN（1）SK 1　完掘（南から）

竪穴状遺構SN（1）SK 5　検出（南から）

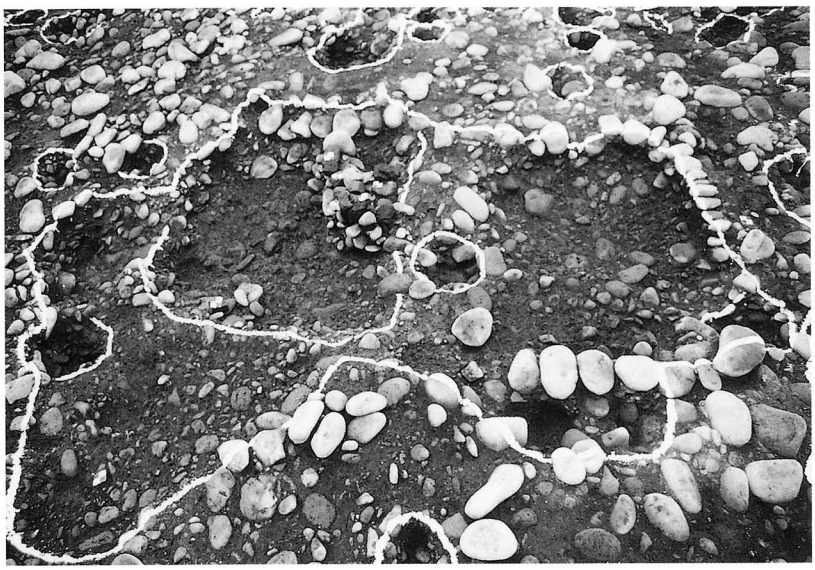
竪穴状遺構SN（1）SK 5　完掘（西から）

竪穴状遺構SN（1）SK 6　完掘（北から）

竪穴状遺構SN（1）SK 7　完掘（南から）

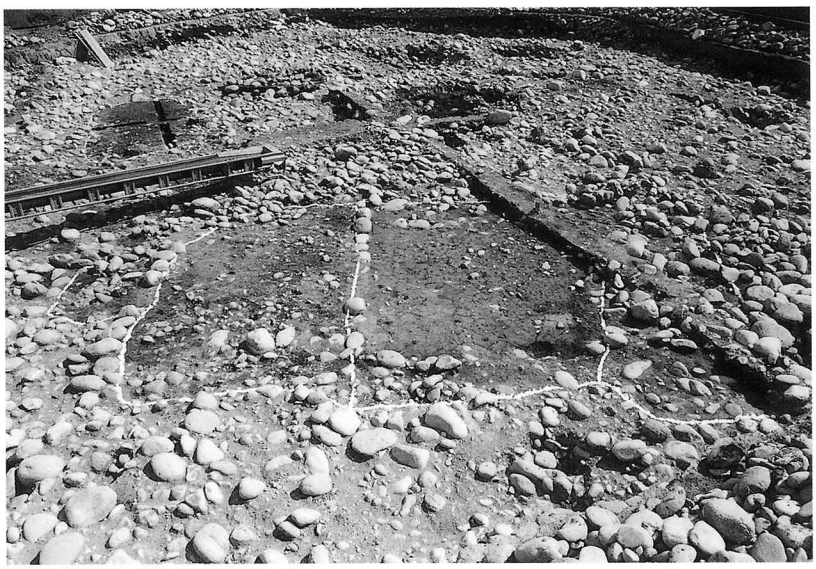
竪穴状遺構SN（1）SK 8　完掘（西から）

竪穴状遺構SN（1）SK11　完掘（南から）



土坑SN（1）SK18　完掘（西から）

土坑SN（1）SK26　完掘（南から）



土坑SN（1）SK12　検出（西から）

土坑SN（1）SK12　検出（北から）

土坑SN（1）SK12　断面（西から）

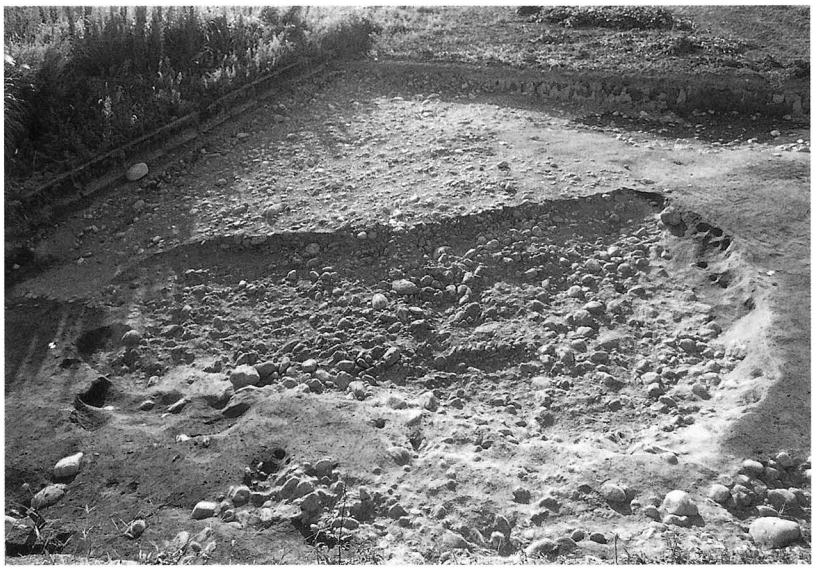
土坑SN（1）SK12　完掘（北から）

土坑SN（4）162　石列検出（東から）

土坑SN（4）162　完掘（東から）

土坑SN（4）5　完掘（南から）

土坑SN（4）21　完掘（北から）



土坑SN（7）1　完掘（東から）

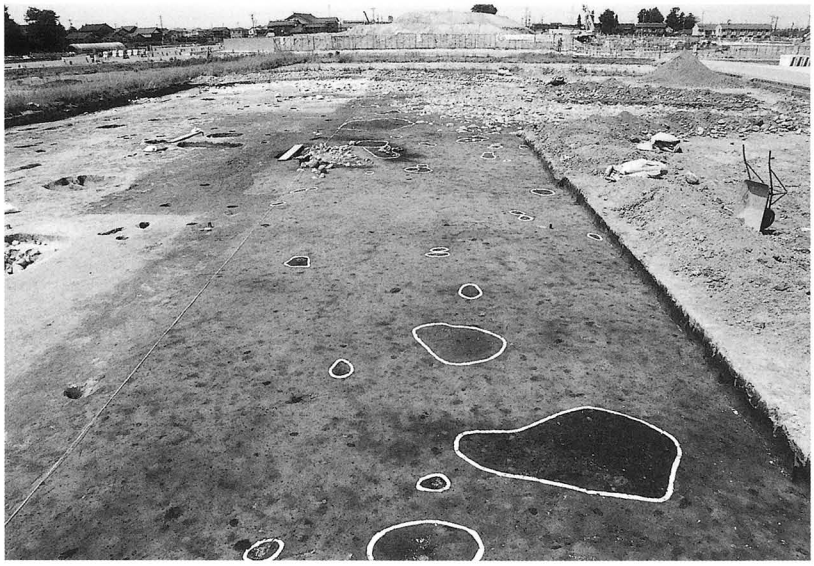
A-1区　完掘（南から）

A-1区南側　完掘（西から）

A-1区中央　完掘（東から）

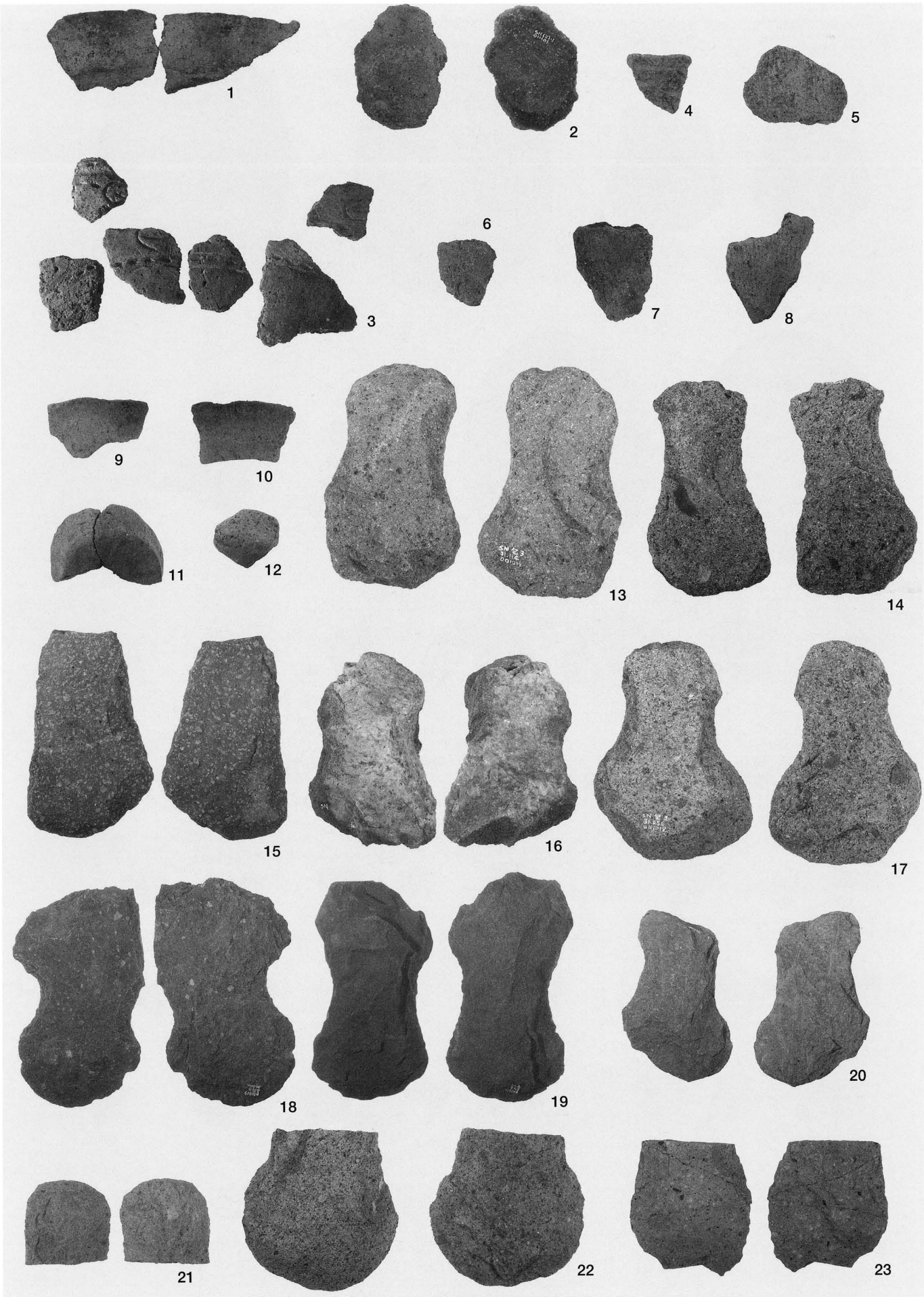
A-1区北側　完掘（東から）

A-1区　作業状況

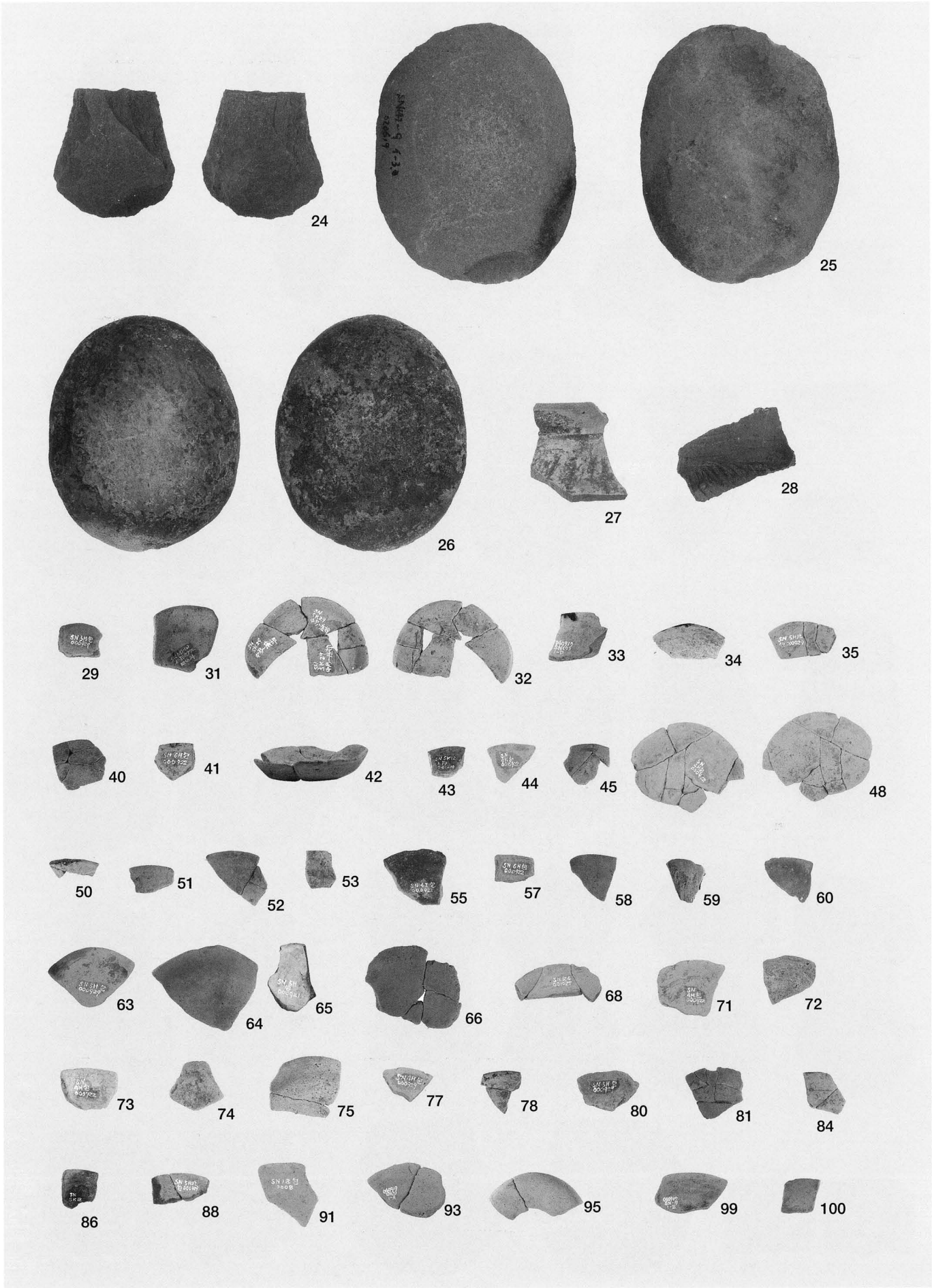


D区　検出（南から）

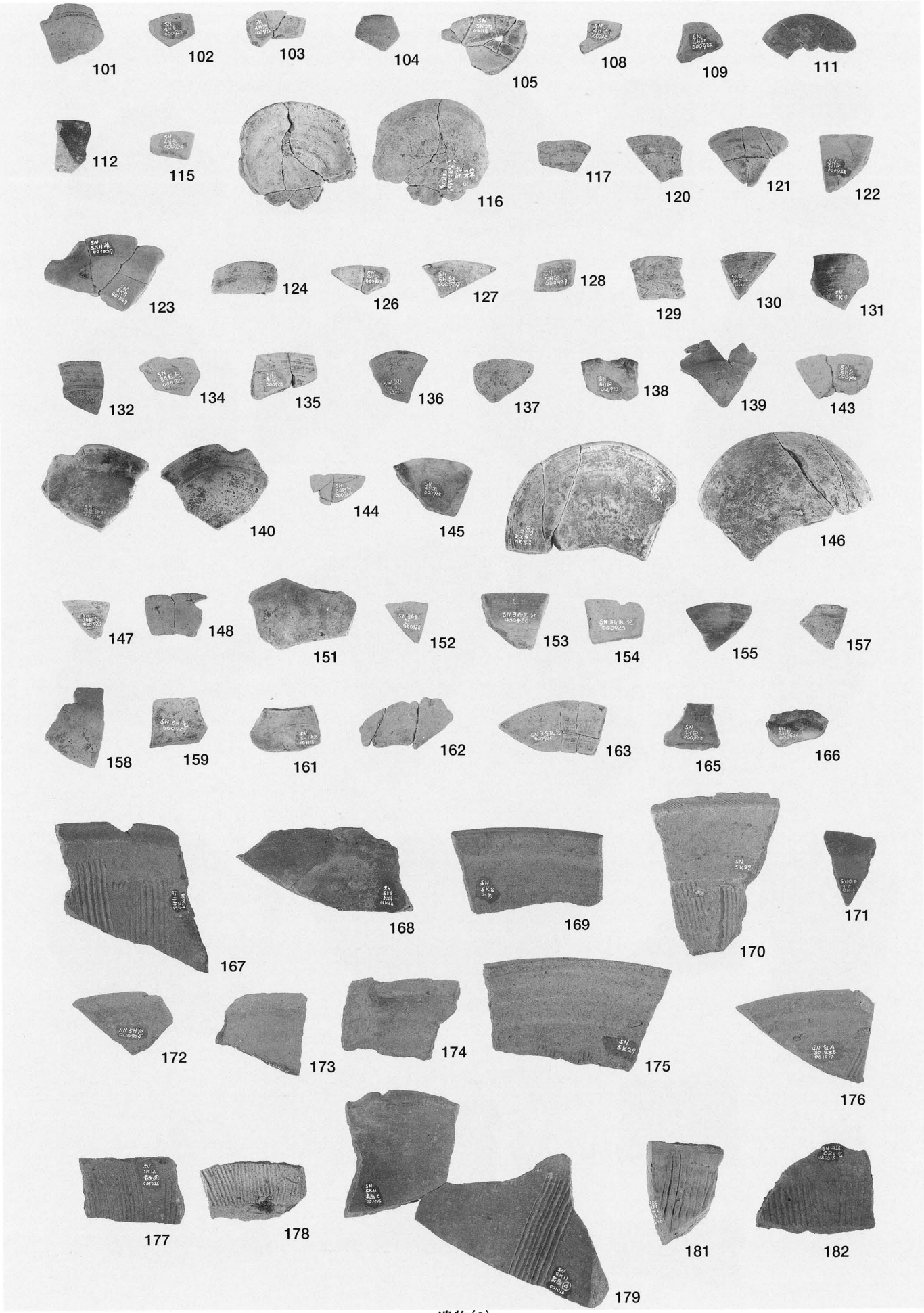
A-4区　完掘（南から）



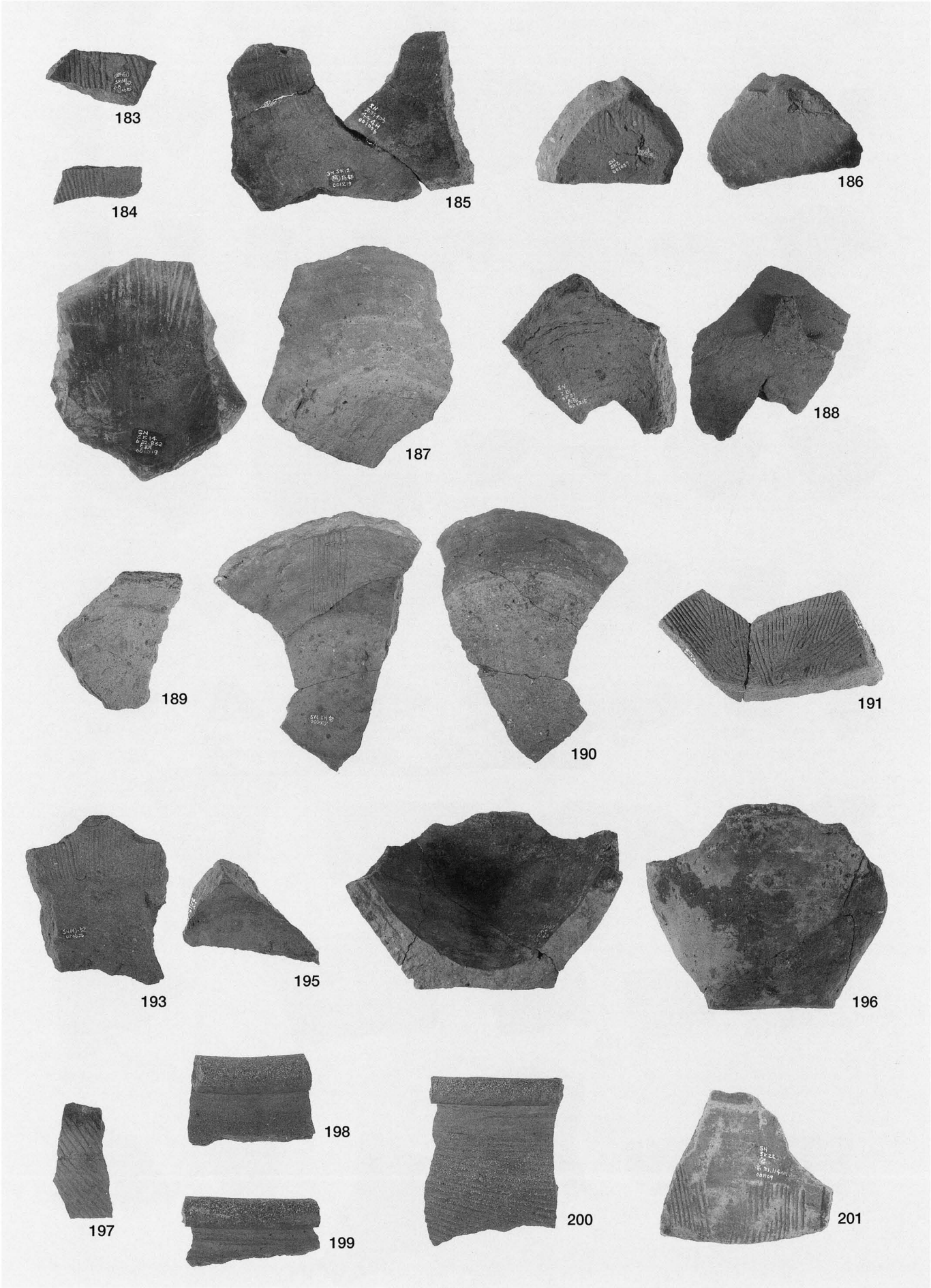
遺物（1）


24
25
26
27
28
29
31
32
33
34
35
40
41
42
43
44
45
48
50
51
52
53
55
57
58
59
60
63
64
65
66
68
71
72
73
74
75
77
78
80
81
84
86
88
91
93
95
99
100

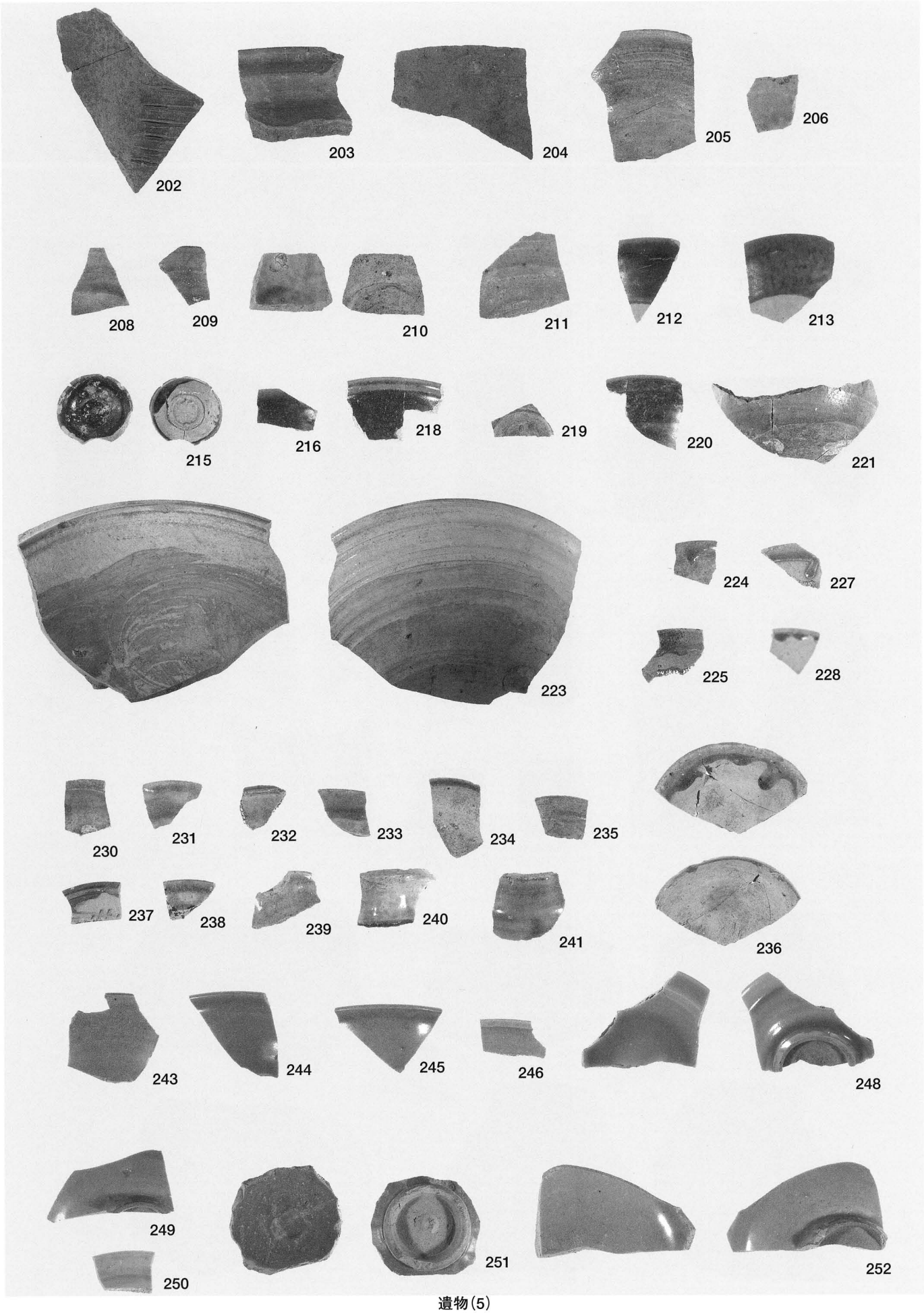
遺物（2）


101
102
103
104
105
108
109
111
112
115
116
117
120
121
122
123
124
126
127
128
129
130
131
132
134
135
136
137
138
139
143
140
144
145
146
147
148
151
152
153
154
155
157
158
159
161
162
163
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
181
182

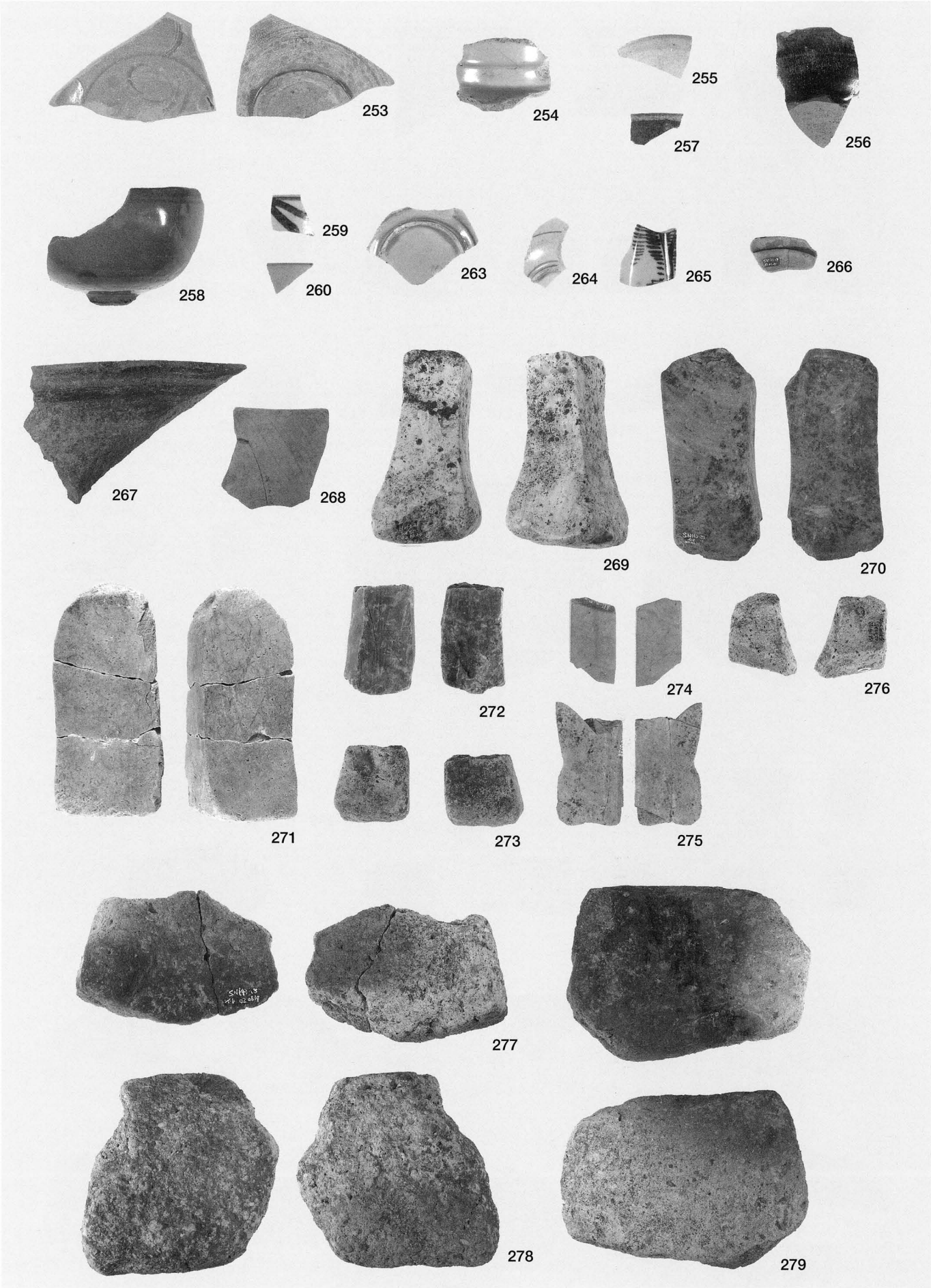
遺物（3）


183
184
185
186
187
188
189
190
191
193
195
196
197
198
199
200
201

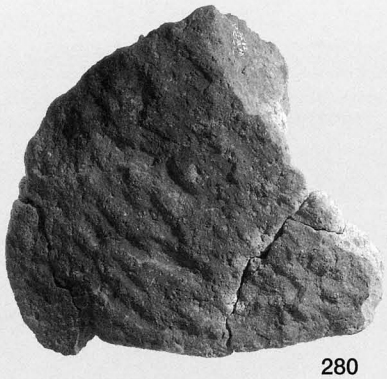
遺物（4）


202
203
204
205
206
208
209
210
211
212
213
215
216
218
219
220
221
223
224
225
227
228
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
243
244
245
246
248
249
250
251
252

遺物（5）


253
254
255
256
257
258
259
260
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279

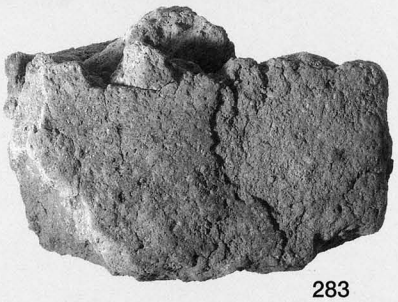
遺物（6）



280

282

281



283

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

295

296

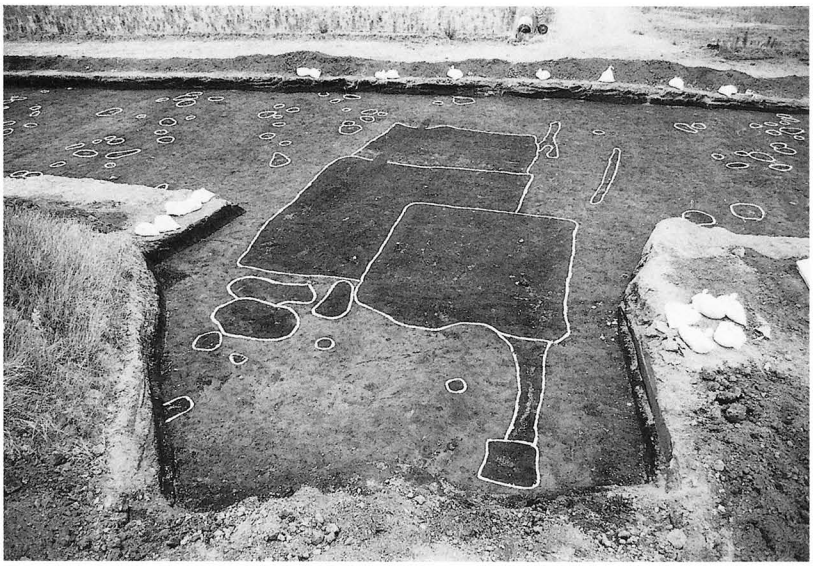
297

298

299

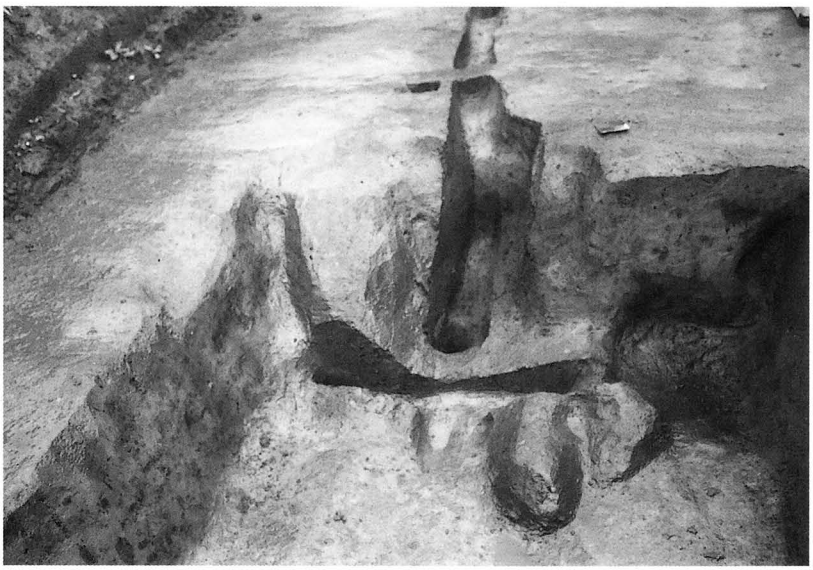
300

遺物（7）



土坑SA（3）305・竪穴建物SA（3）306・307
検出（南から）

土坑SA（3）305・竪穴建物SA（3）306・307
作業状況

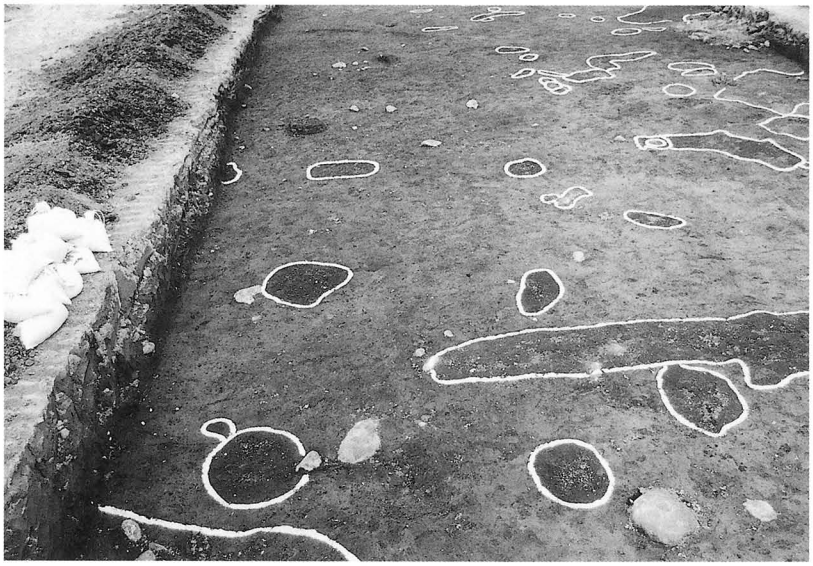


竪穴建物SA（3）307　カマド（北から）

土坑SA（3）305・竪穴建物SA（3）306・307
完掘（南から）

土坑SA（3）305・竪穴建物SA（3）306・307
完掘（北から）

A区　検出（西から）



掘立柱建物SA（3）①　検出（西から）

掘立柱建物SA（3）①　完掘（東から）

河川SA（3）（B区）検出（南から）

河川SA（3）（B区）完掘（北から）

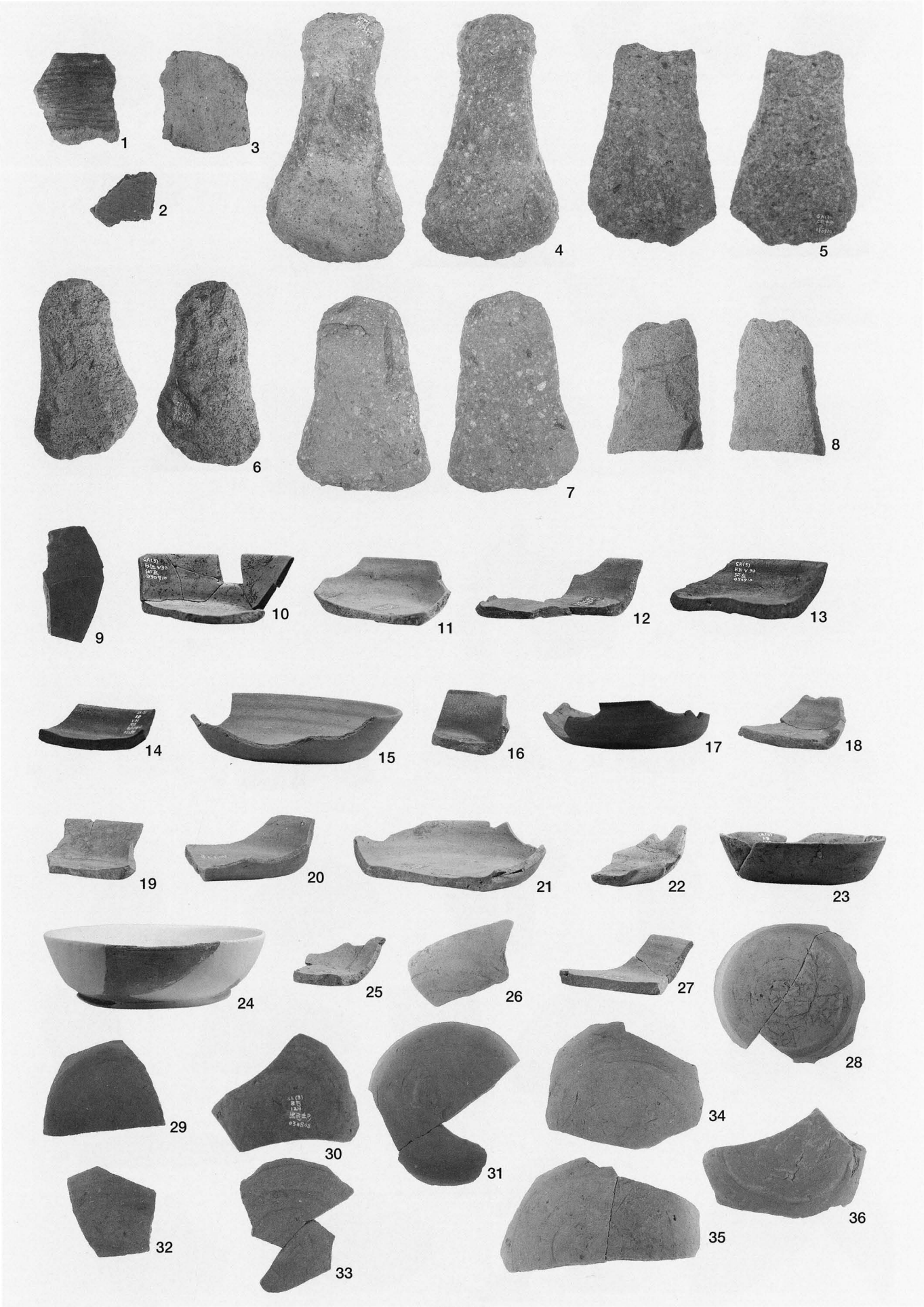
河川SA（3）（B区）完掘（南から）

SA（3）河川（C区）完掘（南から）

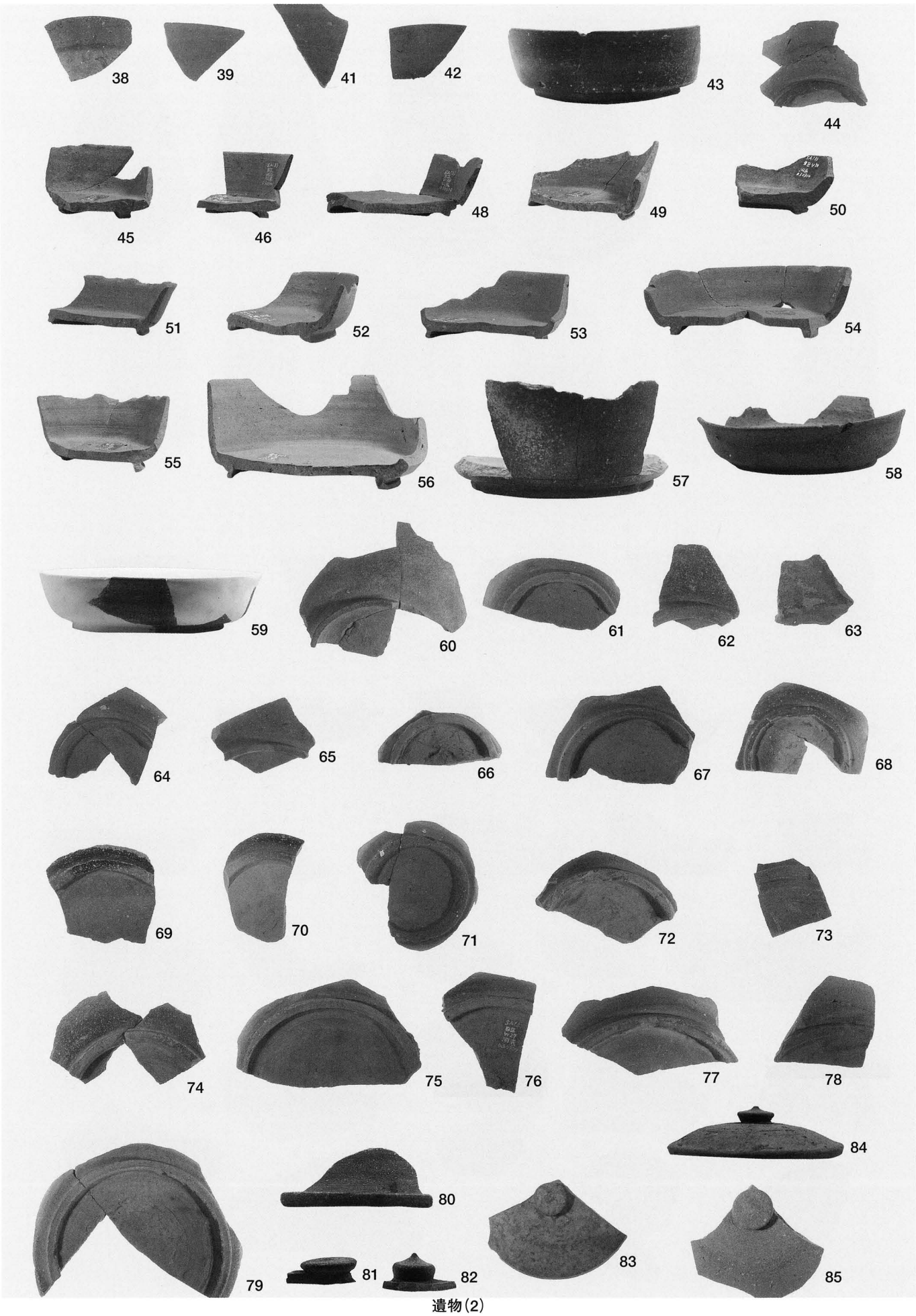
河川SA（3）（B区）
上層　遺物出土状況（南から）

C区西側　完掘（東から）

C区中央　完掘（北から）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

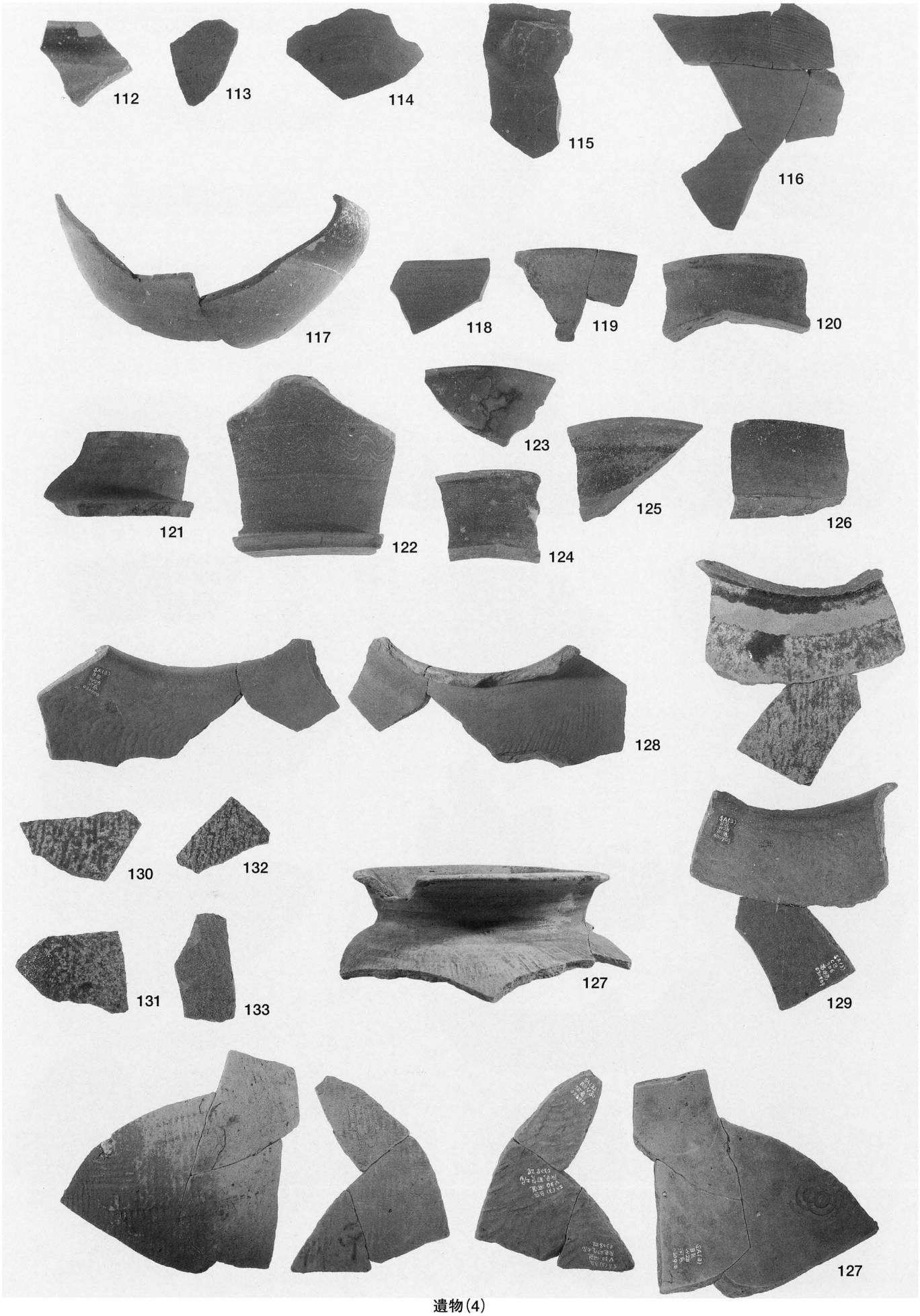
遺物（1）


38
39
41
42
43
44
45
46
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
84
79
80
81
82
83
85

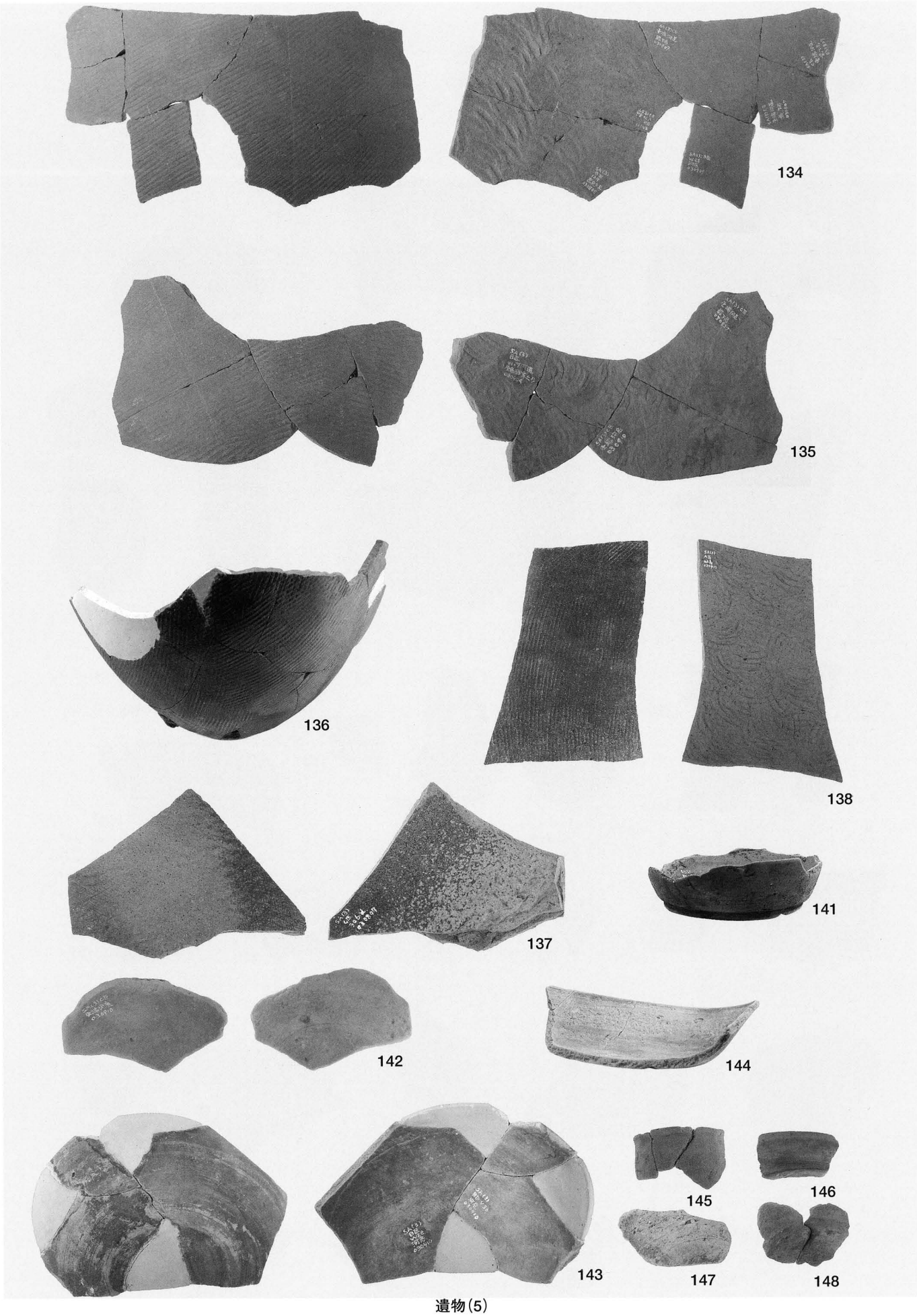
遺物（2）

86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109

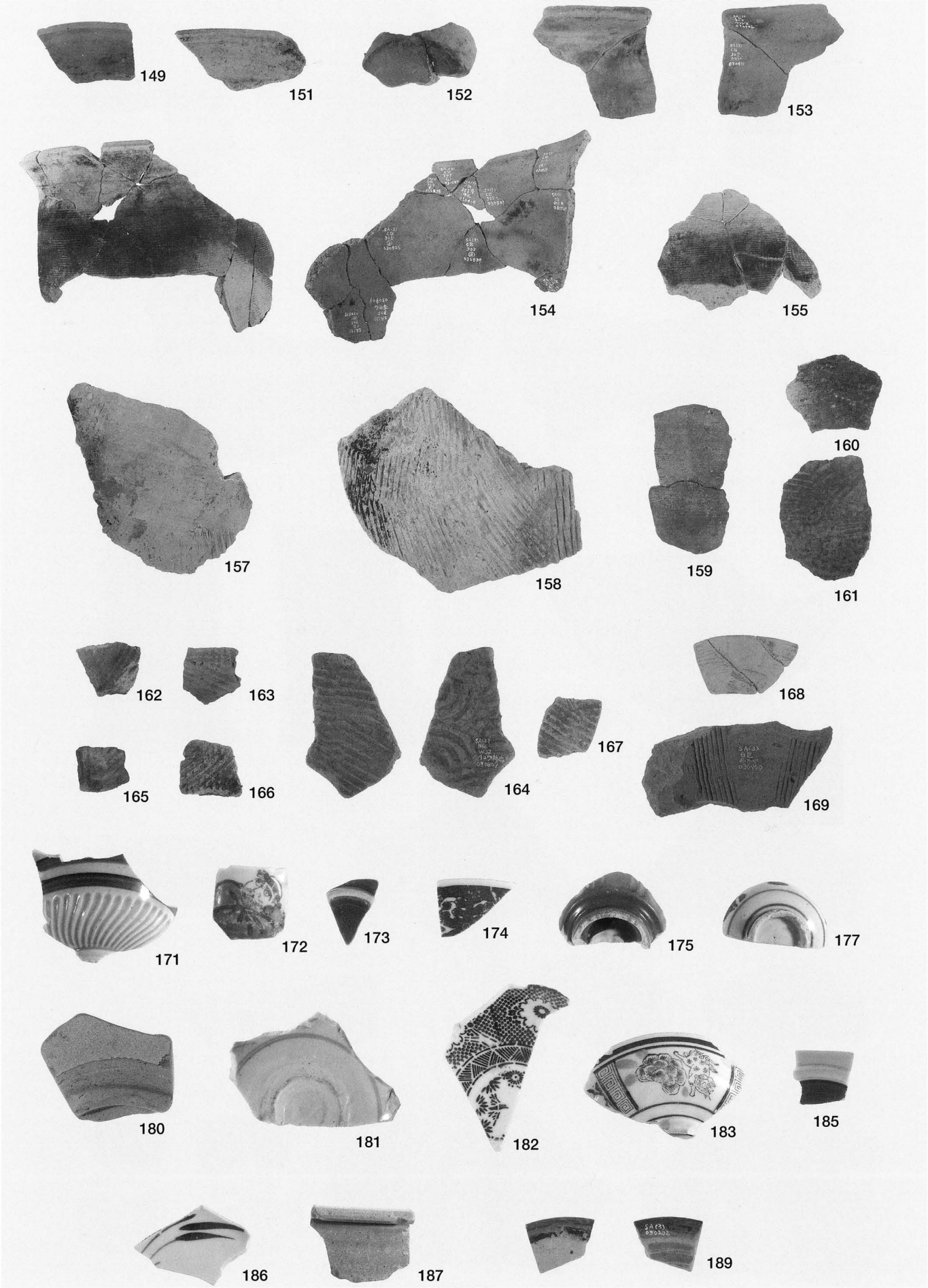
遺物（3）


112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
128
130
132
131
133
127
129
127

遺物（4）



遺物(5)


149
151
152
153
154
155
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
171
172
173
174
175
177
180
181
182
183
185
186
187
189

遺物（6）

土坑TNS（1）148　完掘（東から）

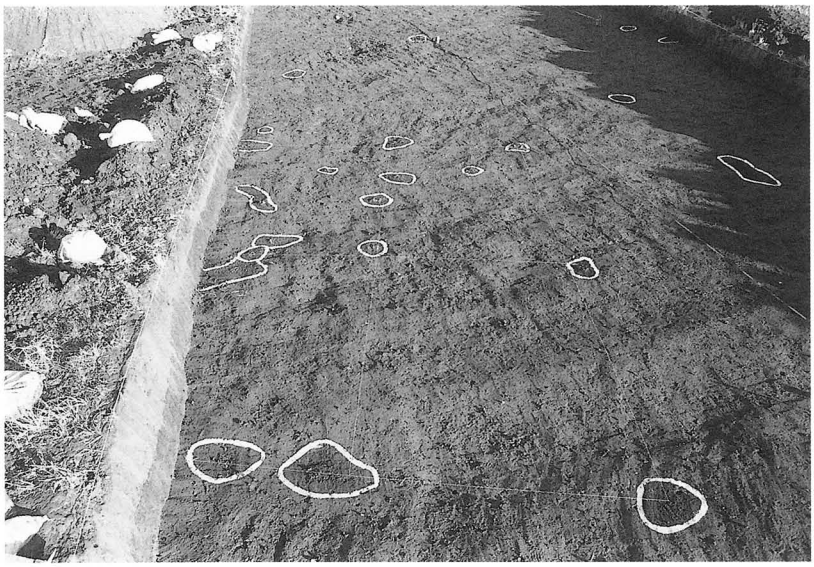
土坑TNS（1）172表面　遺物出土状況（南から）

土坑TNS（1）172　完掘（北から）

ピットTNS（1）120表面
遺物出土状況（南東から）

道路状遺構TNS（1）580・585　検出（南東から）

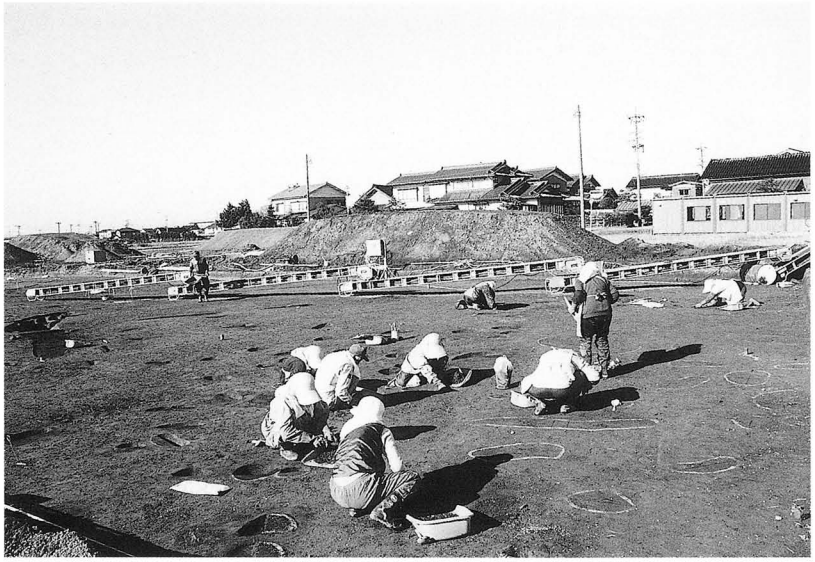
道路状遺構TNS（1）580・585　完掘（南東から）



掘立柱建物TNS（1）①　検出（西から）

掘立柱建物TNS（1）①　完掘（東から）

掘立主建物TNS（1）②　完掘（南から）



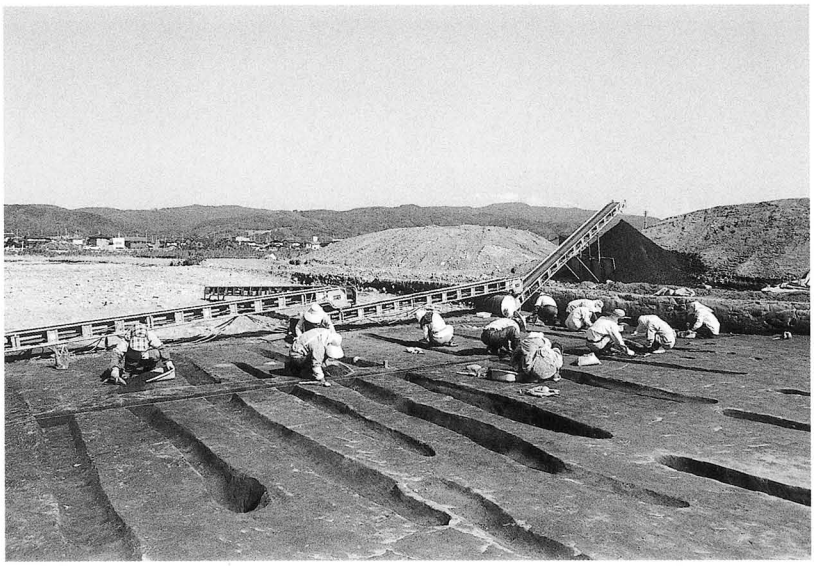
A区　作業状況

平行溝群TNS（1）①　完掘（東から）

平行溝群TNS（3）①　検出（南東から）

平行溝群TNS（3）①　完掘（南東から）

平行溝群TNS（2）①　検出（南から）

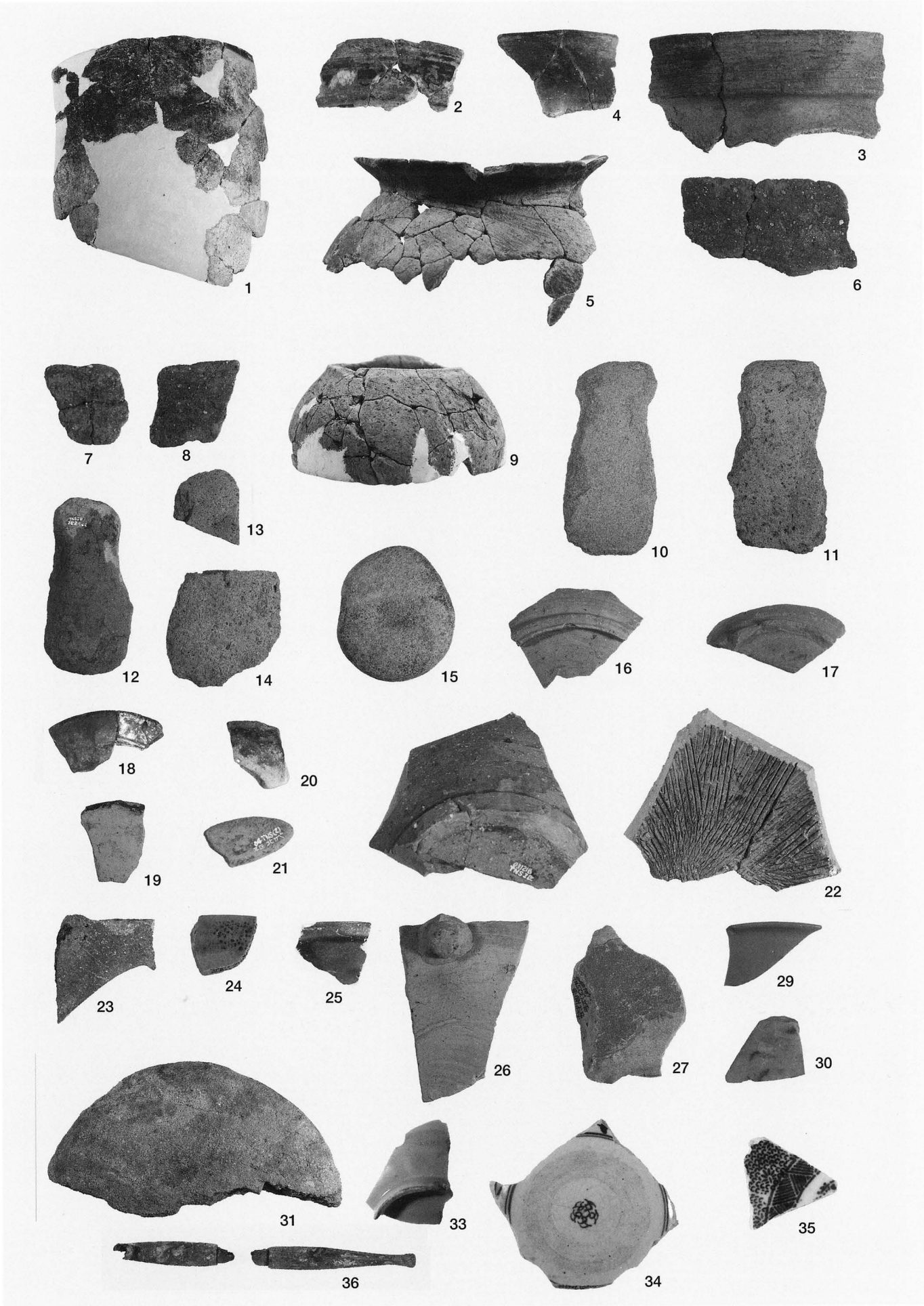


平行溝群TNS（2）①　作業状況

A区　完掘（西から）

D区西側　完掘（西から）

E区　完掘（東から）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
29
30
31
33
34
35
36

遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	さんのうにしよさいせき　さんのうあらみやいせき　とへいだなかしんぎじいせき
書名	三納ニシヨサ遺跡　三納アラミヤ遺跡　藤平田ナカシンギジ遺跡
副書名	野々市町中南部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	2
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	永野　勝章
編集機関	野々市町教育委員会
所在地	〒921－8510　石川県石川郡野々市町三納18街区1　Tel:076－227－6122
発行機関	野々市町中南部土地区画整理組合・野々市町教育委員会
発行年月日	西暦　2007年3月30日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
三納ニシヨサ遺跡	野々市町字三納	17344	16008	36°30′50″	136°36′40″	20000824～20001227	3100	区画整理
						20010709～20011116	500	
						20020524～20020628	750	
						20030512～20030702	900	
						20040601～20040922	147	
三納アラミヤ遺跡	野々市町字三納	17344		36°30′50″	136°36′50″	20030605～20030919	880	区画整理
藤平田ナカシンギジ遺跡	野々市町字三納	17344		36°30′38″	136°36′47″	20031001～20031225	2350	区画整理
						20040506～20040714	2181	
						20040601～20040922	2274	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三納ニシヨサ遺跡	集落跡	縄文、弥生、中世、近世	ピット、土坑、溝、掘立柱建物、竪穴状遺構	土器、石器、陶磁器	
三納アラミヤ遺跡	集落跡	縄文、古代	ピット、土坑、掘立柱建物、竪穴建物、河川	土器、石器、陶磁器	
藤平田ナカシンギジ遺跡	集落跡	弥生、古代、中世	ピット、土坑、耕作地	土器、石器、陶磁器	

要　約	三納ニシヨサ遺跡は縄文・弥生時代の短期的活動地点と、中世の集落跡を確認した。中世集落の中心は大小の礫を多く含む地形に立地し、掘立柱建物や竪穴状遺構・土坑からは、中世土師器皿・珠洲・越前・瀬戸・中国陶磁器などの遺物を出土しており、手取川扇状地扇央部における中世集落として貴重な遺跡である。 三納アラミヤ遺跡は縄文及び古代の旧河川と古代の集落跡を確認した。集落は掘立柱建物・竪穴建物・土坑などからなり、また旧河川からは多くの古代土師器・須恵器を出土しており、野々市町中部～南部一帯に展開する古代集落群の一端を知ることができる。 藤平田ナカシンギジ遺跡は縄文～古墳時代の短期的活動地点・古代の道路状遺構・中世の集落や耕作地などを確認した。

野々市町中南部土地区画整理事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書 2

三納ニシヨサ遺跡（第1・2・4・6・7次調査）
三納アラミヤ遺跡（第3次調査）
藤平田ナカシンギジ遺跡（第1～3次調査）

発行日　平成19年3月30日
発行者　野々市町教育委員会
〒921-8510
石川県石川郡野々市町三納18街区1
電話　076-2227-6122
bunka@town.nonoichi.ishikawa.jp
印　刷　株式会社　画遊